

翻訳ブレイン3 ユーザーズ・ガイド

開封前に必ずお読みください。

本ソフトウェアは、お客様が下記のソフトウェア使用許諾契約にご同意いただいた場合にご提供いたします。このパッケージを開封する前に、下記の契約条項を十分にお読み下さい。

本ソフトウェアのパッケージを開封された場合は、勝手ながら、お客様が下記契約に同意いただけたものとし、本契約は成立します。パッケージ開封後は本契約に基づき直ちにユーザー登録を行ってください。ご登録ユーザー様に限り、バージョンアップその他のサポートをさせていただきます。

なお、本契約条項にご同意いただけない場合は、未開封のまま、速やかに本製品をお買い上げの販売店にご返却ください。

ソフトウェア使用許諾条項

株式会社クロスランゲージ（以下、クロスランゲージという）が作成したソフトウェア（以下、製品という）のご使用に当たり、お客様は以下の条項にご同意いただきます。

1. 本契約はお客様がパッケージを開封したときから発効します。
2. 製品の著作権などすべての権利は、明示的に付与したものを除きクロスランゲージに帰属します。クロスランゲージはお客様に対して、本条項に従って非独占的に使用できる譲渡不能の制限付き使用权を許諾します。
3. お客様は一台のコンピュータシステムでお客様自身に限り製品を使用することができます。なお、本ソフトウェアの使用者がお客様ご自身に限られている場合は、本ソフトウェアを同時に使用しないという条件で、お客様のみが使用する他のコンピュータにインストールすることができます。
また、お客様が、製品を別途株式会社ジャストシステムから提供されるJ-License証書に基づき複数ライセンス分購入された場合（以下、ボリュームライセンスといいます）、弊社はお客様に対し、本ソフトウェアを、ボリュームライセンス数分のコンピュータにインストールしこれを使用する権利を許諾します。
4. クロスランゲージはお客様に対して、以下のことを禁止します。
 - (1)お客様が製品を改変あるいはプログラムの解析(リバースエンジニアリング)をすること。
 - (2)お客様が第三者に対して、製品を譲渡または貸与すること。
5. お客様は製品の受け渡し日から一箇月以内にディスクや印刷物の物理的な障害を発見したときには、交換を要求することができます。
6. クロスランゲージは製品を使用した結果に関しては、いかなる保証もおこないません。また翻訳成果物を何がしかの編集をせず公表・販売・頒布することは著作権法に抵触する恐れがありますのでお止めください。
7. お客様が本条項に違反した場合は、クロスランゲージからの使用許諾権は、自動消滅するものとし、この場合、お客様は受領した製品の全て（バックアップを含めて）をクロスランゲージに返却していただきます。なお、返却のための費用はお客様で負担していただきます。

■ 著作権

本製品の仕様は、改良のために予告なく変更することがあります。

本製品を日本国外に携行するには、輸出貿易管理令等の関係法令にご留意ください。

一太郎、ATOK、Shurikenは、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

ジーニアス英和辞典、ジーニアス和英辞典は、大修館書店の登録商標です。

Windows®, Microsoft Word, Internet Explorerは米国Microsoft Corporationの米国及びその他の国における商標または登録商標です。

本マニュアルおよび製品で使用している社名および製品名は各社の商標または登録商標です。

CorrectEnglish English As a Second Language Writing System Copyright© 1995 by Learnout & Hauspie Speech Products N.V. All rights reserved.

English Electronic Thesaurus© 1993 by Learnout & Hauspie Speech Products N.V. Adapted from the Oxford Thesaurus© 1991 by Oxford University Press and from Roget's II: The New Thesaurus© 1980 by Houghton Mifflin Company. All rights reserved. Reproduction or disassembly of embodied program and databases prohibited.

DMC TextFilter Ver.3.2 Copyright(c)1999-2001 Antenna House,Inc.

本製品の著作権：©株式会社クロスランゲージ

■ はじめに

このたびは、本製品をお買い上げ頂きまして、まことにありがとうございます。本書では、製品の使い方や使用上の注意事項について記載しています。ご使用前に本書をご一読の上、正しくお使いください。

■ 本書の構成

本書では「翻訳ブレイン3」（以降、「翻訳ブレイン」と表記します）の機能を説明しています。翻訳ブレインをはじめてお使いになる方は、ユーザーズ・ガイドの「基本操作編」をご一読ください。「応用編」では、英→日、日→英翻訳の機能と操作方法をより詳しく説明しています。ユーザーズ・ガイドの最後には索引があります。

■ 翻訳結果について

基本語辞書や文法ルールは逐次改良が加えられているため、画面に表示される結果は、本書の画面や説明文中にある翻訳結果とは必ずしも一致しません。翻訳結果は、翻訳に関する設定や学習機能によって訳語を変更している場合にも異なります。

■ 本書で使用している記号やマークについて

本書で使用している記号やマークは次のとおりです。

• 記号について

[ファイル]	メニュー名を示します。
[ファイル]ー[開く]	「ファイル」メニューの「開く」コマンドを選択することを示します。
<登録>	ダイアログボックスにあるボタン名を示します。
『 』	参照ページのタイトルを示します。（例）『1.2 動作環境』を参照してください。

• マークについて



注意事項です。



ヒント

備考事項や補足説明です。

目次

導入編	1
翻訳ブレインの機能.....	2
動作環境.....	4
インストール.....	6
翻訳ブレインのインストール.....	6
分野を指定した専門語辞書のインストール.....	11
機能を追加インストールする場合.....	14
アイコンの説明.....	15
専門語辞書のファイル名と語数.....	15
バージョンアップの場合.....	16
旧バージョンのアンインストール.....	16
ホームディレクトリについて.....	16
辞書について.....	16
辞書の保存場所.....	17
辞書のファイル名.....	17
翻訳メモリについて.....	17
翻訳ファイルと対訳ファイルについて.....	18
専門語辞書について.....	18
アンインストール.....	19
アンインストールの手順.....	19
基本操作編	21
翻訳ブレインの起動と終了.....	23
翻訳ブレインの起動.....	24
デスクトップのショートカット.....	24
「スタート」メニュー.....	26
翻訳ブレインの終了.....	26
翻訳ブレイン入門.....	27
テキストファイルの翻訳.....	28
ファイルの読み込みと翻訳.....	28
単語の対応と訳語の変更.....	30
訳語の学習.....	31
ユーザー辞書に単語を登録する.....	32
単語の登録.....	32
ユーザー辞書を使用して翻訳.....	33
翻訳結果を印刷する.....	33

翻訳結果の保存	34
翻訳メモリを使った翻訳	35
翻訳メモリの設定	36
翻訳メモリへ対訳文を登録する.....	37
一太郎の翻訳	41
一太郎用のアドイン翻訳機能の有効と無効	41
一太郎文書の翻訳	42
Shurikenで受信したメールの翻訳.....	43
ATOK連携翻訳.....	44

応用編 **45**

第 1 章 基本操作と画面	47
1.1 基本操作	48
1.1.1 マウスの操作	48
1.1.2 カーソルの移動と文字列の選択.....	49
1.1.3 各種機能の実行	50
1.2 キーボードから入力して翻訳する.....	53
1.2.1 文の入力	53
1.2.2 一文翻訳	54
1.2.3 文の分割	55
1.2.4 文の結合	55
1.3 翻訳プレイン画面の表示	56
第 2 章 いろいろな翻訳機能	59
2.1 翻訳.....	60
2.1.1 一文翻訳	60
2.1.2 文書翻訳	61
2.1.3 翻訳できないケース	61
2.2 訳語対応と訳語変更	62
2.2.1 訳語対応	62
2.2.2 訳語変更	63
2.2.3 学習機能	65
2.3 品詞変更 英→日のみ	66
2.4 シソーラス 日→英のみ	69
2.5 ファイル翻訳	70
2.6 フレーズ翻訳	73
2.6.1 フレーズ指定と解除	73
2.6.2 一括フレーズ指定	75
2.6.3 英→日 フレーズ翻訳例.....	76
2.6.4 日→英 フレーズ翻訳例.....	78
2.7 英→日 オプション翻訳	79
2.7.1 タイトル翻訳	79
2.7.2 箇条書き翻訳	80
2.7.3 通常翻訳	80

2.8	日→英 オプション翻訳	81
2.8.1	主語を補う	81
2.8.2	受け身にする	82
2.8.3	主語を省略する	82
2.8.4	通常翻訳	82
2.9	別解釈 英→日のみ	83
2.10	ジャストシステム製品アドイン翻訳	84
2.10.1	ジャストシステム製品アドイン翻訳機能の有効と無効	84
2.10.2	一太郎のアドイン翻訳	86
2.10.3	ATOK入力中の翻訳	89
2.10.4	Shurikenで受信したメールの翻訳	90
2.10.5	辞書参照ツールの起動	90
2.11	ホームページの翻訳	91
2.11.1	翻訳の前に	91
2.11.2	ホームページを翻訳する	92
2.11.3	ホームページの翻訳検索	94
2.11.4	ホームページ翻訳の設定	97
2.11.5	アドイン機能の有効と無効	99
2.12	Microsoft Officeアドイン翻訳	100
2.12.1	Microsoft Officeの起動と翻訳	100
2.12.2	Wordの翻訳	101
2.12.3	Excelの翻訳	102
2.12.4	PowerPointの翻訳	103
2.12.5	辞書引き	104
2.13	メール翻訳	105
2.13.1	メールを翻訳する	105
2.13.2	メール翻訳の設定	106
2.14	PDFダイレクトファイル翻訳	107
2.14.1	PDFダイレクトファイル翻訳の実行	107
2.14.2	PDFダイレクトファイル翻訳の設定	108
2.14.3	PDFダイレクトファイル翻訳機能の有効と無効	109
2.14.4	PDFダイレクトファイル翻訳の制限事項	110
第3章	翻訳メモリ	111
3.1	翻訳メモリとは	112
3.1.1	翻訳メモリとは?	112
3.1.2	翻訳メモリの検索機能	113
3.1.3	ファイルの入出力	113
3.2	翻訳メモリの基本操作	114
3.2.1	翻訳メモリペイン	114
3.2.2	翻訳時に翻訳メモリを使用する	115
3.2.3	対訳文の登録	117
3.2.4	対訳文の検索	123
3.2.5	ユーザー翻訳メモリの対訳文を一覧表示	126
3.2.6	検索結果を翻訳エディタへ反映	126

3.3	ユーザー翻訳メモリの作成と選択.....	127
3.4	ユーザー翻訳メモリに対訳文を登録する.....	132
3.4.1	対訳文の登録方法.....	133
3.4.2	対訳文の削除.....	134
3.4.3	完全一致文の登録.....	135
3.4.4	文型とタグ.....	135
3.4.5	対訳文の一括登録.....	140
3.5	翻訳メモリの環境設定.....	142
3.5.1	検索オプション.....	142
3.5.2	登録情報.....	146
3.6	インポート.....	148
3.6.1	インポートできるファイルの種類.....	148
3.6.2	対訳ファイルの作り方.....	150
3.6.3	翻訳メモリに一括登録する（インポートの手順）.....	153
3.6.4	TMXファイルのインポート.....	155
3.6.5	翻訳メモリのマーシ.....	156
3.6.6	ntm形式ファイル.....	157
3.7	エクスポート.....	158
3.7.1	エクスポートできるファイル形式.....	158
3.7.2	翻訳メモリの内容を書き出す（エクスポートの手順）.....	159
第4章	辞書の活用.....	161
4.1	辞書の構成.....	162
4.2	翻訳辞書の参照.....	163
4.3	外部辞書.....	167
4.4	未知語検索機能.....	168
4.4.1	未知語検索.....	168
4.4.2	未知語リスト出力.....	169
4.5	ユーザー辞書の作成と選択.....	171
4.6	専門語辞書の設定.....	179
4.6.1	辞書設定ダイアログから指定する.....	179
4.6.2	専門語辞書自動選択機能で指定する.....	180
4.6.3	英→日専門語辞書の優先順位.....	182
4.7	用語の表示と訳語の変更.....	183
4.8	ユーザー辞書に単語を登録する.....	187
4.9	ユーザー辞書ブラウザ.....	188
4.10	ユーザー辞書の一括登録と変換.....	190
4.10.1	カンマ区切りとタブ区切り.....	190
4.10.2	辞書ソースをユーザー辞書へ一括・追加登録する.....	191
4.10.3	ユーザー辞書をテキストファイルに変換する.....	197
4.10.4	Excelを利用したユーザー辞書の作成.....	198
4.10.5	英⇄日変換.....	204
4.10.6	辞書変換の制限.....	206
4.10.7	エラー情報ファイル.....	208

第 5 章 環境の設定	209
5.1 翻訳に関する設定	210
5.1.1 翻訳設定	211
5.1.1.1 翻訳設定ダイアログ	211
5.1.1.2 英→日 翻訳	212
5.1.1.3 英→日 訳の指定	215
5.1.1.4 日→英 翻訳	218
5.1.1.5 英文チェック	221
5.1.2 スタイルの作成と更新	223
5.2 環境設定	225
5.2.1 フォント	226
5.2.2 配色	227
5.2.3 書式	229
5.2.4 ブックマーク	230
5.2.5 Web検索	231
5.2.6 システム共通	233
5.2.7 一括設定	235
5.3 ツールバーカスタマイズ	236
5.4 アクセラレーターキー	239
第 6 章 その他の機能	241
6.1 キャプチャ翻訳	242
6.1.1 キャプチャ翻訳の実行	242
6.1.2 キャプチャ翻訳の編集作業と表示機能	244
6.1.3 ツールの設定	245
6.1.3.1 OCR設定 キャプチャ翻訳のみ	245
6.1.3.2 常駐機能	246
6.1.3.3 フォント	247
6.1.3.4 その他	248
6.2 ワンポイント翻訳	249
6.3 辞書参照ツール	250
6.4 訳振り	251
6.5 逆翻訳	252
6.6 Web検索	253
6.6.1 検索エンジンの指定	253
6.6.2 キーワードを指定してWeb検索を実行する	253
6.6.3 Web検索の翻訳/辞書	255
6.6.4 Web検索ページを開く	255
6.7 ブックマーク	256
6.8 定義語	259
付録	263
付録1 Officeの起動時に「セキュリティの警告」	264
付録2 フォルダ構成とホームディレクトリ	268
付録3 翻訳ブレインが作成するファイル	270

付録3.1 英→日で作成するファイル.....	270
付録3.2 日→英で作成するファイル.....	272
付録4 エラーメッセージ	274
付録5 インストール時のエラーについて.....	276

導入編

導入編では、翻訳ブレインの特徴、動作環境、インストール、アンインストール方法について説明します。

翻訳ブレインの機能

翻訳ブレインは、英日・日英双方向に対応した翻訳ソフトです。最新の翻訳エンジンと基本語辞書、ビジネス分野から科学技術関連分野まで網羅した専門語辞書を搭載しています。訳語変更、フレーズ単位の翻訳、ユーザー辞書の構築など翻訳結果を修正する機能も提供しています。

翻訳ブレインの特徴は以下のとおりです。

機能	内容	参照先
翻訳エディタ	翻訳エディタでは、テキストファイルの翻訳、翻訳結果を適切な訳語に変更する訳語変更、変更した訳語を学習して次回の翻訳に活用する学習機能、辞書に登録のない単語や訳語に登録するユーザー辞書登録などを実行できます。	翻訳ブレイン入門
翻訳メモリ	翻訳資産を活用する「翻訳メモリ」機能が搭載されています。 翻訳メモリとは、よく使われる表現を対訳文で登録し、人による翻訳資産と機械翻訳を融合させる技術です。翻訳ブレイン独自の文型一致文も登録されており、タグ部分に異なる語句が含まれると機械翻訳で補います。	第 3 章 翻訳メモリ
辞書参照	翻訳ブレインが起動している場合は翻訳エディタで、翻訳ブレインが起動しないときは辞書参照ツールで、基本語辞書や翻訳で使用している専門語辞書の辞書引きを行えます。	4.2 翻訳辞書の参照 6.3 辞書参照ツール
ジャストシステム製品アドイン翻訳	ジャストシステム製品に対応したアドイン翻訳では、アプリケーションに登録されたボタンをクリックするだけで一太郎、ATOK、Shurikenの文書を翻訳したり、辞書引きを行うことができます。	2.10 ジャストシステム製品アドイン翻訳
Microsoft Office アドイン翻訳	Microsoft Office 2010に対応したアドイン翻訳では、アプリケーションに登録されたボタンをクリックするだけで Word, Excel, PowerPointに読み込んだ文書を翻訳したり、辞書引きを行うことができます。	2.12 Microsoft Office アドイン翻訳
ホームページの翻訳	Internet Explorerで表示したWebページを、レイアウトはそのまま、本文のみを翻訳して、翻訳結果のWebページを作成します。	2.11 ホームページの翻訳

機能	内容	参照先
メール翻訳	WindowsメールまたはOutlook Expressで受信した英文メールを日本語に翻訳、また、返信用に作成した日本語メールを英語に翻訳することができます。	2.13 メール翻訳
PDFダイレクトファイル翻訳	PDFファイルのアイコンを右クリックし、英日/日英翻訳を選択するだけで、オリジナルPDFのイメージを保ってダイレクトに翻訳します。	2.14 PDFダイレクトファイル翻訳
ファイル翻訳	「ファイル翻訳」機能を使うと、複数ファイルを連続して翻訳できます。テキストファイルのほか、HTMLファイルとPDFファイルも翻訳できます。	2.5 ファイル翻訳
訳振り	語句に訳語ルビを表示するので、文を斜め読みして大まかな内容を把握するのに便利です。	6.4 訳振り
逆翻訳	翻訳結果を逆方向に翻訳します。逆翻訳を実行することにより翻訳結果の精度を確認することができます。	6.5 逆翻訳
キャプチャ翻訳	画像化された文字部分を文字認識して、翻訳を同時に実行するツールです。	6.1 キャプチャ翻訳

動作環境

翻訳プレインを使用するには、以下の環境が必要です。

対応OS	Windows 7 (32bit/64bit 日本語版) Windows Vista (32bit 日本語版) Windows XP(SP2以上) (32bit 日本語版) ※Windows 7 64bit環境では、32ビット互換モード (WOW64) で動作します。 ※インストールには、Administrator権限が必要です。
メモリ	512MB以上
HD容量	フルインストール：1.3GB以上
ジャストシステム製品アドイン翻訳	一太郎 2007/2008/2009/2010/2011 (*1) ATOK 2007/2008/2009/2010/2011 (*1) Shuriken Pro4(R.2を含む)/2007/2008/2009/2010 (*1) 本製品は、一太郎2007、ATOK 2007以降に対応しています。一太郎2006、ATOK 2006以前のバージョンには対応していません。
ホームページ翻訳	Internet Explorer 6.0/7.0/8.0
Microsoft Office アドイン翻訳	Word 2000/2002/2003/2007/2010 Excel 2000/2002/2003/2007/2010 PowerPoint 2000/2002/2003/2007/2010
メール翻訳	Windowsメール (Vista)、Outlook Express 6.0 (XP)
PDFダイレクトファイル翻訳	PDF 1.3～1.6
ATOK連携電子辞典引き	「ATOK連携電子辞典引き」機能のご利用には、一太郎2006以上およびATOK 2006以上が必要です。ATOKのみの環境では使用することができません。 辞典は「明鏡国語辞典・ジーニアス英和/和英辞典」に対応しています。
音声読み上げ	音声読み上げ機能を利用するためには、サウンドシステムが必要です。

PDFダイレクトファイル翻訳

- PDFダイレクトファイル翻訳をご利用いただくには、Adobe Reader 7～9、Acrobat Reader 5～6、Adobe Acrobat 5～9のインストールが必要です。

PDFダイレクトファイル翻訳の制限事項および免責について

PDFダイレクトファイル翻訳機能は以下の状態で作成、保存されたPDFファイルは機能が実行できない、または翻訳されたPDFのレイアウトが崩れる場合があります。ご了承の上ご利用ください。

- 対応するPDFファイルのバージョンは1.3～1.6です。
- Windows版以外のAdobe Acrobat, Acrobat Distillerで生成されたPDFファイルでは翻訳できない場合があります。
- セキュリティ保護や画像化などにより、テキストが抽出できないPDFは翻訳できません。
- Flate (Zip) 以外の圧縮方法 (LZWなど) で作成されたPDFファイルは翻訳できません。
- しおり機能が使われているPDFファイルは、翻訳できない場合があります。
- 複雑なレイアウトで構成されているPDFファイルは、翻訳できない場合やレイアウトが保てない場合があります。
- その他、PDFファイルが作成された状態によっては、翻訳できない場合があります。

キャプチャ翻訳の制限事項

キャプチャ翻訳における文字認識は、白地に黒文字で、明朝またはゴシックフォントの場合に、比較的高い精度で認識することができます。以下のケースでは、正しく認識できないことがあります。

- 文字の下に模様や影、ノイズなどがある
- 文字と背景色が識別しにくい（たとえば、水色や黄色などの背景色に白い文字。黒の背景色に青い文字。）
- 認識対象の画像文字の文字サイズが小さい
- 斜体、筆文字、ポップ文字などデザインされたフォントである
- 基本認識対応書体は、明朝系／ゴシック系書体です

開発

株式会社クロスランゲージ

開発協力・販売

株式会社ジャストシステム

サポート

「翻訳ブレイク3」のご購入後のサポートは、株式会社クロスランゲージで受け付けます。

E-mail : support@crosslanguage.co.jp

インストール

翻訳プレインをインストールする方法と、分野を指定して専門語辞書をインストールする方法について説明します。

翻訳プレインのインストール



ヒント バージョンアップの場合は、『バージョンアップの場合』をご参照の上、翻訳プレインをインストールしてください。

翻訳プレインと翻訳メモリ専門語辞書のインストール方法は以下のとおりです。

● OSへのログオン

翻訳プレインのインストールを行う際は、Administratorsグループに所属しているユーザーや「コンピュータの管理者」のユーザーでWindowsへログオンする必要があります。それ以外のユーザーでログオンしてインストールを行うと、翻訳プレインは、正しく動作しません。

1. 翻訳プレインのCD-ROMをCD-ROMドライブに挿入します。

セットアップが自動的に実行されて、次の画面が表示されます。

メモ セットアップの画面が表示されない場合は、エクスプローラで本CD-ROMの内容を表示し、autoplay (またはautoplay.exe)をダブルクリックして起動します。



2. インストールプログラムを実行します。

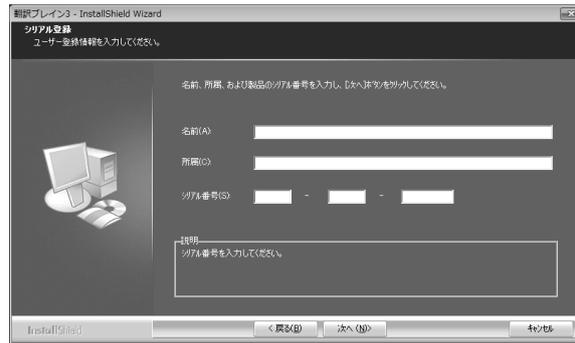
〈翻訳プレイン3のインストール〉をクリックします。

使用許諾契約が表示されるので、ご一読の上、同意される場合は〈はい〉をクリックしてください。

次の画面が表示されます。

3. 名前やシリアルナンバーを入力します。

製品のシリアルナンバーを入力します。



名前、所属、製品のシリアルナンバー（『ユーザー登録シート』に記載されています）を入力してください。

製品のシリアルナンバーは半角英数字で入力します。

入力例) KABC-DEFG-123456

個人でご使用の場合、「所属」を入力する必要はありません。正しく入力して〈次へ〉をクリックして下さい。

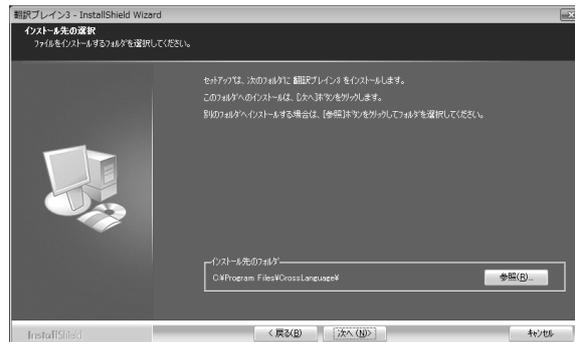


ヒント

シリアルナンバーは、必ず、半角の大文字で入力してください。

4. インストール先フォルダを選択します。

アプリケーションをインストールするフォルダを指定します。



初期状態で設定されているフォルダを変更する場合は、〈参照〉をクリックして適切なフォルダを選択してください。

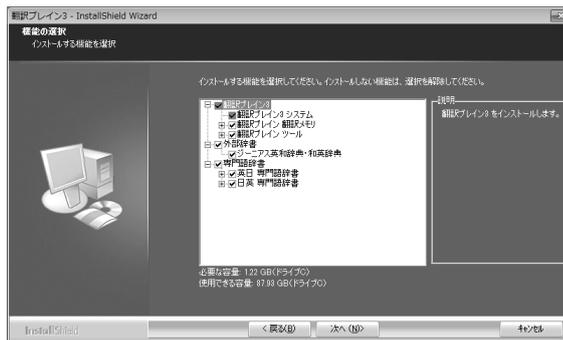


ヒント

ここで指定したフォルダの下にBrainV3フォルダを作成し、その下に翻訳ソフトごとのフォルダが自動的に作成されます。

〈次へ〉をクリックすると、次の画面が表示されます。

5. インストールするソフトウェアを選択します。



インストールするソフトウェアを選択します。ソフトウェア名の左のチェックボックスをクリックしてオンにしてください。複数のソフトウェアを選択することができます。

特定の分野を選択して専門語辞書をインストールする手順に関しては、『分野を指定した専門語辞書のインストール』を参照してください。

● 初期状態のままインストールした場合

初期状態では、以下のソフトウェアがインストールされます。

● 外部辞書

初期状態で、外部辞書がインストールされます。

● 翻訳ブレイン ツール

アドイン機能が対応するアプリケーションがインストールされている場合、自動的に各アドインのチェックボックスがオンになります。対応するアプリケーションがインストールされていない場合は、アドイン機能をインストールすることはできません。

また初期状態では、キャプチャ翻訳、ワンポイント翻訳、辞書参照ツール、PDFダイレクトファイル翻訳機能がインストールされます。

● 専門語辞書

初期状態では、すべての専門語辞書がインストールされます。

6. 設定を確認します。

インストールに関する設定が表示されます。



設定内容を確認して、〈次へ〉をクリックします。
インストールが開始されます。

7. インストールを開始します。

インストール中は次のような画面が表示されます。



インストールを中止する場合は、〈キャンセル〉をクリックしてください。



インストールに時間がかかる場合があります。不用意に CD-ROM を取り出さないでください。

インストールが正常に終了すると、次のような画面が表示されます。

8. インストールを完了します。



〈完了〉をクリックすると、インストールが終了します。



ヒント

インストール環境によっては再起動が必要です。再起動に関するメッセージが表示された場合は、メッセージにしたがって再起動を行ってください。



ヒント

インストールした専門語辞書を翻訳で使用するためには、インストールの後、翻訳ソフト側で辞書の設定を行う必要があります。専門語辞書の設定手順に関しては、「ユーザズ・ガイド」の『4.6 専門語辞書の設定』を参照してください。

分野を指定した専門語辞書のインストール

ここでは、特定の分野を指定して専門語辞書をインストールする方法について説明します。



初期状態で翻訳プレインをインストールした場合、すべての専門語辞書がインストールされます。再度、専門語辞書のみをインストールを行う必要はありません。



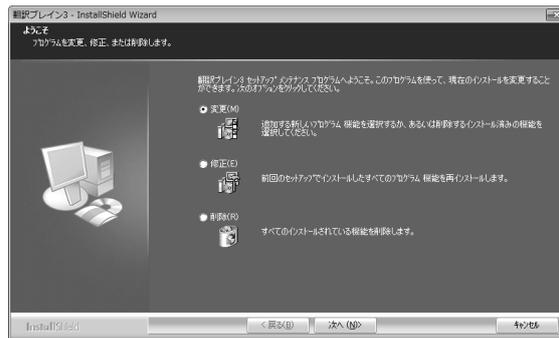
インストールした専門語辞書を翻訳で使用するためには、インストールの後、翻訳ソフト側で辞書の設定を行う必要があります。専門語辞書の設定手順に関しては、「ユーザズ・ガイド」の『4.6 専門語辞書の設定』を参照してください。

1. コントロールパネルの「プログラムのアンインストール」をクリックします。

Windows 7/Vistaでは、「プログラムのアンインストール」、XPでは、「プログラムの追加と削除」を選択します。

2. アプリケーションを選択します。

ダイアログ下部のリストの中から翻訳プレイン3を選択し、〈アンインストールと変更〉をクリックします。



「変更」をオンにして〈次へ〉をクリックすると、次の画面が表示されます。

3. インストールする専門語辞書の分野を選択します。

インストールする英日用または日英用の専門語辞書を選択します。「専門語辞書」の先頭にある「+」をクリックすると、「英日専門語辞書」と「日英専門語辞書」が表示され、各々の「+」をクリックすると各分野の辞書が表示されます。辞書名のチェックボックスをクリックしてオンにし、辞書を選択してください。



ヒント

辞書名のチェックボックスをオンにすると、インストールに必要なドライブの容量を確認することができます。インストール先のドライブの空き容量が不足している場合は、インストールする辞書の種類を減らす必要があります。

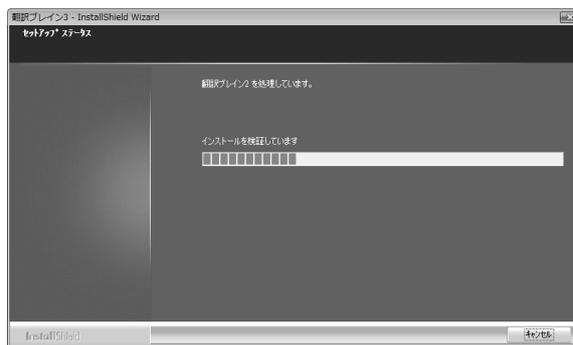


ここで、すでにインストールされているソフトウェアのチェックボックスをオフにしないでください。たとえば、「翻訳ブレイク ツール」などをオフにしてインストールを続行した場合、そのソフトウェアは削除されます。

〈次へ〉をクリックすると、インストールが開始されます。

4. インストールを開始します。

インストール中は次の画面が表示されます。



インストールを中止する場合は、〈キャンセル〉をクリックしてください。

5. インストールを完了します。



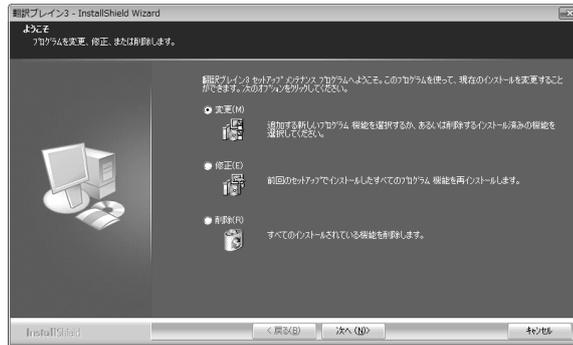
〈完了〉をクリックすると、インストールが終了します。

機能を追加インストールする場合

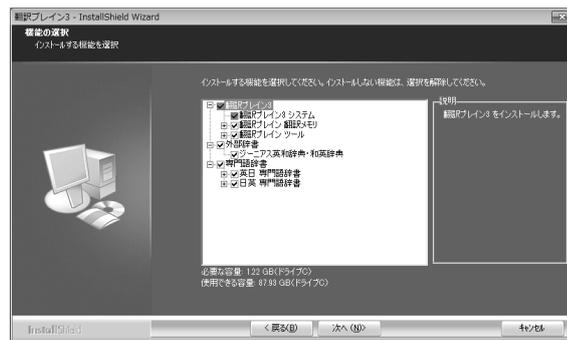
ここでは、翻訳ブレインや専門語辞書のインストールで、一度にすべてのものをインストールせずに後で機能や専門語辞書を追加する方法について説明します。たとえば、翻訳ブレインのインストールの際、翻訳ブレインのシステムだけをインストールして、あとで翻訳ブレイン ツールをインストールする場合、また、専門語辞書を追加する場合などです。

コントロールパネルからインストールプログラムを実行します。

Windows 7/Vistaでは、「プログラムのアンインストール」、XPでは、「プログラムの追加と削除」を選択すると、次の画面が表示されます。



「変更」をオンにして〈次へ〉をクリックすると、次の画面が表示されます。



すでにインストールされているソフトウェアのチェックボックスはオンになっています。削除するソフトウェアのチェックボックスはオフにします。



ここで、すでにインストールされているソフトウェアのチェックボックスをオフにしないでください。

〈次へ〉をクリックして次の手順へ進んでください。以降はダイアログにしたがって、インストールを続行してください。

アイコンの説明

インストールが完了すると、デスクトップに次のアイコンが登録されます。

翻訳ブレイン3 

専門語辞書のファイル名と語数

分野	ファイル名	英→日 語数	日→英 語数
コンピュータ	computer	119,000語	161,000語
電気電子	elec	96,000語	103,000語
機械工学	mecha	90,000語	87,000語
土木建築	archi	41,000語	43,000語
プラント	plant	68,000語	74,000語
金属	metal	22,000語	24,000語
JIS工業用語	jis	51,000語	52,000語
エネルギー	energy	14,000語	16,000語
数学物理	math	72,000語	83,000語
航空宇宙	aero	19,000語	19,000語
海洋船舶	ocean	14,000語	16,000語
地球環境	ecology	37,000語	37,000語
ビジネス	business	74,000語	79,000語
法律	law	37,000語	34,000語
貿易	trade	23,000語	21,000語
金融	finance	22,000語	24,000語
医療医学	medical	68,000語	120,000語
化学	chemical	129,000語	146,000語
バイオテクノロジー	bio	68,000語	78,000語
会計	account	8,000語	8,000語
マーケティング	market	7,000語	10,000語
IT	it	11,000語	16,000語

初期状態で専門語辞書がインストールされるフォルダは、以下のとおりです。

英→日用：[Program Files]→[CrossLanguage]→[DicEJ]

日→英用：[Program Files]→[CrossLanguage]→[DicJE]

バージョンアップの場合

旧バージョンの翻訳ブレインと専門語辞書をすでにご使用の場合は、インストール作業を始める前に、以下の説明をご一読ください。

旧バージョンのアンインストール

ご使用のコンピュータにすでに翻訳ブレインがインストールされていて、今回バージョンアップする場合、旧バージョンのアプリケーションをアンインストールして、今回のバージョンをインストールしてください。



旧バージョンのアンインストールに際して、旧バージョンで作成した翻訳ファイル、ユーザー辞書などが削除されることは基本的にはありませんが、重要なファイルはあらかじめバックアップを取ることをお勧めします。

ホームディレクトリについて

初期状態でホームディレクトリには、学習辞書、ユーザー辞書などが作成されます。初期状態のままインストールした場合、ホームディレクトリは以下のフォルダです。

Windows 7：[ライブラリ]→[ドキュメント]→[CrossLanguage]→[Brain]

Windows Vista：[ユーザー名]→[ドキュメント]→[CrossLanguage]→[Brain]

Windows XP：[マイドキュメント]→[CrossLanguage]→[Brain]



ヒント

ホームディレクトリの場所は、翻訳ブレインの[ヘルプ]→[バージョン情報]で確認できます。この場合、デスクトップにある「マイドキュメント」は、環境によって、以下のように表示されます。

¥Documents and Settings¥Windowsログオン名

または

¥My Documents¥Windowsログオン名

辞書について

すでに翻訳ブレインがインストールされているコンピュータに本バージョンをインストールした場合、旧バージョンで作成したユーザー辞書と学習辞書は、自動的に引き継がれます。

新バージョンを新しいコンピュータにインストールした場合は、ユーザー辞書や学習辞書を新しいコンピュータにコピーする必要があります。辞書が複数ファイルで構成されている場合は、すべてのファイルをコピーしてください。

辞書の保存場所

初期状態でユーザー辞書と学習辞書は以下の場所に保存されます。

- EJの場合

Windows 7：[ライブラリ]→[ドキュメント]→[CrossLanguage]→[Brain]→[ej]

Windows Vista：[ユーザー名]→[ドキュメント]→[CrossLanguage]→[Brain]→[ej]

Windows XP：[マイドキュメント]→[CrossLanguage]→[Brain]→[ej]

- JEの場合

Windows 7：[ライブラリ]→[ドキュメント]→[CrossLanguage]→[Brain]→[ej]

Windows Vista：[ユーザー名]→[ドキュメント]→[CrossLanguage]→[Brain]→[ej]

Windows XP：[マイドキュメント]→[CrossLanguage]→[Brain]→[ej]

辞書のファイル名

- ユーザー辞書のファイル名

- EJの場合

xxx.dir, xxx.key, xxx.udc (xxxは作成時に付けたユーザー辞書名)

- JEの場合

xxx.idx, xxx.jdc (xxxは作成時に付けたユーザー辞書名)

- 学習辞書のファイル名

- EJの場合

学習.ldc, 学習.dir, 学習.key

- JEの場合

学習.jld

翻訳メモリについて

すでに翻訳ブレインがインストールされているコンピュータに本バージョンをインストールした場合、旧バージョンで作成したユーザー翻訳メモリは、自動的に引き継がれます。新バージョンを新しいコンピュータにインストールした場合は、ユーザー翻訳メモリを新しいコンピュータにコピーする必要があります。翻訳メモリは複数ファイルで構成されているので、すべてのファイルをコピーしてください。

- **翻訳メモリの保存場所**

初期状態でユーザー翻訳メモリは以下の場所に保存されます。

Windows 7 : [ライブラリ]→[ドキュメント]→[CrossLanguage]→[Brain]→[dic]

Windows Vista : [ユーザー名]→[ドキュメント]→[CrossLanguage]→[Brain]→[dic]

Windows XP : [マイドキュメント]→[CrossLanguage]→[Brain]→[dic]

- **翻訳メモリのファイル名**

user.ty2, user.ty2.en.idx, user.ty2.ja.idx

翻訳ファイルと対訳ファイルについて

- **翻訳ファイル (*.edh, *.jdh) について**

旧バージョンの翻訳ブレインで作成した「翻訳ファイル」を、今回のバージョンで開くことはできますが、文法ルールや基本語辞書の更新により、単語の対応、訳語の変更などを実行できない場合があります。再翻訳すれば、訳語の変更を実行できますが、翻訳結果が入れ替わってしまうので、注意が必要です。また、翻訳に関する設定情報については、以下のような制限がありますので、再翻訳を行う際には設定内容にご注意ください。

1. **辞書設定について**

翻訳ファイルには、翻訳で使用した辞書の情報が保持されています。設定辞書は、[翻訳]－[翻訳設定]－[辞書]で確認できます。バージョンアップにもなってユーザー辞書や専門語辞書の格納場所または名称が変わった場合、再設定が必要です。旧翻訳ファイルに設定されている辞書が見つからなかった場合、「辞書設定は変更されました」というメッセージが表示されますので、[翻訳]－[翻訳設定]－[辞書]で辞書設定をやり直してください。

2. **翻訳モードの設定について**

翻訳ファイルには、翻訳の条件や訳の指定の設定情報が保持されています。設定内容は、[翻訳]－[翻訳設定]－[翻訳]などで確認できます。

- **対訳ファイル (*.out) について**

旧バージョンの対訳ファイルはそのままご使用になれます。

専門語辞書について

本製品には、最新版の専門語辞書が収録されています。ご使用のコンピュータにすでに専門語辞書がインストールされている場合でも、本製品の専門語辞書をインストールしてご使用ください。

アンインストール

翻訳ブレインは、Windowsの「プログラムと機能」からアンインストールすることができます。

アンインストールの手順

アンインストールは次の手順で実行します。

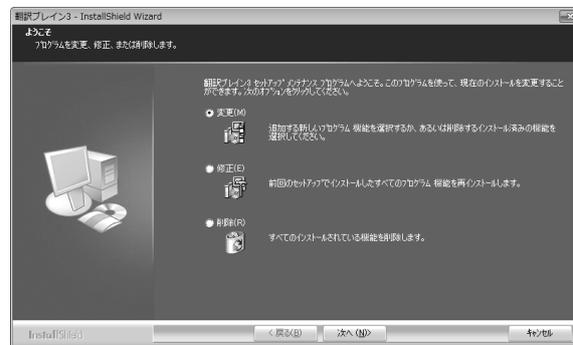
1. コントロールパネルの「プログラムのアンインストール」をクリックします。

Windows 7/Vistaでは、「プログラムのアンインストール」、XPでは、「プログラムの追加と削除」を選択します。

2. 削除する製品を選択します。

ダイアログ下部のリストの中から削除する製品（翻訳ブレイン3）を選択し、〈アンインストールと変更〉をクリックします。

次の画面が表示されます。



● アプリケーションをすべて削除する場合

1. アプリケーションをすべて削除する場合は、「削除」をオンにして〈次へ〉をクリックします。

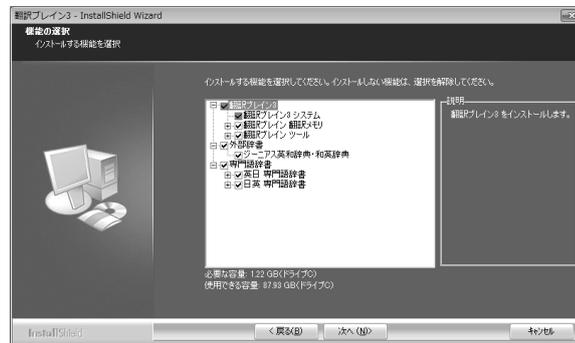
次のダイアログが表示されます。



2. 〈はい〉をクリックします。 アンインストールが開始されます。

● アプリケーションの一部のソフトウェアを削除する場合

1. アプリケーションの一部のソフトウェアを削除する場合は、「変更」をオンにして〈次へ〉をクリックします。
次のダイアログが表示されます。



ここで、チェックボックスをオンにしたソフトウェアはインストールされ、オフにしたソフトウェアはアンインストールされます。

2. 削除するソフトウェアをオフにしたら〈次へ〉をクリックします。
オフにしたソフトウェアのアンインストールが開始されます。

アンインストールが完了すると作業が完了したことを示すメッセージが表示されます。

3. アンインストールを完了します。

〈完了〉をクリックしてアンインストールを終了します。



ヒント アンインストールが完了しても、翻訳プレインのユーザー辞書など、インストール後に作成されたファイルやフォルダは残ります。これらのファイルやフォルダの削除は、ご自身の判断で実行してください。

基本操作編

基本操作編では、翻訳プレインの起動と終了、翻訳エディタの基本的な操作方法について説明しています。操作手順については例文を用いて説明していますので、実際に翻訳プレインを操作しながら本編をご一読ください。

翻訳ブレインの起動と終了

この章の内容

この章では、翻訳ブレインの起動と終了方法について説明します。

翻訳ブレインの起動

ここでは、翻訳ブレインの起動方法を説明します。

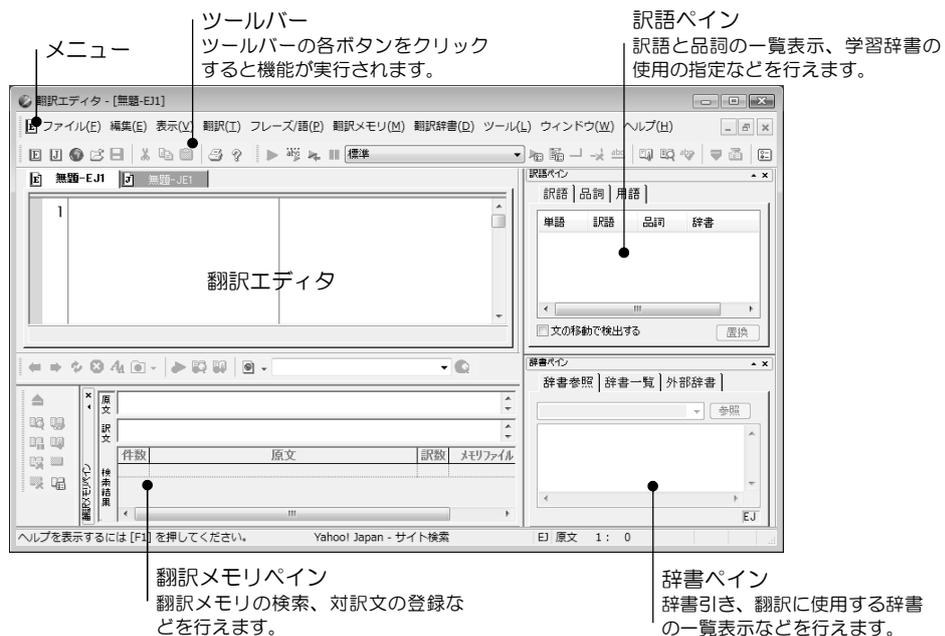
デスクトップのショートカット

デスクトップには、以下のショートカットが作成されます。各アイコンをダブルクリックすると対応するアプリケーションが起動します。

- 翻訳ブレイン3 

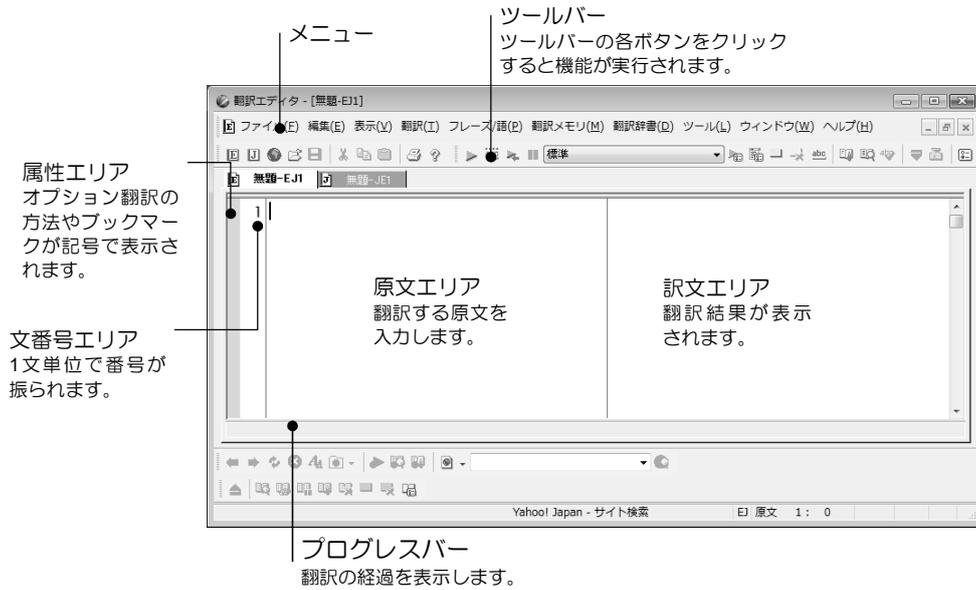
● 翻訳ブレインの起動画面

翻訳ブレインが起動すると次の翻訳エディタが表示されます。



● 翻訳エディタ

英→日翻訳は、次の翻訳エディタで行います。



翻訳エディタでは、左に原文、右に訳文が表示されます。

ここでは、英→日を例にしていますが、日→英の翻訳エディタも名称は同様です。

「スタート」メニュー

タスクバーの「スタート」ボタンをクリックして[すべてのプログラム]－[翻訳ブレイン3]とたどると、翻訳ブレイン関連のメニューが表示されます。

翻訳ブレインのヘルプは、[すべてのプログラム]－[翻訳ブレイン3]－[ヘルプ]を選択すると起動します。

また、[すべてのプログラム]－[翻訳ブレイン3]－[日英翻訳のコツ]を選択すると、日英翻訳の精度を向上させるための「日英翻訳のコツ」が表示されます。

翻訳ブレインの終了

[ファイル]－[閉じる]を選択すると、翻訳中の文書のウィンドウを閉じることができます。[ファイル]－[アプリケーションの終了]を選択するとすべてのウィンドウを閉じて翻訳ブレインを終了します。

翻訳ブレイン入門

この章の内容

この章では、翻訳ブレインの基本的な機能であるテキストファイルの翻訳、「翻訳メモリ」を使用した翻訳方法、一太郎文書の翻訳、ATOK連携翻訳、Shurikenで受信したメールの翻訳について例をあげて説明します。

英→日を例にして説明していますが、日→英の場合も操作は同じです。

テキストファイルの翻訳

翻訳ブレインに添付されている練習用ファイルchickenpox.txtを使って、文書ファイルを読み込み、一括で翻訳する手順を説明します。

ファイルの読み込みと翻訳

練習用ファイル「chickenpox.txt」は、次の場所に保存されています。

Windows 7 : [ライブラリ]→[ドキュメント]→[CrossLanguage]→[Brain]→[learn]

Vista : [ユーザー名]→[ドキュメント]→[CrossLanguage]→[Brain]→[learn]

XP : [マイドキュメント]→[CrossLanguage]→[Brain]→[learn]

このファイルを読み込みます。

手順

1. [ファイル]ー[開く]を選択します。

開くダイアログが表示されます。

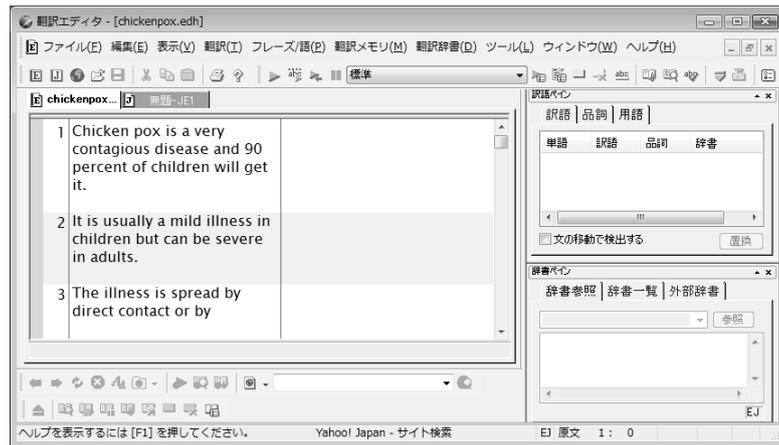
2. 「ファイルの場所」をlearnフォルダに変更します。

ファイル名リストの中にchickenpox.txtが表示されます。



3. chickenpox.txtをダブルクリックします。

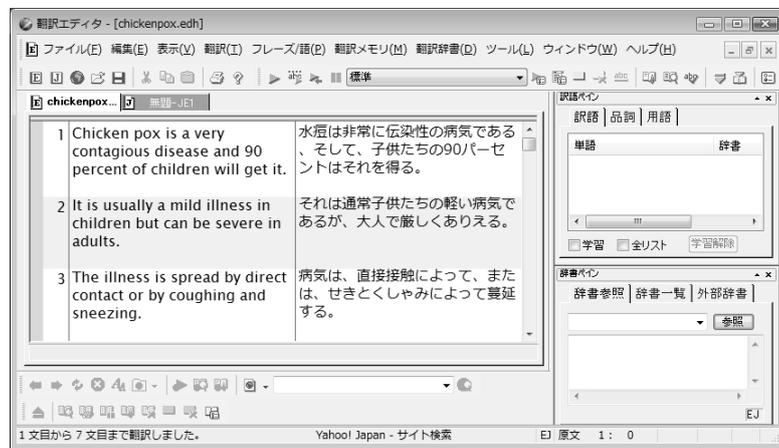
chickenpox.txtが翻訳エディタの左側にある原文エリアに表示されます。



この文書を翻訳します。

4. カーソルが文書の先頭にあることを確認して、ツールバーのをクリックします。

翻訳が開始され、翻訳結果が訳文エリアに次々と表示されます。



単語の対応と訳語の変更

翻訳ブレインには、原文の単語がどの訳語に翻訳されたのかを確認する「訳語対応」機能と、複数の意味を持つ単語の別訳語リストを表示し、適切な訳語に入れ替える「訳語変更」機能があります。

手順は以下のとおりです。

手順

1. 任意の単語をダブルクリックする（マウスの左ボタンを2回続けて押す）と「訳語対応」が実行されます。たとえば、文番号2の"mild"をダブルクリックします。

"mild"が反転表示するのと同様に対応する訳語の「軽い」も反転表示します。

2	It is usually a mild illness in children but can be severe in adults.	それは通常子供たちの軽い病気であるが、大人で厳しくありえる。
---	---	--------------------------------

2. 次に訳語をダブルクリックします。たとえば、同じ文の「子供たち」をダブルクリックします。

「子供たち」が反転表示するのと同様に対応する英単語の"children"も反転表示します。

2	It is usually a mild illness in children but can be severe in adults.	それは通常子供たちの軽い病気であるが、大人で厳しくありえる。
---	---	--------------------------------

次に「訳語変更」機能を確認します。

3. 任意の単語をトリプルクリックする（マウスの左ボタンを3回続けて押す）と「訳語変更」が実行されます。たとえば、同じ文のillnessをトリプルクリックします。

対応する訳文エリアの「病気」が反転し、訳語の一覧が表示されます。

illness	学習 ON
<input checked="" type="checkbox"/>	病気
<input type="checkbox"/>	疾患
<input type="checkbox"/>	疾病
<input type="checkbox"/>	不健康

4. たとえばこの中から「疾患」をクリックします。

訳文エリアの「病気」が「疾患」に変わり、訳語の文字色は濃い赤で表示されます。

illnessをダブルクリックして変更した訳語を確認してください。

2	It is usually a mild illness in children but can be severe in adults.	それは通常子供たちの軽い疾患であるが、大人で厳しくありえる。
---	---	--------------------------------



初期状態で、学習した訳語の文字色は濃い赤で表示されます。学習した訳語の文字色は、[ツール]－[環境設定]－[配色]の「学習辞書」で変更できます。



訳語対応を実行すると、辞書ペインには訳語対応した語句の辞書引き結果が表示されます。また、訳語ペインには、訳語対応した語句の別訳語が表示されます。



初期状態では、マウスカーソルを置くだけで訳語対応が実行されます。この機能をオフにする場合は、[ツール]－[環境設定]－[書式]を選択し、「マウスカーソル位置の訳語対応を強調する」チェックボックスをオフにしてください。

訳語の学習

訳語ペインの「学習」チェックボックスをオンにして訳語変更を行うと、訳語が学習されます。次回の翻訳でその単語が同じ使われ方をした場合は、学習された訳が表示されます。

「訳語変更」で変更したillnessが「疾患」という訳語に学習されているかを確認します。

手順

1. 文番号2の"illness"をダブルクリックします。

訳語ペインの先頭に訳語変更を実行した語句が表示され、辞書には「学習」と表示されます。これは、この訳語が学習されて、学習辞書から出典されていることを意味します。



文番号3にも"illness"が使用されています。

2. 文番号の「3」をクリックします。

その文のみの翻訳が実行されます。

3. "illness"をダブルクリックします。

対応する訳が前章で学習させた「疾患」になっていることを確認できます。



【翻訳】－【翻訳設定】－【辞書】で、「学習辞書を使用する」チェックボックスをオフにして訳語変更を行うと、訳の学習は行われません。同様に、訳語ペインで「学習」チェックボックスをオフにしてから訳語変更を行うと、訳の学習は行われません。



ヒント

「学習をしない」で訳語変更をすると、文番号の前にロック  がつきます。誤って翻訳をした場合、変更した訳語が元に戻ってしまうのを防ぐためです。

ユーザー辞書に単語を登録する

「基本語辞書」にない単語や訳語を「ユーザー辞書」に登録して、翻訳結果に反映することができます。

単語の登録

ここでは、例としてユーザー辞書に"severe"を「重度の」と登録します。

手順

1. 文番号2の"severe"をダブルクリックします。
severeが反転表示され、ステータスバーには、severeの品詞が「形容詞」と表示されます。
2. ツールバーのをクリックするか、【翻訳辞書】－【登録】を選択します。
辞書登録ダイアログが表示され、「見出し語」に"severe"、「品詞」に「形容詞」が自動的に入力されます。
3. 「訳語」に「重度の」と入力します。



4. 正しく入力したら、〈登録〉をクリックし、続けて〈閉じる〉をクリックします。
これで、ユーザー辞書に登録されました。

ユーザー辞書を使用して翻訳

登録したユーザー辞書を使って翻訳を実行します。文番号の「2」をクリックし、一文翻訳を実行すると以下の結果が表示されます。

2 It is usually a mild illness in children but can be severe in adults.	それは通常子供たちの軽い疾患であるが、大人で 重度 でありえる。
---	---

メモ 翻訳結果の単語の場所を明確にするために上記の例では、severeをダブルクリックして単語の対応を表示しています。

翻訳する文書によく使われている固有名詞や言い回しを登録し専用のユーザー辞書を作成すると、翻訳精度を向上させることができます。

翻訳結果を印刷する

翻訳結果を印刷します。

- 手順**
1. **【ファイル】-【印刷】**を選択します。
印刷ダイアログが表示されます。



2. **〈OK〉** をクリックします。

印刷が開始されます。印刷の進捗状況を示すダイアログが表示され、プリンタから結果が出力されます。
中止する場合は、〈キャンセル〉をクリックしてください。



ヒント

初期状態のまま印刷を実行すると、翻訳エディタに表示されている対訳文が印刷されます。原文の印刷、訳文の印刷、ヘッダやフッタの変更などは、[ページ設定]で行います。印刷については、『5.4 印刷』を参照してください。

翻訳結果の保存

翻訳情報を保持した「翻訳ファイル」を作成したり、翻訳結果の訳文をテキストファイルに保存することができます。

● 翻訳ファイルの保存

翻訳ファイルを作成する手順は以下のとおりです。

手順

1. [ファイル]－[名前を付けて保存]を選択します。

「ファイル名」にchickenpox.edhと表示され、「ファイルの種類」には「翻訳ファイル」と表示されます。



2. 〈保存〉をクリックします。

これで、「翻訳ファイル」として保存されました。翻訳ファイルには原文と訳文だけでなく単語の対応、訳語の変更など翻訳に使用された情報も保存されています。翻訳ブレイン 英→日でこのファイルを開くと、翻訳作業を継続できます。

● 訳文の保存

翻訳結果の訳文をテキストファイルに保存する手順は以下のとおりです。

手順

1. [ファイル]—[名前を付けて保存]を選択します。
名前を付けて保存ダイアログが表示されます。
2. 「ファイルの種類」で「訳文ファイル」を選択します。



3. 「ファイル名」が「chickenpox_j.txt」となっていることを確認して、〈保存〉をクリックしてください。

これで、「訳文ファイル」として保存されました。訳文ファイルはテキストファイルなので、ワープロやエディタに読み込むことができます。

翻訳メモリを使った翻訳

翻訳メモリとは、原文と訳文の対訳文を登録したもので、翻訳する原文に対して、登録されている文と完全に一致する文か、類似している文なのか、文型が同じかなどの条件を設定して、翻訳に役立てることができます。翻訳メモリには、必要に応じてユーザーが対訳文を登録することもできます。

また、定型文には、変化する部分を明示した、「文型」として登録しておきます。文型に合致すれば、元の文から変化した部分だけを機械翻訳して、その結果を訳文の対応する位置に埋め込むので、文全体を機械翻訳するよりも、より人間の翻訳に近い結果を得ることができます。

ここでは、翻訳メモリの登録方法とこれを使った翻訳の説明をします。翻訳メモリの詳細に関しては、『第3章 翻訳メモリ』を参照してください。

翻訳メモリの設定

翻訳に翻訳メモリを使うためには、翻訳メモリの設定ダイアログで使用する翻訳メモリを指定して、次に翻訳設定ダイアログで翻訳メモリをどのような検索方法で翻訳に使用するかを指定します。翻訳メモリの変更方法については、『3.3 ユーザー翻訳メモリの作成と選択』を参照してください。

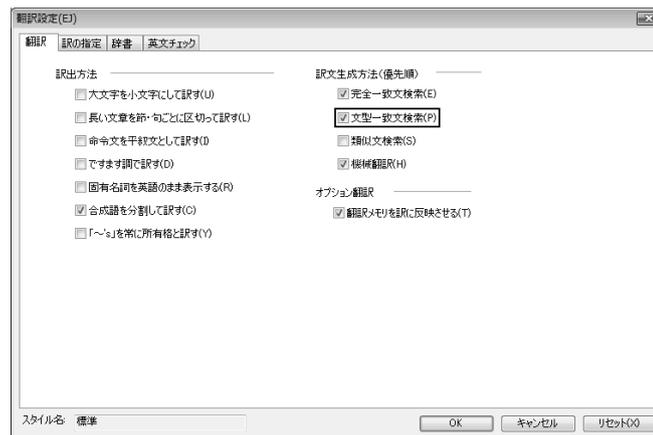
● 翻訳メモリの指定

初期状態で使用する翻訳メモリには、基本翻訳メモリ、英文ビジネスレター翻訳メモリ、ビジネス翻訳メモリ、科学技術翻訳メモリ、ユーザーの登録用翻訳メモリに「ユーザー翻訳メモリ」が指定されています。

● 翻訳メモリの検索方法の指定

翻訳メモリの検索方法の指定は、翻訳設定ダイアログにある「翻訳」タブで指定します。翻訳設定ダイアログは、[翻訳]—[翻訳設定]を選択すると、表示されます。翻訳設定ダイアログにある、「訳文生成方法（優先順）」のチェック項目をオンにすると、翻訳で翻訳メモリが使用されます。

初期状態では、「完全一致文検索」と「機械翻訳」がオンになっています。翻訳エディタで翻訳を実行すると、まず「完全一致文検索」が実行され、最初に見つかった検索結果が訳文として採用されます。完全に一致する文が見つからなかった場合、「機械翻訳」が実行されます。ここでは、「文型一致文検索」チェックボックスもオンにして〈OK〉をクリックしてからダイアログを閉じます。



これで、「完全一致文検索」、「文型一致文検索」、「機械翻訳」の順に検索が実行されます。

翻訳メモリへ対訳文を登録する

対訳文を翻訳メモリに登録する方法を説明します。

● タグを含む文

翻訳メモリでは、変更可能な部分を「タグ」と呼ばれる記号「<\$タグ名=>」で囲んで登録できます。

たとえば以下の文を機械翻訳するとその下の訳になります。

原文：I ordered 2 copies of your catalogue by fax on October 1.

訳文：私は、10月1日にファックスであなたのカタログの2部を注文した。

この文を以下のように登録します。

I ordered <\$1=2> copies of your catalogue by <\$通信手段=fax> on <\$日付=October 1>.

タグで囲まれた部分に変更された場合に、文型一致文検索を実行すると、変更された部分を翻訳してから検索結果を表示したり、翻訳結果として翻訳エディタに貼り付けることができます。

● 名詞をタグにする（もっとも基本的な形）

翻訳メモリのもっとも単純な使い方は、名詞をタグにするものです。

次の文を翻訳メモリを使わずに訳すとその下のようにならぬ。

原文：It is another object of this paper to provide the new method.

翻訳結果：新しい方法を提供することは、本論文のもう一つの目的である。

この場合、次のように翻訳メモリに登録します。

登録する原文

It is <\$1=another object> of this paper to provide <\$2= the new method>.

登録する訳文

本紙の<\$1=他の目的>は、<\$2=新しい方法>を提供することである。

次に文型一致文検索をオンにして翻訳を実行します。

原文1

It is another object of this paper to provide the new method.

翻訳メモリを使った翻訳結果1

本紙の他の目的は、新しい方法を提供することである。

また次の例はその下のように翻訳されます。

原文2

It is another advantage of this paper to provide the connection means.

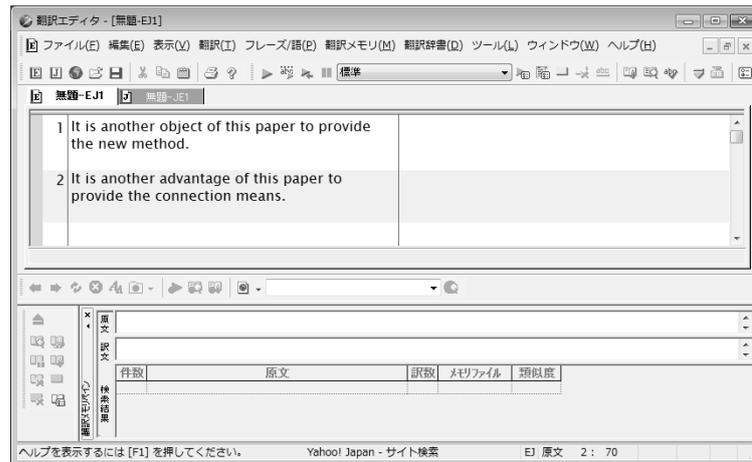
翻訳メモリを使った翻訳結果2

本紙のもう一つの利点は、接続手段を提供することである。
登録手順は以下のとおりです。

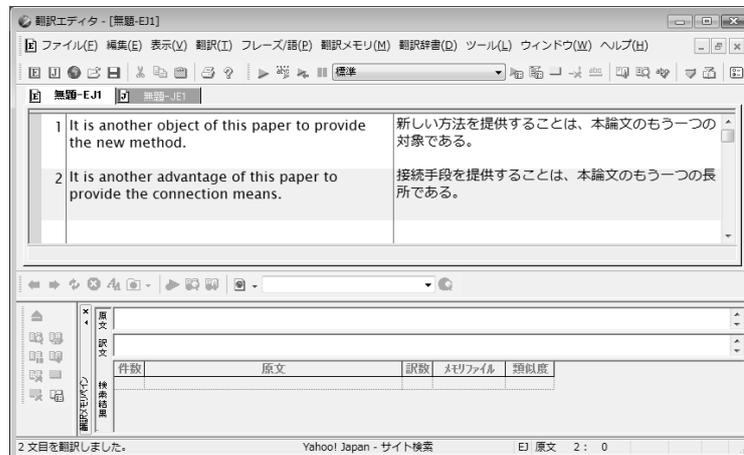
手順

1. 翻訳エディタで翻訳メモリに登録する文章を入力します。

この例では、"It is another object of this paper to provide the new method."と入力してEnterを押して、新しい文番号に"It is another advantage of this paper to provide the connection means."と入力します。



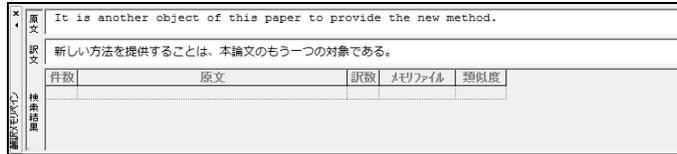
2. 各文番号をクリックして一文翻訳を実行します。



直訳なので、前述のようにタグを含んで翻訳メモリに登録します。

3. はじめの例文（ここでは、文番号1）の任意の位置をクリックしてカーソルを置きます。続いて▼をクリックします。

翻訳メモリペインに、翻訳エディタのカーソル位置の対訳文が読み込まれます。

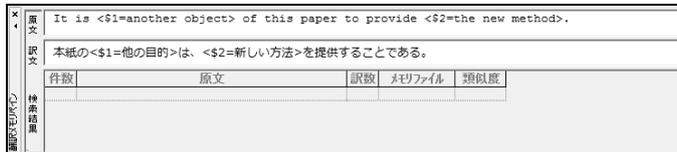


4. 原文にタグを指定します。タグ指定したい単語にカーソルを置いて■をクリックすると、タグで囲まれます。複合語をタグ指定する場合は、文字列を選択して■をクリックします。

まず、another objectを選択して■をクリックします。次に、the new methodを選択して■をクリックします。

5. 訳文に翻訳結果を入力します。

この例では、「本紙の他の目的は、新しい方法を提供することである。」と入力します。次に「他の目的」を選択して■をクリック、「新しい方法」を選択して■をクリックします。



メモ 原文と訳文においてタグの数、タグ名は1対1で対応しなければなりません。

6. 原文と訳文を正しく入力したら、[OK]をクリックします。

次のダイアログが表示されます。



7. 「登録」をクリックします。

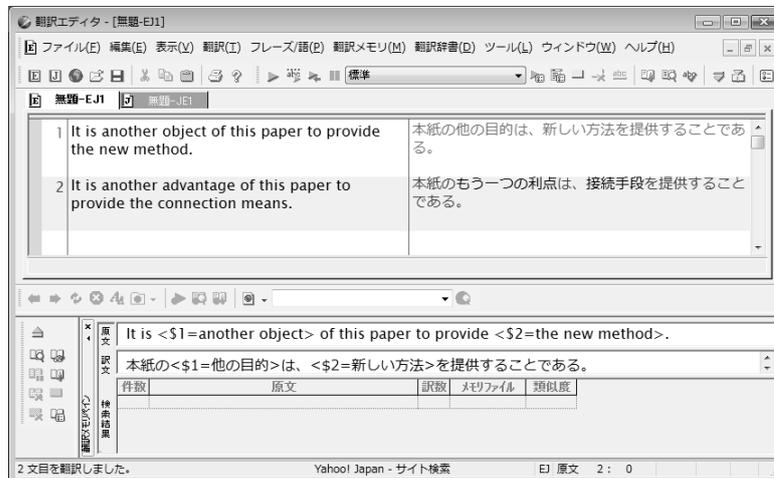
対訳文が登録されます。

メモ タグを含む文を登録した場合、タグを含む対訳文の登録と、タグを取り除いた対訳文の登録を同時に行います。自動的に2つの対訳文が、登録されます。

次に、翻訳を実行します。

8. 翻訳エディタにある各文の文番号をクリックします。

次の翻訳結果が表示されます。



文番号の色と訳文の文字色が変わります。はじめの文は、翻訳メモリに登録されたタグを省いた文に完全に一致しているため、「完全一致」文の色になります。

2番目の文は文型一致しているので、文番号と登録文中のタグ以外の文字列の色は「文型一致」で指定した色、タグに対応して翻訳された文字列は、「機械翻訳」で指定した色になります。

メモ 文番号と訳文の色の指定は、[ツール]—[環境設定]—[配色]で行います。



この対訳は、そのまま日→英においても利用できます。翻訳メモリとして同じファイルを指定してください。

一太郎の翻訳

一太郎用のアドイン翻訳機能を有効に設定して、一太郎文書の英→日翻訳を実行することができます。

一太郎用のアドイン翻訳機能の有効と無効

一太郎のアドイン翻訳機能を使用する場合は、次の手順でアドイン翻訳機能を有効に設定します。

手順

1. 「スタート」ボタンをクリックし、[すべてのプログラム]－[翻訳ブレイク3]－[ジャストシステム連携設定]を選択します。

ジャストシステムアドイン連携設定ダイアログが表示されます。



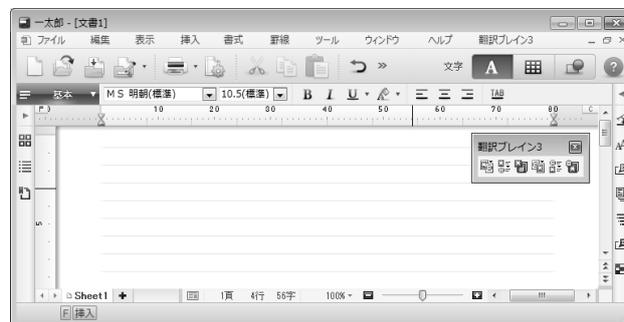
2. 「一太郎アドイン」の〈登録〉をクリックします。

一太郎が自動的に起動・終了し、一太郎用のアドイン翻訳機能が有効に設定されます。

3. 〈OK〉をクリックします。

一太郎を起動してアドイン機能が有効になっていることを確認しましょう。

4. 一太郎を起動します。



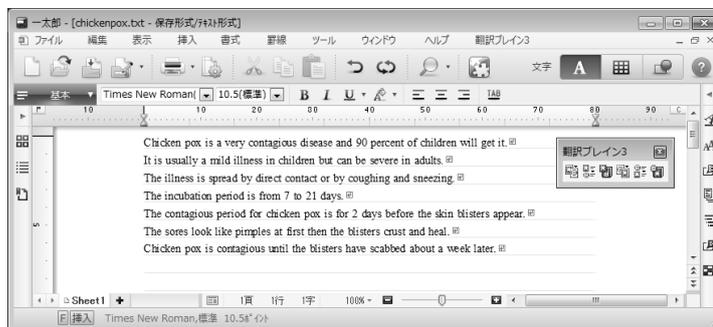
「翻訳ブレイク3」ツールボックスと「翻訳ブレイク3」メニューが追加されていれば、アドイン機能が有効に設定されています。

一太郎文書の翻訳

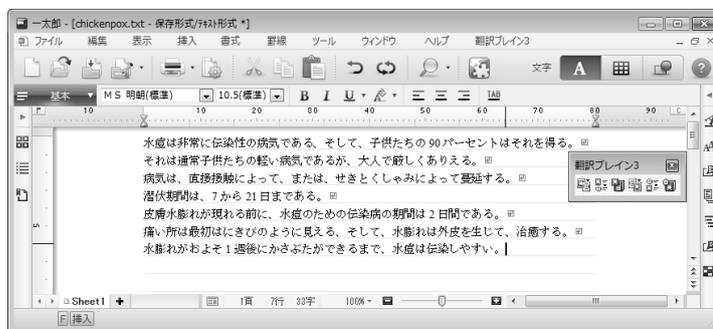
一太郎に読み込んだ文書を翻訳します。手順は以下のとおりです。

手順

1. 一太郎で翻訳する文書を開き、「作業フェース」を「基本編集」に設定します。
2. 〈英日翻訳〉をクリックします。



翻訳が開始されます。翻訳が終了すると、原文が訳文に置き換わります。シートの内容をバックアップするかを確認するメッセージが表示された場合は、〈はい〉または〈いいえ〉をクリックします。



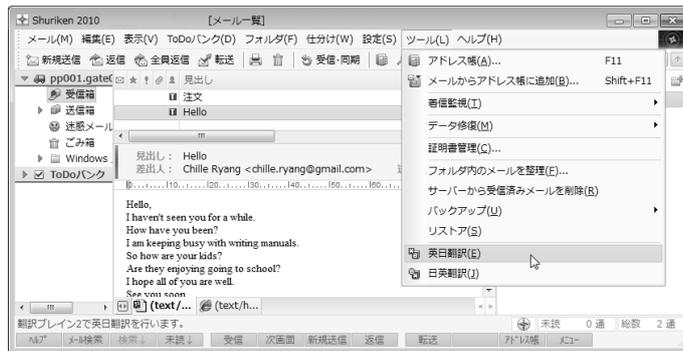
ヒント 段落単位の翻訳方法、翻訳結果の表示方法や翻訳メモリの設定などについては、『2.10.2 一太郎のアドイン翻訳』を参照してください。

Shurikenで受信したメールの翻訳

Shurikenで受信したメールを英→日翻訳できます。手順は以下のとおりです。

手順

1. **Shurikenを起動します。**
2. メール一覧から翻訳するメールを選択して、ビューアにメールの本文を表示します。ビューアを表示していない場合は、[表示]—[ビューア表示]を選択して、ビューアを表示します。
3. [ツール]—[英日翻訳]を選択します。



確認メッセージが表示された場合は、〈はい〉をクリックします。翻訳ブレイクが起動して、メールの内容が翻訳されます。

ATOK連携翻訳

ATOKで入力した日本語を、変換時に英語に翻訳できます。手順は以下のとおりです。

手順

1. ATOKで日英翻訳機能が使用可能な状態に設定します。
Windowsの言語バー、またはATOKパレットに表示されているATOKのメニューボタン  をクリックすると次のメニューが表示されます。

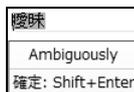


※言語バーはデスクトップ上に復元した状態で表示されている場合もあります。

2. 基本のメニューから、「日英翻訳変換」を選択します。
※ ATOKの「8カ国語Web翻訳変換 for ATOK」をインストールしている場合は、「Web翻訳変換-翻訳言語の選択-翻訳ブレイク」を選択します。

ATOKで日英翻訳機能が使用可能な状態に設定され、コマンドのアイコンがカラーで表示されます。

3. ATOKで日本語の語句または文を入力します。
4. スペースキーを押して、文字変換を実行します。
かな漢字変換が実行されると同時に、翻訳結果が表示されます。



5. Shiftキーを押したままEnterキーを押すと、翻訳結果が確定されます。



応用編

応用編では、翻訳プレインの操作方法を、より詳しく説明しています。翻訳プレインをはじめてご使用の場合は、本編の前に基本操作編をご一読ください。

第 1 章 基本操作と画面

この章の内容

翻訳ブレインの各ペインの操作と翻訳エディタでの基本操作について説明します。

1.1 基本操作

1.1.1 マウスの操作

- ポイント

マウスとともに移動する矢印を「マウスポインタ」、または単に「ポインタ」と呼びます。ポインタをアイコンやメニューの項目の上に置くことを「ポイントする」といいます。翻訳ブレインでは、原文か訳文の単語をポイントすると、対応する単語が反転表示されます。単語がどのように翻訳されたか、翻訳された単語に対応する原文の単語はどれかを知りたい場合に便利です。

- クリック

マウスの左ボタンを1度押して離すことを「クリックする」といいます。ポインタをメニューの項目の上に移動し、マウスの左ボタンでクリックするとそのメニューが選択され、メニューに結び付けられた動作が行われます。

- ダブルクリック

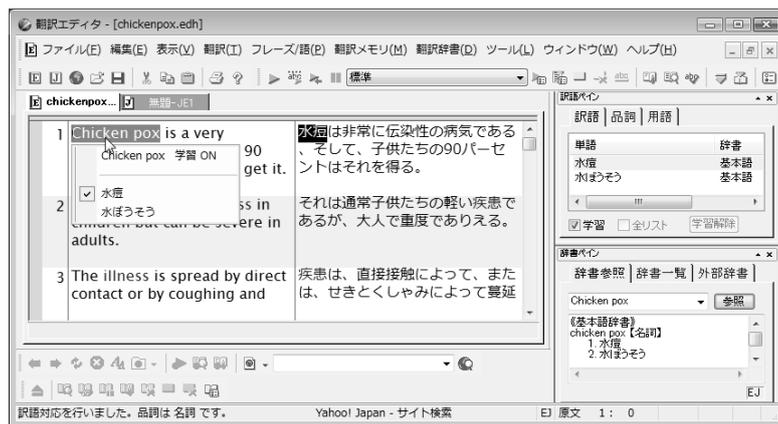
マウスの左ボタンを2度続けてクリックすることを、「ダブルクリック」と呼びます。翻訳ブレインでは、原文か訳文の単語をダブルクリックすると、対応する単語が反転表示され、ステータスバーに英単語の品詞が表示されます。

2 It is usually a child illness in children but can be severe in adults.	それは通常子供たちの 病 気であるが、大人で厳しくありえる。
---	---------------------------------------

同時に、辞書ペインの「辞書参照」タブには訳語対応した語句の辞書引き結果が表示され、訳語ペインの「訳語」タブには、訳語対応した語句の別訳語が表示されます。

- トリプルクリック

マウスの左ボタンを3度続けてクリックすることを、「トリプルクリック」と呼びます。翻訳ブレインでは、任意の単語をトリプルクリックすると、その単語の訳語の一覧が表示されます。



● ドラッグ

マウスボタンを押したままマウスを移動することを「ドラッグ」といいます。ドラッグは、通常範囲を指定する際に用いられます。翻訳ブレインやワープロソフトなどでは、文字列の先頭へマウスポインタを置いて、そこでマウスの左ボタンを押したままマウスを移動し、文字列の最後でボタンを離すと、その文字列が選択されて反転表示されます。この反転表示された文字列に対して、「コピー」、「切り取り」などの操作を行うことができます。

1.1.2 カーソルの移動と文字列の選択

カーソルとは、文字の挿入位置を示すI型のポインタをいいます。これによって、文字を入力する位置を指定します。

● カーソルの移動

翻訳エディタの原文エリアや訳文エリアでカーソルを移動するには、マウスポインタを移動し目的の位置でクリックするか、矢印キー（↑→↓←）を使うのが一般的です。

このほか、以下の方法でカーソルを移動することもできます。

操作	カーソルの移動
Home	文の先頭へ移動
End	文の最後へ移動
Ctrl+Home	文書の先頭へ移動
Ctrl+End	文書の最後へ移動
Tab	原文、訳文エリア間の移動
[編集]-[文番号ジャンプ]	指定した番号の文の先頭へ移動

● 選択状態

翻訳ブレインでは、連続する複数の原文や訳文について、両方同時に、あるいは一方だけを選択状態にすることができます。

複数文を選択するには、指定を始める文の任意の位置から、指定を終える文の任意の位置までドラッグします。

原文と訳文をまとめて選択する場合は、指定を始める原文の任意の位置から、指定を終える訳文の任意の位置までドラッグします。

ドラッグしているポインタが原文と訳文の間にある中央ラインを越えて反対側のエリアに移動すると、原文と訳文を同時に選択状態にすることができます。

選択をキャンセルするには、任意の位置でクリックします。

1.1.3 各種機能の実行

翻訳、文字列のコピーなどといった翻訳ブレインの機能を実行するには、次の4つの方法があります。

- メニューから選択する
- ツールバーのボタンをクリックする
- ショートカットメニューから選択する
- キーボードのショートカットを使う

以下でそれぞれの方法について説明します。

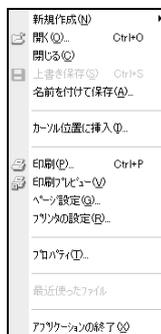
● メニューから選択

メニュー項目を選択することでアプリケーションの機能を実行することができます。

手順

1. マウスポインタをメニューに移動して左ボタンでクリックします。

たとえば、英→日のメニューの[ファイル]をクリックすると、次のメニュー項目が表示されます。



2. マウスポインタを移動し、選択したい項目が反転表示されたら左ボタンでクリックします。

これで、その機能が選択されます。
選択したい機能がなかった場合などは、メニューの外をクリックするか、最上段をクリックします。

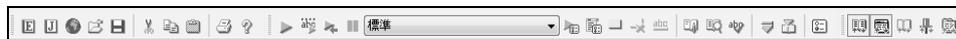


ポインタをメニュー項目に移動しても選択できない場合があります。
これは、その機能が使用できない状態にあることを示しています。

● ツールバー

「ツールバー」はアプリケーションウィンドウの上部、タイトルバーのすぐ下に表示されます。ツールバーには、メニュー項目と同じ機能を簡単に実行できるように、各機能に対応するボタンが並んでいます。

[カレント文以降を翻訳]、[フレーズ指定]、[辞書登録]など、よく使われる機能を実行するボタンが並んでおり、マウスのボタンでクリックすると、対応する機能が実行されます。

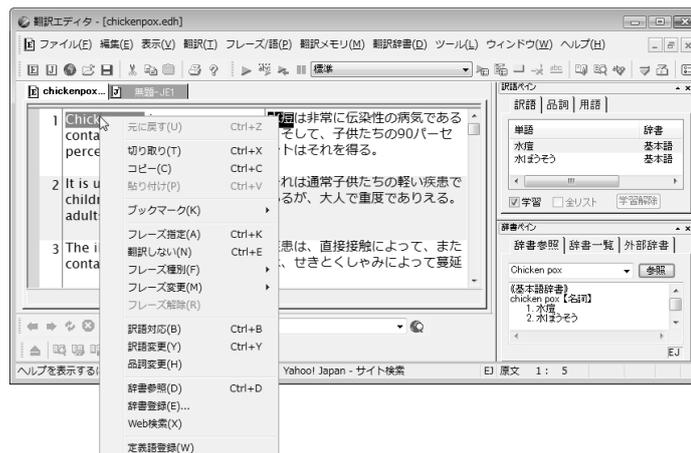


ツールバーに表示するボタンは[ツール]—[カスタマイズ]—[ツールバー]で変更できます。

● ショートカットメニュー

翻訳エディタや各ペインでマウスの右ボタンをクリックすると、「ショートカットメニュー」が表示されます。ショートカットメニューにはその状況でよく使われる機能が登録されています。

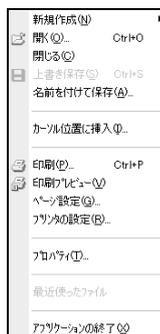
たとえば、翻訳エディタで単語の上を右ボタンでクリックした場合、次のショートカットメニューが表示されます。



ショートカットメニューの項目は、その項目にマウスポインタを移動し、左ボタンをクリックすることにより、選択できます。項目を選択せずにメニューを消す場合は、メニューの外でマウスの左ボタンをクリックします。

● キーボード

頻繁に使われる機能は、キーボードを使って実行できるようになっています。Ctrlキーを押しながら他のキーを押すと実行されます。例えばほとんどのアプリケーションでは、[ファイル]メニューの[開く]と同じ機能は、Ctrlキーを押しながら"**O**"を押しても実行できます。ただし、すべての機能をキーボードから選択できるわけではありません。キーが割り当てられている機能には、メニューの右端にキーが表示されています。次の例では、「開く」と「印刷」にキーが割り当てられています。



また、「アクセラレーターキー」コマンドで、ユーザーが独自にキーを割り当てることもできます。「アクセラレーターキー」コマンドに関しては、『5.4 アクセラレーターキー』を参照してください。

1.2 キーボードから入力して翻訳する

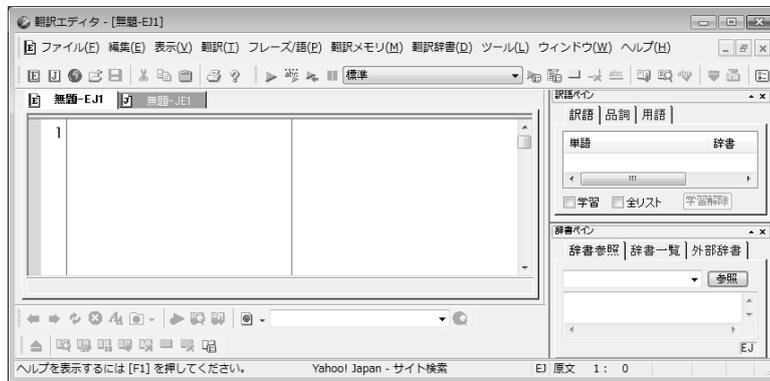
キーボードから英文を入力して翻訳します。翻訳ブレインでは市販のワープロやエディタと同じような手順で文を編集することができます。



ヒント 翻訳エディタに半角カタカナを入力することはできません。半角カタカナを入力すると、かな漢字変換後、翻訳エディタに文字が入力されるときに全角カタカナに置き換わります。また、英語を全角で入力しても翻訳されません。

1.2.1 文の入力

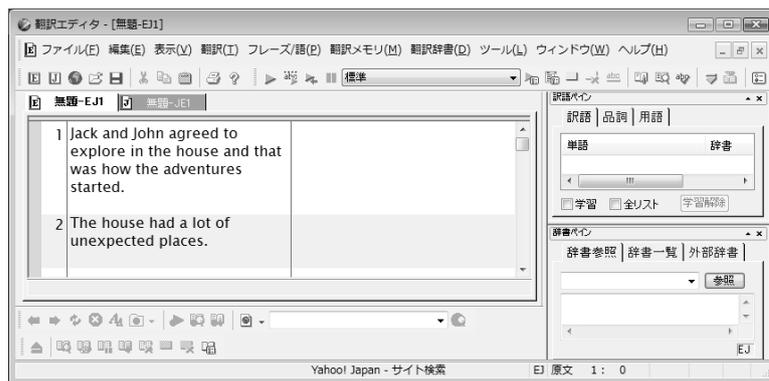
翻訳ブレインを起動すると文番号1が表示され、カーソルは左側の原文エリアに表示されます。



文章を入力する方法は、以下のとおりです。



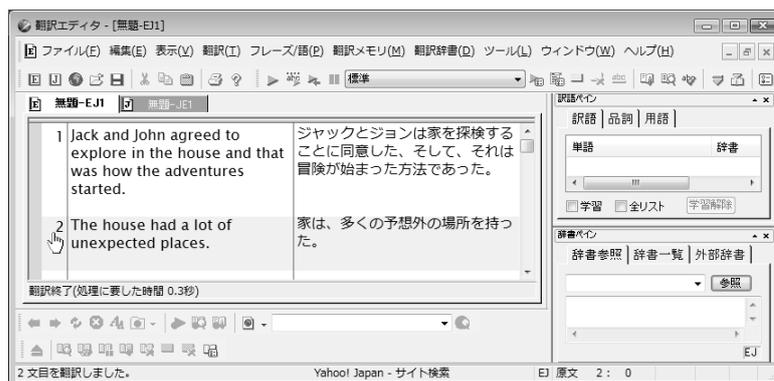
1. 翻訳を行うエディタのタブをクリックしてアクティブにします。
2. 原文エリアに"Jack and John agreed to explore in the house and that was how the adventures started."と入力します。
3. Enterキーを押します。
文番号2が表示され、カーソルが文番号2に移動します。
4. "The house had a lot of unexpected places."と入力します。



このようにして、1つの文番号に1つの文を入力していきます。翻訳ソフトは文単位で翻訳を実行します。その際、1つの文番号には1つの文だけ入力されているものとして扱うので、複数文を入力する場合は、必ずEnterキーを押して、文を1つずつ分割してください。

1.2.2 一文翻訳

翻訳する文の文番号をクリックすると、一文翻訳が実行されます。ポインタを文番号に置くと、手の形に変わるので、文番号の「1」を、続いて文番号の「2」をクリックします。翻訳結果が訳文エリアに表示されます。



1.2.3 文の分割

1つの文が長くなると加速度的に翻訳に時間がかかり、結果も読みにくいものになります。可能な場合は、長い文（30語程度より長いもの）は前もって複数の文に分割することをお勧めします。

文番号1の文を例に分割します。

Jack and John agreed to explore in the house and that was how the adventures started.

手順

1. **"house"の後ろでクリックします。**

カーソルが"e"の直後に移動します。

2. **ピリオド（.）を入力します。**

3. **ここまでを1つの文にするため、andのaの直前をクリックし、Enterキーを押します。**

文が2つに分かれ、"and"以下が新しく文番号2の文になりました。それ以降の文番号もふり直されています。

Jack and John agreed to explore in the house.

and that was how the adventures started.

1.2.4 文の結合

文を結合するには、結合する文の先頭にカーソルを置き、Back Space (BS) キーを押します。例として先ほどの文を元に戻します。

手順

1. **2番の文の先頭にカーソルを置き、Back Space (BS) キーを押します。**

これで2つの文が、1つにつながります。

2. **ピリオドを消去します。**

1.3 翻訳ブレイク画面の表示

ここでは、翻訳ブレイク画面の表示方法について説明します。

- 表示メニュー

表示メニューのコマンドでチェックマークが付与されている項目は翻訳ブレイク画面で表示されています。コマンドを選択することにチェックマークのオン/オフが切り替わります。

- ウィンドウメニュー

ウィンドウメニューでは、翻訳エディタが複数ある場合の表示方法を指定できます。翻訳エディタを重ねて表示する、上下または左右に並べて表示するなどの指定を行えます。

- 翻訳エディタの切り替え

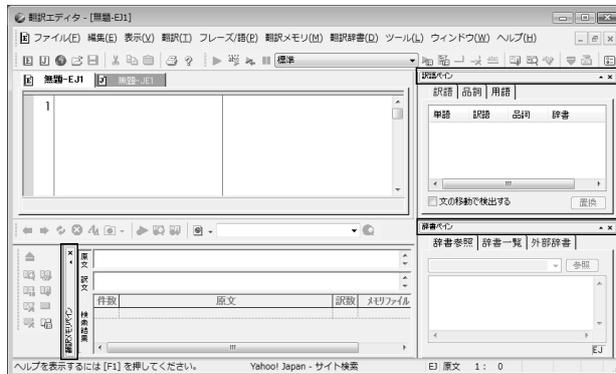
翻訳ブレイクはマルチペイン翻訳エディタを採用しているので、ファイルを開くと翻訳エディタが次々と開いて翻訳ブレイク画面内でファイルを表示します。翻訳エディタの上部には、翻訳エディタに対応してタブ  無題-EJ1  無題-JE1 が表示されます。各タブをクリックすると対応する翻訳エディタがアクティブになります。Web検索を実行すると、 Yahoo!検索 ..タブが追加されます。Web検索のウィンドウを1つまたは複数にするかは、環境設定ダイアログで設定します。

- サイズの変更

翻訳エディタと各ペインの境界線の上、マウスポインタが十字に変わったところでドラッグすると境界線が移動してサイズを変更できます。

- 位置の変更

各ツールバーとペインは、ドラッグ&ドロップして、任意の場所に移動できます。たとえば、翻訳ブレイン画面の外へ置くこともできます。ペインを移動する場合は、ペインのタイトルをドラッグ&ドロップします。下記、四角で囲んだ部分でマウスボタンを押したまま任意の位置に移動してボタンを離します。



- ペインを横に広げる

ペインのタイトルの横にある▶または◀をクリックすると、ペインは横に広がります。その際、並んでいるペインが消えますが、再度▶または◀をクリックすると、元のサイズに戻り、消えたペインも表示されます。

- ペインを縦に広げる

ペインのタイトルの横にある▼または▲をクリックすると、ペインは縦に広がります。その際、並んでいるペインが消えますが、再度▼または▲をクリックすると、元のサイズに戻り、消えたペインも表示されます。

- **別ウィンドウで表示しているペインを翻訳ブレイク画面にドッキングする**

別ウィンドウのタブを右クリックして、ショートカットメニューの[ドッキングビュー]を選択してから、ウィンドウを翻訳ブレイク画面上にドラッグ&ドロップします。

- **翻訳エディタと各ペインを閉じる**

翻訳エディタと各ペインは閉じるボタン (☒) をクリックすると閉じます。

- **翻訳エディタと各ペインの表示を初期状態に戻す**

翻訳エディタと各ペインの配置やサイズを初期状態に戻すことができます。
[ツール] - [環境設定] - [システム共通] を選択し、「画面配置情報のリセット」の「初期状態に戻す」チェックボックスをオンにします。確認メッセージが表示されるので、初期状態に戻す場合は、〈はい〉をクリックします。翻訳ブレイクを再起動すると翻訳エディタと各ペインの配置やサイズが初期状態に戻ります。

第 2 章 いろいろな翻訳機能

この章の内容

翻訳ブレインには、文書の一括、一文翻訳のほかに、翻訳結果を修正するための便利な機能が備わっています。

この章では、翻訳ブレインの翻訳機能の操作方法について説明します。

2.1 翻訳

翻訳には、一文翻訳、文書翻訳、指定した範囲の翻訳があります。翻訳処理は、[翻訳]—[翻訳設定]の翻訳に関する設定に従って実行されるので、必要であれば、翻訳の前に設定を行ってください。

メモ 以下で説明する翻訳操作をShiftキーを押しながら実行すると、翻訳設定ダイアログの「翻訳」タブの「訳文生成方法」の設定にかかわらず、翻訳メモリを使用せずに機械翻訳します。

2.1.1 一文翻訳

「翻訳」コマンドは、指定された文番号の文の翻訳だけを行います。英文を翻訳しやすい形に変更したり、ユーザー辞書に新しく単語を登録した後で再翻訳するなど、対話形式の処理に適しています。

- マウス操作で実行する

翻訳する文の文番号へポインタを移動すると、ポインタが手の形に変わるので、クリックしてください。
翻訳結果が訳文エリアに表示されます。

- メニューから実行する

[翻訳]は、次の手順で実行します。

手順 ▶

1. 翻訳エディタで翻訳する文にカーソルを置きます。
2. [翻訳]—[翻訳]を選択します。

訳文エリアに翻訳結果が表示されます。

必要な場合は、英文の修正／挿入を行いながら翻訳処理を行ってください。

2.1.2 文書翻訳

● 文書翻訳

文書の一括翻訳は、次の手順で行ってください。

- 手順**▶
1. 翻訳エディタで、カーソルが選択状態の場合は、翻訳エディタの任意の位置でクリックして選択状態を解除します。
 2. [翻訳] – [すべて翻訳] を選択します。

翻訳作業を中止する場合は、■をクリックするか、Escキーを押します。

● カーソル位置以降を翻訳

カーソル位置以降の文章の翻訳は、次の手順で行ってください。

- 手順**▶
1. 翻訳エディタで、翻訳を始めた文へカーソルを置きます。
カーソルの移動は、スクロールバー、↑ ← → ↓ キー、または[文番号ジャンプ]で文番号を指定して行います。
 2. [翻訳] – [カレント文以降を翻訳] を選択するか、ツールバーの▶をクリックします。

翻訳作業を中止する場合は、■をクリックするか、Escキーを押します。

● 連続する文章を翻訳する

翻訳エディタで、翻訳したい範囲の先頭から最後まで文番号をドラッグして選択すると、文番号が反転表示されます。マウスのボタンを離すと、文番号が反転している文章が翻訳されます。

翻訳作業を中止する場合は、■をクリックするか、Escキーを押します。

2.1.3 翻訳できないケース

一文翻訳、または、一括翻訳で、「翻訳できません」というメッセージが表示されたり、何も訳出されずに訳文が空白になる場合があります。

これは、文が長すぎる、または、複雑であったり曖昧であったりして、翻訳に時間がかかりすぎる場合です。このような場合は、文の適切なところで改行を入れて分割し、再翻訳してください。

2.2 訳語対応と訳語変更

2.2.1 訳語対応

翻訳ブレインには、原文の単語がどのように翻訳されたのか、または、訳語がどの単語に対応しているのかがわかる、訳語の対応機能があります。

● マウス操作で実行する

翻訳エディタで、任意の単語にマウスポインタを置くと対応する単語が反転表示されます。

任意の単語をダブルクリックしても同様に対応する単語が反転表示され、同時に、ステータスバーにその英単語の品詞が表示されます。



ヒント

初期状態では、マウスカーソルを置くだけで訳語対応が実行されます。

この機能をオフにする場合は、[ツール]—[環境設定]—[書式]を選択し、「マウスカーソル位置の訳語対応を強調する」チェックボックスをオフにしてください。

● メニューから実行する

手順

1. 翻訳エディタで、対応を表示したい単語をマウスでクリックします。

2. [フレーズ/語]—[訳語対応]を選択します。

対応する英文または和文の単語が反転表示されます。



翻訳の際、原文と訳文の構造上の違いにより落とされた単語は、ダブルクリックしても対応が表示されません。たとえば、受身を表すbe動詞がこれにあたります。なお、対応を解除する場合は、反転表示されていない任意の位置でクリックします。

2.2.2 訳語変更

ある単語を翻訳する場合、その前後の文脈によっていろいろな訳が考えられます。訳語変更コマンドを使用すると、その文にふさわしい訳を選択することができます。

● マウス操作で実行する

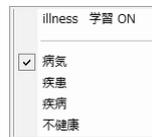
翻訳エディタで、任意の単語をトリプルクリックすると対応する単語が反転表示し、訳語リストが表示されます。訳語リストの中から適切なものをクリックすると訳語を変更できます。

● メニューから実行する

[訳語変更]は、次の手順でも行えます。

手順

1. 翻訳エディタで、訳語変更を行う単語へカーソルを置きます。
2. [フレーズ/語]－[訳語変更]を選択します。
設定している辞書に登録されている訳語の一覧が表示されます。



3. 表示された訳語の中からもっとも適切な訳語をクリックします。

訳が選択した訳語に変わります。訳語変更を行わずに訳語リストを閉じる場合は、Escキーを押します。訳語リストの表示エリアは限られているため、表示しきれない場合は、訳語リストの最下部に「他は訳語ペインを参照」と表示されます。訳語ペインにはすべての訳語が表示されます。

● 訳語ペインから別訳語を選択する

[訳語変更]は、訳語ペインで実行することもできます。

手順

1. 翻訳エディタで、訳語変更を行う単語をダブルクリックします。
設定している辞書に登録されているすべての訳語が訳語ペインの「訳語」タブに表示されます。



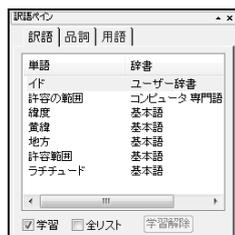
2. 表示された訳語の中からもっとも適切なものをダブルクリックします。
訳が選択した訳語に変わります。

● ダイアログに表示される訳語 英→日のみ

訳語リストに表示される訳語は、同じ品詞のもの（動詞の場合は同じ文型の同じもの）で、周囲の文脈で前置詞などが同じ使われかたをしているもの（たとえば、間接目的語を持つとシステムが解釈している場合は、間接目的語を持ちうる訳語）に限られます。

訳語リストの表示エリアは限られているため、表示しきれない場合は、訳語リストの最下部に「他は訳語ペインを参照」と表示されます。

訳語ペインにはすべての訳語が表示されます。訳語リストに表示される訳語は、[翻訳]—[翻訳設定]—[辞書]で設定した辞書に含まれる訳語です。たとえば、使用する辞書に「コンピュータ専門語辞書」、「ユーザー辞書」、「基本語辞書」を設定した場合、訳語ダイアログは次のように変更されます。



このように、ダイアログ内に出典辞書名が表示されます。

● 訳語ペインの操作

全リスト 英→日のみ

初期状態で訳語ペインには、翻訳の際に構文解析を行い構文に合った訳語のみ表示されます。実際には、他の訳語も登録されていることがあります。「全リスト」チェックボックスをオンにすると、辞書設定で選択された辞書に登録されているすべての訳語を表示します。「全リスト」からの訳語変更は、学習されません。また、構文解析による訳語のリストと「全リスト」の内容が同じ場合には、「全リスト」チェックボックスをオンにできません。

学習

初期状態では、変更した訳語は学習され、次回の翻訳から変更した訳語が第一訳語になります。また、学習辞書にも登録されます。

学習させたくない場合は、「学習」チェックボックスをオフにしてから訳語を選択します。



学習は、[翻訳]—[翻訳設定]—[辞書]で「学習辞書を使用する」チェックボックスがオンのときに有効になります。

学習解除

学習した訳語を学習辞書から外すには、〈学習解除〉をクリックします。訳語が学習辞書から削除されます。文を再翻訳すると、設定している辞書の中で優先順位が一番高い辞書から訳語を引いて翻訳します。

2.2.3 学習機能

学習機能とは、1つの見出し語に対して複数の訳語が登録されている場合、一度選択した訳語がその後の翻訳で優先的に使われる機能です。学習した訳語は、訳語リストの一番上に表示されます。



上記のように、訳語ペインの「辞書」に「学習」と表示されていれば、この訳語は学習機能によって記憶されていることを意味します。1つの見出し語に対して、学習機能が有効な訳語は常に1つです。

学習機能の設定は、[翻訳]—[翻訳設定]—[辞書]で行います。ここで「学習辞書を使用する」チェックボックスをオフにした場合、訳語ペインにある「学習」チェックボックスをオンにすることはできません。

- 英→日 学習辞書の保存場所

初期状態で学習辞書は、ホームディレクトリの下のejフォルダの中にある「学習.dir」、「学習.key」、「学習.ldc」の3つのファイルから構成されています。学習辞書の変更は[翻訳]—[翻訳設定]—[辞書]で行います。

- 日→英 学習辞書の保存場所

初期状態で学習辞書は、ホームディレクトリの下のjeフォルダの中にある「学習.jld」ファイルです。学習辞書の変更は、[翻訳]—[翻訳設定]—[辞書]で行います。

- 英→日 訳語を学習しない品詞

前置詞と接続詞は学習されません。前置詞と接続詞は、名詞や動詞などとの係りを詳細登録しているため、学習させると登録された係りが無効になり、翻訳精度が下がることが多いためです。たとえば、次の例文の"by"は訳し分けられません。

例1：He came here by train.

翻訳結果：彼は、電車でここに来た。

例2：He is by nature an easy-going man.

翻訳結果：彼は、本来、落ち着いた人である。

上記では、"by nature"は慣用句で「本来」と登録されています。例1で"by"を学習させると、例2では"by"と"nature"が別々に訳されてしまいます。このため、前置詞と接続詞は学習されないようになっています。

- **日→英 訳語を学習しない品詞**

助動詞や接続助詞など、システムが内部的に訳語を持っている付属語については、学習できません。

- **学習辞書を読み込み専用で使用する**

学習辞書を参照用として使用するが、訳語の変更を学習しないように設定できます。

[翻訳]－[翻訳設定]－[辞書]で「学習辞書を使用する」チェックボックスをオンにし、「学習しない」をオンと設定すると、翻訳作業で学習辞書は使われますが、訳語の変更は学習されません。この場合、訳語ペインの「学習」チェックボックスをオンにすることもできません。

- **学習辞書を使わない**

[翻訳]－[翻訳設定]－[辞書]で「学習辞書を使用する」チェックボックスをオフにすると、すべての翻訳作業で学習辞書は使われません。この場合、訳語ペインの「学習」チェックボックスをオンにすることもできません。

2.3 品詞変更 英→日のみ

[品詞変更]は訳語の変更と同様、その単語の品詞を変更する機能です。構文的に解釈が難しい文章に対し、翻訳システムでは、最適と思われる品詞を決定して翻訳を行います。[品詞変更]を行うことにより、システムが誤った解釈をした場合でも、正しい品詞で解釈させることができます。

- **マウス操作で実行する**

翻訳エディタで、任意の単語をダブルクリックして選択した後、Shiftキーを押しながらもう一度クリックすると、対応する単語が反転表示され、続いて品詞リストが表示されます。品詞リストの中から適切なものをクリックすると、変更した品詞に従って、文が自動的に再翻訳されます。

- **メニューから実行する**

[品詞変更]は、次の手順でも行えます。

手順 ▶

1. 翻訳エディタで、品詞変更を行う単語へカーソルを置きます。
2. [フレーズ/語]－[品詞変更]を選択します。

変更する単語（反転表示されている単語）の辞書に登録されている品詞がすべて表示されます。



3. 表示された品詞の中から、変更したいものをクリックします。

変更した品詞に従って文が自動的に再翻訳され、ロックがかかります。

品詞変更を行わずに品詞リストを閉じる場合は、Escキーを押します。



変更した品詞が適切でない場合、翻訳システムは構文解析に失敗することがあります。

ここで表示される品詞は、変更する単語に対して基本語辞書と辞書設定で選択された辞書に登録されている品詞です。

品詞には名詞、形容詞、副詞、接続詞、前置詞、動詞、単位、数詞、感嘆詞などがあります。限定詞とは、所有代名詞（my, hisなど）および、no, fewなどのような数字を含まない数量詞を言います。動詞には、動詞、動詞（原形）、過去分詞、現在分詞、動名詞などがあります。

● 訳語ペインから別品詞を選択する

[品詞変更]は、訳語ペインで実行することもできます。

手順

1. 翻訳エディタで、品詞変更を行う単語をダブルクリックします。

設定している辞書に登録されているすべての品詞が訳語ペインの「品詞」タブに表示されます。



2. 表示された品詞の中からもっとも適切なものをダブルクリックします。

変更した品詞に従って文が自動的に再翻訳され、ロックがかかります。

● 訳語ページの「品詞」タブの操作

学習

初期状態では、品詞変更は学習されません。

学習させたい場合は、「学習」チェックボックスをオンにしてから品詞を選択します。変更した品詞は学習され、次回の翻訳からは変更した品詞を優先して構文解析を行います。また、学習辞書にも登録されます。学習機能の詳細は、『2.2.3 学習機能』を参照してください。

学習解除

学習した訳語を学習辞書から外すには、〈学習解除〉をクリックします。訳語が学習辞書から削除されます。文を再翻訳すると、設定している辞書の中で優先順位が一番高い辞書から品詞を引いて翻訳します。

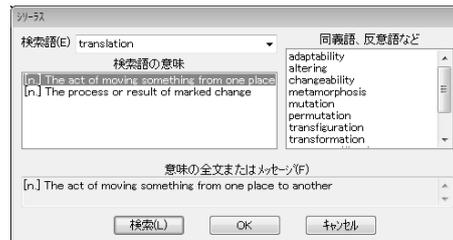
2.4 シソーラス 日→英のみ

日→英が用意している英語のシソーラス（類義語辞書）を起動します。訳語変更機能で適当な訳語がない場合、シソーラスからも訳語を選択することができます。翻訳辞書が日本語に対応する訳語を登録しているのに対し、シソーラスは、翻訳結果の英語に対する類義語を登録しています。

手順

1. シソーラスを表示したい英単語を選択します。
2. [フレーズ/語]－[シソーラス]を選択します。

次のダイアログが表示されます。



● 検索語

指定した訳語が表示されます。訳語は以下の方法で入力することができます。

- 「検索語」にキーボードから英語を直接入力する
- 翻訳エディタで検索したい単語を選択してからシソーラスコマンドを選択する



シソーラスは英語に対するものです。日本語の語句を選択してシソーラスを起動しても機能しません。

● 検索語の意味

検索語に対する意味の一覧を英文で表示します。先頭の[]で囲まれた記号は品詞を表し、[n.]は名詞、[v.]は動詞、[adj.]は形容詞、[prep.]は前置詞です。

● 同義語、反意語など

検索語と同義語（または反意語）をリスト表示します。リストの中から適切な単語を選択して〈OK〉をクリックすると、訳文エリア中の単語がその語に置き換えられます。反映させた文には翻訳ロックがかかります。



同義語（または反意語）は、「検索語」ではなく「検索語の意味」に対応しています。「検索語の意味」で適切なものを選んでから、同義語（または反意語）を選択してください。

● 意味の全文またはメッセージ

「検索語の意味」に収まりきれない長い文は、ここで内容を確認できます。また、シソーラス辞書に該当する訳語が存在しない場合は、その旨メッセージを表示します。

〈検索〉をクリックすると、検索が実行されます。

2.5 ファイル翻訳

ファイル翻訳では、指定した複数のファイルを連続で翻訳します。はじめに翻訳の条件を設定します。現在の設定のままであれば、設定作業は必要ありません。

● 翻訳モード、辞書を設定する

- 手順▶
1. [翻訳]—[翻訳設定]を選択します。
 2. 「翻訳」タブで翻訳モードや訳語を設定します。
 3. 「辞書」タブで使用する辞書を設定します。

● ファイル翻訳を実行する

ファイル翻訳は、現在の翻訳エディタの翻訳条件に従って実行されます。「翻訳」—[ファイル翻訳]を選択すると、次のダイアログが表示されます。



- **翻訳対象ファイルリストに追加する**

翻訳を行うファイルのリストが表示されます。リストにファイルを追加する場合は、ダイアログにある〈追加〉をクリックしてください。入力ファイル指定ダイアログが表示されるので、ファイルを選択します。入力ファイル指定ダイアログにある複数のファイルを指定するには以下の方法があります。

1. **Ctrlキー＋クリック**

指定するファイル名にマウスのポインタを移動しCtrlキーを押したままクリックします。ファイル名が選択されて反転表示します。この操作を繰り返して複数のファイルを選択して〈開く〉をクリックすると、選択されているファイルがリストに追加されます。

2. **Shiftキー＋クリック**

指定する複数のファイルが連続して表示されている場合の方法です。指定する最初のファイル名をクリックして反転表示します。次に、最後のファイル名をShiftキーを押したままマウスでクリックすると間のファイルがすべて選択されて反転表示されます。〈開く〉をクリックすると選択されているファイルがリストに追加されます。

- **翻訳対象ファイルリストから外す**

リストからファイルを外すには、外したいファイルを選択して〈削除〉をクリックします。

- **順番を指定する**

上下へ1つずつ移動する場合は、移動するファイルを選択して、次のいずれかのボタンをクリックします。

 (1つ上へ移動)

 (1つ下へ移動)

- **エンコード**

通常は翻訳ブレイクが文字コードを判断するので指定する必要はありません。強制的に指定した文字コードとして読み込む場合に設定します。

- **出力先の指定**

翻訳を実行したファイルの保存先を指定します。

フォルダを指定

翻訳結果の保存場所を指定します。「フォルダを指定」をオンにして、ダイアログの右端にあるをクリックすると、フォルダの参照ダイアログが表示されるので、翻訳結果を保存するフォルダを指定します。

対象となるファイルと同じ位置

翻訳結果のファイルは、元のファイルのあるフォルダに保存されます。



出力フォルダに翻訳結果と同じ名前のファイルがある場合、確認せずに上書きされますので、出力先の指定は適切に行ってください。

● 出力形式

翻訳結果の保存形式を指定します。「出力形式」の右端にある▼をクリックすると表示されるリストから結果の保存形式を選択します。

翻訳結果のファイルには、出力形式に合わせて拡張子やファイル名が付加されます。出力されるファイルの種類とファイル名、拡張子については、「ヘルプ」を参照してください。

● 操作

フィルタとスクリプトを指定します。フィルタとスクリプトは、ファイルの読み込み（入力）と保存（出力）の際、次の順番で実行されます。

入力フィルタ→入カスクリプト→出カスクリプト→出カフィルタ
スクリプトの前後にフィルタが実行されます。

各項目にある▼をクリックすると表示される一覧から処理を選択します。フィルタとスクリプトについては「ヘルプ」を参照してください。

初期状態では、以下のとおりに設定されています。

項目名	設定内容
入力フィルタ	適用しない
入カスクリプト	適用しない
出カスクリプト	適用しない
出カフィルタ	適用しない

● 確認ダイアログを表示する

ファイル翻訳の際、たとえばファイルの読み込みに失敗した場合などにメッセージを表示するかを指定します。このチェックボックスがオフの場合、メッセージは表示されません。このチェックボックスがオンの場合、メッセージが表示されます。

メッセージによっては、〈はい〉〈いいえ〉などをクリックする必要があるので、操作無しにファイル翻訳を行いたい場合は、このチェックボックスをオフにしてください。

● ファイル翻訳の開始

ファイル翻訳ダイアログにある〈翻訳開始〉をクリックすると翻訳が開始されます。翻訳を中止する場合は、■をクリックしてください。

2.6 フレーズ翻訳

翻訳ブレインの翻訳では、原文が曖昧な場合、語句の係り方や修飾先を誤ることがあります。曖昧な文とは、語句がどこにかかるか、どの語句を修飾しているかなど、多義に解析できる文のことです。

このような場合、部分的な句や節をあらかじめ指定して、係りや修飾先の可能性を限定すると翻訳の精度が向上します。

「フレーズ翻訳」は、係り受けの曖昧な部分をあらかじめ1つの「句」と指定してから翻訳する機能です。

2.6.1 フレーズ指定と解除

● 指定方法

原文エリアでフレーズに指定したい文字列をドラッグして選択し、次のいずれかの方法で指定します。

- [フレーズ/語]－[フレーズ指定]を選択する
- マウスを右クリックして、ショートカットメニューから[フレーズ指定]を選択する
- ツールバーのをクリックする

● フレーズ指定のルール

- 1つの文でフレーズ指定できるのは、32個までです。ただし、翻訳エディタの画面上での背景色を設定できるのは、レベル4までです。
- フレーズ指定した範囲を含んでさらに広い範囲の文字列、またはフレーズ指定した文字列の一部をさらにフレーズとして指定することもできます。この場合は、フレーズ指定の順番に関わらず、より大きい範囲がレベル1、小さい範囲がレベル2～32と順番に割り振られます。レベル1～4のフレーズの背景色は、[ツール]－[環境設定]－[配色]の「フレーズ色」で指定できます。

AAA and BBB of CCC and DDD and EEE and FFF		レベル1
AAA and BBB of CCC and DDD and EEE and FFF		レベル2

- フレーズにまたがって指定することはできません。また、フレーズ指定されている文字列の一部と、フレーズ指定されていない文字列を組み合わせで新しいフレーズを指定することもできません。

AAA and BBB of CCC and DDD

- 翻訳後、フレーズ指定した原文を編集したり、フレーズ指定を変更すると、訳文のフレーズが解除されます。

- 「翻訳しない」種別のフレーズが指定されている文字列に、さらにフレーズを指定することはできません。

- **HTMLタグ情報のある文のフレーズ指定**

翻訳対象となるタグで囲まれた文字列は、ファイルの読み込み時にフレーズ指定されます。フレーズの色は、[ツール]－[環境設定]－[配色]で指定した色で表示されます。

- **フレーズ種別**

フレーズ指定した文中でそのフレーズが名詞句なのか、形容詞句なのかなど、品詞句の分類を指定します。[フレーズ指定]を実行した文字列は「自動判別」で翻訳されますが、これとは異なり明確に品詞句を指定したい場合に、[フレーズ種別]のサブメニューから適切な品詞句を選択します。

「節」は、選択した語句を1つの節(主部と動詞句からなるもの)として扱います。

- **フレーズ変更**

一度指定したフレーズ種別を変更します。

フレーズ変更したいフレーズへカーソルを移動して、[フレーズ語]－[フレーズ変更]のサブメニューから品詞句を選択してください。

フレーズ種別が変更されるので、文番号をクリックして再翻訳を行ってください。変更した種別で翻訳されます。



フレーズ指定した文字列の一部または、全部を選択している状態では、このコマンドは選択できません。フレーズ指定した文字列にカーソルを置くだけで、選択することができます。

- **翻訳しない**

文の中には、部品名や製品名、適切な日本語訳のない単語など翻訳を必要としない単語も含まれています。[翻訳しない]は、特定の単語を翻訳せず英語のままで出力します。

- **自動判別**

翻訳ソフトが句の分類を判別します。

- **フレーズ種別の確認**

フレーズレベルが2階層以上のフレーズでCtrlキー＋マウスクリックで、次のダイアログにフレーズ情報が表示されます。



番号 フレーズ指定が文頭から何番目か表示される
 レベル レベル（階層）の数が表示される
 種別 フレーズの品詞句が表示される
 カーソル位置 カーソルのあるエリアが表示される

メモ カーソル位置の語が属するフレーズでもっともレベルが深いものは、ステータスバーでも確認できます。また、そこに表示されるフレーズ情報はレベル10までです。

● フレーズ解除

カーソル位置のフレーズ指定を無効にします。
 フレーズ解除したい文字列へカーソルを置いて、[フレーズ/語]－[フレーズ解除]を選択するか、ショートカットメニューから[フレーズ解除]を選択してください。
 フレーズ指定が無効になり、文字列の背景色が元に戻ります。



フレーズ指定した文字列の一部または、全部を選択している状態では、このコマンドは選択できません。解除するフレーズにカーソルを置くだけで、選択することができます。

2.6.2 一括フレーズ指定

フレーズ指定する語句を検索して、一括でフレーズ指定・解除したり、フレーズの種別を変更することができます。手順は以下のとおりです。

手順

1. 原文エリアの開始する位置へカーソルを置いて、[フレーズ/語]－[一括フレーズ]を選択します。
 一括フレーズダイアログが表示されます。



2. 「検索する文字列」に捜したい文字列を入力します。

「検索する文字列」には、改行で区切って複数の語句を指定することができます。また、各語句に正規表現を使用することができます。既に置換や検索が行われていた場合、Ctrl+Pを押下すると直前に指定した文字列がボックスに表示されます。



ヒント 翻訳エディタで検索したい文字列をあらかじめ選択しておくと、「検索する文字列」に自動的に入力されます。

3. 英語の大文字と小文字を区別して検索する場合は、「大文字と小文字を区別する」チェックボックスをオンにします。
4. すべての項目を正しく入力したら、〈次を検索〉をクリックします。
検索文字列が見つかったら、検索結果が反転表示されます。
5. 検索結果の文字列をフレーズ指定する場合は〈フレーズ指定〉を、フレーズ解除する場合は〈フレーズ解除〉をクリックします。
フレーズ種別を指定する場合は、「フレーズ指定」の一覧から種別を指定します。
〈全てを指定〉は、確認なしで一斉にすべての文字列をフレーズ指定します。
〈全てを解除〉は、確認なしで一斉にすべての文字列をフレーズ解除します。
一括フレーズ指定を中止するには、〈閉じる〉をクリックします。

● 正規表現を使用する

「検索する文字列」に正規表現を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。正規表現に関しては、[すべてのプログラム]－[翻訳ブレイク3]－[ヘルプ]を選択して、『指定できる正規表現』を参照してください。

2.6.3 英→日 フレーズ翻訳例

次の例文で説明します。

例文

All students are expected to submit an interim report in March and a final report in May.

英→日による素訳

すべての学生は、5月に3月と最終報告で中間報告を提出することになっている。

求めたい訳

すべての学生は、3月の中間報告と5月の最終報告を提出することになっている。

素訳について

前出の例文では、"March"と"a final report"が並列になっていますが、実際には"an interim report in March"と"a final report in May"を並列に解析すべきです。

フレーズ翻訳の手順は以下のとおりです。

手順

1. フレーズ翻訳する文へカーソルを置きます。
2. 1つのフレーズにしたい部分を選択して、[フレーズ指定] を選択します。
 例文では"an interim report in March"を選択して、[フレーズ/語]－[フレーズ指定]を選択します。選択する範囲を誤った場合は、[フレーズ/語]－[フレーズ解除]を実行して、再度手順2を実行してください。
 選択したフレーズの背景色が、[ツール]－[環境設定]－[配色]で設定した「フレーズレベル1」の色に変わります。



[フレーズ指定]したフレーズに品詞句を指定しなかった場合、[自動判別]としてシステムが自動的に品詞句を設定して翻訳します。

3. もう1つのフレーズを指定します。
 例文では、"a final report in May"を選択して、[フレーズ/語]－[フレーズ指定]を選択します。
4. 文番号をクリックして再翻訳します。
 訳文が表示されます。

1 All students are expected to submit an interim report in March and a final report in May.	すべての学生は、3月の中間報告と5月の最終報告を提出することになっている。
---	---------------------------------------



辞書やシステムは逐次改良が加えられているため、訳出される結果は本書に貼付されている結果と一致しない場合があります。

2.6.4 日→英 フレーズ翻訳例

次の例文で説明します。

例文

わたしは業者に高額な机と椅子の絵の代金を支払った。

日→英による素訳

I paid an expensive desk and the price for picture of the chair to a supplier.

求めたい訳

I paid the large price for picture of a desk and the chair to a supplier.

素訳について

「代金」が「椅子の絵」に係り、「机」と「代金」を「支払った」ことになっています。実際には、「机と椅子の絵」が1つの句で、「代金」は「机と椅子の絵」に係り、さらに「高額な」は「机と椅子の絵の代金」にかかるべきです。

フレーズ翻訳の手順は以下のとおりです。

手順

1. フレーズ翻訳する文へカーソルを置きます。
2. 1つのフレーズにしたい部分を選択して、[フレーズ/語]－[フレーズ指定]を選択します。

例文では「机と椅子の絵」を選択して、[フレーズ/語]－[フレーズ指定]を選択します。選択する範囲を誤った場合は、[フレーズ/語]－[フレーズ解除]を実行して、再度手順2を実行してください。

選択したフレーズの背景色が、[ツール]－[環境設定]－[配色]で設定した「フレーズレベル1」の色に変わります。



[フレーズ指定]したフレーズに品詞句を指定しなかった場合、[自動判別]としてシステムが自動的に品詞句を設定して翻訳します。

3. もう1つのフレーズを指定します。

例文では、「机と椅子の絵の代金」を選択して、[フレーズ/語]－[フレーズ指定]を選択します。

4. 文番号をクリックして再翻訳します。

訳文が表示されます。

3	わたしは業者に高額な机と椅子の絵の代金を支払った。	I paid the large amount of price for picture of a desk and the chair to a supplier.
---	---------------------------	---



辞書やシステムは、逐次改良が加えられているため、画面に表示される結果はこの説明と必ずしも一致しません。

2.7 英→日 オプション翻訳

英→日は[開く]や[カーソル位置に挿入]でテキストを読み込む際、その文章がタイトル文か、箇条書きかなどを自動的に判別します。ただし、文章によっては英→日の文分割の基準にあてはまらず、正しく認識されない場合があります。オプション翻訳は、文章を「タイトル」、「箇条書き」と指定して、適切な翻訳を実行する機能です。

メモ 複数の文を選択した状態で、[翻訳]、[すべて翻訳]、[オプション翻訳]を実行すると、選択した文を翻訳することができます。

● マウス操作で実行する

オプション翻訳を実行する文の文番号を右クリックするとオプション翻訳に関するショートカットメニューが表示されます。コマンドを選択するとオプション翻訳が実行されます。

2.7.1 タイトル翻訳

英→日は[開く]や[カーソル位置に挿入]で原文テキストを読み込む際、その文がタイトルかを自動的に判別します。タイトルは通常、大文字で書かれ、文は短くなります。

タイトルとして読み込まれた文は、大文字/小文字を区別しないで、なるべく名詞句として訳されます。また、文番号の前の属性エリアにTが表示されます。ただし、うまくタイトルとして判別できないこともあります。このような場合に[タイトル翻訳]を実行すると、選択された文は、翻訳設定ダイアログの「翻訳」タブで設定された条件に従わず、「大文字を小文字にして訳す」で翻訳されます。タイトル翻訳の操作方法は、以下のとおりです。

手順

1. 翻訳エディタでタイトル翻訳する文にカーソルを置きます。

連続する文章を処理したい場合は、文章を選択してください。

2. [翻訳]—[オプション翻訳]—[タイトル翻訳]を選択します。

指定した文または選択した文章がタイトル翻訳され、属性エリアにT^{アイ}が表示されます。

2.7.2 箇条書き翻訳

英→日は[開く]や[カーソル位置に挿入]で原文テキストを読み込む際、その文が箇条書きかを自動的に判別します。

箇条書きとは、1、(1)、(a)などが先頭にある文です。箇条書きと判断された文は、属性エリアに□が表示されます。

[箇条書き翻訳]では、文の先頭の列挙記号を無視して翻訳し、訳の先頭に無視された列挙記号を付加します。

たとえば、"c Click the file name."を一文として訳すと "c Clickは、ファイル名である。"となります。この文を[箇条書き翻訳]すると"c ファイル名をクリックしなさい。"となります。

操作は、以下のとおりです。

手順

1. 翻訳エディタで箇条書き翻訳する文にカーソルを置きます。

連続する文章を処理したい場合は、文章を選択してください。

2. [翻訳]—[オプション翻訳]—[箇条書き翻訳]を選択します。

指定した文または選択した文章が箇条書き翻訳され、属性エリアに□(小さい四角)が表示されます。

2.7.3 通常翻訳

タイトルまたは箇条書きと判定された文を通常文として翻訳したい場合や、[タイトル翻訳]、[箇条書き翻訳]で翻訳した文を通常の文に戻したい場合に使用します。

通常翻訳の操作方法は、以下のとおりです。

手順

1. 翻訳エディタで通常翻訳する文にカーソルを置きます。

連続する文章を処理したい場合は、文章を選択してください。

2. [翻訳]—[オプション翻訳]—[通常翻訳]を選択します。

指定した文または選択した文章が翻訳されます。

2.8 日→英 オプション翻訳

日本語では、特に技術文書などで、前後の文との関係から主語が省略された文がよくあります。日→英では、和文（原文）に主語がないとき、英文（訳文）に自動的に主語を補ったり、主語が不要な受動態、命令形の文にして、主語の欠落に対応しています。[オプション翻訳]はこのような訳文の形を指定します。[オプション翻訳]を行った文は、属性エリアに記号が表示され、通常の翻訳と識別できるようになっています。また、翻訳後には、ステータスバーにどのようなオプションが指定されたかが表示されます。

主語の欠落時にどのような形で英文を生成するかを初期設定で指定するには、翻訳設定ダイアログの「翻訳」タブを選択します。「オプション翻訳」は、指定した一文だけを初期設定とは異なる形式で翻訳したいときに使います。

メモ 複数の文を選択した状態で、[翻訳]、[すべて翻訳]、[オプション翻訳]を実行すると、選択した文を翻訳することができます。

● マウス操作で実行する

オプション翻訳を実行する文の文番号を右クリックするとオプション翻訳に関するショートカットメニューが表示されます。コマンドを選択するとオプション翻訳が実行されます。

2.8.1 主語を補う

和文に主語がない場合、主語を補って翻訳します。補う主語は、「[S]、I、you、it、he、she、we、they」の8種類から選択できます。[S]はユーザー指定の主語を補います。ユーザー指定の主語は翻訳設定ダイアログの「翻訳」タブで補う主語を直接入力します。詳細は、『5.1.1.4 日→英 翻訳』を参照してください。

手順

1. 翻訳エディタで主語を補って翻訳する文にカーソルを置きます。

連続する文章を処理したい場合は、文章を選択してください。

2. [翻訳]－[オプション翻訳]－[主語を補う]からたとえば「it」を選択します。

訳文がitを主語にしたものになります。属性エリアには、補った主語の番号が表示されます。番号は補う主語の「[S]」を「0」番として連番が振られます。

補う主語によって、翻訳エディタの属性エリアに、次のように表示されます。

設定ダイアログ	[S]	I	you	it	he	she	we	they
翻訳エディタ	0	1	2	3	4	5	6	7

2.8.2 受け身にする

和文に主語がない場合、受動態の文として翻訳します。ただし、受動態になり得ない構造の文の場合は、[受け身にする]を指定しても、自動的に主語を補って翻訳されます。この場合の主語は、翻訳設定ダイアログの「翻訳」タブで指定したものが使われます。

- 手順**
1. **翻訳エディタで受動態の文として翻訳する文にカーソルを置きます。**
連続する文章を処理したい場合は、文章を選択してください。
 2. **【翻訳】—【オプション翻訳】—【受け身にする】を選択します。**
訳文が受け身表現に変わります。属性エリアに「」が表示されます。

2.8.3 主語を省略する

和文に主語がない場合、主語を省略して翻訳し、属性エリアに「!」が表示されます。訳出する動詞には、原形 (Be/Take)、1人称単数形で訳す (Am/Take)、2人称単数及び複数形で訳す (Are/Take)、3人称単数形で訳す (Is/Take) を指定できます。たとえば「昨日買い物に行きました。」という文を「Be/Take」を指定して訳すと"Went for shopping yesterday."となります。

- 手順**
1. **翻訳エディタで主語を省略して翻訳する文にカーソルを置きます。**
連続する文章を処理したい場合は、文章を選択してください。
 2. **【翻訳】—【オプション翻訳】—【主語を省略する】からたとえば「Be/Take」を選択します。**
主語を省略して動詞を原形で訳出します。属性エリアには、「!」が表示されます。

2.8.4 通常翻訳

オプション翻訳の設定を解除します。主語の処理は、翻訳設定ダイアログの「翻訳」タブで設定した形式になります。詳細は、『5.1.1.4 日→英 翻訳』を参照してください。

- 手順**
1. **翻訳エディタで通常翻訳する文にカーソルを置きます。**
連続する文章を処理したい場合は、文章を選択してください。
 2. **【翻訳】—【オプション翻訳】—【通常翻訳】を選択します。**
指定した文または選択した文章が翻訳されます。



ヒント オプション翻訳は、ツールバーの各ボタンをクリックしても実行できません。オプション翻訳のボタンは、初期設定では表示されていません。表示するには、[ツール]—[カスタマイズ]—[ツールバー]で設定します。詳細については、『5.3 ツールバーカスタマイズ』を参照してください。

2.9 別解釈 英→日のみ

構文的に正しい解析結果の中から、意味的にも正しい解釈を選択することは、訳語の選択と同様、翻訳システムには難しい問題です。「別解釈」は、カーソル位置の英文の複数訳を表示し、その中からもっとも適当な文を選択する機能です。

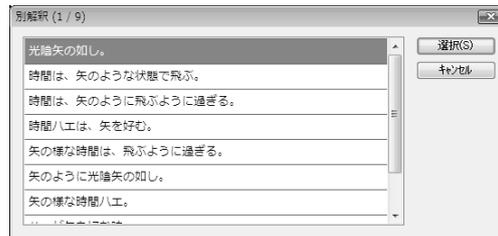
別解釈の操作手順は、以下のとおりです。

手順

1. 翻訳エディタで別解釈を実行する文にカーソルを置きます。

2. [翻訳]－[別解釈]を選択します。

別解釈が表示されます。別解釈がない場合は1つの解釈だけが表示されます。画面に入り切らない場合は、右側のスクロールバーを使用して画面をスクロールさせます。



3. 最適な解釈を選択し、〈選択〉をクリックします。

訳文が変更されます。

〈キャンセル〉をクリックすると処理を中止してメインメニューに戻ります。



「別解釈」では、「翻訳」と同様に、実際に翻訳が行われます。30語を超えるような長い文の翻訳には、かなりの時間がかかる場合があります。できるだけ、長い文は短い文に分けてから「翻訳」や「別解釈」を実行することをお勧めします。

別解釈ダイアログはサイズを変更することができません。[ツール]－[環境設定]－[フォント]でフォントサイズを大きくすると、表示された別解釈が見つらなくなる場合があります。この場合は、フォントのサイズを小さく設定してから、再度、別解釈を実行してください。



「別解釈」で選択した文には翻訳ロックがかかります。

別解釈は学習されないので、文を再翻訳すると元の翻訳結果に戻ってしまいます。不注意に再翻訳しないよう、翻訳ロックがかかります。

2.10 ジャストシステム製品アドイン翻訳

翻訳ブレインは、一太郎、ATOK、Shurikenにある文章を翻訳することができます。翻訳ブレインをインストールすると、一太郎とShurikenに英→日、日→英翻訳機能、ATOKに、日→英翻訳機能が追加されます。

さらに、インストールの後でアプリケーションごとに、アドイン翻訳機能を使用するかを指定できます。

インストール後の初期状態では、一太郎のアドイン翻訳機能は使用しないように設定されています。必要な場合は、一太郎のアドイン翻訳機能を使用するように設定してください。

2.10.1 ジャストシステム製品アドイン翻訳機能の有効と無効

各アプリケーションにおいて、アドイン翻訳機能の有効、無効の設定は、以下の手順で実行します。

手順

1. 「スタート」ボタンをクリックし、[すべてのプログラム]—[翻訳ブレイン3]—[ジャストシステム連携設定]を選択します。

ジャストシステムアドイン連携設定ダイアログが表示されます。



2. 各アプリケーションのアドイン機能を有効・無効に設定する方法は、以下のとおりです。

- 一太郎アドイン機能の有効・無効

一太郎アドイン機能を有効に設定する場合は、「一太郎アドイン」の〈登録〉をクリックします。

この機能を無効にする場合は、〈解除〉をクリックします。

設定を変更すると、一太郎が自動的に起動・終了し、一太郎用のアドイン翻訳機能が有効または無効に設定されます。

- **ATOKアドイン機能の有効・無効**

ATOKアドイン機能を有効にする場合は、「ATOKアドイン」の▼をクリックし、「翻訳ブレイン3」を選択します。

この機能を無効にする場合は、「ATOKアドイン」の▼をクリックし、「使用しない」を選択します。

ATOKの設定を変更すると、再ログオンまたは再起動が必要な旨のメッセージが表示されます。〈OK〉をクリックして、メッセージを閉じます。

ご使用のコンピュータに再ログオンするか、または、コンピュータを再起動すると、ATOKアドイン機能の設定変更が反映されます。

- **Shurikenアドイン機能の有効・無効**

Shurikenアドイン機能を有効にする場合は、「Shurikenアドイン」の▼をクリックし、「翻訳ブレイン3」を選択します。

この機能を無効にする場合は、「Shurikenアドイン」の▼をクリックし、「使用しない」を選択します。

3. 各項目を設定したら、〈OK〉をクリックします。

これで、アドイン機能が有効、または、無効に設定されました。

アドイン機能が有効に設定されると、各アプリケーションに翻訳ブレインを使用するためのメニューやアイコンが追加されます。

2.10.2 一太郎のアドイン翻訳

一太郎のアドイン翻訳が有効になると、一太郎に「翻訳ブレイン3」ツールボックスと「翻訳ブレイン3」メニューが追加されます。ツールボックスやメニューから、以下の機能を実行できます。

- 文書の翻訳
- ステップ翻訳（段落単位の翻訳）
- 翻訳ブレインを起動して翻訳

以降では、各機能の操作方法を説明します。



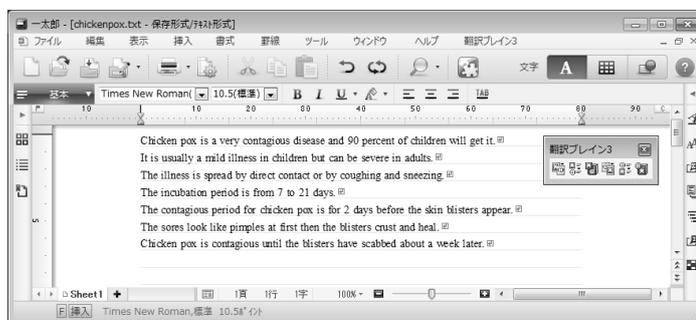
一太郎は基本編集フェーズで翻訳を実行することができます。

● 文書の翻訳

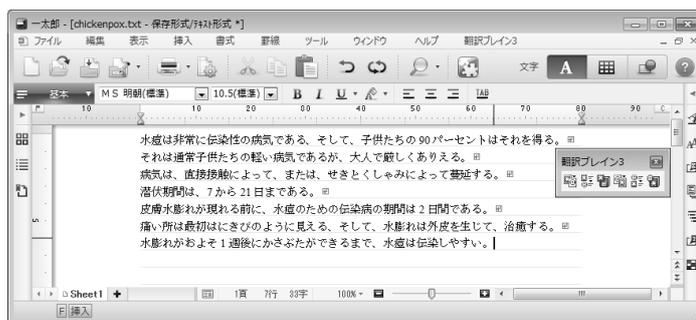
一太郎に読み込んだ文書を翻訳します。手順は以下のとおりです。

手順

1. 一太郎で翻訳する文書を開き、「作業フェーズ」を「基本編集」に設定します。
2. 英日翻訳の場合は〈英日翻訳〉、日英翻訳の場合は〈日英翻訳〉をクリックします。



翻訳が開始されます。翻訳が終了すると、原文が訳文に置き換わります。シートの内容をバックアップするかを確認するメッセージが表示された場合は、〈はい〉または〈いいえ〉をクリックします。

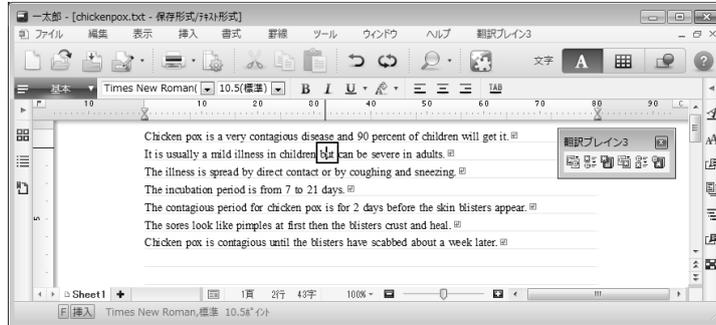


● ステップ翻訳

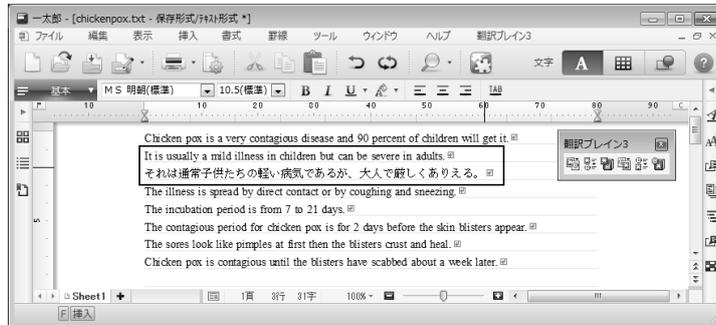
「ステップ翻訳」とは、カーソル位置の文を翻訳する機能です。手順は以下のとおりです。

手順

1. 一太郎で翻訳する文書を開き、「作業フェーズ」を「基本編集」に設定します。
2. 翻訳する文にカーソルを置き、英日翻訳の場合は〈英日ステップ翻訳〉、日英翻訳の場合は〈日英ステップ翻訳〉をクリックします。



翻訳が開始されます。翻訳が終了すると、原文の下の方に訳文が挿入されます。



- **翻訳ブレインを起動して翻訳**

翻訳する文章を選択して〈英日翻訳ツール起動〉をクリックすると、翻訳ブレインが起動して、選択した文章を翻訳します。

- **翻訳設定の変更**

ステップ翻訳の結果の表示方法、翻訳メモリの使用について設定できます。
[翻訳ブレイン3]－[一太郎翻訳オプション]を選択すると、次のダイアログが表示されます。



ステップ翻訳の動作

ステップ翻訳の結果の表示方法を指定します。

「並べて表示する」がオンの場合、原文の下に翻訳結果が表示されます。

「置換する」がオンの場合、原文が翻訳結果で置き換えられます。

翻訳メモリを使用する

翻訳の際、翻訳メモリを使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。オフの場合、翻訳メモリは使用されません。

2.10.3 ATOK入力中の翻訳

ATOKで入力した日本語を、変換時に英語に翻訳できます。手順は以下のとおりです。

手順

1. ATOKで日英翻訳機能が使用可能な状態に設定します。
Windowsの言語バー、またはATOKパレットに表示されているATOKのメニューボタン  をクリックすると次のメニューが表示されます。



※言語バーはデスクトップ上に復元した状態で表示されている場合もあります。

2. 基本のメニューから、「日英翻訳変換」を選択します。

※ ATOKの「8カ国語Web翻訳変換 for ATOK」をインストールしている場合は、「Web翻訳変換-翻訳言語の選択-翻訳ブレイン」を選択します。

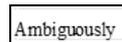
ATOKで日英翻訳機能が使用可能な状態に設定され、コマンドのアイコンがカラーで表示されます。

3. ATOKで日本語の語句または文を入力します。
4. スペースキーを押して、文字変換を実行します。

かな漢字変換が実行されると同時に、翻訳結果が表示されます。



5. Shiftキーを押したままEnterキーを押すと、翻訳結果が確定されます。

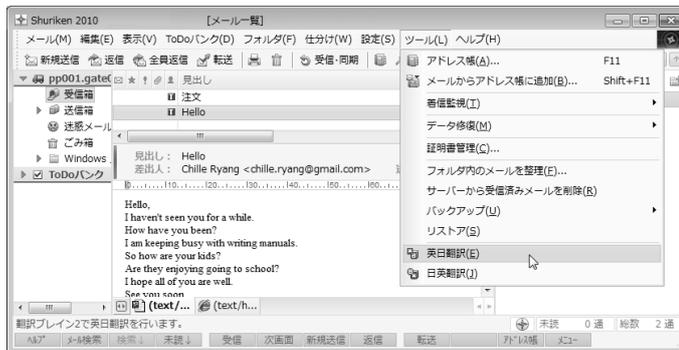


2.10.4 Shurikenで受信したメールの翻訳

Shurikenで受信したメールを翻訳できます。手順は以下のとおりです。

手順

1. Shurikenを起動します。
2. メール一覧から翻訳するメールを選択して、ビューアにメールの本文を表示します。ビューアを表示していない場合は、[表示]—[ビューア表示]を選択して、ビューアを表示します。
3. 英文を翻訳する場合は、[ツール]—[英日翻訳]を
日本語を翻訳する場合は、[ツール]—[日英翻訳]を選択します。



確認メッセージが表示された場合は、〈はい〉をクリックします。
翻訳プレインが起動して、メールの内容が翻訳されます。

2.10.5 辞書参照ツールの起動

一太郎から辞書参照ツールを起動できます。

一太郎において、[翻訳プレイン3]—[辞書参照]を選択すると、辞書参照ツールが起動します。辞書参照ツールでは、翻訳プレインを起動しないで、翻訳辞書の参照を行えます。辞書参照ツールについては、『6.3 辞書参照ツール』を参照してください。

2.11 ホームページの翻訳

「ホームページ翻訳」機能は、ブラウザに表示した文章を、画像、表などのレイアウトを変えずに翻訳します。

アドイン機能の有効／無効の設定方法については、『2.11.5 アドイン機能の有効と無効』を参照してください。

2.11.1 翻訳の前に

翻訳プレインのホームページ翻訳は、Internet Explorerアドイン機能を使って翻訳します。Internet Explorerアドイン機能をインストールすると、翻訳ツールバーが表示され、翻訳が実行できるようになります。翻訳ツールバーが表示されない場合は、以下の手順で表示します。

● 翻訳ツールバーの表示

Internet Explorerアドイン機能をインストールすると、翻訳ツールバーが表示できるようになります。翻訳ツールバーの表示方法は以下のとおりです。

手順▶

1. Internet Explorerを起動します。
2. [表示]－[ツールバー]－[IEアドイン翻訳]を選択します。

次の翻訳ツールバーが表示されます。



表示された翻訳ツールバーの位置が見にくい場合には、[表示]－[ツールバー]－[ツールバーを固定する]のチェックを外し、翻訳ツールバーをスライドさせて見やすい場所に置きます。

● 翻訳言語リストの取得

Internet Explorerアドイン機能をインストールすると、翻訳ツールバーに翻訳可能な言語ペアの一覧（翻訳言語リストボックス）が表示されます。表示されないときは、翻訳の前にあらかじめ翻訳言語リストを取得します。

手順▶

1. 翻訳ツールバーの〈設定〉をクリックし、設定画面を表示します。

IEアドイン翻訳の設定ダイアログが表示されます。



2. <言語リスト取得> をクリックします。
3. <OK> をクリックし、設定ダイアログを閉じます。

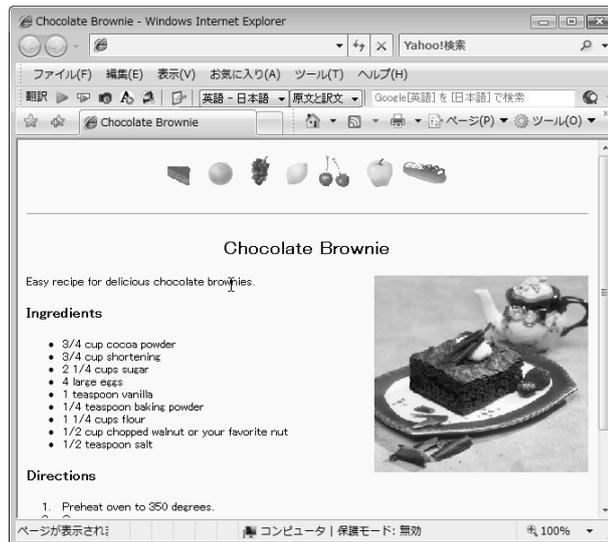
これで、使用可能な翻訳言語がツールバーの言語リストに設定されました。

2.11.2 ホームページを翻訳する

ホームページ翻訳の手順は以下のとおりです。



1. Internet Explorerで翻訳するページを表示します。



2. 翻訳する言語ペアを選びます。ツールバーの「英語－日本語」の横の▼をクリックし、プルダウンメニューから言語ペアを選びます。
3. 「原文と訳文」の横の▼をクリックし、翻訳結果の表示方法を選びます。「原文と訳文」、「訳文のみ」から選択できます。

4. ツールバーの〈翻訳〉をクリックします。

翻訳が開始されます。翻訳が終了すると、翻訳結果が表示されます。



【翻訳結果が正しくない場合】

辞書で見つからない単語は、原文のまま表示されます。また、フレームを含むページは翻訳できない場合があります。フレームを別ウィンドウで表示するか、翻訳できない部分は翻訳エディタを使って翻訳してください。

● 選択した文章の翻訳

ホームページ翻訳では、選択した文章を翻訳することができます。

Internet Explorerで翻訳するページを表示し、翻訳する文章をマウスでドラッグして選択します。次に〈選択範囲の翻訳〉をクリックすると、選択した文章が翻訳されます。



【選択範囲を翻訳した場合のレイアウト】

選択範囲の翻訳を行った場合、元のページのレイアウトは継承されません。

● キャプチャ翻訳

ホームページ翻訳では、選択した領域の文字認識を実行し、抽出した文章を翻訳する「キャプチャ翻訳」を実行することができます。

キャプチャ翻訳については、『6.1 キャプチャ翻訳』を参照してください。

● ワンポイント翻訳

ホームページ翻訳では、翻訳ブレインを起動していない状態でも、英日または日英翻訳を行う「ワンポイント翻訳」を実行することができます。

〈ワンポイント翻訳〉をクリックすると、ワンポイント翻訳が起動します。ワンポイント翻訳については、『6.2 ワンポイント翻訳』を参照してください。

● 辞書参照ツール

ホームページ翻訳では、翻訳で使用する辞書の参照を行う「辞書参照ツール」を起動することができます。

〈辞書参照ツール〉をクリックすると、辞書参照ツールが起動します。辞書参照ツールについては、『6.3 辞書参照ツール』を参照してください。

2.11.3 ホームページの翻訳検索

「翻訳検索」は、指定したキーワードをWebページで検索し、検索結果を翻訳してブラウザに表示します。

検索では、以下の検索エンジンを使用することができます。検索エンジンの追加方法については後述する『翻訳検索の設定』を参照してください。

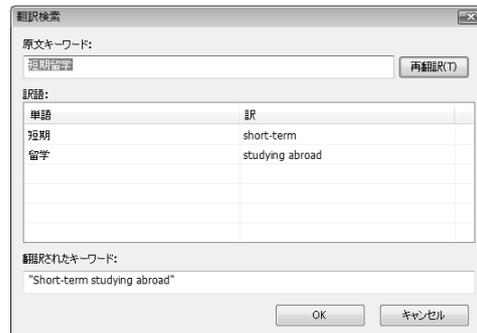
検索エンジン

Google
Yahoo
Wikipedia

翻訳検索の手順は以下のとおりです。

手順

1. Internet Explorerのツールバーの「英語－日本語」の横の▼をクリックし、プルダウンメニューから「英語－日本語」または「日本語－英語」を選びます。
2. 翻訳検索ボックスにキーワードを入力します。
キーワードは英日翻訳の場合は日本語、日英翻訳の場合は英語で指定します。
3. 翻訳検索アイコンの横の▼をクリックし、プルダウンメニューから検索エンジンを選択します。
選択した検索エンジンにチェックマークが付きます。
4. 翻訳検索アイコンをクリックします。
翻訳検索ダイアログが表示されます。キーワードを指定せずに翻訳検索アイコンをクリックすると、検索エンジンのページが表示されます。



翻訳検索ダイアログでは、次の操作を実行することができます。

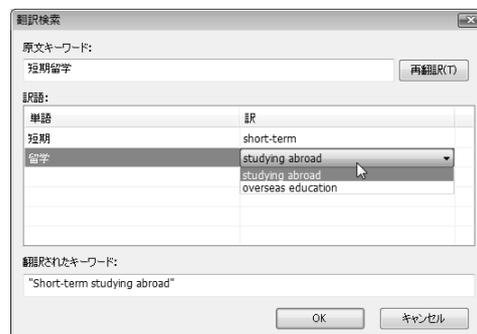
原文キーワードの翻訳

〈再翻訳〉をクリックすると、「原文キーワード」が翻訳されます。

訳語の変更

「単語」には、原文キーワードの語句が表示されます。原文キーワードが複合語の場合は各語の訳語が表示されます。たとえば、原文キーワードに「交通整備」と入力すると「交通」と「整備」の訳語が表示されます。

各訳語をダブルクリックすると、変更可能な訳語の一覧が表示されます。



適切な訳語をクリックすると、訳語が置き換わります。

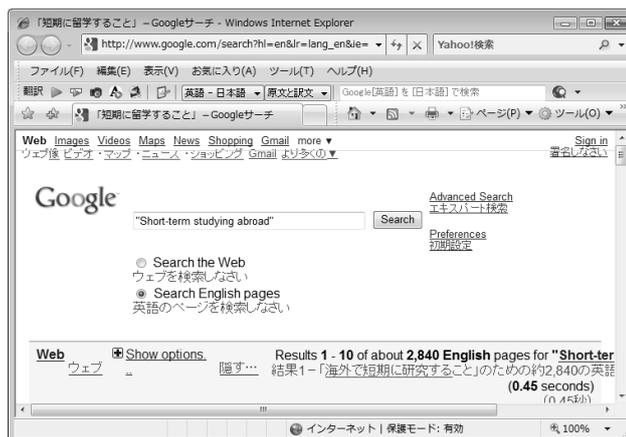
翻訳されたキーワード

検索は、「翻訳されたキーワード」の語句で実行されます。

「翻訳されたキーワード」には、キーボードから直接入力することもできます。

5. 翻訳検索ダイアログで〈OK〉をクリックします。

検索と翻訳が開始されます。翻訳が終了すると、翻訳結果が表示されます。



● 翻訳検索の設定

検索エンジンを指定します。

翻訳検索アイコンの横の▼をクリックし、プルダウンメニューから「設定」を選択すると、次のダイアログが表示されます。



検索エンジン一覧

設定されている検索エンジンが一覧表示されます。

検索エンジンの追加/変更/削除

「検索エンジン一覧」で内容を変更する項目をクリックして選択すると、各項目に設定内容が表示されます。各項目を適切に設定し、〈変更〉をクリックすると設定値が変更されます。〈追加〉をクリックすると新規に検索エンジンが追加されます。

「検索エンジン一覧」で削除する項目を選択し、〈削除〉をクリックすると、リストから外されます。

タイトル

検索エンジンのタイトルを設定します。翻訳検索アイコンをクリックすると、ここで設定した名称が表示されます。

サイトURL

検索エンジンのURLを指定します。

検索URL

検索の際に使用するURLの設定（引数）を指定します。

言語

検索対象となる言語を指定します。

キーワードエンコード

検索キーワードのエンコードを指定します。

上へ/下へ

検索エンジンの順番を上下へ1つずつ移動することができます。移動する辞書を選択して、次のいずれかのボタンをクリックします。

〈上へ〉 (1つ上へ移動)

〈下へ〉 (1つ下へ移動)

2.11.4 ホームページ翻訳の設定

翻訳ツールバーの〈設定〉をクリックすると、IEアドイン翻訳の設定ダイアログが開きます。翻訳結果のウィンドウの表示方法や訳文のフォント・色などが指定できます。



• 翻訳結果表示/選択範囲翻訳

翻訳結果を新規にブラウザを起動して表示するか、アクティブなブラウザに表示するかを設定します。

新規ブラウザウィンドウ	新規にブラウザを起動して翻訳結果を表示します。
メインウィンドウ	アクティブなブラウザに翻訳結果を表示します。

• 訳語フォント

翻訳結果ページに表示するフォントサイズ、スタイル、色を設定します。

フォントサイズ	訳文のフォントサイズを設定します。原文を100%としてパーセンテージで指定しますが、fontタグでサイズが指定されていると、原文に対するパーセンテージとならない場合があります。
フォントスタイル	訳文のフォントスタイルを設定します。
フォントカラー	訳文の色を設定します。

● 制限事項

1. 翻訳対象はテキストデータのみです。画像やFlashなどを翻訳することはできません。
2. 翻訳結果の訳文において、フォームが正しく機能しない場合があります。
3. HTML形式以外で作成された文書の翻訳はできません。
4. Internet Explorerにgoogleツールバーをインストールしている場合、googleツールバーの[オプション]–[アクセサリ]–[ポップアップブロッカー]にチェックマークをつけてオンにすると、翻訳結果を新規ブラウザウィンドウで表示することができません。
5. JavaScriptとFlashの両方を使用しているページの場合、翻訳結果のページでFlashが再生されないことがあります。

● 当社の他の翻訳ソフトがインストールされている場合

すでに当社の他の翻訳ソフトがインストールされている環境では、以下の設定が必要です。

手順

1. 翻訳ツールバーの〈設定〉をクリックし、設定画面を表示します。
 2. 〈言語リスト取得〉をクリックし、続いて〈OK〉をクリックします。
- これで、翻訳ブレインが設定されました。

• 設定の確認

上記の設定を行うと、翻訳ツールバーの言語ペアに製品名が表示されます。たとえば、翻訳ブレイン の場合、以下のように表示されます。

英語 — 日本語 [翻訳ブレイン3]
 英語 — 日本語 [翻訳メモリ] [翻訳ブレイン3]
 日本語 — 英語 [翻訳ブレイン3]
 日本語 — 英語 [翻訳メモリ] [翻訳ブレイン3]

2.11.5 アドイン機能の有効と無効

すでにMicrosoft OfficeやInternet Explorerがインストールされているパソコンに、初期状態のまま翻訳プレインをインストールすると、アドイン翻訳機能がインストールされます。

Windows 7で、「Outlook Express (Windowsメール) アドイン有効」チェックボックスをオンまたはオフに設定することはできますが、WindowsメールまたはOutlook Expressが動作しないため、メール翻訳を実行することはできません。インストールの後、アドイン機能を使用するかを指定することができます。

手順

1. 「スタート」ボタンをクリックし、[すべてのプログラム]—[翻訳プレイン3]—[アドイン設定]を選択します。

アドイン設定ダイアログが表示されます。



2. 使用するアドイン機能のチェックボックスをオンにします。

チェックボックスがオンの場合、アドイン機能が有効になり使用できます。オフにするとアドイン機能が無効に設定されて使用できなくなります。

3. 各項目を設定したら、〈設定〉をクリックします。

これで、アドイン機能が有効、または、無効に設定されました。

2.12 Microsoft Officeアドイン翻訳

翻訳ブレインは、Word, Excel, PowerPointにある文章の翻訳、辞書引きなどを行います。



ヒント

翻訳ブレインが起動していない状態で、Officeアドイン翻訳を実行することができます。

すでにMicrosoft Officeがインストールされているパソコンに、初期状態のままでは翻訳ブレインをインストールすると、「Wordアドイン翻訳」、「Excelアドイン翻訳」、「PowerPointアドイン翻訳」機能がインストールされます。

アドイン機能の有効と無効の設定については、『2.11.5 アドイン機能の有効と無効』を参照してください。

2.12.1 Microsoft Officeの起動と翻訳

各ソフトウェアにアドイン機能がインストールされると、次のアイコンがツールバーに表示されます。



各アイコンの意味は以下のとおりです。

ツールバーのボタン	説明
▶ Excel : ワークシート翻訳 PowerPoint : スライド翻訳	表示しているワークシート/スライドを翻訳する (青い三角)
▶ <全文翻訳>	表示している文書全体/ワークブック全体を翻訳する (緑の三角)
▶ <選択範囲翻訳>	選択した部分を翻訳する
▶ <辞書参照>	選択した語句を辞書引きする
▶ <アドイン設定>	翻訳に関する各種設定を行う
▶ <ヘルプ>	Microsoft Officeアドイン翻訳のヘルプを表示する

このツールバーが表示されない場合は、[表示] - [ツールバー]のサブメニューから「アドイン翻訳」チェックボックスをオンにして表示してください。

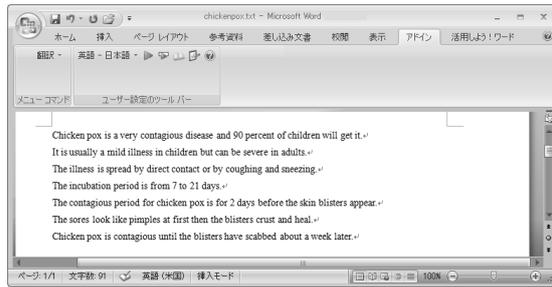
● 翻訳言語の切り替え

英日翻訳と日英翻訳を切り替えるには、「英語 - 日本語」の横にある▼をクリックして表示されるプルダウンメニューから選択してください。

翻訳メモリを使用して翻訳する場合は、「英語 - 日本語 [翻訳メモリ]」のように「翻訳メモリ」と記載されている項目を選択してください。

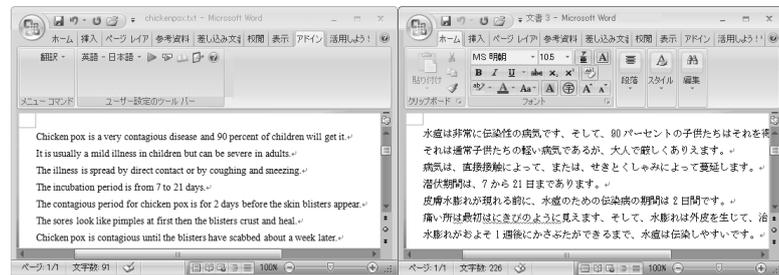
2.12.2 Wordの翻訳

手順 1. Wordで翻訳する文章を選択して〈全文翻訳〉をクリックします。



翻訳処理の進捗状況を示すプログレスバーが表示され、翻訳が終わるとプログレスバーが閉じます。

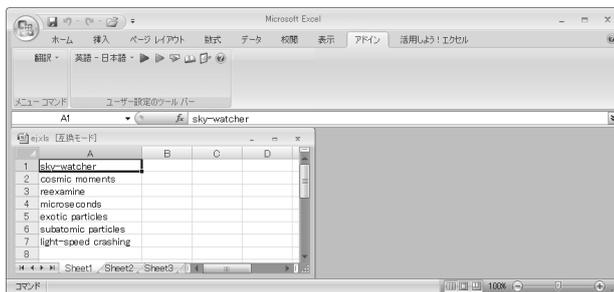
元のWordウィンドウの横に翻訳結果のウィンドウが表示されます。



翻訳結果の表示方法、翻訳の際のスタイル、フィールドコードの扱いなどは、〈アドイン設定〉をクリックすると表示されるアドイン設定ダイアログで変更できます。

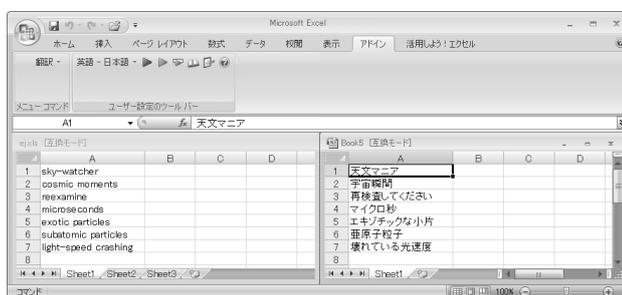
2.12.3 Excelの翻訳

- 手順** 1. Excelで翻訳する文章を選択して〈ワークシート翻訳〉▶ (青)をクリックします。



翻訳処理の進捗状況を示すプログレスバーが表示され、翻訳が終わるとプログレスバーが閉じます。

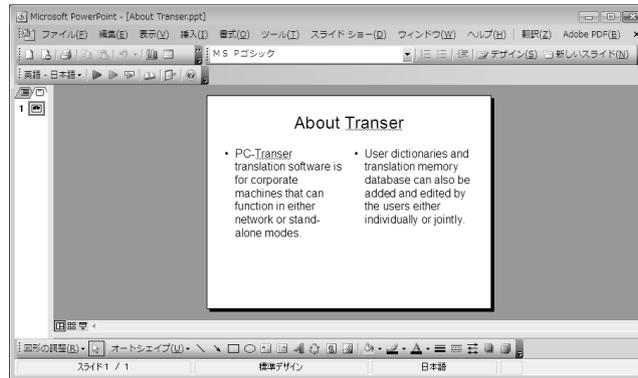
元のExcelウィンドウの横へ、翻訳結果のウィンドウが表示されます。



翻訳結果の表示方法、翻訳の際のスタイル、計算式の扱いなどは、〈アドイン設定〉をクリックすると表示されるアドイン設定ダイアログで変更できます。

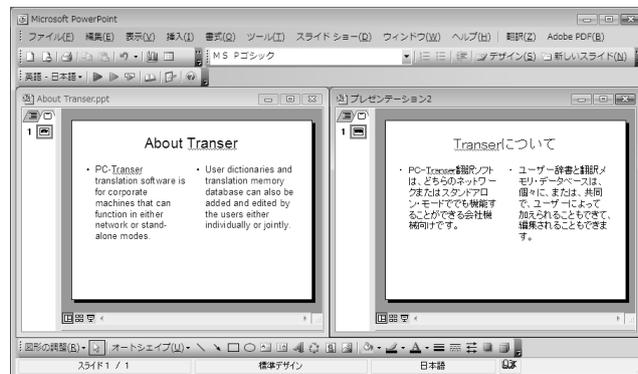
2.12.4 PowerPointの翻訳

- 手順** ➡ 1. PowerPointで翻訳する文章を選択して〈スライド翻訳〉▶(青)をクリックします。



翻訳処理の進捗状況を示すプログレスバーが表示され、翻訳が終わるとプログレスバーが閉じます。

元のPowerPointウィンドウの横へ、翻訳結果のウィンドウが表示されます。



翻訳結果の表示方法、翻訳の際のスタイルなどは、〈アドイン設定〉☞をクリックすると表示されるアドイン設定ダイアログで変更できます。

2.12.5 辞書引き

- 手順** 1. 辞書引きする語句を選択して〈辞書参照〉をクリックします。

選択した語句が「検索語」へ自動的に入力されて、辞書引きの結果が表示されます。



2. 「辞書」で辞書引きで使用する辞書を選択できます。
「検索語」に直接、語句を入力して〈検索〉をクリックしても辞書引きできます。

2.13 メール翻訳

メール翻訳では、Windowsメール（Vista）またはOutlook Express（XP）で受信したメールを翻訳して、翻訳結果をメール翻訳ウィンドウに表示できます。Windows 7では、WindowsメールまたはOutlook Expressが動作しないため、メール翻訳を実行することはできません。

アドイン機能の有効/無効の設定方法については、『2.11.5 アドイン機能の有効と無効』を参照してください。

メール翻訳をインストールすると、次の翻訳ツールバーが表示されます。

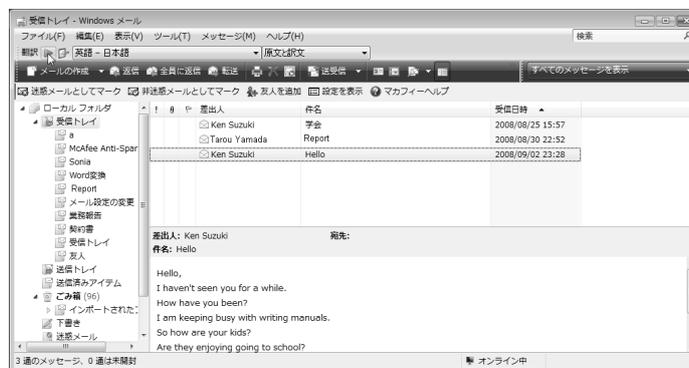


2.13.1 メールを翻訳する

メールを翻訳する手順は、以下のとおりです。

手順

1. WindowsメールまたはOutlook Expressを起動して、メール一覧から翻訳したいメールをクリックして選択します。



2. ツールバーの「英語－日本語」の横の▼をクリックし、プルダウンメニューから「英語－日本語」または「日本語－英語」を選択します。翻訳メモリを使用する場合は、「[翻訳メモリ]」を選択します。
3. 「原文と訳文」の横の▼をクリックし、翻訳結果の表示方法を選びます。「原文と訳文」、「訳文のみ」、「左右対訳」から選択できます。
4. ツールバーの〈翻訳〉▶をクリックします。

メール翻訳が実行され、翻訳結果が新しいウィンドウに表示されます。



メール翻訳は、翻訳エディタの設定ダイアログで設定する「翻訳」、「辞書」の設定にしたがって実行されます。

原文と訳文

原文と訳文を上下に表示します。

訳文のみ

翻訳結果の訳文のみを表示します。

左右対訳

原文と訳文を左右対訳で表示します。

2.13.2 メール翻訳の設定

ツールバーの〈設定〉をクリックすると、メール翻訳の設定ダイアログが開きます。ここではフォントや訳文の色を指定することができます。

・フォント

「フォント」タブでは、「原文」と「訳文」で使用するフォントを指定します。「フォント」タブをクリックすると次のダイアログが表示されます。



各言語の右端にある▼をクリックして表示される一覧からフォントを選択します。

- 色

「色」タブでは、訳文の色を指定します。

「色」タブをクリックすると次のダイアログが表示されます。



訳文色を示す四角形をクリックして表示される色の設定ダイアログから訳文の色を選択します。

2.14 PDFダイレクトファイル翻訳

PDFダイレクトファイル翻訳機能を使うと、翻訳ブレインを起動することなく、Adobe Acrobatで作成したPDFファイルを翻訳できます。

2.14.1 PDFダイレクトファイル翻訳の実行

PDFダイレクトファイル翻訳の手順は、以下のとおりです。



この機能は、pdfファイルを開いているアプリケーション上から実行することはできません。

手順

1. 翻訳したいpdfファイルのアイコン上で右クリックし、ショートカットメニューから「ダイレクト翻訳」を選択します。
名前を付けて保存ダイアログが表示されます。



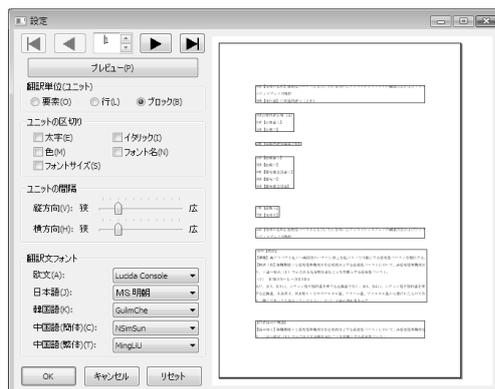
2. 「保存する場所」で、翻訳結果のファイルを保存する場所を指定し、「ファイル名」で翻訳結果のファイル名を指定します。初期状態では、原文のファイル名に「_tran」を付加します。
3. 「エンジン」で翻訳する言語を指定します。
4. 「保存」をクリックして、翻訳を実行します。

翻訳が終了すると、「保存する場所」に指定したフォルダに、翻訳結果のファイルが保存されます。

2.14.2 PDFダイレクトファイル翻訳の設定

原文のpdfファイルに合わせて、翻訳の単位などを設定することで、より適切な翻訳を行うことができます。

名前を付けて保存ダイアログの〈設定〉をクリックすると、PDFダイレクトファイル翻訳の設定ダイアログが表示されます。



- **翻訳単位 (ユニット)**

翻訳の単位を指定します。

要素

原文のpdfファイルのデータの最小単位を指します。

行

「ユニットの区切り」と「ユニットの間隔」の「横方向」の条件で、「要素」を結合したものを指します。

ブロック

「ユニットの区切り」と「ユニットの間隔」の条件で、「行」を結合したものを指します。

- **ユニットの区切り／ユニットの間隔**

「翻訳単位（ユニット）」で、「行」と「ブロック」を選択した際に、区切りと間隔を指定します。

- **翻訳文フォント**

訳文のフォントを指定します。

それぞれの設定を行い、〈プレビュー〉をクリックすると、原文の翻訳単位が表示されます。

〈OK〉をクリックすると、名前を付けて保存ダイアログに戻ります。

2.14.3 PDFダイレクトファイル翻訳機能の有効と無効

翻訳プレインをインストールすると、PDFダイレクトファイル翻訳機能がインストールされます。インストールの後、この機能を使用するかを指定することができます。

手順

1. 「スタート」ボタンをクリックし、[すべてのプログラム]－[翻訳プレイン3]－[ダイレクトファイル翻訳設定]を選択します。

ダイレクトファイル翻訳設定ダイアログが表示されます。



2. 「PDFファイル」チェックボックスがオンの場合、右クリックで表示されるショートカットメニューに「ダイレクト翻訳」が追加されます。オフにするとショートカットメニューから「ダイレクト翻訳」が削除されます。

3. 〈OK〉をクリックします。

これで、PDFダイレクトファイル翻訳機能が有効、または、無効に設定されました。

2.14.4 PDFダイレクトファイル翻訳の制限事項

PDFダイレクトファイル翻訳は、原文からフォントの種類、サイズ、レイアウトなどのテキスト情報を抽出し翻訳処理を行います。pdfファイルが作成された環境や状態によって、以下のようなファイルは翻訳できない場合や、翻訳結果のレイアウトが保てない場合があります。

- セキュリティ保護機能が使われているpdfファイル
- しおり機能が使われているpdfファイル
- 複雑なレイアウトで構成されているpdfファイル (DTPソフトなどから作成されたpdfファイル)
- Adobe Acrobat5.0以前の環境でFlate (Zip) 以外の圧縮方法 (LZWなど) で作成されたpdfファイル
- Windows以外のOSで生成されたpdfファイル
- pdfファイルがうまく翻訳できない場合は、Adobe AcrobatあるいはAdobe Readerのテキスト抽出機能を使用し、翻訳エディタの原文エリアに原文をコピー&ペーストして、翻訳を行ってください。



文字が画像データであるpdfファイルは翻訳できません。

透明テキストデータであるpdfファイルは、画像の上にテキスト文が表示されます。

第 3 章 翻訳メモリ

この章の内容

この章では、翻訳メモリの検索や登録の方法と、これを使用した翻訳について説明します。

翻訳メモリを使うと、頻繁に使用される文を登録して翻訳効率を高めたり、人間が訳した自然な訳文を登録して翻訳精度を高めることができます。

3.1 翻訳メモリとは

3.1.1 翻訳メモリとは？

対訳文をデータベースに登録し、翻訳の際データベースの原文と一致する文に対して、データベースの訳文を翻訳結果に採用する機能が「翻訳メモリ」です。たとえば、バージョンアップ製品や同系統の製品のマニュアルでは、元のマニュアルとほとんど同じ文が多数使用されることとなります。元のマニュアルの翻訳結果が翻訳メモリに登録してあれば、以前の翻訳結果をすばやく参照することができるので、翻訳効率を飛躍的に高めることができます。

また、ビジネスレターで使用される、挨拶、注文、クレームなどの文は、会社名や製品名、日付などを除くと、表現自体は定型化されている場合が多くあります。このような文は、変化する部分を明示した、「文型」として登録しておきます。文型に合致すれば、元の文から変化した部分だけを機械翻訳して、その結果を訳文の対応する位置に埋め込むので、文全体を機械翻訳するよりも、より人間の翻訳に近い結果を得ることができます。

翻訳メモリには、原文・訳文以外にも、対訳文の作成者、作成日時、文書名など、いろいろな情報を付加することができます。一冊のマニュアルを何人かで分担して翻訳するような場合は、これらの情報を見て、別の人が作成した対訳文の適切さを判断できるので、グループ作業の効率化が図れます。

同じ翻訳メモリを英→日と日→英で共有して使用することができます。

翻訳ブレインには、以下の翻訳メモリが搭載されています。

翻訳メモリの名称	登録内容
基本翻訳メモリ	挨拶や一般会話で使用する表現を登録
ビジネス翻訳メモリ	ビジネスレターやニュースで使用する表現を登録
科学技術翻訳メモリ	技術論文や技術書などで使用する表現を登録
英文ビジネスレター翻訳メモリ	英文のビジネスレターやメールで使用する表現を登録

初期状態で、使用する翻訳メモリには基本翻訳メモリ、英文ビジネスレター翻訳メモリ、ビジネス翻訳メモリ、科学技術翻訳メモリ、ユーザーの登録用翻訳メモリに「ユーザー翻訳メモリ」が指定されています。

3.1.2 翻訳メモリの検索機能

● 翻訳メモリペインで実行できる検索

翻訳メモリペインでは、以下の4つの検索機能があります。

• 完全一致文検索

原文と全く同じ文を検索します。

• 文型一致文検索

原文と文型が一致する文を検索します。文型とは、文の中でどんな語にも合致する変更可能な部分を、「タグ」と呼ばれる記号「<\$タグ名=>」で囲んだ文のことです。タグに合致した語は自動的に機械翻訳にかけられ、その結果で訳文側のタグを置き換えます。

• キーワード検索

原文と同一の語句が含まれている文を検索します。原文エリアに複数の語が入力されている場合、そのすべてが含まれている文を検索します。

• 類似文検索

原文に類似した文を検索します。文の比較は、単語単位で行われます。



単語の並びの一致する部分が高いほど、類似度は高くなります。

● 翻訳で使用可能な検索機能

翻訳を実行する際、使用可能な検索機能は以下のとおりです。

- 完全一致文検索
- 文型一致文検索
- 類似文検索

翻訳で使用する検索機能の設定については、『3.2.2 翻訳時に翻訳メモリを使用する』を参照してください。

3.1.3 ファイルの入出力

すでに翻訳済みのマニュアルなどから作成された対訳文のテキストファイルがあれば、それを翻訳メモリに一括して登録することができます。このように、テキストファイルの対訳文を翻訳メモリに一括登録することを、「インポート」といいます。インポートできるファイルには、いくつかの種類があります。詳細は、『3.6 インポート』を参照してください。

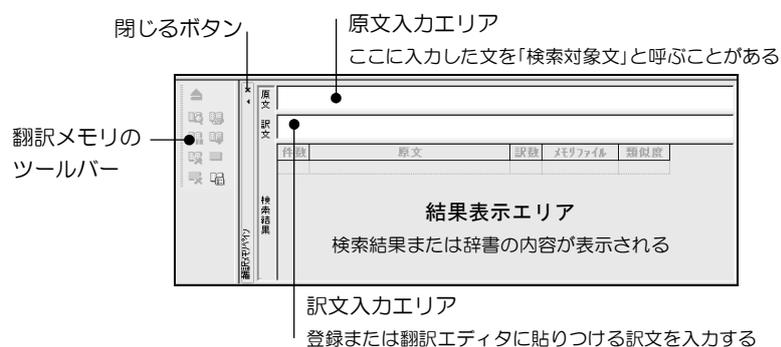
インポートとは逆に、ユーザーが作成した翻訳メモリの内容を、テキストファイルに書き出すこともできます。この操作を「エクスポート」といいます。翻訳メモリのバックアップとして、また、他の翻訳システムとの対訳文の交換手段としても、エクスポート機能を利用できます。詳細は、『3.7 エクスポート』を参照してください。

3.2 翻訳メモリの基本操作

3.2.1 翻訳メモリペイン

- 翻訳メモリペインの名称

翻訳メモリペインの名称は次のとおりです。



- 翻訳メモリペインの表示／非表示

翻訳メモリペインの〈閉じる〉ボタンをクリックすると翻訳メモリペインが閉じます。翻訳メモリペイン表示する場合は、[表示]—[翻訳メモリペイン]を選択してください。表示メニューの「翻訳メモリペイン」コマンドにチェックマークが付与され、翻訳メモリペインが表示されます。

- 翻訳エディタと翻訳メモリの連携

翻訳エディタで翻訳メモリペインに取り込みたい文にカーソルを置いて[翻訳メモリ]—[カレント文の選択]を選択するか、をクリックすると、翻訳エディタのカーソル位置の文がそのまま翻訳メモリペインの原文入力エリアと訳文入力エリアに取りこまれます。翻訳メモリペインは、開いたまま翻訳エディタで翻訳作業を行えるので、次々にカーソルを移動してをクリックすることにより、必要な対訳文を簡単に翻訳メモリペインに取りこみ対訳文を登録することができます。

3.2.2 翻訳時に翻訳メモリを使用する

翻訳エディタで翻訳を実行する場合、機械翻訳の前に翻訳メモリを検索して、合致した対訳文があれば、その訳文を取り込むことができます。このような翻訳メモリの検索機能は、翻訳エディタの翻訳設定ダイアログにある「翻訳」タブの「訳文生成方法」で指定できます。

手順

1. 翻訳エディタで、ツールバーのをクリックします。

翻訳設定ダイアログが表示されます。

2. 「翻訳」タブをクリックします。

翻訳に関する設定ダイアログが表示されます。



3. 「訳文生成方法」にある必要なチェックボックスをオンにします。

翻訳エディタで翻訳操作を行うと、「訳文生成方法」でオンになっている機能が、上から順に実行されます。初期状態では、「完全一致文検索」と「機械翻訳」チェックボックスがオンになっています。

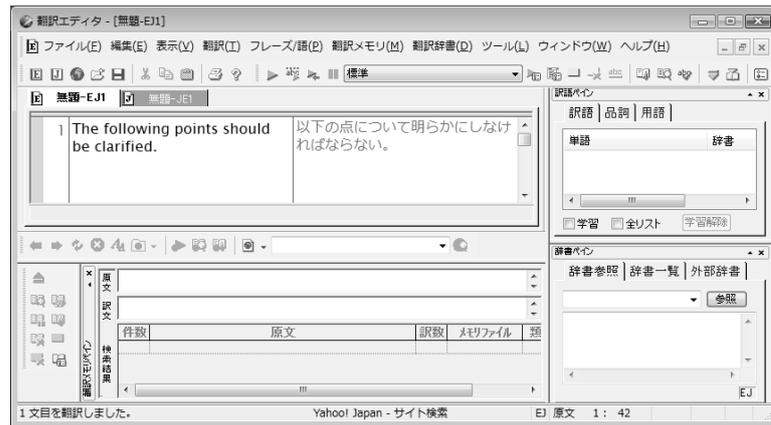
初期状態のままだと、まず「完全一致文検索」が実行され、最初に見つかった検索結果が訳文として採用されます。完全に一致する文が見つからなかった場合、「機械翻訳」がオンなので、続けて機械翻訳が実行されます。

上記の設定で翻訳エディタに戻り、実際に翻訳を実行します。

手順

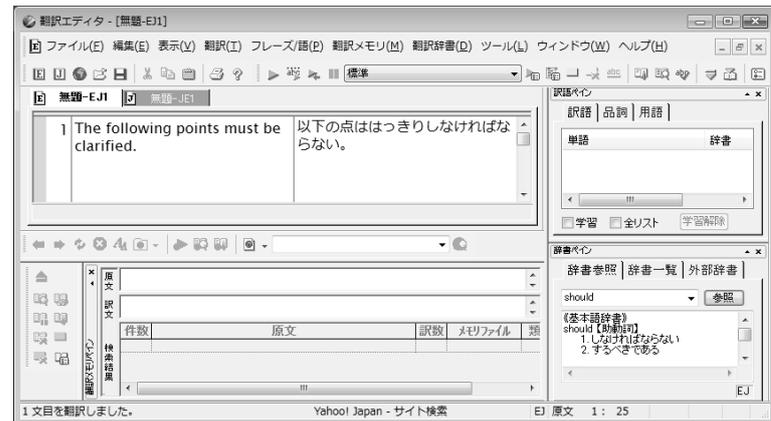
1. 原文エリアに、"The following points should be clarified."という文を入力します。
2. 文番号をクリックして一文翻訳を実行します。

次の結果が表示されます。



訳文エリアには、「以下の点について明らかにしなければならない。」と表示されています。この訳文は、翻訳メモリから完全一致文検索によって訳出された文です。ここで翻訳は終了し、機械翻訳は実行されません。

3. たとえば"should"を"must"と編集して、"The following points must be clarified."と修正します。
4. 文番号をクリックして一文翻訳を実行します。
次の結果が表示されます。



これは、原文を修正したため、一致する文が翻訳メモリから検索できなかったため、機械翻訳が実行された結果です。

● 文番号と訳文の色による区別

訳文が、翻訳メモリ検索の結果なのか、機械翻訳による結果なのかは、文番号と訳文の色で判断することができます。文番号と訳文の色は、完全一致文検索、文型一致文検索、類似文検索、機械翻訳のそれぞれで異なる色が設定されています。

色の設定は次の手順で変更します。

手順

1. 翻訳エディタで、ツールバーのをクリックします。
環境設定ダイアログが表示されます。
2. 「配色」タブをクリックします。
3. 「訳文の色」で、それぞれの色を選択します。



メモ 「文型一致」で指定した色は、文番号と登録文中のタグ以外の文字列の色に対する指定です。翻訳エディタでタグに対応して翻訳された文字列は、「機械翻訳」で指定した色になります。

● 訳語対応

翻訳メモリの検索によって得られた訳文には、原文との間で、単語間の対応情報がありません。したがって、訳語の対応を表示することはできません。

● 強制的に機械翻訳を実行する

[訳文生成方法]の設定にかかわらず、強制的に機械翻訳を実行する場合は、Shiftキーを押しながら文番号をクリックします。

ある範囲の文を一括して機械翻訳したい場合は、Shiftキーを押しながら、翻訳したい範囲の文番号を選択します。マウスのボタンを離すと、選択された範囲の文が順に機械翻訳されます。

カーソル位置以降の文をすべて強制的に機械翻訳する場合は、Shiftキーを押しながら、[翻訳]—[カレント文以降を翻訳]を選択するか、ツールバーのをクリックします。

3.2.3 対訳文の登録

翻訳メモリには、翻訳の実務を通して対訳文を蓄積していくことができます。翻訳した結果を翻訳メモリに登録しておく、後で全く同じまたはほとんど同じ表現があった場合、翻訳メモリから以前の翻訳結果を引き出して、その訳文を再利用することができます。

ここでは、もっとも基本的な名詞をタグにした場合の対訳文の登録手順を説明します。

名詞をタグにした例は、基本操作編の『翻訳メモリを使った翻訳』も合わせて参照してください。

その他の品詞の登録に関しては、『3.4 ユーザー翻訳メモリに対訳文を登録する』を参照してください。



ヒント 以降の説明では、英→日を例にしていますが、日→英の場合は、原文を日本語、訳文を英語にして同様な手順で登録してください。
また、登録した文は、英→日と日→英で共通して使用することができます。

次の文を翻訳メモリを使わずに訳すと以下のように訳されます。

原文

Chapter 3 has more information about this.

翻訳結果

第3章は、これに関する詳細な情報がある。

この場合、次のように翻訳メモリに登録します。

登録する原文

Chapter <\$1=3> has more information about <\$2=this>.

登録する訳文

第<\$1=3>章で、<\$2=これ>について詳しく説明します。

メモ 原文のタグに相応する部分の訳文に、タグをつけます。

次に「翻訳」－「翻訳設定」－「翻訳」にある「文型一致文検索」チェックボックスをオンにして翻訳を実行すると以下ようになります。

原文1

Chapter 3 has more information about this.

翻訳メモリを使った翻訳結果1

第3章で、これについて詳しく説明します。

また次の例は以下のように翻訳されます。

原文2

Chapter 5 has more information about the major sightseeing spot in Tokyo.

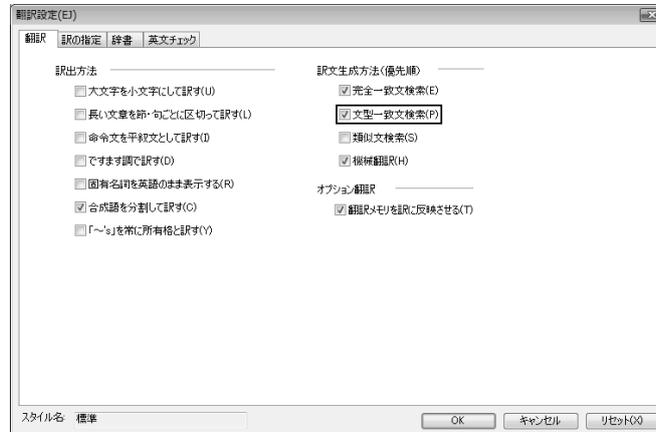
翻訳メモリを使った翻訳結果2

第5章で、東京での主な観光地について詳しく説明します。

対訳文を登録する手順は以下のとおりです。

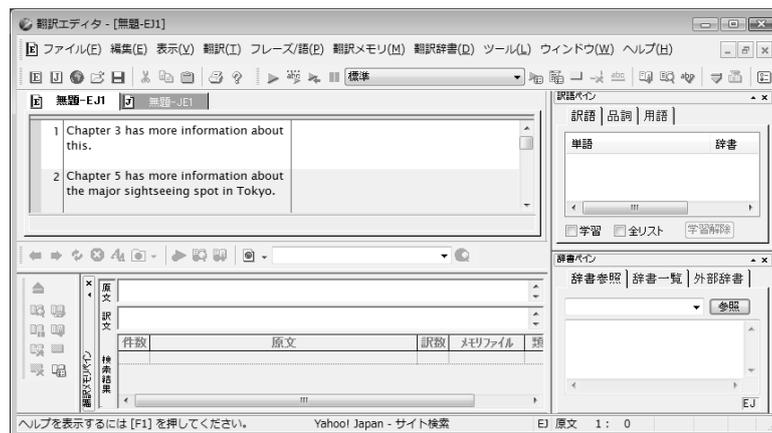
手順

1. ツールバーの  をクリックして翻訳設定ダイアログを表示し、「翻訳」タブをクリックします。
2. 「文型一致文検索」チェックボックスをオンにして、〈OK〉をクリックします。

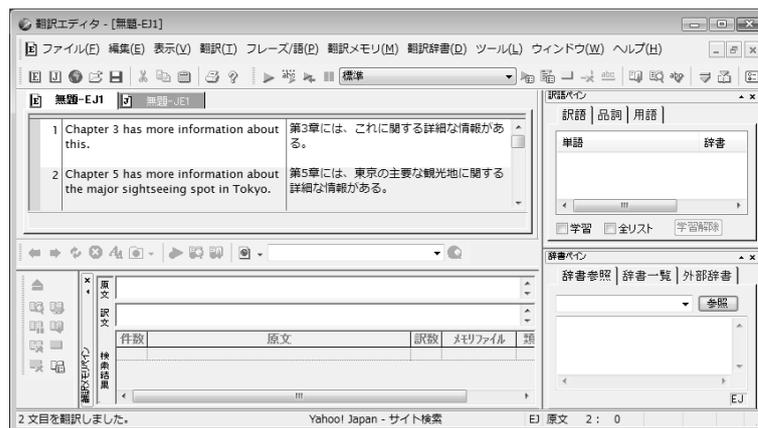


設定が有効になり、翻訳エディタに戻ります。

3. 翻訳エディタで翻訳メモリに登録する文章を入力します。
この例では、「Chapter 3 has more information about this.」と入力してEnterを押して、新しい文番号に「Chapter 5 has more information about the major sightseeing spot in Tokyo.」と入力します。



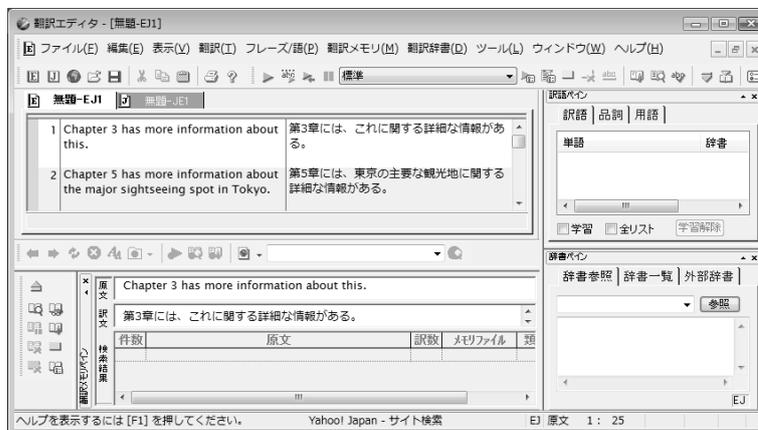
4. 各文番号をクリックして一文翻訳を実行します。



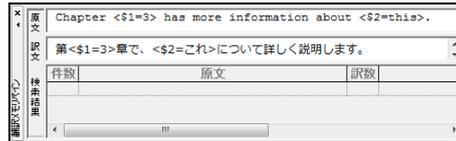
自然な文体になるようにタグを含んで翻訳メモリに登録します。

5. はじめの例文（ここでは、文番号1）の任意の位置をクリックしてカーソルを置きます。続いて▼をクリックします。

翻訳メモリペインにカーソル位置の対訳文が読み込まれます。



6. 原文にタグを指定します。タグ指定したい単語にカーソルを置いて■をクリックすると、タグで囲まれます。複合語をタグ指定する場合は、文字列を選択して■をクリックします。まず、"3"を選択して■をクリックします。次に、"this"を選択して■をクリックします。
7. 訳文に翻訳結果を入力します。まず、「第3章で、これについて詳しく説明します。」と入力します。次に、「3」を選択して■をクリックして、「これ」を選択して■をクリックします。



原文と訳文においてタグの数、タグ名（\$1、\$2など）は1対1で対応しなければなりません。

8. 原文と訳文に正しくタグをつけたら、 をクリックします。

次の画面が表示されます。

登録情報

「登録先」以外の項目は、修正可能です。登録先は、登録用に設定されている翻訳メモリファイルです。

「作成者」には、コンピュータのログオンユーザー名が表示されます。

「文書名」には、翻訳エディタで翻訳中のファイル名が表示されます。

「登録日時」には、コンピュータに設定されているWindowsのシステム日付が表示されます。

「翻訳フラグ」には、「機械訳」と「人間訳」があります。翻訳ブレインで翻訳した場合は機械訳が、ユーザーが翻訳結果を修正した場合は人間訳が、オンになります。

「コメント」には、対訳文の説明を入力できます。

登録情報は、検索結果の付加情報として表示されます。表示例が『3.2.4 対訳文の検索』にあるので参照してください。



ヒント

翻訳エディタから直接、登録画面を呼び出すこともできます。翻訳エディタで、登録したい文にカーソルを置き、[翻訳メモリ]—[登録]—[カレント文を登録]を選択するか、ツールバーの をクリックします。

9. 各項目を正しく入力して、〈登録〉をクリックします。

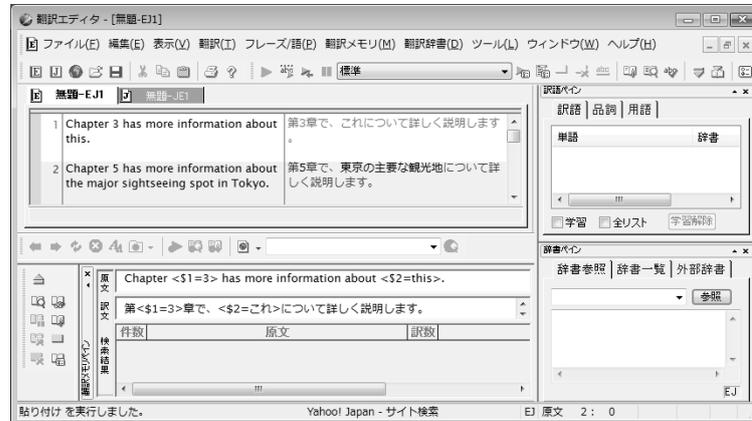
対訳文が登録されます。

メモ タグを含む文を登録した場合、タグを含む対訳文の登録と、タグを取り除いた対訳文の登録を同時に行います。自動的に2つの対訳文が、登録されます。

次に、再翻訳を実行します。

10. 翻訳エディタにある各文の文番号をクリックします。

次の翻訳結果が表示されます。



文番号の色と訳文の文字色が変わります。はじめの文は、翻訳メモリに登録されたタグを省いた文に、完全に一致しているため「完全一致」文の色になります。

2番目の文は文型一致しているため、文番号と登録文中のタグ以外の文字列の色は「文型一致」で指定した色、タグに対応して翻訳された文字列は「機械翻訳」で指定した色になります。

メモ 文番号と訳文の色の指定は、[ツール]—[環境設定]—[配色]で行います。



この対訳は、そのまま日→英においても利用できます。翻訳メモリとして同じファイルを指定してください。

● タグを外す

タグを外すには、タグにカーソルを置き、をクリックするか、または[翻訳メモリ]—[タグ解除]を選択します。

「<\$タグ名=>」と「>」が削除されて、元の文字列に戻ります。



文字列を選択してからタグ解除を実行すると、範囲内のすべてのタグを解除することができます。

3.2.4 対訳文の検索

翻訳メモリペインでは、完全に一致する文の検索、文型が一致する文の検索、原文と同一の語句が含まれる文を検索するキーワード検索、単語の並びが似ている類似文の検索機能があります。また、検索結果の文を翻訳エディタに貼りつけることができます。ここでは、前述の例で登録した文を使って対訳文の検索方法、結果の表示、翻訳エディタへの貼り付けを説明します。

● キーワード検索

前節で登録した例文を使って説明します。

手順

1. 翻訳エディタの"Chapter 3 has more information about this."へカーソルを置いて、をクリックします。

翻訳メモリペインの原文入力エリアに"Chapter 3 has more information about this."と取り込まれます。

2. をクリックします。

をクリックする、または[翻訳メモリ]—[キーワード検索]を選択すると、「キーワード検索」と「文型一致文検索」をセットにして実行します。

まず、「キーワード検索」が実行され、合致する文が見つからなかった場合は、続けて「文型一致文検索」が実行されます。

メモ 設定ダイアログの「検索オプション」タブにある「文型一致文検索」チェックボックスがオフの場合は、文型一致文検索は実行されません。初期状態でこのチェックボックスはオンです。

検索結果エリアに次のように表示されます。

原文	Chapter 3 has more information about this.					
訳文	第3章で、これについて詳しく説明します。					
検索結果	件	原文	訳数	訳文	メモファイル	型
	1	Chapter 3 has more information about this.	1	第3章で、これについて詳しく説明します。	ユーザー翻訳メモリ	

この例では、キーワード検索で合致する文が見つかったので、文型一致文検索は実行されませんでした。

キーワード検索結果では、一致した部分が紫色で表示されます。

● 類似文検索

前節で登録した例文を使って説明します。

手順

1. 翻訳エディタの"Chapter 5 has more information about the major sightseeing spot in Tokyo."へカーソルを置いて、をクリックします。

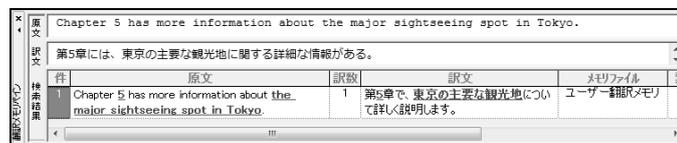
翻訳メモリの原文入力エリアに"Chapter 5 has more information about the major sightseeing spot in Tokyo."と取りこまれます。

2. をクリックします。

をクリックする、または[翻訳メモリ]—[類似文検索]を選択すると、「文型一致文検索」と「類似文検索」をセットにして実行します。

メモ 設定ダイアログの「検索オプション」タブにある「文型一致文検索」チェックボックスがオフの場合は、文型一致文検索は実行されません。初期状態でこのチェックボックスはオンです。

検索結果エリアに次のように表示されます。



類似文検索結果では、不一致な部分が緑色で表示され、下線が引かれます。検索結果は、類似度の高いものから順に表示されます。類似度が同じ場合の表示順位は、翻訳メモリ設定ダイアログの「翻訳メモリ」タブと「検索オプション」タブの設定に従います。翻訳メモリ設定ダイアログについては、『3.5 翻訳メモリの環境設定』と『3.3 ユーザー翻訳メモリの作成と選択』を参照してください。

メモ 登録情報が一致する対訳文については表示順位は不定です。

● 類似検索結果の表示

類似検索において、文型一致文と類似度の高い文は検索結果エリアに表示されます。

メモ 単語の並びの一致する部分が高いほど、類似度は高くなります。

検索対象文と登録されている原文を比較して、違う部分は緑色で表示され下線が引かれます。

文型一致文

文型一致文の訳文は、タグの部分を機械翻訳して表示します。

類似文

類似文の訳文は、登録されている訳文がそのまま表示されます。

● 検索結果の表示

キーワード検索結果では、一致した部分が紫色で表示されます。
類似文検索結果では、不一致な部分が緑色で表示され、下線が引かれます。
また、結果は項目ごとに表示されます。

● 表示項目

「件数」は原文の数、「訳数」は訳文の数です。同一原文に複数の訳文が登録されている場合は、件数は1、訳数は2となります。

件数	原文	訳数	訳文
1	Chapter 3 has more information about this.	1	これについては、第3章で詳しく説明します。
		2	第3章で、これについて詳しく説明します。

「フラグ」とは、登録の際に付加した翻訳フラグで、機械訳はM、人間訳はHと表示されます。登録情報の入力については、『3.2.3 対訳文の登録』を参照してください。

● 表示幅の変更

各項目の境界線の上、マウスポインタが \oplus に変わったところでドラッグすると境界線が移動して幅を変更できます。

件数	原文	訳数	訳文
1	Chapter 3 has more information about this.	1	第3章で、これについて詳しく説明します。

● 昇順／降順の切り替え

各項目名をダブルクリックすると、その項目を基準に昇順／降順が切り替わります。

● 検索結果の貼り付け

結果表示エリアにある原文または訳文をダブルクリックすると、原文入力エリア、または、訳文入力エリアにコピーされます。

● 制限

● 無視する語

文中に多く含まれる以下の語は、翻訳メモリの検索では無視されます。

a	the	I	you	this	that	it	they
these	those	be	can	may	must	shall	will
have	do	and	at	as	by	from	for
if	in	of	off	on	or	to	when
with							

- **記号の扱い**

原文が英語の場合、記号は、検索時には文字と見なされずは無視されます。日本語の場合は、1文字の記号は無視されますが、2文字以上からなる記号は検索対象となります。

- **タグに対応した語句の先頭がカンマの場合**

タグに対応した部分の語句の先頭がカンマの場合、文型一致検索の対象となりません。

- **文型一致文検索**

文型一致文検索では検索結果を表示する際、タグに対応した語句を翻訳します。タグと対応する語句の品詞の違いなどにより翻訳に失敗した場合、タグに対応した語句は翻訳されず、タグ部分に原語のまま表示されます。

3.2.5 ユーザー翻訳メモリの対訳文を一覧表示

翻訳メモリでは、設定しているユーザー翻訳メモリのみの検索を行えます。

原文エリアに「*」（半角）と入力してキーワード検索を実行すると、ユーザー翻訳メモリで原文が英語の対訳文を999件表示します。

原文エリアに「*」（全角）と入力してキーワード検索を実行すると、ユーザー翻訳メモリから原文が日本語の対訳文を999件表示します。

3.2.6 検索結果を翻訳エディタへ反映

翻訳メモリペインにある訳文や検索結果を翻訳エディタに貼り付けることができます。

- **訳文入力エリアから貼り付け**

▶ ボタンをクリックするか、[翻訳メモリ] - [対訳文を確定] を選択すると訳文入力エリアにある文が翻訳エディタのカーソル位置の訳文と置き換わります。また、翻訳エディタの文には翻訳ロックがかかります。「対訳文を確定」を選択した際、翻訳エディタのカーソル位置に原文が無い場合は、原文も貼り付けられます。

- **検索結果エリアから貼り付け**

検索結果の表示エリアで貼り付けたい訳文をダブルクリックすると、訳文入力エリアに貼り付きます。続いて▶ ボタンをクリックしてください。翻訳エディタのカーソル位置に訳文が貼り付けられて、文に翻訳ロックがかかります。

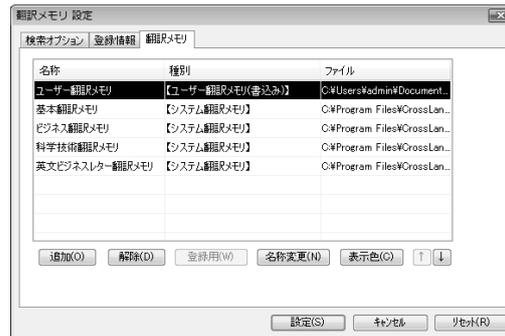
3.3 ユーザー翻訳メモリの作成と選択

対訳文の登録は、翻訳作業の効率化に欠かせない作業です。また、いろいろな文書を翻訳していると、分野ごとに異なる複数の翻訳メモリを使い分ける必要が生じてきます。

ここでは、登録用の翻訳メモリ（ユーザー翻訳メモリ）の新規作成、使用する翻訳メモリの設定手順を説明します。

翻訳メモリの新規作成と設定は、[翻訳メモリ]—[設定]で行います。

をクリックするか、[翻訳メモリ]—[設定]を選択して、「翻訳メモリ」タブをクリックすると、次のダイアログが表示されます。



初期状態では基本翻訳メモリ、英文ビジネスレター翻訳メモリ、ビジネス翻訳メモリ、科学技術翻訳メモリ、ユーザー翻訳メモリが指定されています。ユーザー翻訳メモリは、初期状態で登録用に設定されたもので、内容は空です（何も登録されていません）。日→英でも、同じファイルが初期設定されています。

● 翻訳メモリの保存場所

初期状態で、翻訳メモリは以下の場所に保存されています。

基本翻訳メモリ

[Program Files] → [CrossLanguage] → [BrainV3] → [common] → [dic] → [sysdb.ty2]

英文ビジネスレター翻訳メモリ

[Program Files] → [CrossLanguage] → [BrainV3] → [common] → [dic] → [ebl.ty2]

ビジネス翻訳メモリ

[Program Files] → [CrossLanguage] → [BrainV3] → [common] → [dic] → [bizdb.ty2]

科学技術翻訳メモリ

[Program Files] → [CrossLanguage] → [BrainV3] → [common] → [dic] → [techdb.ty2]

ユーザー翻訳メモリ

[ホームディレクトリ] → [dic] → [user.ty2]

● 使用する翻訳メモリを選択する

翻訳ブレインでは、最大10個までの翻訳メモリを同時に使用できます。
 〈追加〉をクリックすると、ファイルを開くダイアログが表示されます。



ヒント

翻訳メモリ設定リストにすでに10個の翻訳メモリを設定して〈追加〉をクリックした場合、最大数が10個であるというメッセージが表示され、それ以上は設定できません。



開くダイアログが表示されるので、設定したい翻訳メモリをダブルクリックするか、または翻訳メモリを選択して〈開く〉をクリックすると、翻訳メモリが選択されて設定ダイアログに戻ります。



旧バージョンで作成した翻訳メモリ（拡張子 .tyx）を使用するには、翻訳メモリをインポートする必要があります。インポートの手順については『3.6 インポート』を参照してください。

● 翻訳メモリをリストから外す

設定ダイアログのリストから翻訳メモリを外すには、外す翻訳メモリを選択して、Delete (Del) キーを押すか、または〈解除〉をクリックします。



検索する対訳文がなくなってしまうので、リストにあるすべての翻訳メモリを外すことはできません。必ず1つはリストに残してください。

● 新規にユーザー翻訳メモリを作成する

新しくユーザー翻訳メモリを作成する方法は、以下のとおりです。

手順

1. 設定ダイアログの〈追加〉をクリックします。

次のダイアログが表示されます。



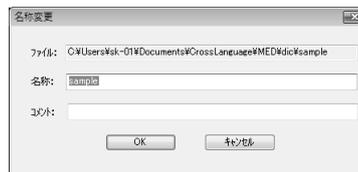
2. 「ファイルの場所」を翻訳メモリを作成するフォルダに移動します。

3. 「ファイル名」に新規作成する翻訳メモリのファイル名を入力します。

新しいファイル名を入力すると新規作成することを確認するメッセージが表示されます。

4. 〈はい〉をクリックします。

次のダイアログが表示されます。



「ファイル」には、ユーザー翻訳メモリの作成場所がフルパスで表示されています。

「名称」は、ユーザー翻訳メモリの名前を入力します。初期状態では、ファイル名がそのまま表示されますが、ファイル名とは別にわかりやすい名前を日本語でつけることもできます。

「コメント」には、ユーザー翻訳メモリの内容、分野などの説明文を入力します。

5. すべての項目を正しく入力したら、〈OK〉をクリックします。

設定ダイアログに指定した新規ユーザー翻訳メモリが追加されます。

● **書き込み用ユーザー翻訳メモリを指定する**

ユーザー翻訳メモリは、目的に応じて複数作成して使用することができます。ただし、書き込み可能な（登録できる）翻訳メモリとして開けるのは1つだけです。



翻訳ブレインが提供しているシステム翻訳メモリを書き込み可能な翻訳メモリに指定することはできません。

翻訳メモリ設定ダイアログにユーザー翻訳メモリがない場合は、最初に指定されたユーザー翻訳メモリが、書き込み用ユーザー翻訳メモリに設定されます。書き込み可能なユーザー翻訳メモリを変更するには、目的のユーザー翻訳メモリを選択して、〈登録用〉をクリックします。

書き込み用ユーザー翻訳メモリに〈解除〉を実行すると、翻訳メモリはリストからはずされるので、対訳文を登録することができなくなります。対訳文の登録を行う場合は、必ず、書き込み用のユーザー翻訳メモリをリストに残してください。

● **翻訳メモリの優先順位を指定する**

翻訳メモリは優先順位の高いものから並べられます。追加された翻訳メモリは、設定ダイアログで選択して反転表示しているファイルがある場合は、その上に追加され、ない場合はリストの最後に追加されます。

優先順位を変更するには、翻訳メモリ名をドラッグして（ポインタがになる）、移動先の位置でマウスのボタンを離します。

前後へ1つずつ移動する場合は、移動する翻訳メモリを選択して、次のいずれかのボタンをクリックします。



（1つ前へ移動）



（1つ後ろへ移動）

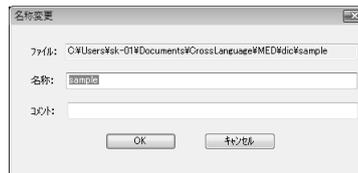
- 翻訳メモリの名前を変更する

設定ダイアログでは、翻訳メモリの名前を変更することができます。翻訳メモリにユニークな名前を付けておくと、翻訳メモリを分類するのに便利です。翻訳メモリの名前を変更する方法は、以下のとおりです。

手順

1. リスト内の翻訳メモリを選択して、ダイアログ下部にある〈名称変更〉をクリックします。

次のダイアログが表示されます。「ファイル」には、翻訳メモリファイルのある場所がフルパスで表示されています。



2. 「名称」に翻訳メモリの名前を入力して、〈OK〉をクリックします。
元のダイアログに戻り、変更した名前が表示されます。

3.4 ユーザー翻訳メモリに対訳文を登録する

ここでは、対訳文を1つずつ登録する手順について説明します。あらかじめ用意しておいた大量の対訳文を一括して登録する手順については、『3.6 インポート』を参照してください。

対訳文の登録では、原文・訳文という分け方をしていますが、登録された対訳文の検索は双方向に行うことができます。

同じ翻訳メモリを英→日と日→英で使用することができます。

初期状態で設定されている基本翻訳メモリ、英文ビジネスライター翻訳メモリ、ビジネス翻訳メモリ、科学技術翻訳メモリ、ユーザー翻訳メモリは英→日と日→英で共用されています。

日→英で「書き込み」と設定して使用中の翻訳メモリに対して、英→日から対訳文の登録を行っても、実際には登録されません。

文を登録する前に、設定ダイアログの「翻訳メモリ」タブで、「書き込み」になっている翻訳メモリがあることを確認してください。



「書き込み」翻訳メモリが無いと、対訳文を登録することはできません。



ヒント

以降の説明では、英→日を例にしていますが、日→英の場合は、原文を日本語、訳文を英語にして同様な手順で登録してください。

3.4.1 対訳文の登録方法

対訳文の登録は次の手順で実行します。

- 手順** 1. ツールバーのをクリックするか、【翻訳メモリ】-【登録】-【対訳文を登録】を選択します。

次の登録画面が表示されます。

このとき、原文入力エリアと訳文入力エリアの文が、自動的に「原文」と「訳文」にコピーされます。



登録

登録先: 【ユーザー翻訳メモリ】\Users\Admin\Documents\CrossLanguage\PO\kdic\

原文: Chapter <\$1=3> has more information about <\$2=this>.

訳文: 第<\$1=3>章で、<\$2=これ>について詳しく説明します。

作成者(A): admin 登録日時(D): 2010/09/20 12:00:00

文書名(F): 無題-EJT 翻訳フラグ(T): 機械翻訳(M) 人間翻訳(H)

コメント:

次回からこの確認画面を表示しない

登録 キャンセル



ヒント 翻訳エディタから直接、登録画面を呼び出すこともできます。翻訳エディタで、登録したい文にカーソルを置き、【翻訳メモリ】-【登録】-【カレント文を登録】を選択するか、ツールバーのをクリックします。

「原文」と「訳文」の内容は、編集することができます。

その他の項目の内容は以下のとおりです。必要であれば、修正してください。

登録先

対訳文を登録する翻訳メモリのファイル名です。

作成者

対訳文の作成者です。初期状態ではログオンユーザー名が表示されます。

登録日時

対訳文を登録した日時です。設定ダイアログの「登録情報」タブで「システム日時を使う」チェックボックスがオンの場合、Windowsのシステム日付が表示されます。

文書名

原文の文書（現在翻訳作業中の文書）の名前です。

コメント

対訳文にコメントを付けます。

翻訳フラグ

登録する訳文が、機械翻訳か人間の翻訳によるものかを指定します。
設定ダイアログの「登録情報」タブで、「翻訳フラグ」の「自動判別」チェックボックスがオンの場合、機械翻訳か人間の翻訳かを自動的に判断します。

機械翻訳：登録する訳文が、機械翻訳であることを示します。

人間翻訳：登録する訳文が、人間の翻訳であることを示します。

2. 〈登録〉をクリックします。

翻訳メモリペインに表示されている内容が、翻訳メモリに登録されます。



ヒント

「次回からこの確認画面を表示しない」チェックボックスをオンにすると、次回の登録時には、この登録画面を表示せず、直ちに翻訳メモリに登録します。再度登録画面を表示する場合は、設定ダイアログの「登録情報」タブで、「登録確認画面を表示しない」チェックボックスをオフにしてください。翻訳エディタから直接登録する場合には、登録画面は必ず、表示されます。

3.4.2 対訳文の削除

検索結果エリアに表示されている原文または訳文にカーソルを置き、ツールバーのをクリックするか、または[翻訳メモリ]→[削除]を選択すると、その対訳文は翻訳メモリから削除されます。選択した原文に複数の訳文が登録されている場合、すべての訳文が削除されます。複数の訳文を1度に削除する場合は、Shift+クリックまたはCtrlクリックで訳文を選択して、削除を実行してください。削除の対象となる文の「件数」または、「訳数」が選択され、次のダイアログが表示されます。



〈OK〉をクリックすると、選択された対訳文が翻訳メモリから削除されます。



削除できるのは、書き込み用に設定されている翻訳メモリに登録されている対訳文だけです。

3.4.3 完全一致文の登録

タグを含まない原文と訳文を登録します。

手順

1. **翻訳メモリペインの原文入力エリアに原文を入力します。**
たとえば、次の文を入力します。
Turning now to FIG. 1, there is shown a depiction of the surface topography of a coupling interface.
2. **訳文入力エリアに訳文を入力します。**
たとえば、次の文を入力します。
図1に戻ると、結合インタフェースの表層地形学の描写が示されている。
3. **ツールバーのをクリックします。**
登録ダイアログが表示されます。各項目の内容が正しいか確認してください。間違いがあれば、修正します。
4. **〈登録〉をクリックします。**
これで、対訳文が登録されました。

3.4.4 文型とタグ

変更可能な部分を「タグ」と呼ばれる記号「<\$タグ名= >」で囲んで登録し、文型一致文検索で翻訳に活用することができます。

たとえば、「I ordered 2 copies of your catalogue by fax on October 1.」を機械翻訳すると「私は、10月1日にファックスであなたのカタログの2部を注文した。」となります。これを、「10月1日のファックスで貴社のカタログを2冊注文しました。」と翻訳したい場合、翻訳メモリに登録すれば、簡単に訳を得られます。また、この文でコピーの部数を示す"2 copies"、通信手段を示す"by fax"、日付を表す"on October 1"などを変更可能にして登録しておけば、日付や通信手段が変わったときにでも、変更された部分だけを翻訳して同じ結果を得られます。この例では、以下のように登録します。

【文型登録の例】

原文：I ordered <\$1> copies of your catalogue by <\$通信手段> on <\$DATE>.
訳文：<\$DATE>に<\$通信手段>で貴社のカタログを<\$1>冊注文しました。
以下の原文を翻訳エディタに入力して翻訳します。

【翻訳結果の例】

原文：I ordered three copies of your catalogue by fax on Sep. 1.
訳文：9月1日にファックスで貴社のカタログを3冊注文しました。

メモ 下線の部分がタグです。訳文側ではタグが翻訳されています。



タグを含む文型一致文検索を利用して翻訳する場合、必ず、翻訳エディタの翻訳設定ダイアログの[翻訳]－[翻訳設定]－[翻訳]で「文型一致文検索」チェックボックスをオンにしてください。

● タグ

タグは、次の形をしています。

● もっとも単純なタグ

もっとも単純なタグは、以下の形式です。

<\$1>
<\$2>
<\$3>

翻訳メモリペインで  をクリックしてタグ指定を行うと <\$1> <\$2> <\$3> ... とタグ名の整数が1つずつ増えていき、最大10個まで指定することができます。タグの数とタグ名は、原文と訳文で一致しなければなりません。

● 詳細指定したタグ

タグにいろいろな情報を付加して、翻訳に役立てることができます。詳細指定したタグは次の形をしています。

<\$タグ名/生成情報=例文>

メモ 「/生成情報」と「=例文」は、省略可能です。「生成情報」は訳文側のタグにのみ使用できます。<.>,\$./,=などの記号は半角です。

英→日【原文側のタグの例】	日→英【原文側のタグの例】
<\$1>	<\$1>
<\$date=December 25>	<\$地名=東京>
英→日【訳文側のタグの例】	日→英【訳文側のタグの例】
<\$name/NP>	<\$name/OBJ>
<\$通信手段/NP=メール>	<\$place/DEF=Red Sea>

● タグ名

タグ名には、アルファベット、数字、ひらがな、カタカナ、漢字を使用することができます。長さは、「\$=」を含めて64バイト（日本語で32文字）までです。

● 例文

文型を翻訳メモリに登録する場合、タグ名（または生成情報）の後に、=に続けて、タグに合致する例文を記述することができます。

【例】

<\$製品/NP=翻訳ソフトウェア>

• 英→日 生成情報

タグ名の後に続けて、生成情報を記述することができます。生成情報は、訳語側のタグで有効なオプションであり、文型一致した原文をどのように翻訳するかを指定するものです。生成情報は「/」で区切って複数記述することができます。不要であれば、省略することもできます。設定可能な生成情報は以下のとおりです。

翻訳モード関連

- NOCASE 原文の大文字小文字を区別しないで翻訳する
- DESU 訳文の語尾を「です・ます」調にする

メモ 指定がない場合は、翻訳エディタの、[翻訳]—[翻訳設定]—[翻訳]の設定に従います。

翻訳ターゲット

- NP 原文を名詞句として訳す
- VP 原文を動詞句として訳す
- AP 原文を形容詞句として訳す
- DP 原文を副詞句として訳す
- SE 文末がピリオドでない原文を文として訳す

メモ 指定がない場合は、名詞句として扱います。



ヒント VPとAPは、次のように、日本語訳語の活用形と送りを指定することができます。

ターゲット:活用形記号 {送り}

活用形記号は、ユーザー辞書登録で使用するものと同じです。

【例】

VP:O{て}

• 日→英 生成情報

タグ名の後に続けて、「/」で区切って生成情報を記述することができます。生成情報は、訳文側のタグで有効なオプションであり、文型一致した原文をどのように翻訳するかを指定するものです。生成情報は「/」で区切れば何個記述してもかまいません。

また、不要であれば、省略できます。

設定可能な生成情報は以下のとおりです。

翻訳ターゲット

- DEFまたはdef 定冠詞を必ず付ける
- NODEFまたはnodef 定冠詞を付けない
- NOINDEFまたはnoindef 不定冠詞を付けない
- NOARTまたはnoart 冠詞を付けない
- PLまたはpl 訳語を複数形にする
- OBJまたはobj 訳語を目的格にする

• タグの対応

原文と訳文においてタグの数とタグ名は一致しなければなりません。一致していない場合、エラーメッセージが表示され、登録できません。

たとえば、以下の例はタグ名が違うので登録できません。

【タグ名が対応していないので登録できない例】

原文：It is another object of this paper to provide <\$何を= the new method>.

訳文：本紙の他の目的は、<\$1=新しい方法>を提供することである。

• 文型（タグを含む文）を登録した場合の登録文

文型の登録で、タグに「=例文」を入れて登録した場合、タグを含む対訳文の登録と、タグを取り除いた対訳文の登録を同時に行います。自動的に2つの対訳文が登録されます。

たとえば、以下のような文型を登録します。

【文型登録の例】

原文：I ordered <\$1=2> copies of your catalogue by <\$通信手段=fax> on

<\$DATE=Feb. 1>.

訳文：<\$DATE=2月1日>に<\$通信手段=ファックス>で貴社のカタログを<\$1=2>冊注文しました。

実際には、完全一致文と文型の2つの対訳文が登録されます。

【完全一致文登録】

原文：I ordered 2 copies of your catalogue by fax on Feb. 1.

訳文：2月1日にファックスで貴社のカタログを2冊注文しました。

メモ タグなしの対訳文が登録される。

【文型登録】

原文：I ordered <\$1> copies of your catalogue by <\$通信手段> on <\$DATE>.

訳文：<\$DATE>に<\$通信手段>で貴社のカタログを<\$1>冊注文しました。

メモ タグ付きの対訳文が登録される。

● タグ指定

原文入力エリアまたは訳文入力エリアで、タグで囲む文字列を選択し、ツールバーの  をクリックするか、または[翻訳メモリ]—[タグ指定]を選択します。文字列が「<\$= >」で囲まれます。

メモ 「タグ指定」でタグ名は、1から10までの数字が使われます。数字は1から始まり、タグ指定することに大きくなり、最後が10になります。「タグ指定」は、最大10個まで指定できます。

● 英単語のタグ指定

英語の「タグ指定」において、単語にカーソルを置いて  をクリックするとカーソル位置の単語が自動的にタグで囲まれます。また、複合語の場合は、先頭の単語の途中から最後の単語の途中までを選択して  をクリックしても、複合語の先頭から最後までがタグで囲まれます。

たとえば、the present inventionをタグ指定する場合は、the present inventionと選択して  をクリックすると<\$1=the present invention>とタグで囲まれます。

● タグ解除

タグで囲んだ部分を元に戻すには、タグにカーソルを置き、ツールバーの  をクリックするか、または[翻訳メモリ]—[タグ解除]を選択します。「<\$タグ名=」と「>」が削除されて、元の文字列に戻ります。



ヒント

範囲選択をしてからタグ解除を実行すると、範囲内のすべてのタグを解除することができます。

● タグの制限

- 1つの文型中に、タグは、最高10個まで付けることができる
- タグは、文中に連続して現れることはできない
【使用できないタグの例】
I order <\$1> <\$2>.
<\$1><\$2> を注文します。
- タグの中に、さらにタグを記述することはできない
【使用できないタグの例】
<\$TAG1=your <\$TAG2>>
<\$TAG1=貴社の<\$TAG2>>
- 文型一致文検索における制限

【例】

<\$1>, <\$2>

のように、タグをカンマで区切ったものを登録することはできますが、「スペースや句点などの違いを無視する」チェックボックスがオンの場合、このような文型は検索の対象となりません。オフにしておけば、このような文型でも検索の対象になります。

- タグにダブルクォーテーションをつけることはできない（英→日のみ）
【使用できないタグの例】
This is called "<\$1>".
- タグに括弧をつけることはできない（英→日のみ）
【使用できないタグの例】
This is called (<\$1>).

3.4.5 対訳文の一括登録

翻訳エディタの対訳文を一括で登録することができます。
一括登録では、翻訳ロックやユーザーロックがかかっている文のみ登録したり、
選択状態の文のみ登録したりすることができます。

● 対訳文の作成

テキストファイルを読み込んだり、他のアプリケーションにある文章をコピーして翻訳し、対訳文を作成します。
必要に応じて、翻訳ロックやユーザーロックを設定します。

● 一括登録の実行

〔翻訳メモリ〕―〔登録〕―〔一括登録〕を選択すると、次のダイアログが表示されます。



一括登録では、「対象とする範囲」と「文の条件」の両方に合致する文が登録されます。

● 対象とする範囲

登録する文を指定します。

すべての文

翻訳エディタにあるすべての対訳文が対象となります。

カレント文

カーソル位置の対訳文のみ対象となります。

選択されている文

翻訳エディタにおいて、原文と訳文が選択されている対訳文が対象となります。

• 文の条件

登録する文の属性を指定します。

ロック無し

翻訳ロックおよびユーザーロックが設定されていない文です。

翻訳ロック

翻訳ロックが設定されている文です。

ユーザーロック

ユーザーロックが設定されている文です。

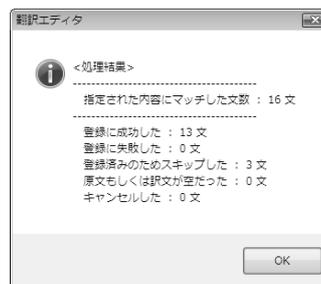
ブックマーク

ブックマークが設定されている文です。このチェックボックスがオンの場合、下部の「名称」でブックマークの種類を指定できます。

• 一括登録の開始

〈OK〉をクリックすると一括登録が開始されます。

登録が終了すると、登録結果に関するダイアログが表示されます。



メッセージの内容を確認して、〈OK〉をクリックします。

3.5 翻訳メモリの環境設定

ここでは、翻訳メモリの検索結果表示において検索条件の設定、対訳文の登録における登録情報の設定について説明します。これらの設定は翻訳メモリの設定ダイアログで設定します。

設定ダイアログでは、検索に使用する翻訳メモリの指定、新規作成を行うこともできます。翻訳メモリの設定に関しては、『3.3 ユーザー翻訳メモリの作成と選択』を参照してください。

以下に「翻訳メモリ」タブ以外の各タブについて説明します。

3.5.1 検索オプション

設定ダイアログの「検索オプション」タブをクリックすると、次の画面が表示されます。



- 検索モード

「検索モード」では、検索方法や検索範囲を変化させることができます。

- 文型一致検索

このチェックボックスがオンの場合、「キーワード検索」または「類似文検索」を実行したときに、「文型一致文検索」も実行されます。

「キーワード検索」では、まず、「キーワード検索」を実行し、原文の語句がすべて含まれる文を検索します。そのような文が見つからない場合、続けて「文型一致文検索」を実行します。

「類似文検索」では、「類似文検索」と「文型一致文検索」の両方が実行され、両方の結果を合わせて、類似度の高いものから順に結果を表示します。

オフにすると、「キーワード検索」でも「類似検索」でも、「文型一致文検索」は実行されません。

• 大、小文字を区別しない

半角 (1バイト文字) のアルファベットの太文字、小文字の違いを無視して検索します。全角 (2バイト文字) のアルファベットについては、必ず、太文字、小文字を違う文字として検索します。



このオプションは、「完全一致文検索」、「類似文検索」、「文型一致文検索」で使用できます。

• スペースや句点などの違いを無視する

検索対象文が英文の場合

次のものを無視して検索します。

- 単語間のスペースの数の違い
- 単語間のカンマ(,)、ハイフン(-)、コロンの(:)、セミコロン(;))
- 文末のピリオド(.)、感嘆符(!)、疑問符(?)

検索対象文が和文の場合

次のものを無視して検索します。

- 文中のスペース
- 文中の句読点(、。)、半角と全角のカンマ(,)、半角のハイフン(-)、半角のコロンの(:)、半角のセミコロン(;)、全角の長音(ー)、中黒(・)
- 文末の句点(。)、全角・半角ピリオド(. .)、感嘆符(!)、疑問符(?)



このオプションは、「完全一致文検索」、「類似文検索」、「文型一致文検索」で使用できます。

メモ 英文の「類似文検索」においては、必ずこの項目のチェックボックスがオンに設定されているものとして検索します。

• 数字と日付を自動的に置き換える

検索対象文と、検索結果の原文との間で、次のように、数字や日付が異なる場合は、検索結果の原文の数字や日付を、検索対象文の対応する数字や日付で置き換え、さらにそれを訳文にも反映させます。

英→日の場合

- "2 copies"と"3 copies"または、"\$1000"と"\$10,000"のように、数字が違う
- "September 30"と"October 2"のように、日付が違う
- "Sep. 30"、"Oct. 2"のような省略文字にも適用されます。

日→英の場合

- 「1冊」と「2冊」、または「1000円」と「10,000円」のように、数字が違う
- 「9月30日」と「10月2日」のように、日付が違う



このオプションは、「類似文検索」でのみ使用できます。

メモ この機能は、漢数字およびone, twoなどのアルファベットで綴ったものに対しては適用されません。



数字と日付以外にも異なる部分がある場合は、置き換えは行われません。対訳データの原文と訳文との間の数字の対応付けは、表面的な文字列の一致で行われています。たとえば、「10人が10個を注文した」のように、同じ数字が複数存在する場合は、原文と訳文との間の数字の対応付けができなくなり、数字の置き換えも行われません。訳文の数字や日付は、表面的に文字列を置き換えているだけです。また、「1 copy」を「2 copies」のように単語の活用語尾を変化させることはできません。

• 表示件数

表示する検索結果の数を変更できます。初期状態では100です。検索結果が、ここで指定した数よりも少ない場合は、検索された数だけ表示されます。検索結果エリアには、999件まで表示できますが、翻訳ブレインが提供しているシステム翻訳メモリから検索できるのは、最大100件までです。

• 一致率

このオプションでは、「一致率」のつまみを左右に動かして類似文検索の範囲を調節します。

パーセンテージが10に近づくほど、類似度をチェックする対訳文の数が増えます。検索の漏れは少なくなります。速度は遅くなります。

パーセンテージが100に近づくほど、類似度をチェックする対訳文の数が減ります。検索速度は速くなりますが、検索に多少の漏れが出る可能性があります。

メモ 完全一致文検索および文型一致文検索では、常に、全対訳文をチェックします。



翻訳ブレインが提供しているシステム翻訳メモリを検索する場合、このオプションは70%未満に設定できません。70%未満に指定しても、70%以上の一致率の対訳文しか検索されません。

- **検索結果表示**

検索結果としてどのようなデータを表示するかを指定します。

- **訳文**

このチェックボックスがオンの場合、検索結果の訳文が結果エリアに表示されます。
オフだと、訳文は表示されません。

- **登録情報**

このチェックボックスがオンの場合、検索結果の付加情報が結果エリアに表示されます。
オフだと、付加情報は表示されません。

- **検索結果の表示順位**

検索結果に同じ文があった場合の表示の順番を指定します。

- **登録日時（降順）**

このチェックボックスがオンの場合、登録日時の新しいものから順に、検索結果が表示されます。

- **作成者**

このチェックボックスがオンの場合、指定した作成者の作成したデータを先に表示します。作成者名は、変更することができます。

- **文書名**

このチェックボックスがオンの場合、指定した文書名の付いたデータを先に表示します。文書名は、変更することができます。

3.5.2 登録情報

設定ダイアログの「登録情報」タブをクリックすると、次の画面が表示されます。

翻訳メモリ 設定

検索オプション 登録情報 翻訳メモリ

登録日時: 2008/09/20 16:43:11 システム日時を使う(T)

作成者: admin ログオンユーザー名を使う(U)

文書名: 無題-EJ1

コメント:

翻訳フラグ

自動翻訳(A) 訳文を確定する時、自動登録する(G)

機械翻訳(M) 登録確認画面を表示しない(C)

人間翻訳(H)

設定(S) キャンセル リセット(R)

ここで設定する内容は、ツールバーのをクリックすると表示される登録ダイアログに反映されます。設定した内容は、登録ダイアログで、一時的に変更することもできます。

- 登録日時

対訳文を登録するときの日時を指定します。
「システム日時を使う」チェックボックスがオンの場合、ご使用のコンピュータに設定されているWindowsのシステム日付が表示されます。オフだと、任意の日時を入力できます。

- 作成者

対訳文の作成者を指定します。
「ログオンユーザー名を使う」チェックボックスがオンの場合、ログオンユーザー名が使われます。オフだと、任意の作成者名を入力できます。

- 文書名

原文を取り込んだ文書（現在翻訳作業中の文書）の名前が表示されます。任意の文書名を入力することもできます。

- コメント

登録する対訳文にコメントが必要な場合に入力します。

- **翻訳フラグ**

- **自動判別**

- このチェックボックスがオンの場合、登録した訳文が機械翻訳かユーザーの翻訳かを自動的に判別します。

- **機械翻訳**

- 登録した訳文が機械翻訳であることを登録情報に付加します。

- **人間翻訳**

- 登録した訳文が人間の翻訳であることを登録情報に付加します。

- **訳文を確定する時、自動登録する**

- このチェックボックスがオンの場合、ツールバーの  をクリックしたとき、表示されている対訳文を自動的に翻訳メモリに登録します。

- **登録確認画面を表示しない**

- 対訳文を登録する際に表示される登録確認画面を表示したくない場合は、このチェックボックスをオンにします。登録表示画面を表示する場合は、オフにします。

3.6 インポート

すでに翻訳済みのマニュアルなどから作成した対訳文をテキスト形式のファイルで保存している場合、それを翻訳メモリに一括登録することができます。ファイルを翻訳メモリに一括登録することを、「インポート」といいます。

3.6.1 インポートできるファイルの種類

インポートできるファイルは以下のとおりです。

- 翻訳ブレインの対訳ファイル (***.txt, .out)
- TSV形式ファイル (Excelなどの表計算ソフトで作成される ***.tsv, txt)
- CSV形式ファイル (Excelなどの表計算ソフトで作成される ***.csv)
- 英→日翻訳ファイル (***.edh, eph, emh)
- 日→英翻訳ファイル (***.jdh, jph, jmh)
- 翻訳メモリファイル (***.ty2)
- 旧翻訳メモリファイル (***.tyx)
- TMXファイル (***.tmx)
- 翻訳メモリntm形式ファイル (***.ntm)
- Translation Manager/2形式ファイル (***.exp)

翻訳メモリファイル以外は、すべてテキストファイルなので、エディタやワープロソフトなどで簡単に対訳文の追加や修正を行えます。



インポート元のファイル形式は、ファイル名の拡張子によって決まります。インポート元となるファイルを作成する際には、拡張子にご注意ください。

以下に各ファイルについて説明します。

● 翻訳ブレインの対訳ファイル

翻訳エディタで[ファイル]－[名前を付けて保存]を選択して作成した対訳ファイルです。ファイル名には、通常 .txtという拡張子が付けられています。対訳ファイルの作成方法については、『3.6.2 対訳ファイルの作り方』も参照してください。

翻訳ブレイン対訳ファイルの例

--/H

I ordered 2 copies of your catalogue by fax on October 2.

10月2日にファックスで貴社のカタログを2冊注文しました。

- **TSV形式ファイル**

各行に、原文と訳文をタブで区切って保存したファイルです。原文テキストファイルと訳文テキストファイルが別々にあるような場合は、たとえばExcelなどの表計算ソフトを使用して、コラムAに原文を、コラムBに訳文を読み込み、タブ区切りでファイルを保存すると作成できます。拡張子は .tsv です。

- **TSV形式ファイルの例**

- "I ordered 2 copies of your catalogue by fax on October 2.<TAB>¥
10月2日にファックスで貴社のカタログを2冊注文しました。

- なお、ここでは、¥で改行されていますが、実際には1行に記述します。

- **CSV形式ファイル**

各行に、原文と訳文をカンマで区切って保存したファイルです。原文テキストファイルと訳文テキストファイルが別々にあるような場合は、たとえばExcelなどの表計算ソフトを使用して、コラムAに原文を、コラムBに訳文を読み込み、CSV形式でファイルを保存すると作成できます。拡張子は .csv です。

- **CSV形式ファイルの例**

- "I ordered 2 copies of your catalogue by fax on October 2.", ¥
"10月2日にファックスで貴社のカタログを2冊注文しました。"

- なお、ここでは、¥で改行されていますが、実際には1行に記述します。

- **翻訳ブレインの翻訳ファイル**

翻訳エディタで[ファイル]ー[上書き保存（または「名前を付けて保存」）]を選択して作成した「翻訳ファイル」です。ファイル名には、通常英→日の場合.edh、日→英の場合.jdhという拡張子がつけられています。翻訳ファイルのインポートでは、すべての対訳文のインポート、または、ロックのかかっている文のみのインポートを実行できます。

- **翻訳メモリファイル**

翻訳ブレインの翻訳メモリペインで登録して作成した翻訳メモリファイルで、拡張子は .ty2 です。

翻訳メモリファイルをインポート元に指定すると、複数の翻訳メモリを1つのファイルにまとめる（マージする）ことができます。

- **旧翻訳メモリファイル**

旧バージョンで作成された翻訳メモリファイルで、拡張子が .tyx の場合があります。このファイルを翻訳ブレインの翻訳メモリファイルとして使うには、インポートが必要です。

- **TMX形式ファイル**

翻訳メモリの国際標準フォーマットであるTMXファイルをインポートできます。TRADOSなどの他のアプリケーションで作成した翻訳メモリを、TMX形式に変換すれば、翻訳ブレインの翻訳メモリとしてインポートできます。TMX 1.1と1.4に対応しています。

- **翻訳メモリntm形式ファイル**

翻訳メモリの内容を以下のようなntmテキスト形式に変換したファイルです。ファイル名には、ntmという拡張子を付けてください。ntm形式の詳細は、『3.6.6 ntm形式ファイル』を参照してください。

ntm形式ファイルの例

```
<NovaTMData>
<Description>test</Description>
<Original>I ordered 2 copies of your catalogue by fax on October 2.</Original>
<Translation>10月2日にファックスで貴社のカタログを2冊注文しました。
</Translation>
<Information>2010/10/1 12:00:00 %% admin %% H %% E %% J %% 注文
書 %% </Information>
</NovaTMData>
```

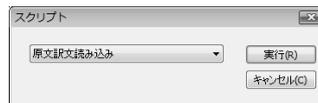
- **Translation Manager/2形式ファイル**

IBM社の製品である、Translation Manager/2形式ファイルです。ファイル名には、通常 .expという拡張子が付けられています。形式の詳細は、Translation Manager/2の説明書を参照してください。

3.6.2 対訳ファイルの作り方

翻訳ブレインで作成した対訳文を「対訳ファイル」に保存して、この「対訳ファイル」をインポートすることで、一括で対訳文を登録することができます。別ファイルに保存した原文テキストファイルと訳文テキストファイルを翻訳ブレインへ読み込んで、対訳文を作成することもできます。テキストファイルは、製品に添付されているスクリプトを利用して読み込み、翻訳エディタで原文と訳文の対応を整えて、「対訳ファイル」に保存します。ここでは、すでに原文テキストファイルと訳文テキストファイルが準備されている場合について説明します。

- 手順** 1. [ツール]—[スクリプト]を選択します。リスト内にある「原文訳文読み込み」を選択します。



2. 〈実行〉をクリックします。
原文ファイルを指定ダイアログが表示されます。



3. 原文テキストファイルを選択して〈開く〉をクリックします。
訳文ファイルを指定ダイアログが表示されます。



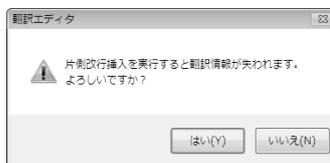
4. 訳文テキストファイルを選択して〈開く〉をクリックします。

翻訳エディタに指定した原文ファイルと訳文ファイルが各々のエリアへ読み込まれます。

翻訳ブレインで翻訳する場合は、一文ごとに文番号が振られ、原文と訳文は1対1の対応でしたが、翻訳メモリ用の対訳文は、1対1の対応である必要はありません。たとえば、原文は「How have you been?」で、訳文は「久しぶりね。元気ですか?」と複数の文を1つの文番号に書き込んでかまいません。カット&ペーストで複数の文をつなげたり、切ったりして編集してください。通常、翻訳エディタでは原文エリアと訳文エリアが連動して上下に移動しますが、一方だけを文分割して、もう片方のエリアはそのままにすることができます。

5. 文分割したいところへカーソルを移動します。
6. 翻訳エディタにある[編集]—[片側改行挿入]を選択するか、**Shift+Enter**を押します。

次の確認メッセージが表示されることがあります。



メモ 片側改行挿入を実行する位置以降の文章に翻訳情報がない場合、確認メッセージは表示されません。

7. **〈はい〉** をクリックします。
カーソル位置で文分割され、文番号が振りなおされます。もう片方のエリアはそのままの状態が残ります。
編集が終了したら、「対訳ファイル」に保存します。
8. 翻訳エディタにある[ファイル]—[名前を付けて保存]を選択します。
名前を付けて保存ダイアログが表示されます。



9. 「ファイルの種類」を「対訳ファイル」に変更して、「ファイル名」ボックスに適切なファイル名を入力してから**〈保存〉** をクリックします。
これで、「対訳ファイル」として保存されました。『3.6.3 翻訳メモリに一括登録する』を参照して、「インポート元」に作成した対訳ファイルを指定すると、一括で対訳文が登録されます。

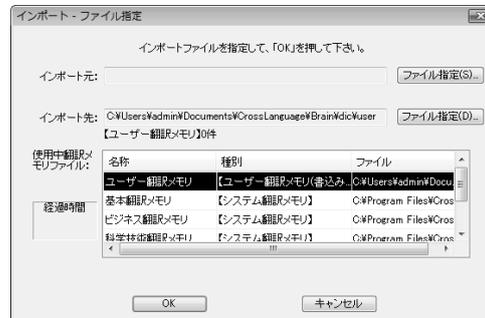
3.6.3 翻訳メモリに一括登録する（インポートの手順）

あらかじめ作成したテキスト形式の対訳文ファイルを翻訳メモリに一括で登録することができます。手順は以下のとおりです。

手順

1. 【翻訳メモリ】-【インポート】を選択します。

インポートファイル指定ダイアログが表示されます。



2. インポート元のファイルを指定します。「インポート元」に、前回作業時のインポート元ファイル名が残っています。新しくファイルを指定する場合は、〈ファイル指定〉をクリックします。

ファイルを開くダイアログが表示されます。



インポート元となるファイルを選択し、〈開く〉をクリックします。

「ファイルの種類」の▼をクリックすると、選択可能なファイル形式の一覧が表示されるので、ファイルの拡張子を適切に選択すると、ファイル名リストが変更されます。たとえば、TMX形式のファイルであれば、「ファイルの種類」を「TMX形式 (*.tmx)」を選択します。

「インポート元」のファイルが指定されます。

3. インポート先のファイルを指定します。「インポート先」に、前回作業時のインポート先ファイル名が残っています。新しくファイルを指定する場合は、「使用中翻訳メモリファイル」リスト中からインポート先に指定するファイルをダブルクリックするか、または〈ファイル指定〉をクリックします。
 〈ファイル指定〉をクリックした場合は、ファイルを開くダイアログが表示されます。



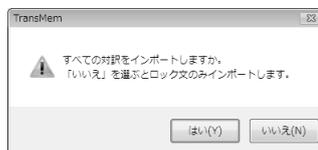
インポート先となるファイルを選択し、〈開く〉をクリックします。「インポート先」のファイルを指定します。



- ヒント** インポート先に既存の翻訳メモリを指定した場合、インポート元の対訳文が追加されます。
 インポート先に新規ファイルを指定した場合、新規に翻訳メモリを作成することができます。

4. 〈OK〉をクリックします。

インポート先に翻訳メモリを指定した場合、すべての対訳文のインポート、または、ロックのかかっている文のみのインポートを実行できます。次のダイアログが表示されます。



すべての対訳文をインポートする場合は〈はい〉、ロックのかかっている文のみをインポートする場合は〈いいえ〉をクリックします。
 インポートが開始されます。

3.6.4 TMXファイルのインポート

翻訳メモリの国際標準フォーマットであるTMXファイルをインポートできます。手順は以下のとおりです。

手順

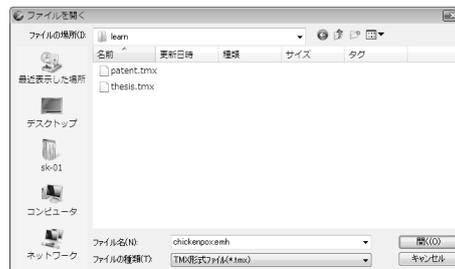
1. **【翻訳メモリ】-【インポート】**を選択します。

インポートファイル指定ダイアログが表示されます。



2. インポート元のファイルを指定します。「インポート元」に、前回作業時のインポート元ファイル名が残っています。新しくファイルを指定する場合は、**〈ファイル指定〉**をクリックします。

ファイルを開くダイアログが表示されます。



インポート元となるファイルを選択し、**〈開く〉**をクリックします。「ファイルの種類」の▼をクリックすると、選択可能なファイル形式の一覧が表示されるので、「TMX形式 (*.tmx)」を選択します。「インポート元」のTMXファイルが指定されます。

3. インポート先のファイルを指定します。「インポート元」に、前回作業時のインポート先ファイル名が残っています。新しくファイルを指定する場合は、「使用中翻訳メモリファイル」の中からインポート先に指定するファイルをダブルクリックするか、または**〈ファイル指定〉**をクリックします。

ファイルを開くダイアログが表示されます。インポート先となるファイルを選択し、**〈OK〉**をクリックします。インポート先のファイルを指定します。

4. **〈OK〉**をクリックします。

インポートが開始されます。

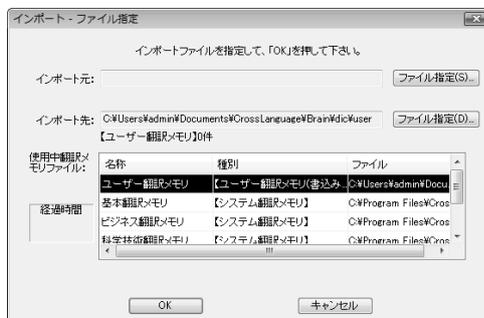
3.6.5 翻訳メモリのマージ

すでにある複数の翻訳メモリを1つにまとめることができます。これを翻訳メモリを「マージする」といいます。翻訳メモリのマージはインポート元に既存の翻訳メモリを指定することで行えます。手順は以下のとおりです。

手順

1. [翻訳メモリ]—[インポート]を選択します。

インポート—ファイル指定ダイアログが表示されます。



2. インポート元のファイルを指定します。「インポート元」に、前回作業時のインポート元ファイル名が残っています。新しくファイルを指定する場合は、〈ファイル指定〉をクリックします。

ファイルを開くダイアログが表示されます。



ここで、既存の翻訳メモリを指定します。

インポート元となる翻訳メモリを選択し、〈開く〉をクリックします。

インポート元の翻訳メモリが指定されます。

3. インポート先のファイルを指定します。「インポート先」に、前回作業時のインポート先ファイル名が残っています。新しくファイルを指定する場合は、「使用中翻訳メモリファイル」の中からインポート先に指定するファイルをダブルクリックするか、または〈ファイル指定〉をクリックします。

ファイルを開くダイアログが表示されます。

インポート先となるファイルを選択し、〈OK〉をクリックします。

インポート先のファイルが指定されます。

4. 〈OK〉をクリックします。

インポートが開始されます。

3.6.6 ntm形式ファイル

翻訳メモリのntm形式ファイルのフォーマットは、以下のとおりです。

```
<NovaTMData>
<Description>翻訳メモリ名称</Description>
<Original> 原文 </Original>
<Translation> 訳文 </Translation>
<Information> 付加情報 </Information>
上記3つのデータの繰り返し
</NovaTMData>
```

「付加情報」のフォーマットは以下のとおりです。

```
登録日時 %% 登録者名 %% 翻訳フラグ %% 文書名 %% 原文言語
%% 訳文言語 %% コメント
登録日時:      yyyy/mm/dd hh:mm:ss
登録者名:      任意の文字列
翻訳フラグ:    /H (人間翻訳) / M (機械翻訳)
原文言語:      E (英語) / J (日本語)
訳文言語:      E (英語) / J (日本語)
コメント:      任意の文字列
```

ntm形式ファイルの例：

```
<NovaTMData>
<Description>Order_form</Description>
<Original>I ordered 2 copies of your catalogue by fax on October 2.</Original>
<Translation>10月2日にファックスで貴社のカタログを2冊注文しました。
</Translation>
<Information>2010/10/1 12:00:00 %% admin %% H %% 注文書 %%
E %% J %% </Information>
</NovaTMData>
```

3.7 エクスポート

作成した翻訳メモリを、テキストファイルに書き出すことができます。この操作を「エクスポート」といいます。翻訳メモリをエクスポートすると、エディタやワープロソフトなどで簡単に対訳文の追加や修正を行えます。追加・修正したファイルをインポートして新しい翻訳メモリとして使用できます。大規模な翻訳メモリのメンテナンスは、テキスト形式ファイルをソースファイルとして作業することをお勧めします。

3.7.1 エクスポートできるファイル形式

エクスポート先となるテキストファイルには次の3種類があります。

- TMXファイル (***.tmx)
- 翻訳メモリntm形式ファイル (***.ntm)
- 翻訳ブレインの対訳ファイル (***_tm.txt)
- TSV形式ファイル (Excelなどの表計算ソフトで作成される ***.tsv, txt)
- CSV形式ファイル (Excelなどの表計算ソフトで作成される ***.csv)

ntm形式ファイルでエクスポートすると、対訳文の登録で付加した登録情報も書き出されます。翻訳ブレインの対訳ファイルでエクスポートした場合、登録情報は書き出されません。必要に応じてエクスポートするファイル形式を選択してください。

● TMX形式ファイル

翻訳メモリの国際標準フォーマットであるTMXファイルへエクスポートできます。エクスポートしたファイルはTRADOSなどTMX形式をインポートできる他のアプリケーションへインポートできます。TMX 1.1と1.4に対応しています。

● ntm形式ファイル

翻訳メモリの内容をそのままテキスト形式に変換したファイルです。ファイル名の拡張子は、.ntmです。ntm形式の詳細は、『3.6.6 ntm形式ファイル』を参照してください。

翻訳メモリペインで対話的に登録を行った場合、登録情報を確認するには、ntm形式ファイルでエクスポートしてください。

ntm形式ファイルの例

```

<NovaTMData>
<Description>テスト用翻訳メモリ </Description>
<Original>I ordered <$1> copies of your catalogue by <$通信手段> on
<$DATE>.</Original>
<Translation><$DATE>に<$通信手段>で貴社のカタログを<$1>冊注文しま
した。</Translation>
<Information>2010/10/1 12:00:00 %% admin %% H %% 注文書 %% E %%
J %%</Information>
<Original>It is <$1=natural> that he is angry.</Original>
<Translation>彼が怒るのも<$1/AP:S{}=もっともだ>。</Translation>
<Information>2010/10/1 12:00:00 %% admin %% H %% 注文書 %% E %%
J %%</Information>
<Original>It is <$1=natural> that <$2=he is angry>.</Original>
<Translation><$2/SE=彼が怒る>のも<$1/AP:S{}=もっともだ>。</Translation>
<Information>2010/10/1 12:00:00 %% admin %% H %% 注文書 %% E %%
J %%</Information>
</NovaTMData>

```

● **翻訳ブレインの対訳ファイル**

翻訳ブレインの対訳ファイルです。ファイル名に `_tm`を追加して、拡張子は `.txt`です。（`***_tm.txt`）翻訳メモリの内容のうち、原文・訳文と翻訳フラグのみが出力されます。

● **タブ区切りファイル**

各行に、原文と訳文を各々クォーテーション（`"`）で囲み、タブで区切って保存したファイルです。拡張子は `.tsv`です。

● **カンマ区切りファイル**

各行に、原文と訳文を各々クォーテーション（`"`）で囲み、カンマで区切って保存したファイルです。拡張子は `.csv`です。

3.7.2 翻訳メモリの内容を書き出す（エクスポートの手順）

翻訳メモリペイン上で、翻訳メモリファイルをエクスポートする手順は、以下のとおりです。

手順

1. **[翻訳メモリ]—[エクスポート]**を選択します。

エクスポート—ファイル指定ダイアログが表示されます。



2. エクスポート元のファイルを指定します。「エクスポート元」に、前回作業時のエクスポート元ファイル名が残っています。新しくファイルを指定する場合は、「使用中翻訳メモリファイル」からエクスポート元に指定するファイル名をダブルクリックするか、または〈ファイル指定〉をクリックします。ファイル名をダブルクリックした場合、エクスポート元のファイルに指定されます。〈ファイル指定〉をクリックした場合、ファイルを開くダイアログが表示されるので、エクスポート元のファイルを指定します。
3. エクスポート先のファイルを指定します。「エクスポート先」に、前回作業時のエクスポート先ファイル名が残っています。新しくファイルを指定する場合は、〈ファイル指定〉をクリックします。名前を付けて保存ダイアログが表示されます。エクスポート先となるファイルを選択するか、ファイル名を入力して新規にファイルを作成し、〈OK〉をクリックします。エクスポート先のファイルが指定されます。
4. 〈OK〉をクリックします。エクスポートが開始されます。〈キャンセル〉をクリックすると、エクスポートは行われず、翻訳メモリペインに戻ります。



エクスポート先のファイル形式は、ファイル名の拡張子によって決まります。拡張子が.tmxの場合はTMXファイル、.ntmの場合は翻訳メモリntm形式、.txtの場合は翻訳ブレインの対訳ファイル形式になります。

名前を付けて保存ダイアログで新しいファイル名を入力するとき、拡張子を省略すると自動的に.ntmが付けられます。

第 4 章 辞書の活用

この章の内容

翻訳ブレインでは、基本語辞書のほかに専門語辞書とユーザー辞書を使用して翻訳ができます。参照用としては、ジーニアス英和辞典とジーニアス和英辞典なども搭載しています。辞書を活用すれば、翻訳精度も上がります。この章では、翻訳に使用する辞書の設定方法、ユーザー辞書の構築方法などを説明します。

4.1 辞書の構成

翻訳プレインでは、次の辞書を使用できます。

基本語辞書	翻訳の標準となる辞書 英→日用：118万語 日→英用：185万語
ユーザー辞書	ユーザー自身が必要に応じて作成する辞書 1辞書につき10万語まで登録可能。必要に応じて単語とその意味を登録します。
専門語辞書	専門分野別に専門用語を収録

● 基本語辞書

基本語辞書は翻訳の際に、標準で使用される辞書です。日常的に使われる単語や用語のほとんどがこの辞書に収録されています。この辞書に対する、単語の追加や削除はできません。

メモ ただし英→日の場合、翻訳設定ダイアログの「訳の指定」で助動詞に対して「<<辞書の訳>>」以外の項目を選択すると、助動詞can, willなどを助動詞以外の品詞（canを「缶詰にする」、willを「遺言」など）としては解釈しないようにできます。詳しくは、『5.1.1.3 英→日 訳の指定』を参照してください。

● ユーザー辞書

ユーザー辞書は、基本語辞書や専門語辞書に登録されていない単語や、登録されていても、希望する訳語がない単語を登録する場合に利用します。

ユーザー辞書を使うことにより、訳文を改善することができます。分野によって様々な用語や表現が使われるため、翻訳システムの実用的な運用にはユーザー辞書の構築が重要です。ユーザー辞書の作成方法には、辞書登録ダイアログを使って単語を登録する方法と、ワープロやExcelを使ってテキストファイルに単語と意味を入力して、翻訳プレインで一括して登録する方法があります。翻訳作業中に逐次、語句を登録する場合は、辞書登録ダイアログから登録すると便利です。すでに見出し語と訳語のリストが作成されていたり、大量の語句を登録する場合は、テキストファイル（ソース形式）を使った一括登録の方が便利です。

辞書登録ダイアログからの登録について、『4.8 ユーザー辞書に単語を登録する』と「ヘルプ」、テキストファイルを使った一括登録については、『4.10.2 辞書ソースをユーザー辞書へ一括・追加登録する』で詳しく説明しています。

また、ユーザー辞書に登録されている語句の一覧表示や更新については、『4.9 ユーザー辞書ブラウザ』を参照してください。

● 専門語辞書

専門語辞書は、分野別に専門用語を収録した辞書です。対象の文書に応じて必要な分野の専門語辞書を指定することにより翻訳精度を高めることができます。翻訳設定ダイアログの「辞書」タブをクリックすると表示されるダイアログで使用する辞書を選択します。専門語辞書の設定方法に関しては、『4.6 専門語辞書の設定』を参照してください。

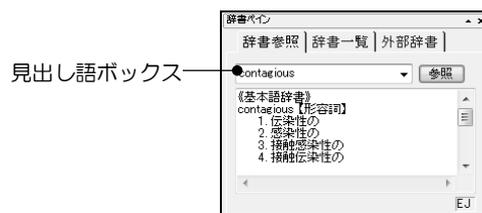
専門辞書とユーザー辞書は、合わせて最大10個まで、同時に使用できます。製品により添付される専門語辞書は、異なります。

● 外部辞書

外部辞書は、翻訳には使われない、参照するための辞書です。一般的な辞書の形式で、意味だけでなく例文なども書かれています。シーニアス英和辞典とシーニアス和英辞典を参照することができます。

4.2 翻訳辞書の参照

辞書参照は、基本語辞書、専門語辞書、ユーザー辞書、学習辞書に登録されている単語の意味や品詞などを表示する機能です。辞書の内容は、辞書ペインの「辞書参照」タブに表示されます。



見出し語は以下の方法で入力できます。

- 翻訳エディタでダブルクリックして文字列を選択する
- 「見出し語」にキーボードから見出し語を直接入力して〈参照〉をクリックする
- 辞書参照したい文字列を選択して[翻訳辞書]－[参照]を選択する
- 英→日では、見出し語とする単語へカーソルを置いて[翻訳辞書]－[参照]を選択する

● 辞書参照の操作方法

辞書参照の操作方法は、以下のとおりです。

【例】「take」の参照

手順

1. 辞書ペインで「辞書参照」タブをクリックします。
2. 見出し語ボックスに、たとえば「take」と入力します。
3. Enterキーを押すか、または〈参照〉をクリックします。

基本語辞書、学習辞書（英→日のみ）と[翻訳]－[翻訳設定]－[辞書]で設定したすべての辞書に登録されている品詞、意味が表示されます。



メモ 参照した単語の履歴が保存されるので、一度見た単語を参照する場合は、履歴から選択することができます。

見出し語ボックスの右端の矢印をクリックすると、参照した単語の履歴が表示されます。



履歴にある語句をクリックすると、その語句を見出し語として辞書参照が実行されます。

● 英→日 辞書の見かた

基本語辞書、専門語辞書、ユーザー辞書のいずれの訳語にも、簡易登録されているものと詳細登録されているものがあります。

簡易登録	見出し語に対し、訳語だけ登録する
詳細登録	見出し語に対し、訳語だけでなく、意味素性(その単語がどのような意味合いを持つかを表す属性)や前後に続く語句などを登録する

ここでは、詳細登録した単語の参照について説明します。

【例】「work」の参照

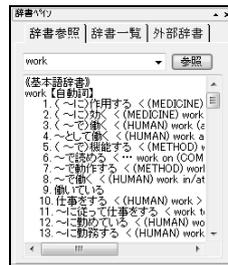
手順

1. 見出し語ボックスに"work"と入力します。

2. 〈参照〉をクリックします。

次のウィンドウに、辞書内容が、次の順序で表示されます。

(訳語に係る助詞) 訳語 〈見出し語の用法〉



具体的に訳語を見てみると次のようになります。

【名詞】の訳語「(〜の) 研究 (on ~)」では、"work"が名詞として使われ、それに続く前置詞が"on"の場合、「〜の研究」と訳されます。

例文：Work on the new translation system will begin in June.

訳文：新しい翻訳システムの研究は、6月に開始する。

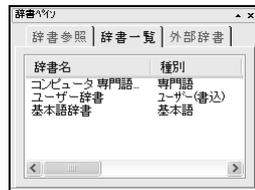
【自動詞】の訳語「〜で働く (HUMAN) work in/at/for ~」では、"work"が動詞として使われ、主語の意味素性が人間 (HUMAN) でworkに続く前置詞がin, at, forの場合、「働く」と訳されます。

例文：Mary worked at a restaurant.

訳文：メアリーは、レストランで働いた。

● 翻訳に使用する辞書の一覧表示

辞書パインの「辞書一覧」タブでは、翻訳で使用している辞書を確認できます。「辞書一覧」タブをクリックすると次のダイアログが表示されます。



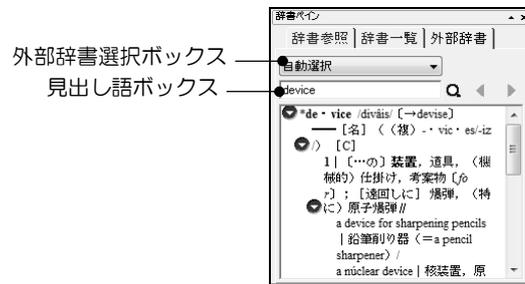
上記の例では、「コンピュータ専門語辞書」、「ユーザー辞書」、「基本語辞書」が使用されています。



「辞書一覧」タブにある辞書名をダブルクリックすると、辞書設定ダイアログが表示されます。

4.3 外部辞書

辞書ペインの「外部辞書」タブでは、参照用のジーニアス英和辞典とジーニアス和英辞典の辞書引きを行えます。



● 外部辞書選択ボックス

外部辞書選択ボックスで参照する辞書を指定します。初期状態のままです。翻訳ブレイクのインストールを実行した場合、ジーニアス英和辞典とジーニアス和英辞典が、外部辞書として組み込まれます。

項目名	参照する辞書
自動選択	インストールされているすべての外部辞書
ジーニアス英和	ジーニアス英和辞典
ジーニアス和英	ジーニアス和英辞典

● 外部辞書の検索

「見出し語」に語句を入力してQをクリックすると辞書検索が実行されます。◀をクリックすると前の見出し語、▶をクリックすると次の見出し語を表示します。

4.4 未知語検索機能

「未知語検索」機能は、翻訳用に設定した辞書のいずれにも登録されていない単語を検索する機能です。検索した未知語を修正したり、ユーザー辞書に登録することもできます。未知語検索は、開いた文書内の未知語を1つずつ検索し、反転表示しますが、「未知語リスト出力」は、開いた文書内のすべての未知語をファイルに書き出す機能です。未知語リスト出力機能を利用すれば、ユーザー辞書に登録すべき単語の見出し語一覧を簡単に作成できます。

4.4.1 未知語検索

未知語検索は、カーソルのある位置からファイルの下方方向に向かって行われます。

翻訳を始める前に未知語をユーザー辞書へ登録しておく、翻訳作業を円滑に進めることができます。

未知語検索の操作手順は、以下のとおりです。

手順

1. [翻訳]－[翻訳設定]－[辞書]で翻訳に使う辞書を設定します。



未知語をユーザー辞書に登録する場合は、あらかじめユーザー辞書を設定しておいてください。

2. 未知語検索を開始する文の先頭へカーソルを置きます。

3. [編集]－[未知語検索]を選択します。

未知語検索が開始されます。未知語があると、翻訳エディタの未知語が反転表示され、未知語検索ダイアログが表示されます。



「検索された未知語」に検索された未知語が表示されています。

- 未知語を正しい語句に修正する

初期状態で「置換後の文字列」には、「検索された未知語」と同じ語句が入力されます。「置換後の文字列」へ正しい語句を入力して、〈置換〉をクリックすると翻訳エディタの未知語と置き換わります。同一文書内の未知語検索において未知語と置換語は対で記憶され、次に同じ未知語が検索された場合、自動的に前回の置換語が「置換後の文字列」に表示されるので、一度検索された文字列に対しては、〈置換〉をクリックするだけで正しい語句に置き換わります。

- 同じ未知語を無視する

検索された未知語を以降の未知語検索の対象から省く場合は、「同じ未知語は検索しない」チェックボックスをオンにして、「次を検索」をクリックします。このチェックボックスをオフにして「次を検索」をクリックすると、以降の検索で、「検索された未知語」も検索対象となります。

- 未知語をユーザー辞書に登録する

〈辞書登録〉をクリックすると、辞書登録ダイアログが表示されます。見出し語には自動的に未知語が入力されます。または、翻訳実行後、未知語をトリプルクリックするとユーザー辞書へ登録するかを確認するメッセージが表示され、〈はい〉をクリックすると未知語を見出し語として、辞書登録ダイアログが表示されます。

辞書登録の詳細は、『4.8 ユーザー辞書に単語を登録する』と「ヘルプ」を参照してください。ユーザー辞書が設定されていない場合は、辞書設定ダイアログが表示されるので設定してください。ユーザー辞書の設定方法は、『4.5 ユーザー辞書の作成と選択』を参照してください。

- 英→日 簡条書きと大文字の扱い

属性が簡条書きの文で、翻訳設定の「大文字を小文字にして訳す」がオフで文の先頭の文字が大文字で辞書登録されていない場合、未知語として扱われます。たとえば、"2. There are more than ten commercial machine translation systems in Japan."の文で"There"は未知語になりますが、"3. I took a bath."の"I"は未知語になりません。

また、翻訳設定で「大文字を小文字にして訳す」チェックボックスがオフの場合、大文字で辞書登録されていない語句は、未知語となります。

たとえば、"MAY I HAVE A CUP OF TEA."の文で、MAY, HAVE, CUPは未知語となります。

- 連語の扱い

英→日では、翻訳設定の「合成語を分割して訳す」チェックボックスがオンの場合、2つ以上の単語がつながって1語を構成する連語は、辞書設定にしたがって連語に含まれる各単語が翻訳されます。

しかし未知語検索では、「合成語を分割して訳す」の設定に関わらず連語自体が1語として登録されていないと未知語として扱います。

たとえば、Chlorohydroxooxophenylphosphorusという語は、chloro, hydroxo, oxophenyl, phosphorusの化学式の連語で、翻訳すると「クロロ・ヒドロキシ・オキシ・フェニル・リン」と訳出されますが、未知語検索や未知語リスト出力では、未知語として扱われます。

4.4.2 未知語リスト出力

翻訳を始める前に未知語リストファイルを作成して、未知語をユーザー辞書に登録しておく、翻訳作業を円滑に進めることができます。

未知語検索の操作手順は、以下のとおりです。

手順

1. [翻訳]—[翻訳設定]—[辞書]で翻訳に使う辞書を設定します。
2. [ツール]—[未知語リスト出力]を選択します。

未知語リスト出力が開始されます。

未知語が見つかった場合、次の未知語リスト出力ダイアログが表示されます。

未知語が見つからなかった場合、以降の手順は不要です。



3. 未知語リストのファイル名を入力して〈保存〉をクリックします。

拡張子は、辞書ソースフォーマットの拡張子を使用していますが、他の拡張子を指定することもできます。英→日の場合opt、日→英の場合dicを使用しています。

4. 未知語リスト出力が終了すると、未知語リストをエディタで表示するかを確認するメッセージが表示されます。必要に応じて、エディタで表示することもできます。

● 未知語リストのフォーマット

未知語リストは、以下の形式で保存されます。

英→日の形式

未知語:改行

日→英の形式

*未知語 = 改行

これは、ユーザー辞書登録の書式です。実際には、見出し語の品詞、訳語、意味素性（その単語がどのような意味合いを持つかを表す属性）や前後に続く語句などを登録することができます。辞書ソースの書式に関しては、[すべてのプログラム]—[翻訳プレイン3]—[ヘルプ]を選択して、英→日の場合『EJ 辞書記述』、日→英の場合『JE 辞書記述』を参照してください。

また、作成した未知語リストファイルを一括でユーザー辞書に登録することもできます。辞書の一括登録に関しては、『4.10 ユーザー辞書の一括登録と変換』を参照してください。

4.5 ユーザー辞書の作成と選択

翻訳ブレインには基本語辞書が搭載されていますが、必要に応じて専門用語を登録したり、訳語を追加してユーザー辞書を構築することにより、翻訳精度を高めることができます。

翻訳ブレインでは、使用するユーザー辞書と専門語辞書を選択したり、その優先順位を指定することができます。辞書の設定は、「スタイル」に保存されます。スタイルについては、『5.1 翻訳に関する設定』を参照してください。

辞書の新規作成と設定は、[翻訳]—[翻訳設定]—[辞書]で行います。

[翻訳]—[翻訳設定]を選択して「辞書」タブをクリックすると、次のダイアログが表示されます。



初期状態では基本語辞書と「ユーザー辞書」という登録用のユーザー辞書が設定されています。

辞書設定ダイアログの表示項目は、以下のとおりです。

利用できる辞書	インストール済みの専門語辞書など利用可能な辞書
使用中の辞書	翻訳で使用される辞書
辞書名	辞書の名称。ファイル名とは別の名前を付けることができる。分野別、用途別など必要に応じて個別に名前を付けると、辞書の分類に役立つ
種別	辞書の種類。「基本語」、「専門語」、「ユーザー（書込）」（登録用ユーザー辞書）、「ユーザー（読込）」（参照用ユーザー辞書）などがある

● 使用する辞書を選択する

翻訳プレインでは、専門語辞書を含めて最大10個までのユーザー辞書を同時に使用できます。



辞書設定リストに既に11個（基本語辞書+その他の辞書10個）の辞書が設定されている場合、〈追加〉は使用できません。

「利用できる辞書」リストで辞書を選択して、〈追加→〉をクリックすると「使用中の辞書」リストに追加されます。



この例では、「コンピュータ専門語辞書」を追加しました。

● 「利用できる辞書」リストへ辞書を追加する

「利用できる辞書」リストへ辞書を追加する場合は、「利用できる辞書」リスト下部にある〈ファイル〉をクリックします。辞書の登録ダイアログが表示されます。



辞書ファイルを選択して〈開く〉をクリックすると「利用できる辞書」リストに追加されます。

- 辞書を翻訳で使用しないように設定する

辞書設定ダイアログの右側「使用中の辞書」にある辞書を選択して、〈←削除〉をクリックすると、「利用できる辞書」リストに移動して翻訳では使用されません。



基本語辞書を「使用中の辞書」リストから外すことはできません。

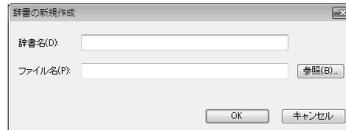
- 新規にユーザー辞書を作成する

新しくユーザー辞書を作成する方法は、以下のとおりです。

手順

1. 〈新規〉をクリックします。

次のダイアログが表示されます。

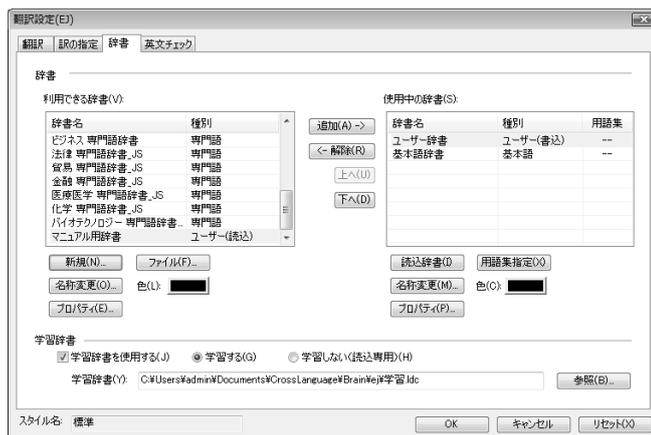


2. 「辞書名」に新規作成する辞書の名称を入力します。
3. 初期状態でユーザー辞書の保存場所はホームディレクトリの下に、英→日の場合ejフォルダ、日→英の場合jeフォルダに設定されています。保存場所を変更する場合は、「ファイル名」の右にある〈参照〉をクリックします。辞書の新規作成ダイアログが表示されるので、ユーザー辞書を保存する場所に移動し、新しいファイル名を入力してから〈保存〉をクリックします。ユーザー辞書の保存場所を変更しない場合は、「ファイル名」に新規作成する辞書のファイル名だけを入力します。
4. たとえば、「辞書名」に「マニュアル用辞書」、「ファイル名」に「mydic」と入力します。



5. 〈OK〉をクリックします。

辞書設定ダイアログに戻ります。



新規作成したユーザー辞書は、「利用できる辞書」リストに追加されます。必要に応じて「使用中の辞書」に追加してください。

● **書き込み可能なユーザー辞書を指定する**

ユーザー辞書は、目的に応じて複数作成して使用することができます。ただし、書き込み可能な辞書として開けるのは1つだけです。



専門語辞書や基本語辞書を書き込み可能な辞書に指定することはできません。

「使用中の辞書」リストで書き込み用とするユーザー辞書を選択して、〈書込辞書〉をクリックします。また、書き込み用のユーザー辞書を選択し、〈読込辞書〉をクリックすると、参照用の辞書となり書き込むことはできません。

● **辞書の優先順位を指定する**

辞書は優先順位の高いものから並べられます。（優先順位の意味は後述します。）追加された辞書は、辞書設定ダイアログで選択して反転表示されている辞書がある場合は、その上に追加され、ない場合はリストの先頭に追加されます。

上下へ1つずつ移動する場合は、移動する辞書を選択して、次のいずれかのボタンをクリックします。

- 〈上へ〉 （1つ上へ移動）
- 〈下へ〉 （1つ下へ移動）

● 辞書の優先順位の意味

辞書リストには、使用する辞書名と優先順位が表示されています。辞書は優先順位の高いものから順番に表示されます。辞書の優先順位は、翻訳時の訳語の選択に影響を与えます。ここでは、「コンピュータ専門語辞書」、「ユーザー辞書」、「基本語辞書」の順番で設定されていて、ユーザー辞書に"latitude"を「イド」と登録している場合で説明します。

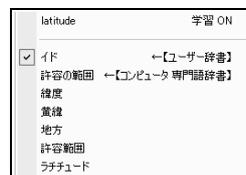
次の原文を翻訳します。

原文：The vehicle position is defined in terms of a latitude value.

翻訳結果：車両位置は、イド価値に関して定められる。

● 翻訳に使われる訳語の優先順位と訳語ダイアログに表示される訳語の順番

上記の翻訳で"latitude"は「イド」と翻訳されました。「イド」はユーザー辞書に登録されている訳語です。辞書設定では、専門語辞書を優先順位の一番に設定したのに、ユーザー辞書の訳語が採用されました。それは、個々の訳語に優先順位が付けられているからです。"latitude"をトリプルクリックすると、次の訳語ダイアログが表示されます。



このダイアログからもわかるように、「許容の範囲」はコンピュータ専門語辞書の訳語です。基本語辞書と専門語辞書は、ユーザーが追加・更新することはできませんが、これらの辞書の訳語には、内部で個々に優先順位が付けられています。翻訳システムでは、構文解析と辞書と訳語の優先順位によって訳出を行っています。ユーザー辞書は追加・更新することはできますが、ユーザーが訳語に優先順位を付けることはできません。ユーザー辞書の訳語には、自動的にもっとも高い優先順位が付けられます。

この例のように、コンピュータ専門語辞書にある"latitude"の訳語に付けられている優先順位が低いと、ユーザー辞書の訳語が訳出されます。

訳語ダイアログでは、先頭に翻訳で使用した訳語が表示され、以降順番に「辞書」タブで設定されている辞書の訳語が表示されます。

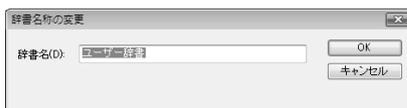
● 辞書の名前を変更する

辞書設定ダイアログでは、辞書の名前を変更することができます。分野別、用途別など必要に応じて個別に名前を付けると、辞書を分類するのに便利です。辞書の名前を変更する方法は、以下のとおりです。

手順

1. 「利用できる辞書」または「使用中の辞書」リスト内の辞書を選択して、ダイアログ下部にある〈名称変更〉をクリックします。

次のダイアログが表示されます。



2. 「辞書名」に辞書の名前を入力して、〈OK〉をクリックします。

元のダイアログに戻り、変更した辞書名が表示されます。

● 辞書の表示色

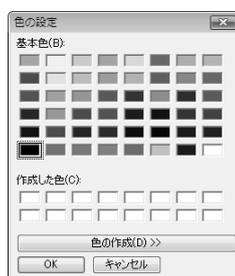
辞書ごとに表示色を指定できます。翻訳は、構文を解析して、文法ルールを参照し、辞書設定ダイアログで設定された辞書を使用して実行されます。使用辞書を複数設定した場合、翻訳結果の訳語がどの辞書からの出典なのか一目でわかります。辞書の表示色で指定した色が、翻訳結果の訳語の色に反映されます。初期状態では、すべての辞書の色は黒です。

表示色の設定を変更する方法は、以下のとおりです。

手順

1. 色を変更する辞書を選択して、「色」の横にある矩形をクリックします。

次のダイアログが表示されます。



2. 「基本色」の中から色を選択して、〈OK〉をクリックします。

辞書ダイアログに戻り、辞書リストの色が変更されます。

新しい色を作成する場合は、〈色の作成〉をクリックして表示されるダイアログで作成することができます。



ヒント

表示色によっては、文字が見つらなくなる場合があります。他の辞書の表示色と明確に区別できる色、また、文字がかすれないような鮮明な色を指定してください。

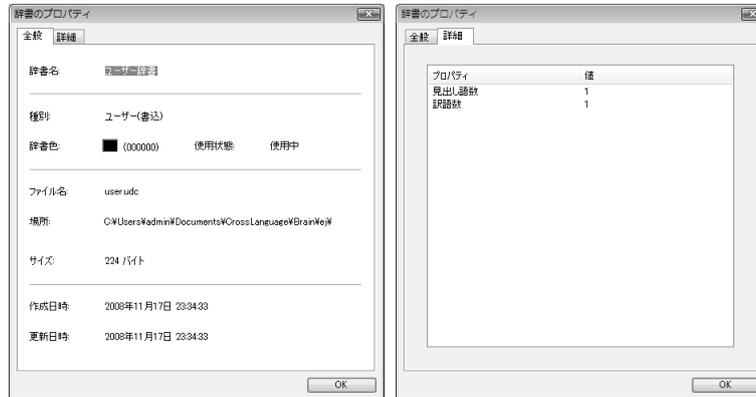
● 辞書のプロパティを表示する

辞書設定ダイアログでは、辞書のファイル名、作成日、ファイルサイズなど情報を表示することができます。

手順

1. 「利用できる辞書」または「使用中の辞書」リスト内の辞書を選択して、ダイアログ下部にある〈プロパティ〉をクリックします。

次のダイアログが表示されます。



ユーザー辞書のプロパティには、「詳細」タブがあり、見出し語と訳語の数を確認できます。

2. 〈OK〉をクリックします。
元のダイアログに戻ります。

- **学習辞書を使用する**

このチェックボックスがオンの場合、学習辞書を使用して翻訳します。
オフの場合は、翻訳の際、学習辞書を使用しません。

- **学習する/しない（読込専用）**

「学習辞書を使用する」チェックボックスがオンの場合、「学習する」または「学習しない」を選択できます。

「学習する」がオンの場合、訳語変更で選択した訳語は学習され、次回の翻訳でその単語が同じ使われ方をした場合は、学習した訳が採用されます。また、訳語ペインの「学習」チェックボックスはオンになります。

「学習しない」がオンの場合、翻訳の際、学習辞書の訳が優先的に使用されますが、訳語変更で選択した訳語は学習されません。また、訳語ペインの「学習」チェックボックスはオフとなります。

- **学習辞書の場所**

初期状態で学習辞書は、英→日の場合、ホームディレクトリの下のejフォルダ、日→英の場合は、ホームディレクトリの下のjeフォルダが指定されます。

学習辞書を新規に作成したり、変更する場合は、右端にある〈参照〉をクリックしてください。学習辞書指定ダイアログが表示されるので、学習辞書を選択してください。新規に作成する場合は、「ファイル名」に新しい学習辞書のファイル名を入力してください。

- **学習辞書の新規作成**

学習辞書を新規に作成できます。「学習辞書を使用する」チェックボックスをオン、「学習する」をオンと設定して、右端にある〈参照〉をクリックしてください。学習辞書指定ダイアログが表示されるので、新しいファイル名を入力してください。これで、学習辞書が新規作成されます。

4.6 専門語辞書の設定

翻訳ブレインでは、基本語辞書の他にユーザー辞書と専門語辞書を合わせて10個まで選択して、翻訳を行うことができます。専門語辞書には、分野別に専門用語が収録されているので、翻訳の精度を高めるのに効果的です。

ここでは、専門語辞書の設定方法を説明します。



ヒント 専門語辞書を設定するためには、あらかじめ専門語辞書をインストールする必要があります。専門語辞書のインストールについては、「導入編」の『インストール』を参照してください。

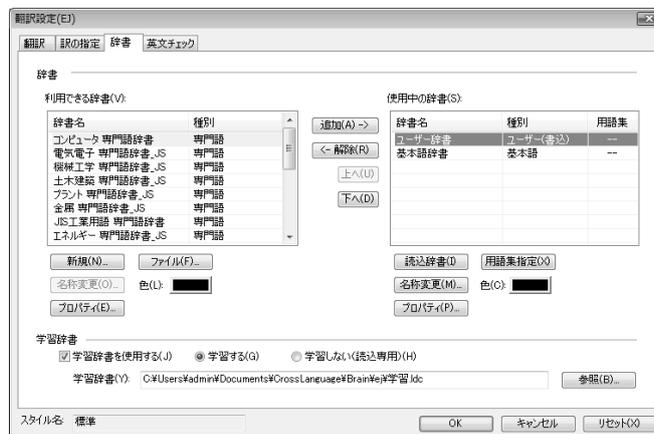
4.6.1 辞書設定ダイアログから指定する

辞書設定ダイアログから指定する方法は以下のとおりです。



1. [翻訳] - [翻訳設定] - [辞書]を選択します。

次の辞書設定ダイアログが表示されます。



2. 「利用できる辞書」リストで辞書を選択して、〈追加→〉をクリックすると「使用中の辞書」リストに追加されます。

辞書の優先順位、辞書リストからファイルを外す方法などについては、『4.5 ユーザー辞書の作成と選択』の該当する部分を参照してください。

4.6.2 専門語辞書自動選択機能で指定する

この機能は、翻訳エディタに読み込んだ文書を解析し、インストールされている専門語辞書から適切なものを推測し提案します。特に、翻訳を実行した後、未知語が多い文書に対してこの機能を実行すると効果的です。

この機能を利用するためには、翻訳ブレインのインストールプログラムを使用して専門語辞書をインストールしてください。手順は以下のとおりです。

手順

1. 翻訳エディタに文書を読み込みます。
2. [翻訳辞書]—[専門語辞書自動選択]を選択します。

次のダイアログが表示されます。



専門語辞書自動選択機能は、ここで指定した文章を「制限時間」で指定した時間内で解析し、適切な専門語辞書を選択します。

多くの文を指定することにより、より正確な推測が行われます。

通常は文書全体を指定します。文書が長すぎて時間がかかる場合は、要約など文書の内容をよく表した部分を少しでも多く含むように範囲を調整してください。

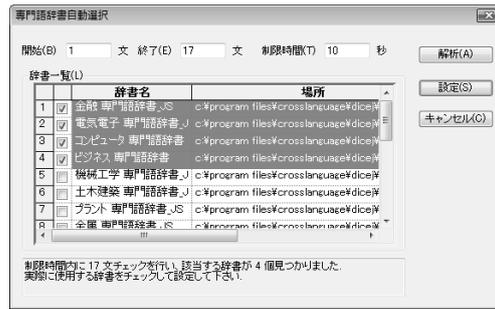
「辞書一覧」には、インストールした専門語辞書が一覧表示されます。すでに使用中の辞書として設定してある辞書は、チェックボックスがオンになります。

3. 解析対象とする文と時間を指定して、〈解析〉をクリックします。

解析が開始されます。

制限時間に達すると、最終文に至っていないなくても、解析は終了します。

解析が完了すると、次のダイアログが表示されます。



辞書名の前にあるチェックボックスがオンになり、反転表示されている辞書が、専門語辞書自動選択機能により選択された辞書です。

4. 選択された辞書以外にも翻訳で使用する場合は、該当する専門語辞書のチェックボックスをオンにします。
辞書選択が完了したら〈設定〉をクリックします。
専門語辞書自動選択機能により選択された辞書を使用しない場合は、〈キャンセル〉をクリックします。

辞書設定ダイアログが表示されます。



辞書設定ダイアログに設定された辞書の優先順位を変更する場合は、『4.5 ユーザー辞書の作成と選択』の該当する部分を参照して、適宜変更します。

5. 「使用中の辞書」リストを確認して〈OK〉をクリックします。

ここで、〈キャンセル〉をクリックしても、専門語辞書自動選択機能により選択された辞書は使用する辞書として設定されます。



ヒント

初期状態で、専門語辞書自動選択コマンドにより設定された専門語辞書の表示色は、緑色になります。専門語辞書自動選択コマンドにより設定された専門語辞書の表示色は、[ツール]－[環境設定]－[配色]の「自動辞書選択」で変更できます。

4.6.3 英→日専門語辞書の優先順位

英→日の基本語辞書では、使用頻度の高い語句（たとえば、rest, wind, roundなど）に対して、高い優先順位が付与されています。そのため辞書リストで、専門語辞書が基本語辞書より上位に設定されていても、基本語辞書の訳語が第一訳として採用されることがあります。これは、使用頻度の高い語句を専門用語として扱うと、翻訳精度が下がることが多いためです。基本語辞書より優先させたい場合は、専門語辞書の訳語を学習させてください。

4.7 用語の表示と訳語の変更

「用語集」機能とは複数のユーザー辞書を使用して翻訳を行っている場合、特定のユーザー辞書から出典された訳語であることを明確に表示したり、翻訳で使用された用語を抽出しテキストファイルに保存する機能です。

たとえば翻訳作業をグループで行う場合にグループ内で共通に使用するユーザー辞書を用語集と設定すると、出典元の辞書がグループで共通に使用しているユーザー辞書なのか、自分が独自に作成したユーザー辞書なのかを区別することができます。

● ユーザー辞書を用語集として設定／解除する

[翻訳]－[翻訳設定]を選択して「辞書」タブをクリックすると、次のダイアログが表示されます。



用語集に設定するユーザー辞書を選択して、〈用語集指定〉をクリックします。辞書リストの「用語集」に「O」と表示されます。これで、用語集と設定されました。

用語集の設定を解除する場合は、解除するユーザー辞書を選択して、〈用語集解除〉をクリックします。

辞書リストの「用語集」に「--」と表示されます。これで、用語集から解除されました。

● 用語の表示

辞書設定の「使用中の辞書」に用語集指定されたユーザー辞書ある場合、[フレーズ/語]－[用語表示]またはツールバーの〈用語表示〉**abc**が選択可能になります。用語表示を実行すると、用語集から訳出された語句には緑色の下線が引かれます。用語集以外の語句が採用されている場合は、赤色の下線が引かれます。

たとえば、用語集のユーザー辞書に"severe"を「重度の」と登録すると以下のとおりに表示されます。



また、訳語ペインの「用語」タブには、カーソル位置の文で採用されている用語が一覧表示されます。



● 「用語」タブでの操作

「用語」タブでは、カーソル位置の文に含まれる用語を自動的に表示したり、訳語の置換を行うことができます。

「用語」タブの「文の移動で検出する」チェックボックスをオンにすると、カーソルの移動に合わせて、自動的に用語表示を実行して用語に下線を引き、「用語」タブに用語の一覧を表示します。

また、訳語を置き換える場合は、用語の一覧にある訳語を選択して〈置換〉をクリックするか、訳語をダブルクリックします。用語の置換は学習されないため、再翻訳すると元の訳に戻ってしまいます。そのため、用語に置換した文には翻訳ロックがかかります。

● 用語の抽出

翻訳中の文書に含まれる用語を抽出し一覧表示したり、テキストファイルに保存することができます。

[ツール]－[用語抽出]を選択すると、用語抽出ダイアログが表示されます。



● 抽出の実行

「抽出項目」で条件を設定します。

すべての候補

翻訳結果が用語集の訳であるかに関わらず、用語集と設定されているユーザー辞書に登録されている語句を抽出します。

用語に一致

用語集の訳が採用されている語句を抽出します。

用語に不一致

用語集の訳が採用されていない語句を抽出します。

訳語なし

用語集に登録されている語句であるが、翻訳結果の修正などにより訳文エリアに訳語が無い語句を抽出します。

〈抽出〉をクリックすると、「抽出項目」の条件にしたがって用語の抽出が実行されます。



「単語」には、用語集に登録されている見出し語が表示されます。
 「訳語」には、用語集に登録されている訳語が表示されます。
 「品詞」には、用語集に登録されている品詞が表示されます。
 「辞書」には、「単語」の出典辞書が表示されます。
 「本文中の訳語」には、訳文エリアの訳語が表示されます。
 「一致」には、「訳語」の訳が翻訳で採用されている場合は「○」、採用されていない場合は「×」が表示されます。
 「頻度」には、同じ「訳語」と「品詞」で使用されている回数が表示されます。

• テキスト出力

抽出結果をタブで区切ったファイルに保存します。
 〈テキスト出力〉をクリックするとテキスト出力ダイアログが表示されます。



適切な名前を入力して保存します。

• ブックマーク

抽出結果の語句が含まれる文にブックマークをつけることができます。
 〈ブックマーク〉をクリックするとブックマークダイアログが表示されます。



既存のブックマーク種類を指定する場合は、「既存の項目」をオンにして、下部の▼をクリックして表示されるブックマーク種類の一覧から選択します。

新しいブックマーク種類を追加する場合は、「新規作成」をオンにして、「名称」に半角で128文字または全角で64文字まででブックマークの名称を指定します。記号の色を変更する場合は、色の矩形をクリックして表示される色の設定ダイアログで変更します。色の設定ダイアログについては、『5.2.2 配色』を参照してください。

4.8 ユーザー辞書に単語を登録する

[登録]は、ユーザー辞書への単語の登録や削除を行う機能です。ユーザー辞書への登録方法には、基本語辞書・専門語辞書と同様に、簡易登録と詳細登録があります。

簡易登録	見出し語に対し、訳語だけ登録する
詳細登録	見出し語に対し、訳語だけでなく、意味素性（その単語がどのような意味合いを持つかを表す属性）や前後に続く語句などを登録する

これらを登録するには、辞書登録ダイアログを使う方法と、「一括登録」機能を使う方法があります。いずれも辞書ソース（所定のフォーマットで登録内容を記述したテキスト）を作成してから登録します。辞書ソースの書式に関しては、[すべてのプログラム]－[翻訳プレイン3]－[ヘルプ]を選択して『EJ 辞書記述』と『JE 辞書記述』を参照してください。



ヒント 辞書登録ダイアログを使うと、各ボックスに見出し語・訳語などの情報を入力するだけで、自動的に辞書ソースが作成されるため、辞書ソースを特に意識する必要はありません。

辞書登録の手順は、以下のとおりです。

手順

1. 翻訳エディタで辞書登録する単語を選択します。
2. [翻訳辞書]－[登録]を選択します。

次のダイアログが表示されます。

3. 必要に応じて、各項目を入力します。

辞書登録ダイアログの操作については、「ヘルプ」を参照してください。「ヘルプ」は、[すべてのプログラム]－[翻訳プレイン3]－[ヘルプ]から選択します。

4.9 ユーザー辞書ブラウザ

ユーザー辞書ブラウザは、英→日または日→英のユーザー辞書の語句を一覧表示したり、語句の登録、変更、削除などを行う機能です。

● 語句の一覧表示

[翻訳辞書]—[ユーザー辞書ブラウザ]を選択すると、翻訳設定ダイアログの「辞書」タブの「使用中の辞書」で書き込み用に設定されているユーザー辞書の語句が一覧表示されます。



以下の方法でもユーザー辞書の語句の一覧を表示することができます。

- 検索語入力ボックスを空にして、〈検索〉 をクリックする
- 〈全件表示〉 をクリックする

● 語句の検索

ユーザー辞書ブラウザの[編集]—[検索]を選択するか、検索語入力ボックスに語句を入れて〈検索〉 をクリックすると、検索結果が表示されます。語句の検索では、前方一致検索が実行されます。



- 辞書の変更

参照する辞書を変更する場合は、ユーザー辞書選択ボックスをクリックすると表示される一覧から、選択します。

選択可能なユーザー辞書は、翻訳設定ダイアログの「辞書」タブにある「利用できる辞書」または、「使用中の辞書」に設定されているユーザー辞書です。

- ユーザー辞書の更新

ユーザー辞書ブラウザの[編集]－[変更]を選択する、変更する語句をダブルクリックする、または、変更する語句を選択して〈変更〉をクリックすると、辞書登録ダイアログが表示されて、当該語句の「見出し語」と「訳語」が自動的に入力されます。品詞の選択、訳語の追加、変更、削除などを行ってください。



ヒント

初期状態で辞書登録ダイアログの「品詞」には、「名詞」が設定されます。適宜、品詞を選択してください。

- 語句の新規登録

ユーザー辞書ブラウザの[編集]－[登録]を選択するか、〈登録〉をクリックすると、辞書登録ダイアログが表示されます。見出し語、訳語などを入力して、ユーザー辞書に登録してください。

- 語句の削除

削除する語句を選択して、ユーザー辞書ブラウザの[編集]－[削除]を選択するか、〈削除〉をクリックすると、語句の削除を確認するメッセージが表示されます。〈OK〉をクリックすると、削除されます。



いったんユーザー辞書から削除すると、復元することはできません。

● 表示

ユーザー辞書ブラウザでは、1ページに500語ずつ表示します。それ以上の語句がある場合は、次の方法でページを移動してください。

	先頭ページに移動
	前ページに移動
	次ページに移動
	最後のページに移動

特定のページに移動 ダイアログ下部にあるページを示すボックスをクリックすると、ページの一覧が表示されます。移動先のページを選択すると、当該ページが表示されます。

● 辞書のプロパティを表示する

ユーザー辞書ブラウザの[ファイル]－[プロパティ]を選択するか、〈プロパティ〉をクリックすると、辞書のファイル名、保存場所、登録されている見出し語と訳語の数などが表示されます。

4.10 ユーザー辞書の一括登録と変換

翻訳ブレインには、あらかじめ決められたフォーマットでテキスト形式の辞書ソースファイルを作成して、一括でユーザー辞書に登録する「一括登録」機能があります。

また、逆にユーザー辞書をテキストファイルに変換して、内容を確認したり、バックアップとして保管するための「辞書ソース出力」機能もあります。

4.10.1 カンマ区切りとタブ区切り

翻訳ブレインでは、「カンマ区切り」と「タブ区切り」で辞書ソースを記述することができます。このフォーマットを使用すると、他のデータベースや表計算ソフトでソートするなどの編集作業ができるようになります。

「カンマ区切り」と「タブ区切り」では見出し語と訳語のみの簡易登録になります。



「カンマ区切り」と「タブ区切り」で登録できる品詞は名詞のみです。また、1つの見出し語で登録できる訳語は1つのみです。同じ見出し語に対して複数の訳語を登録するときは、その数だけ見出し語と訳語を組にして記述します。

● カンマ区切り

見出し語と訳語をカンマで区切って並べます。

記述フォーマット：見出し語,訳語

【英→日 記述例】

translation software,翻訳ソフト

メモ 訳語以外は半角で入力します。

【日→英 記述例】

翻訳ソフト,translation software

メモ 見出し語以外は半角で入力します。

● タブ区切り

見出し語と訳語をタブで区切って並べます。ここでは、タブを「→」で表します。

記述フォーマット：見出し語→訳語

【英→日 記述例】

translation software→翻訳ソフト

メモ 訳語以外は半角で入力します。

【日→英 記述例】

翻訳ソフト→translation software

メモ 見出し語以外は半角で入力します。

4.10.2 辞書ソースをユーザー辞書へ一括・追加登録する

テキスト形式で書かれた辞書ソースファイルから翻訳ブレインで利用できる形式のユーザー辞書を新規作成したり、または、既存のユーザー辞書に追加登録します。辞書ソースファイルはあらかじめ作成しておく必要があります。

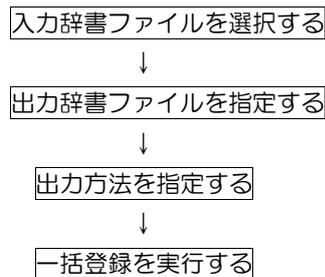
また、既に作成されている複数のユーザー辞書を1つのユーザー辞書に統合することもできます。

まず、辞書ソースを記述したテキストファイルを作成します。「カンマ区切り」、または「タブ区切り」以外の辞書ソース記述の詳細は、「ヘルプ」の『EJ 辞書記述』または、『JE 辞書記述』を参照してください。

[翻訳辞書]－[一括登録]を選択すると、次のダイアログが表示されます。



手順は以下のとおりです。



● **入力辞書ファイルを選択する**

辞書ソースのテキストファイル、既に作成されているユーザー辞書を選択することができます。

● **ファイルを選択する**

辞書の記述形式に従って作成した辞書ソースのテキストファイルとユーザー辞書を選択できます。〈ファイル選択〉をクリックすると、辞書データファイルの選択ダイアログが表示されます。このダイアログでは、次のオプションが設定できます。

ファイルの場所

開きたいファイルが保存されているフォルダまたはドライブを選択します。

ファイル名

開きたいファイルの名前を入力または選択します。リストボックスには、「ファイルの種類」ボックスで選択したファイル形式に対応する拡張子を持ったファイルが、一覧表示されます。

ファイルの種類

開くファイルの形式（拡張子）を選択します。ファイルの種類では、ファイルの形式に従って、次のオプションを指定できます。

ファイル形式	ファイルの種類
辞書ソースファイル	テキストファイル（辞書ソース形式） (*.TXT) 全てのファイル（辞書ソース形式） (*.*) EJ:英日辞書ソースファイル（辞書ソース形式） (*.OPT) JE:日英辞書ソースファイル（辞書ソース形式） (*.DIC)
辞書ファイル	EJ：英日辞書バイナリファイル (*.UDC) JE：日英辞書バイナリファイル (*.JDC)
カンマ区切りファイル	テキストファイル（カンマ区切り） (*.TXT) 全てのファイル（カンマ区切り） (*.*)
タブ区切りファイル	テキストファイル（タブ区切り） (*.TXT) 全てのファイル（タブ区切り） (*.*)

ここで指定した形式でファイルを開くので、適切に指定する必要があります。たとえば、辞書ソースをカンマ区切りで記述した場合には、必ず、「テキストファイル（カンマ区切り） (*.TXT)」、または「全てのファイル（カンマ区切り） (*.*)」を選択します。



ヒント

開きたいファイルを指定する際、入力辞書データリストには、辞書ソースファイル（英→日用は*.OPT、日→英用は*.DIC）、カンマ区切りファイル、タブ区切りファイルを混在させることができます。

〈開く〉をクリックすると、入力辞書データリストに追加されます。〈キャンセル〉をクリックすると、元のダイアログに戻ります。

・ユーザー辞書を選択する

ユーザー辞書を選択できます。〈辞書選択〉をクリックすると、辞書選択ダイアログが表示されます。辞書を選択して〈追加〉をクリックすると、入力辞書データリストに追加されます。

辞書選択ダイアログ



辞書選択ダイアログには、選択可能なユーザー辞書が表示されます。辞書を選択して〈追加〉をクリックすると、辞書設定ダイアログの辞書リストに追加されます。

〈ファイル指定〉をクリックすると辞書を開くダイアログが表示されるので、リストに追加する辞書を指定できます。

- **指定したファイルをリストから外す**

入力辞書データのリストからファイルを外すには、外したいファイルを選択して、〈解除〉をクリックします。

- **辞書のデータを見る**

入力辞書データのリストにあるユーザー辞書の情報を表示できます。テキストファイルの情報は表示できません。ユーザー辞書ファイルを選択して、〈辞書情報〉をクリックすると、見出し語と訳語の数が表示されます。

- **出力辞書ファイルを指定する**

出力ファイルにある〈ファイル選択〉をクリックすると、辞書ファイルの選択ダイアログが表示されます。

- **追加登録の場合**

辞書ファイルの選択ダイアログに表示されているファイルを選択して、〈保存〉をクリックします。指定したファイル名が「出力辞書」に、辞書の名前が「辞書名」に表示されます。「辞書名」で辞書の名前を変更できます。「出力方法」の「追加」を選択します。

- **新規作成の場合**

辞書ファイルの選択ダイアログの「ファイル名」に新しいファイル名を入力して、〈保存〉をクリックします。「辞書名」に辞書の名前を入力します。「出力方法」の「新規」を選択します。辞書名を入力しないと、出力ファイル名を辞書名にします。

- **既にあるユーザー辞書に上書き保存する場合**

辞書ファイルの選択ダイアログに表示されているファイルを選択して、〈保存〉をクリックします。指定したファイル名が「出力辞書」に、辞書の名前が「辞書名」に表示されます。「辞書名」で辞書の名前を変更できます。「出力方法」の「新規」を選択します。

● 一括登録を実行する

〈実行〉をクリックすると、一括辞書登録が実行されます。処理の進行状況が表示されるので、中止する場合は、〈中止〉をクリックします。〈中止〉をクリックすると、ダイアログが閉じられ、元の画面に戻ります。処理が完了すると、出力辞書に登録された見出し語と訳語の数がダイアログに表示されます。



内容を確認して、〈OK〉をクリックします。一括登録ダイアログに戻ります。

● エラーがあった場合

辞書ソース記述に誤りがあるため登録できなかった場合は、次のダイアログが表示されます。



〈OK〉をクリックすると、次のエラー内容が表示されます。



内容を確認して、〈OK〉をクリックします。一括登録ダイアログに戻ります。エラー行は、辞書に登録されません。正しい辞書記述に修正して、再度実行を選択してください。

● 辞書のバックアップ

既にあるユーザー辞書に追加登録したり、または、新規辞書として上書き保存した場合、元のユーザー辞書はバックアップとして保管されます。バックアップ辞書にはファイル名の最後に「~」が付加されます。

- エラー設定

一括辞書登録では、発生したエラーの内容を保存するエラー情報ファイルが、出力ファイルと同じフォルダに自動的に作成されます。エラー情報ファイルは、その作成場所やファイル名を指定することもできます。

詳細は、『4.10.7 エラー情報ファイル』を参照してください。

- 設定の保存と読み込み

一括辞書登録では、複数のテキストファイルと辞書ファイルを入力データに指定して、1つの辞書ファイルを作成することができます。指定した入力ファイルのリストは、入力辞書データに表示されます。このダイアログの設定内容を保存することができます。

たとえば、複数のユーザーが個々に作成した辞書を定期的に1つの辞書に統合する場合などは、ダイアログの各項目を設定する手間を省けます。

〈設定の保存〉をクリックすると、「入力ファイル」、「出力ファイル」、「出力方法」の設定値を保存します。一括登録設定ファイルの保存ダイアログが表示されるので、ファイル名を指定して〈保存〉をクリックします。

〈設定の読込〉をクリックすると、指定したファイルの設定内容を読み込んで、一括辞書登録ダイアログの各項目に内容を設定します。一括登録設定ファイルの指定ダイアログが表示されるので、ファイル名を指定して〈開く〉をクリックします。

4.10.3 ユーザー辞書をテキストファイルに変換する

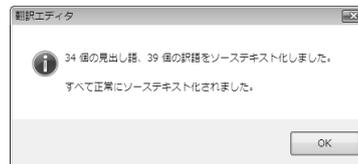
[翻訳辞書]—[辞書ソース出力]では、翻訳ブレインのユーザー辞書を、テキスト形式の辞書ソースファイル（英→日用は*.OPT、日→英用は*.DIC）、「カンマ区切り」、「タブ区切り」に変換します。基本語辞書、専門語辞書を変換することはできません。



変換の手順は以下のとおりです。

手順

1. テキストファイルに変換するユーザー辞書を指定します。
入力ファイルの〈ファイル選択〉をクリックすると辞書ファイルの選択ダイアログが表示されるので、辞書ファイルを選択します。
2. または、〈辞書選択〉をクリックすると、辞書選択ダイアログが表示されるので、辞書を選択して〈追加〉をクリックします。
「入力辞書」に指定したファイル名が表示されます。
3. 変換結果を保存するテキストファイルを指定します。
出力ファイルの〈ファイル選択〉をクリックします。
辞書ソースファイルの選択ダイアログが表示されます。
4. 出力するファイルの形式を「ファイルの種類」で選択して、「ファイル名」を入力して、〈開く〉をクリックします。
「出力テキスト」に指定したファイル名が表示されます。
ファイル形式に対応した「ファイルの種類」に関しては、『4.10.2 辞書ソースをユーザー辞書へ一括・追加登録する』を参照してください。
5. 〈実行〉をクリックします。
テキスト変換が開始されます。処理の進行状況が表示されるので、中止する場合は〈中止〉をクリックします。処理が完了すると、変換した語と訳語の数がダイアログに表示されます。



6. 〈OK〉をクリックします。
元の画面に戻ります。
作成されたテキスト形式の辞書ソースを確認します。
7. 「出力テキスト」で指定したファイルを開きます。
たとえば、「メモ帳」で開くと以下のように表示されます。



4.10.4 Excelを利用したユーザー辞書の作成

Excelを使用してユーザー辞書に一括で単語を登録する方法を説明します。Excel上で見出し語と訳語を入力し、翻訳ブレイン用ユーザー辞書としての[翻訳辞書]—[一括登録]を選択することで一括辞書登録します。

● 作業の流れ

1. Excelを起動して、辞書ソースを入力します。A列に見出し語、B列に訳語を入力します。
2. 作成した辞書ソースファイルをタブ区切りで保存します。
3. 翻訳ブレインを起動します。
4. [翻訳辞書]—[一括登録]を選択して、Excelで作成した辞書ソースファイルから翻訳ブレイン用のユーザー辞書を作成します。
5. 翻訳ブレインを起動して手順4で作成したユーザー辞書を辞書設定します。
6. 翻訳を実行します。

● 登録できる品詞

辞書ソースファイルをタブ区切り形式で保存した場合、登録できる品詞は「名詞」のみです。

● 一括辞書登録の手順

手順は次の通りです。まず、Excelで辞書ソースファイルを作成します。

手順

1. Excelを起動して、以下のように見出し語と訳語をセルに入力します。



2. [ファイル]—[名前を付けて保存]を選択します。

名前を付けて保存ダイアログが表示されます。

3. 「ファイルの種類」を「テキスト(タブ区切り)」, ファイル名は任意に付けられますがたとえばusertab.txtと入力して、〈保存〉をクリックします。

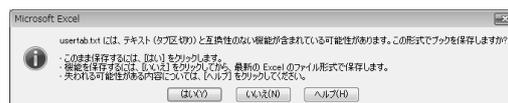


次のダイアログが表示されます。



4. 〈OK〉をクリックします。

次のダイアログが表示されます。



5. 〈はい〉をクリックします。

これで、Excelで作成した辞書ソースファイルがタブ区切りで保存されました。

Excelを終了し、次に、翻訳ブレインの「一括辞書登録」機能でユーザー辞書を作成します。

6. 翻訳ブレインを起動して、[翻訳辞書]—[一括登録]を選択します。

次のダイアログが表示されます。



7. 「入力ファイル」項目の〈ファイル選択〉をクリックすると、辞書ソースファイルの選択ダイアログが開くので、Excelで作成したファイルを選択します。

8. usertab.txtを保存した場所に移動します。「ファイルの種類」を「テキストファイル (タブ区切り) (*.TXT)」に変更して、ファイルリストから usertab.txtを選択してください。



一括登録ダイアログに戻り、選択した辞書ソースファイルがリストに追加されます。



9. 新規作成するユーザー辞書ファイルを指定します。「出力ファイル」項目の〈ファイル選択〉をクリックします。

英日辞書ファイルの選択ダイアログが表示されます。



10. <保存> をクリックします。

一括辞書登録ダイアログに戻り、選択したファイル名が表示されます。



メモ ファイルの場所、ファイル名は任意に指定できます。この例では、ホームディレクトリのejフォルダにusertab.udcと言うユーザー辞書が作成されます。

11. 「出力方法」項目の<新規> をクリックします。続いて <実行> をクリックします。

一括辞書登録が開始され、正常に終了すると次のダイアログが表示されます。



12. <OK> をクリックします。続いて、<キャンセル> をクリックします。

これで、usertab.udcというユーザー辞書が作成されました。

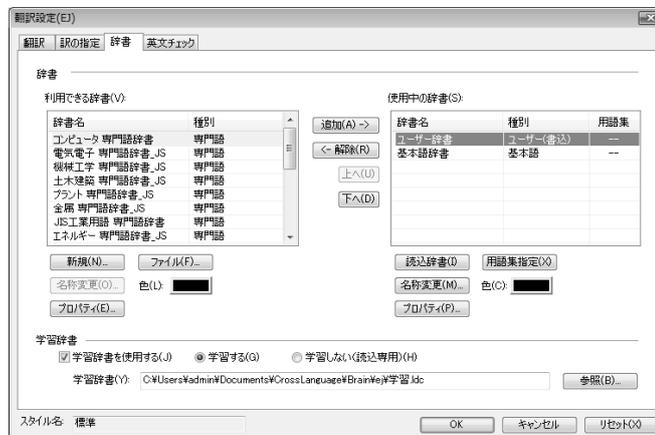
● 翻訳で使用する辞書の設定

翻訳ブレインで作成したusertab.udcを翻訳に使用する辞書として設定します。

手順

1. [翻訳]—[翻訳設定]—[辞書]を選択します。

辞書設定ダイアログが表示されます。



2. 〈ファイル〉をクリックします。

辞書の登録ダイアログが表示されるので、usertab.udcを選択します。「利用できる辞書」リストにusertab.udcが追加されます。



3. 「利用できる辞書」リストにあるusertab.udcを選択して〈追加→〉をクリックします。

usertab.udcが「使用中の辞書」リストに追加されます。

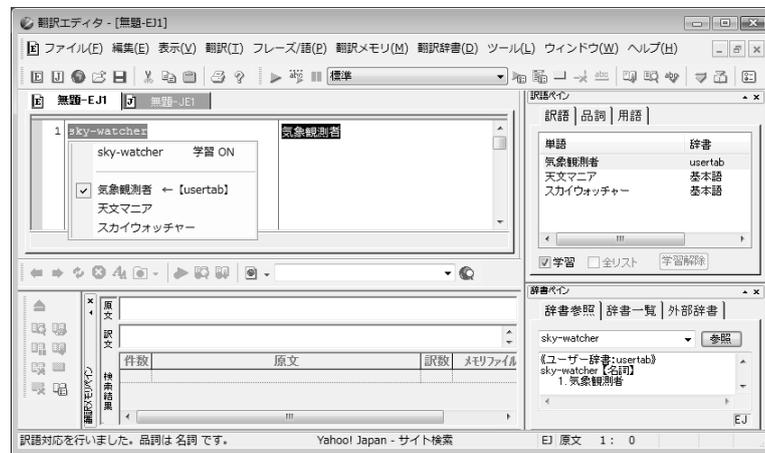
4. 〈OK〉をクリックします。

これで、翻訳に使用する辞書として設定されました。



同じ手順で、ファイルの保存と読み込みの際、ファイルの種類を「対訳ファイル（カンマ区切り）」に指定するとカンマ区切りの見出し語と訳語を一括登録できます。

翻訳エディタで翻訳を実行するとユーザー辞書の訳が採用されます。



4.10.5 英⇄日変換

英語と日本語の言語の違いから、英→日と日→英はそれぞれ独自の辞書フォーマットを持っていますが、2つのシステムの間である程度の共通な辞書を持つと便利です。ここでは、英日から日英へ、また日英から英日へのユーザー辞書ソースファイルの変換について説明します。また、変換におけるいくつかの制限についても説明します。

なお、ユーザー辞書の一括変換では、英→日の辞書ソースファイルを「*.opt」、日→英の辞書ソースファイルを「*.dic」としています。



変換できるのはテキスト形式の辞書ソースファイルです。変換された辞書ソースファイルは、各翻訳ソフトで「一括登録」しなければ、辞書として使用できません。

辞書変換の手順は以下のとおりです。

手順

1. [翻訳辞書]—[英⇄日変換]を選択します。

次のダイアログが表示されます。



2. 「変換の種類」を選択します。右側の矢印をクリックし、英→日の辞書ソースファイルを日→英の辞書ソースファイルに変換する場合は〈EJ→JE〉を、日→英の辞書ソースファイルを英→日の辞書ソースファイルに変換する場合は〈JE→EJ〉を選択します。
3. 変換元の入力ファイルを選択します。
「入力テキスト」の〈ファイル選択〉をクリックし、表示される辞書ソースファイルの選択ダイアログで、変換元の辞書ソースファイルを選択します。
EJ→JEの場合：「ファイルの種類」で「英日辞書ソースファイル(*.OPT)」
JE→EJの場合：「ファイルの種類」で「日英辞書ソースファイル(*.DIC)」
4. 変換先の出力ファイルを選択します。
「出力テキスト」の〈ファイル選択〉をクリックし、表示される辞書ソースファイルの選択ダイアログで、変換先の辞書ソースファイルを選択します。
EJ→JEの場合：「ファイルの種類」で「日英辞書ソースファイル(*.DIC)」
JE→EJの場合：「ファイルの種類」で「英日辞書ソースファイル(*.OPT)」
5. 〈実行〉をクリックします。

辞書変換が実行されます。処理の進行状況が表示されるので、中止する場合は〈中止〉をクリックします。

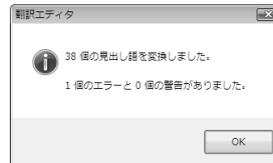
処理が完了すると、変換した見出し語の数がダイアログに表示されます。



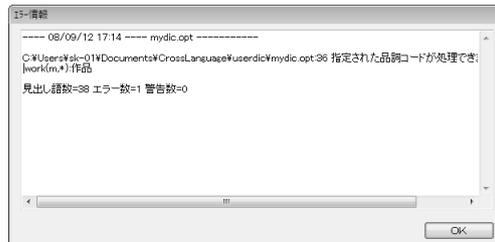
6. **〈OK〉をクリックします。**
英⇄日変換ダイアログに戻ります。
7. **〈キャンセル〉をクリックします。**
元の画面に戻ります。

- **エラーがあった場合**

辞書ソース記述に誤りがあって変換できなかった場合は、次のダイアログが表示されます。



〈OK〉をクリックすると、次のエラー内容を表示します。



内容を確認して 〈OK〉をクリックします。英⇄日変換ダイアログに戻ります。エラー行は、変換されません。正しい辞書記述に修正して、再度実行を選択してください。

- **エラー設定**

辞書変換で発生したエラーの内容を保存する、エラー情報ファイルを作成することができます。詳細は、『4.10.7 エラー情報ファイル』を参照してください。

4.10.6 辞書変換の制限

英語と日本語の言語の違いから、各翻訳ソフトは独自の辞書フォーマットを採用しています。そのため、英→日においては、正しくコンパイルされるソース記述であっても、適切に日→英のソースに置き換えることができなったり、またはその逆の場合があります。

ここでは、変換における制限について説明します。

● 「EJ→JE」に変換する場合

● 英→日の動詞の登録で詳細登録を行った場合

英→日の詳細登録は無視されます。同じ見出し語に異なる詳細登録を行うと、同じ見出し語で同じ訳の登録となります。作成した辞書の使用時には1つの見出し語に対し、1つの訳語となるので、問題はありません。

英→日の辞書ソース

```
state(v,0000):述べる::[OC]T{と}
state(v,0000):述べる::[QN]{に}[OC]{と}
```

変換後の日→英の辞書ソース

```
*述べる/V/UL/□+1が□(2を)□=1□state/V/□2
*述べる/V/UL/□+1が□(2を)□=1□state/V/□2
```

メモ □は半角スペースです。

● 英→日で動詞に前置詞に係る詳細登録をした場合

前置詞の記述は変換後の日→英の辞書ソースで修正する必要があります。

英→日の辞書ソース

```
test(v,0000):テストする::[ON]{を} [P(with)N]{で}
```

変換後の日→英の辞書ソース

```
*テストする/V/S1/□+1が□(2を)□=1□test/V/□2
```

メモ □は半角スペースです。

修正後の日→英の辞書ソース

```
*テストする/V/S1/□+1が□2を□(3で)□=1□test/V/□2□(with□3)
```

メモ □は半角スペースです。

- 英→日で前置詞、従属接続詞を登録した場合

英→日の前置詞、従属接続詞を日→英へ変換すると名詞になります。正しくは格助詞または連体助詞なので、日→英のソースを必ず修正してください。

英→日の辞書ソース

for the purpose of(pre):のために
though(conj):が

変換後の日→英の辞書ソース

*のために/N/□="for□the□purpose□of"/N/
*が/N/□=though/N/

メモ □は半角スペースです。

修正後の日→英の辞書ソース

*のために/JSKAK/□="for□the□purpose□of"
この場合の「が」は接続詞なので登録できません。

メモ □は半角スペースです。

- 英→日の見出し語が形容詞で訳語が動詞の場合

英→日の見出し語が形容詞でも、訳語を日→英の見出し語として変換すると語形からシステムが自動判定し、動詞になる場合があります。

英→日の辞書ソース

worth(a):値する::[ON]{に}

変換後の日→英の辞書ソース

*値する/V/S1/□+1が□=1□be/V/□worth/A/

メモ □は半角スペースです。

修正後の日→英の辞書ソース

*値する/V/S1/□+1が□2に□=1□be/V/□worth/A/□2

メモ □は半角スペースです。

- 「JE→EJ」に変換する場合

格助詞、連体助詞は変換できません。

日→英の辞書ソースに格助詞、連体助詞がある場合は、削除してから行ってください。

4.10.7 エラー情報ファイル

辞書ソースの記述が誤っている場合は、そのエラー内容をファイルに書き出すことができます。

● エラー情報ファイルの設定

初期状態では、出力辞書ファイル名に拡張子".err"を付加したエラー情報ファイルが作成され、このファイルは一括辞書登録を行うたびに上書きされます。



ヒント 毎回のエラー情報を残すには、一括辞書登録を行うたびに別の出力ファイルを指定します。

エラー情報ファイルを設定する手順は以下のとおりです。



手順 1. 各ダイアログにある〈エラー設定〉をクリックします。

次のダイアログが表示されます。



2. 「エラー情報ファイル名を指定する」チェックボックスをオンにします。

3. 〈参照〉をクリックします。

エラー情報出力ファイルの選択ダイアログが表示されます。

4. ファイルを選択します。

エラー情報ファイルはテキスト形式のファイルで、ファイル名は任意に付けられます。

5. 〈OK〉をクリックします。

エラー情報ファイルが設定されます。

第 5 章 環境の設定

この章の内容

翻訳ブレインでは翻訳作業の環境を自由に設定することができます。環境を適切に設定することにより、翻訳時間を短縮し、翻訳精度を向上させることができます。

ツールバーの設定や、メニューにキーボード操作を割り当てることもできるので、必要に応じて見やすく使い慣れた画面を設計することもできます。

この章では、環境の設定について説明します。

5.1 翻訳に関する設定

翻訳ブレインでは、翻訳する文書に合わせて翻訳方法、使用する辞書、英文のチェック方法などの「翻訳設定」を行えます。また、翻訳設定を「スタイル」として保存することができます。

翻訳する文書に合わせてスタイルを選択し、翻訳の基本的な設定を簡単に行うことができます。

● スタイルの構成

スタイルには、翻訳ブレインが提供している「システムスタイル」と、ユーザーが独自に作成する「ユーザースタイル」があります。

システムスタイルには、以下の種類があります。

スタイル	対象とする文書
標準	翻訳ブレインの初期設定
一般	ホームページなど大文字のタイトルが多く含まれる文。ポータルサイトでリンク項目が多いページ。
ニュース	新聞、ニュース系サイト
論文	学術論文、学術誌
マニュアル	取扱説明書、ユーザーズマニュアル
契約	仕様許諾、利用規約、契約書
ビジネスレター	ビジネスメール
法令	法律、規則、通達などに関する文書
<スタイルなし>	旧バージョンの設定

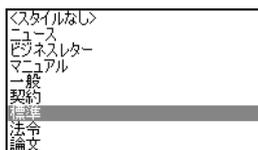
システムスタイルはサンプルとなっているので、ユーザーが自由に変更することができます。たとえば、製品ラインナップにより添付されている専門語辞書を設定して、スタイルを作り直すことができます。

● スタイルの選択

使用しているスタイルは、ツールバーのスタイル選択に表示されます。



スタイル選択の右にある▼をクリックすると、選択可能なスタイルが一覧表示されます。



使用するスタイルをクリックすると、設定されます。

5.1.1 翻訳設定

翻訳の前に、翻訳する文書にあわせてスタイルを選択し、必要に応じて、選択したスタイルの翻訳設定を行います。翻訳設定の変更は、翻訳設定ダイアログで行います。翻訳設定ダイアログには、「翻訳」タブ、「訳の指定」タブ（EJのみ）、「辞書」タブ、「英文チェック」タブがあり、各タブで翻訳条件や使用する辞書、英文チェックの方法を指定します。ここでは、「翻訳」タブ、「訳の指定」タブ（英→日のみ）、「英文チェック」タブの設定について説明します。

「辞書」タブの設定については『4.5 ユーザー辞書の作成と選択』を参照してください。

5.1.1.1 翻訳設定ダイアログ

[翻訳] - [翻訳設定] を選択する、またはツールバーの〈翻訳設定〉 をクリックすると、選択しているスタイルの翻訳設定ダイアログが表示されます。



各タブをクリックして適切な翻訳設定を行います。

「スタイル名」には、選択しているスタイルの名称が表示されます。

〈OK〉をクリックすると、選択しているスタイルに設定内容が保存されます。システムスタイルの変更の場合、〈リセット〉をクリックすると、当該タブの設定内容が、選択しているスタイルの初期状態に戻ります。



ヒント ユーザースタイルの変更の場合、〈リセット〉は表示されません。

5.1.1.2 英→日 翻訳

翻訳条件の設定を行います。ここで設定した内容に従って翻訳処理が行われます。英→日で「翻訳」タブをクリックすると、次のダイアログが表示されます。



● 訳出方法

大文字を小文字にして訳す

大文字だけで書かれている文章の翻訳やいくつかの単語の頭文字が大文字になっている文を翻訳するような場合は、オンにしてください。たとえばホームページのように大文字だけで書いた文章が多い場合は、このチェックボックスをオンにします。

チェックボックスをオフにして以下の文章を訳すと、次の結果になります。

I have a pen.	私は、ペンを持ちます。
I have a PEN.	私は、PENを持ちます。
I have A PeN.	私は、A PeNを持ちます。
I HAVE A PEN.	i HAVE A PEN。

チェックボックスをオンにすると、文中の大文字の単語を小文字にして訳すため、いずれも「私は、ペンを持ちます。」と訳されます。

システムが「タイトル文」と判断した文は、この項目の設定に従わずに大文字と小文字を区別しないで訳します。

長い文章を節・区ごとに区切って訳す

和文の語順を普通の日本語の順序にするか、できるだけ元の英文の語順を保存するかを指定します。たとえば"I know that he is ill."という文は次のように訳出されます。

節・句ごとに区切らずに訳す……「私は、彼が病気であると知っている。」

節・句ごとに区切って訳す……「私は、知っている—彼は病気であると。」

特に長い文が多い場合は、節・句ごとに区切って訳した方が英文との対応が取りやすく理解もしやすくなります。

命令文を平叙文として訳す

このチェックボックスがオフの場合、命令形の訳が「～なさい。」(である調の場合)、あるいは「～してください。」(ですます調の場合)となります。オンの場合「～する。」、または「～します。」となります。マニュアルなどの翻訳で平叙文として訳す場合にはオンにします。

ですます調で訳す

このチェックボックスがオフの場合は「である調」で訳します。

文末を「である調」で訳すか、「ですます調」で訳すかを指定します。同じ文書の中ではどちらかに統一されます。

固有名詞を英語のまま表示する

ここで言う「固有名詞」とは、以下の特徴を持ちます。

- 冠詞が見つからない
- 形容詞の修飾が見つからない
- 名詞と複合語にすることができる
- 基本語辞書に「固有名詞」として、登録されている

たとえば、「Japan」は固有名詞で「日本」と登録されています。

このチェックボックスがオンの場合、固有名詞は翻訳されず、英語のままが表示されます。

合成語を分割して訳す

「合成語」とは、スペースやハイフンなしで結合された語を言います。

たとえば、"chlorohydroxooxophenylphosphorus"は、次の語が結合しています。

chloro, hydroxo, oxo, phenyl, phosphorus

このチェックボックスがオンの場合、chlorohydroxooxophenylphosphorusを分割したあと、各語の訳を結合して「クロロ・ヒドロキソ・オキシ・フェニル・リン」と訳されます。

オフの場合は、chlorohydroxooxophenylphosphorusが、1語として辞書に登録されていないと、英語のまま表示されます。

「～'s」を常に所有格と訳す

「～'s」を所有格として訳すかを指定します。

このチェックボックスがオンの場合、たとえば"Tom's hiking."という文は、「トムハイキング。」と訳されます。

オフの場合は、「トムはハイキングをしている。」と訳されます。

● 訳文生成方法（優先順）

ここでは、翻訳メモリを使用した翻訳の場合の検索方法を選択します。

上から順番にチェックボックスがオンになっている検索方法で翻訳エディタの検索が実行され、最初に見つかった検索結果が訳文として採用されます。

初期状態では「完全一致文検索」と「機械翻訳」がオンです。翻訳エディタで翻訳を実行すると、まず「完全一致文検索」が実行され、最初に見つかった検索結果が訳文として採用されます。完全に一致する文が見つからなかった場合、「機械翻訳」が実行されます。選択する検索方法は、以下のとおりです。

- 完全一致文検索 翻訳メモリで「完全一致文検索」を実行する
- 文型一致文検索 翻訳メモリで「文型一致文検索」を実行する
- 類似文検索 翻訳メモリで「類似文検索」を実行する
- 機械翻訳 翻訳ブレインが翻訳する

「完全一致文検索」、「文型一致文検索」、「類似文検索」に関する詳細は、

『第3章 翻訳メモリ』を参照してください。



翻訳メモリに登録した原文がタグを含まない場合、「文型一致文検索」では検索されません。このような場合は、「完全一致文検索」または「類似文検索」を実行してください。

● オプション翻訳

オプション翻訳の際、翻訳メモリを使用するかを指定します。オプション翻訳については、『2.7 英→日 オプション翻訳』を参照してください。

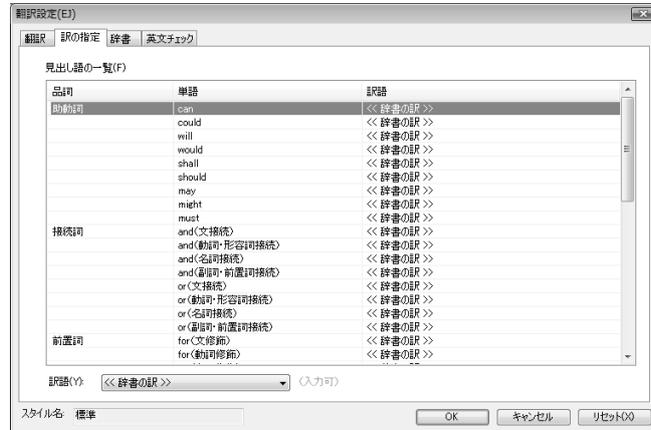
翻訳メモリを訳に反映させる

このチェックボックスがオンの場合、オプション翻訳の際に翻訳メモリを使用します。翻訳メモリの検索方法は、「訳文生成方法」の設定に従います。

オフの場合、翻訳メモリを使用しません。

5.1.1.3 英→日 訳の指定

助動詞や接続詞、前置詞、冠詞・代名詞、その他（数字）などをどのように訳すかを指定します。ここで設定した内容に従って翻訳処理が行われます。英→日で「訳の指定」タブをクリックすると、次のダイアログが表示されます。



各項目は初期状態で<<辞書の訳>>や<<自動変換>>となっていますが、学習された場合は、学習辞書の訳が優先されます。

・訳の指定方法

各項目の変更は次の手順で行います。

手順

1. 変更する項目を選択して、ダイアログ下部の「訳語」の右にある▼をクリックします。

選択した単語に対して、変更できる訳語の一覧が表示されます。



2. リストにある訳語をクリックして選択します。

選択した単語の「訳語」が変更されます。

【例】助動詞を例にして説明します。初期状態では、翻訳結果は次のようになります。

英文：She could go to the office.

結果：彼女は、オフィスに行くことができた。

ここで、"could"の訳を「～はずである」に設定します。

その結果、上記の例文の訳は次のようになります。

結果：彼女は、オフィスに行くはずである。

その他の訳も、同じように設定することができます。

- **助動詞の訳**

can, will, mightなどは、助動詞以外にも他動詞、名詞などの訳語が登録されています。訳を「<<辞書の訳>>」とした場合は、構文によって、たとえばcanを「～を缶詰にする」と解釈することもあります。<<辞書の訳>>以外のものを指定した場合、指定した助動詞の訳だけで構文解析されます。

- **カタカナの長音**

カタカナの訳で最後に長音「ー」をつけるかを指定します。

- **カタカナの連結文字**

カタカナの連結語の訳で中黒（・）を入れるかを指定します。

たとえば、"wireless headphone"を訳したときに「ワイヤレス・ヘッドホン」と中黒（・）を入れるか、「ワイヤレス ヘッドホン」と半角スペースを入れるか、または「ワイヤレスヘッドホン」と中黒（・）やスペースを入れないかを選択します。

- **数字（「その他」）**

数字は"12345"、"1 2 3 4 5"、"一二三四五"、"一万二千三百四十五"、"1万2345"から指定します。初期状態は「自動変換」です。自動変換では、"one hundred thirty"のような英語表現は「百三十」、"1,200"のような数字はそのまま数字に変換します。漢字表現は"千京"までです。

- **英文字（「その他」）**

英文字は、設定している辞書にあるものをそのまま使うのか、または、半角と全角のどちらかに統一するかを指定します。

- **句読点（「その他」）**

句点と読点は、全角文字を使うのか、半角文字を使うのかを指定します。

• 略語（「その他」）

略語の訳し方を指定します。

「略語」とは、「略語」意味素性で基本語辞書に登録されていて、英大文字、「-」、「&」、「/」、「.」、「数字」で構成されている語句を言います。また、訳語に見出し語と同じ文字列が（半角または全角で）登録されている必要があります。

訳し方では、「辞書登録のまま」、「略語」、「和訳」、「フルスペルのみ」、「略語＋和訳」、「略語＋フルスペル」を指定できます。ただし、フルスペルが登録されていない場合は、略語のまま表示されます。

たとえば、UNを訳すと、第一訳は以下のとおりになります。

訳し方	翻訳結果
辞書登録のまま	国連
略語	UN
和訳	国連
フルスペルのみ	United Nations
略語＋和訳	UN（国連）
略語＋フルスペル	UN（United Nations）

• 記号（「その他」）

記号の訳に全角文字を使うのか、半角文字を使うのかを指定します。

• ユーザー定義

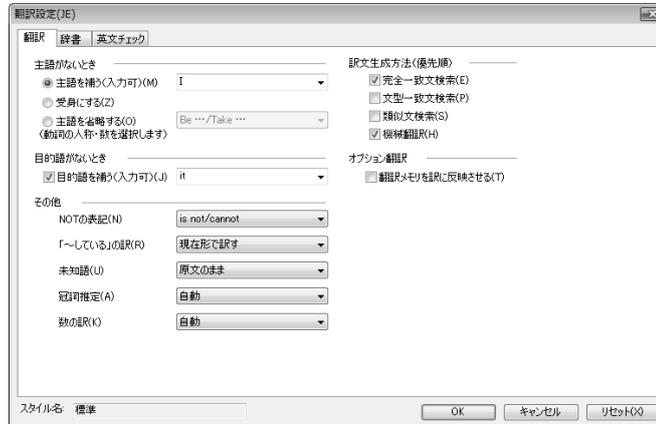
接続詞、前置詞、冠詞・代名詞には、リストに新しい訳語を追加することができます。次の手順で行います。

手順

1. 接続詞、前置詞、または、冠詞・代名詞の単語を選択して、ダイアログ下部ある「訳語」の右にある▼をクリックします。
この場合、「訳語」項目の右端に「（入力可）」と表示されます。
2. 「訳語」の右の欄にある<<ユーザー定義>>を削除して、新しい訳語を直接入力します。

5.1.1.4 日→英 翻訳

翻訳条件の設定を行います。ここで設定した内容に従って翻訳処理が行われます。日→英で「翻訳」タブをクリックすると、次のダイアログが表示されます。



● 主語がないとき

日本語には、特に技術文書などで、前後の文との関係から主語が省略された文をよく見かけます。そのような文をどういう形式で翻訳するかを指定します。ここで設定した主語省略時の設定は、システム全体に反映されます。特定の文を、ここでの設定とは異なる形式で処理したい場合は、[オプション翻訳]またはツールバーの を使用してください。

主語を補う（入力可）

和文に主語がない場合、主語を補って翻訳します。補う主語は、「[S]、I、you、it、he、she、we、they」の8種類から選択できます。[S]はユーザー指定の主語を補います。ユーザー指定の主語は、[主語を補う]にある[S]を削除して、補う主語を直接入力します。何も指定しなければ、[S]が補われます。

原文：これを開発した。

they指定：They developed this.

ユーザー指定"Sam"：Sam developed this.

受身にする

和文に主語がない場合、受動態の文章として翻訳します。ただし、受動態になり得ない構造の文の場合は、[受け身にする]を指定しても、自動的に主語を補って翻訳されます。この場合の主語は、[主語を補う]で選択されたものです。

主語を省略する（動詞の人称・数を選択します）

和文に主語がない場合、主語を省略して翻訳します。訳出する動詞には、原形で訳す（Be/Take）、1人称単数形で訳す（Am/Take）、2人称単数及び複数形で訳す（Are/Take）、3人称単数形で訳す（Is/Takes）を指定できます。たとえば「昨日買い物に行きました。」という文を「Be/Take」を指定して訳すと"Went for shopping yesterday."となります。

● 目的語がないとき

日本語には、英語のような他動詞（目的語を必要とする動詞）と自動詞（目的語を必要としない動詞）の区別がないため、「～を」という目的語がなくても文が成立しますが、英文では、意味が通りにくくなります。他動詞を含む英文で、原文に目的語がない場合の処理方法を設定します。

目的語を補う（入力可）

このチェックボックスがオンの場合、目的語を補います。

補う目的語は、[O]、it、you、them、us、me、him、her、thatの9種類から選択できます。[O]はユーザー指定の目的語を補います。ユーザー指定の目的語は、[目的語を補う]の[O]を削除して、補う目的語を直接入力します。何も入力しなければ[O]が補われます。オフにすると、動詞が他動詞でも目的語を補いません。

原文：私が劇場へ連れて行った。

them指定：I took them to a theater with me.

ユーザー指定"Sam"：I took Sam to a theater with me.

● その他

NOTの表記

否定を表すNOTを含む英文で、省略形を使うかどうかを設定します。

[is not/cannot]を選択すると原形で、[isn't/can't]を選択すると省略形で翻訳します。

「～している」の訳

日本語で「～している」という文は、必ずしも現在進行形を表現しているとは限りません。英語ではむしろ現在形で訳した方が適切な場合が多くあります。このような文をどう訳するかを「現在形（初期設定）」、「現在進行形」、「完了形」から選択します。



和文が「～していた」のように過去形の場合はそれぞれ、「過去形」、「過去進行形」、「過去完了形」で翻訳されます。

未知語

未知語をどのように表示するかを指定します。未知語とは、辞書設定ダイアログで設定している辞書に登録されていない語句を言います。

「未知語をローマ字にする」を選択した場合、未知語をローマ字で表記し、文字色は「配色」タブの「翻訳しない」で指定した色になります。

「原文のまま」を選択した場合、未知語は日本語のまま訳文エリアに表示されます。

たとえば、以下のように訳出されます。

「原文のまま」の結果：this 閾値配列 is an arrangement of a value

「未知語をローマ字にする」の結果：

this iki value arrangement is an arrangement of a value

語句	ローマ字表記
閾	iki
値	value
配列	arrangement

この機能は、日本語の表示できないコンピュータに訳文を表示する、または訳文を読む対象者が漢字が読めない場合などに、利用できます。

しかし、翻訳結果がすべてアルファベットで表示されるため、実際の未知語を一見して探し出すことは難しくなります。

冠詞推定

翻訳結果の英語に冠詞を付与するかを指定します。

「自動」を選択した場合、システムが自動的に推定します。

「無冠詞優先」を選択した場合、翻訳結果に冠詞を付与しません。ただし、最上級を表す場合や、定冠詞の付くべき名詞には、定冠詞が付きまます。

数の訳

数字の翻訳方法を指定します。

「自動」を選択した場合、システムが自動的に推定します。

● 訳文生成方法（優先順）

ここでは、翻訳メモリを使用した翻訳の場合の検索方法を選択します。

上から順番にチェックボックスがオンになっている検索方法で翻訳エディタの検索が実行され、最初に見つかった検索結果が訳文として採用されます。

初期状態では「完全一致文検索」と「機械翻訳」がオンです。翻訳エディタで翻訳を実行すると、まず「完全一致文検索」が実行され、最初に見つかった検索結果が訳文として採用されます。完全に一致する文が見つからなかった場合、「機械翻訳」が実行されます。選択する検索方法は、以下のとおりです。

- 完全一致文検索 翻訳メモリで「完全一致文検索」を実行する
- 文型一致文検索 翻訳メモリで「文型一致文検索」を実行する
- 類似文検索 翻訳メモリで「類似文検索」を実行する
- 機械翻訳 翻訳ブレインが翻訳する

「完全一致文検索」、「文型一致文検索」、「類似文検索」に関する詳細は、『第3章 翻訳メモリ』を参照してください。



翻訳メモリに登録した原文がタグを含まない場合、「文型一致文検索」では検索されません。このような場合は、「完全一致文検索」または「類似文検索」を実行してください。

● オプション翻訳

オプション翻訳の際、翻訳メモリを使用するかを指定します。オプション翻訳については、『2.8 日→英 オプション翻訳』を参照してください。

翻訳メモリを訳に反映させる

このチェックボックスがオンの場合、オプション翻訳の際に翻訳メモリを使用します。翻訳メモリの検索方法は、「訳文生成方法」の設定に従います。オフの場合、翻訳メモリを使用しません。

5.1.1.5 英文チェック

スペルチェックは、英→日の場合は原文（英文）、日→英の場合は訳文（英文）のスペルミスと考えられる単語を指摘します。

文法チェックは、文法的な誤りや不適當な言い回しを指摘します。

[英文チェック]では、スペルチェックと同時に文法チェックも行うかの設定と、文法チェックのレベルを設定します。「英文チェック」タブをクリックすると、次のダイアログが表示されます。



- **チェック項目**

スペルチェックのみを行う場合は、[スペルのみチェック]をオンにしてください。スペルチェックと文法チェックを同時に行う場合は、[スペル+文法チェック]をオンにしてください。

- **文法チェックのレベル**

[スペルのみチェック]がオンの場合は、設定できません。

カジュアル

厳しいチェックはしません。くだけた表現の文章にしたい場合に選択します。

標準

一般的なビジネス文書の場合に選択します。

フォーマル

公式文書など、もっとも厳しくチェックする必要のある場合に選択します。



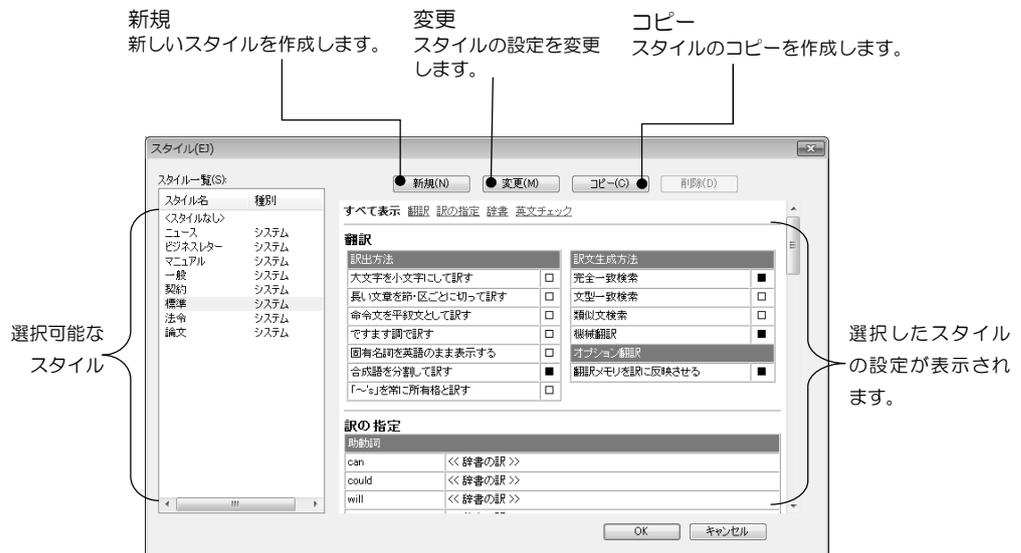
英文チェック機能は、あくまでも一般的な英語に対するチェックを行うためのもので、英文チェック用の辞書は基本語辞書や専門語辞書とは異なる独立した一般辞書を使用しています。このため、ハイフンを含む複合語や専門語辞書から出典した単語はスペルミスとして指摘されることがあります。

5.1.2 スタイルの作成と更新

翻訳ブレインではシステムスタイルが提供されていますが、必要に応じて、ユーザが独自のユーザースタイルを作成したり、システムスタイルの翻訳設定を変更することができます。

スタイルの作成と更新は、[翻訳]—[スタイル]で行います。

[翻訳]—[スタイル]を選択する、またはツールバーの〈スタイル〉をクリックすると、スタイルダイアログが表示されます。



スタイルダイアログの項目は、以下のとおりです。

スタイル一覧

利用可能なスタイルの一覧が表示されます。

翻訳

選択しているスタイルの翻訳方法が表示されます。

辞書

選択しているスタイルの翻訳で使用する辞書が表示されます。

英文チェック

選択しているスタイルの英文チェックの方法が表示されます。

● 表示方法

選択しているスタイルの表示情報を変更することができます。

表示情報の上部にある「すべて表示」、「翻訳」、「訳の指定」、「辞書」、「英文チェック」の各項目をクリックすると、対応した表示情報のみ表示されます。

● 設定内容の変更

設定内容を変更する場合は、「スタイルの一覧」で変更するスタイルをダブルクリックするか、変更するスタイルを選択してから〈変更〉をクリックします。翻訳設定ダイアログが表示されるので、設定を変更します。翻訳設定ダイアログについては、『5.1.1 翻訳設定』を参照してください。

● ユーザースタイルの新規作成

ユーザースタイルを作成する場合は、〈新規〉をクリックして、翻訳設定ダイアログの各項目を適宜設定します。



翻訳設定ダイアログについては、『5.1.1 翻訳設定』を参照してください。新しいスタイルを作成する場合、翻訳設定ダイアログの下部にある「スタイル名」に新規作成するスタイルの名前を入力します。

● 設定内容のコピーと削除

スタイルをコピーしたり削除することができます。たとえば、ユーザースタイルを作成する際、システムスタイルのコピーを作成して、これを基にユーザースタイルを作成することもできます。

コピーは、「スタイルの一覧」でコピー元となるスタイルを選択してから、〈コピー〉をクリックします。「スタイルの一覧」に、「コピー元のスタイル名+コピー」という名前でスタイルが追加されます。

削除は、「スタイルの一覧」で削除するスタイルを選択してから、〈削除〉をクリックするか、Delキーを押します。削除を確認するダイアログが表示されるので、〈はい〉をクリックします。

5.2 環境設定

[ツール]－[環境設定]を選択すると、翻訳エディタの表示方法やマウスの動作などの環境設定を行えます。

翻訳ブレインでは、同時にいくつかの翻訳エディタを開いて翻訳を実行できませんが、環境設定は翻訳エディタごとに保持されます。

設定ダイアログには、設定内容を切り替えるためのタブがあります。



各タブをクリックして適切な環境設定を行います。

〈OK〉をクリックすると、設定内容が適用されます。

〈リセット〉をクリックすると、設定内容が初期状態に戻ります。

各タブの説明では、英→日のダイアログが添付されていますが、日→英の場合でも操作は同じです。

5.2.1 フォント

翻訳エディタ、翻訳メモリペイン、アシストペインで使用するフォントを指定します。「フォント」タブをクリックすると、次のダイアログが表示されます。



- **和文／欧文／検索結果／原文／訳語／フォント**

各言語で使用するフォントを、右端にある▼をクリックして表示される一覧から選択します。指定したフォントのサンプルが下部に表示されます。

- **サイズ**

文字の大きさを指定します。和文と欧文で共通する設定です。

- **行詰めする**

各文の行間を広げるか詰めるかを指定します。

- **配置**

原文の語句に対して訳語の配置方法を指定します。



フォント設定は、画面表示用の設定です。印刷には反映されません。

5.2.2 配色

フレーズ指定で使われる文字色や背景色、翻訳メモリ殻訳出された文の色などを指定します。「配色」タブをクリックすると、次のダイアログが表示されます。



- フレーズの色

レベル1～4 フレーズレベル1～4の文字列の背景色を指定する

- 訳文の色

翻訳エディタの検索結果から訳出された場合などで表示される文番号と訳文の色を指定します。

完全一致	翻訳メモリの完全一致文検索で訳出された文の色
文型一致	翻訳メモリの文型一致文検索で訳出された文の色
	ここで指定した色は、文番号と登録文中のタグ以外の文字列の色に対する指定です。タグに対応して翻訳された文字列は、「機械翻訳」で指定した色になります。
類似文	翻訳メモリの類似文検索で訳出された文の色
機械翻訳	翻訳ブレインが機械翻訳した文の色

● その他の色

学習辞書	学習辞書の訳語を採用した文字列の色
自動辞書選択	専門語辞書自動選択機能により設定された専門語辞書の初期色。辞書設定ダイアログで任意に変更可能です。
HTMLタグ 翻訳しない	HTMLタグを含む文を翻訳した場合の文字色 [フレーズ/語]―[翻訳しない]を実行した文字列、または、辞書に登録されておらず原語のまま訳出された文字列の色
編集文番号	翻訳エディタでカーソル位置の文番号色
背景1, 2	翻訳エディタで奇数番目の文と偶数番目の文の背景色
定義語	定義語の訳語の文字色

● 色の設定ダイアログ

各項目の色を変更する場合は、各項目にある色の矩形をクリックします。色の設定ダイアログが表示され、色を指定することができます。また、新規に色を作成することもできます。



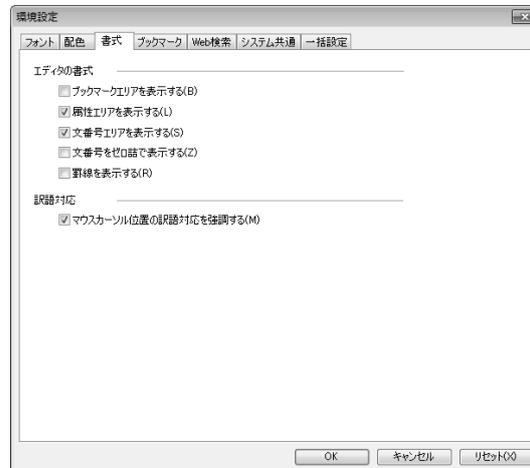
基本色の中から選択したい色をクリックし、〈OK〉をクリックします。
新規に色を作成したい場合は、〈色の作成〉をクリックします。色を作成するためのパレットが表示され、色を作成できます。



選択した色によっては、文字が見つらなくなることがあるので、注意してください。

5.2.3 書式

翻訳エディタの表示方法を指定します。「書式」タブをクリックすると、次のダイアログが表示されます。



● エディタの書式

• ブックマークエリアを表示する／属性エリアを表示する／文番号エリアを表示する

各チェックボックスがオンの場合、属性または文番号が文の先頭に表示されません。

• 文番号をゼロ詰で表示する

このチェックボックスがオンの場合、文番号は、01, 001のように先頭から「0」で詰めて文番号を表示します。翻訳エディタに表示している全文が10文以上で100文より少ない場合は「01」、100文以上で1000文より少ない場合は「001」のように付加されます。

• 罫線を表示する

このチェックボックスがオンの場合、文ごとに罫線を引いて区切ります。

● 訳語対応

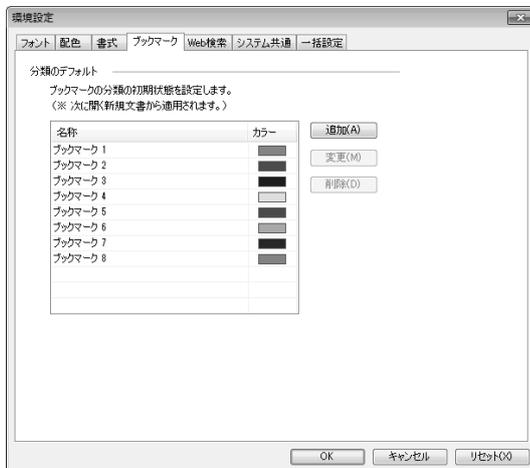
• マウスカーソル位置の訳語対応を強調する

このチェックボックスがオンの場合、翻訳エディタでマウスカーソルを置いた語句に対応した訳語と原語が強調表示されます。

5.2.4 ブックマーク

文書を新規作成した場合に適用されるブックマークの情報を設定します。新規にブックマーク種類を追加したり、既存のブックマークの名称と記号の色を編集することができます。

「ブックマーク」タブをクリックすると、次のダイアログが表示されます。



● 追加／変更

ブックマーク種類を追加または変更します。ブックマーク種類は最大で32個まで設定することができます。〈追加〉をクリックすると分類の追加ダイアログが表示されます。一覧にあるブックマーク種類を選択して〈変更〉をクリックするか、名称をダブルクリックすると分類の変更ダイアログが表示されます。「名称」にブックマーク種類の名称を入力します。名称は、半角で128文字または全角で64文字までで指定します。

記号の色を変更する場合は、色の矩形をクリックして表示される色の設定ダイアログで変更します。色の設定ダイアログについては、『5.2.2 配色』を参照してください。

● 削除

ブックマーク種類を削除します。削除するブックマークを選択して〈削除〉をクリックすると一覧から消去されます。

5.2.5 Web検索

Web検索で使用する検索エンジン、検索結果のウィンドウの表示、履歴の記録、翻訳で使用するスタイルなどを指定します。

「Web検索」タブをクリックすると、次のダイアログが表示されます。



● 検索エンジン

Web検索で使用する検索エンジンの詳細情報を指定します。

検索エンジン一覧

使用可能な検索エンジンが一覧表示されます。

選択されている検索エンジンがWeb検索で使用されます。また、右側の各項目に選択している検索エンジンの詳細設定が表示されます。

タイトル

検索エンジンの名称が表示されます。

サイト

検索エンジンのURLが表示されます。

キーワード指定

キーワードを指定して検索を実行する場合のURLが表示されます。

キーワードエンコード

キーワードの文字コードが表示されます。

〈上へ〉 〈下へ〉

検索エンジン一覧のカーソルを上または下に移動します。

〈追加〉 / 〈変更〉

新しい検索エンジンを追加する場合は〈追加〉を、すでに登録されている検索エンジンの情報を変更する場合は〈変更〉をクリックします。検索エンジン追加（変更）ダイアログが表示されます。



各項目に検索エンジンの詳細情報を指定します。
 〈URL確認〉をクリックすると、指定したURLをブラウザで表示します。

〈削除〉

検索エンジン一覧で削除する検索エンジンを選択して、〈削除〉をクリックすると一覧から削除されます。

● ウィンドウ

新規にWeb検索ページを開く際のウィンドウの設定を行います。

新しく開くときのデフォルト文字サイズ

新規にWeb検索ページを開いた場合のフォントサイズを指定します。

1つのウィンドウのみ表示する

このチェックボックスがオンの場合、1つのウィンドウのみ使用します。

オフの場合、[ファイル]—[新規作成]—[Web検索サイト]を選択すると新しいウィンドウを開きます。複数のウィンドウを表示している場合は、タブで切り替えることができます。

● 履歴

Web検索の履歴を保存するか指定します。

Web表示ページの履歴を記録する

開いたページのタイトルが保存されます。保存されたタイトルはツールバーの〈履歴リスト〉をクリックすると一覧表示されます。

検索キーワードの履歴を記録する

Web検索で指定したキーワードが保存されます。保存されたキーワードはツールバーのキーワード入力ボックスにある▼をクリックすると一覧表示されます。

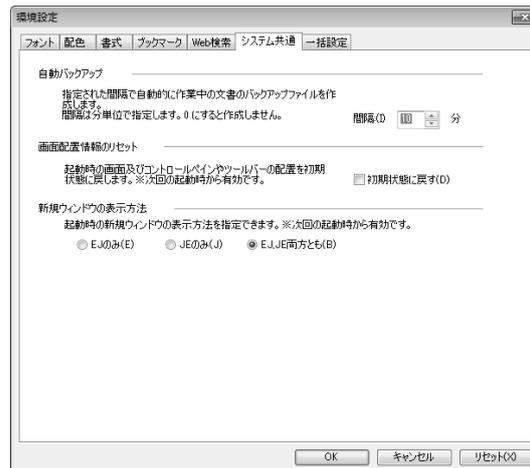
● 翻訳/辞書（適用するスタイル）

Web検索ページを翻訳する際に使用するスタイルを指定します。

EJまたはJEの下部にある▼をクリックすると表示される一覧からスタイルを選択します。

5.2.6 システム共通

英→日と日→英に共通する翻訳ブレインの環境について設定します。「システム共通」タブをクリックすると、次のダイアログが表示されます。



● 自動バックアップ

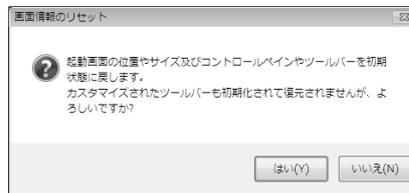
翻訳ブレインは翻訳作業中、一時的に翻訳ファイルを保存して、バックアップを作成しています。翻訳ブレインが正常に終了する際、この一時ファイルは削除されますが、何らかの理由により、翻訳ブレインが強制終了してしまった場合などにこの一時ファイルで翻訳作業を続行できます。

「間隔」に分単位で一時ファイルを作成する周期を指定します。

一時ファイルは、新規作成の場合は、ホームディレクトリの下でのejまたはjeの下のworkフォルダに「\$無題」で保存されます。テキストファイルを開いて翻訳している場合は、読み込んだファイルが保存されている場所へ、元のファイル名の先頭に\$を付与した名前で保存されます。

- 画面配置情報のリセット

翻訳ブレイン画面にある各ペインの配置とサイズ、ツールバーのボタンなどを初期状態に戻します。「初期状態に戻す」チェックボックスをオンにすると、次のダイアログが表示されます。



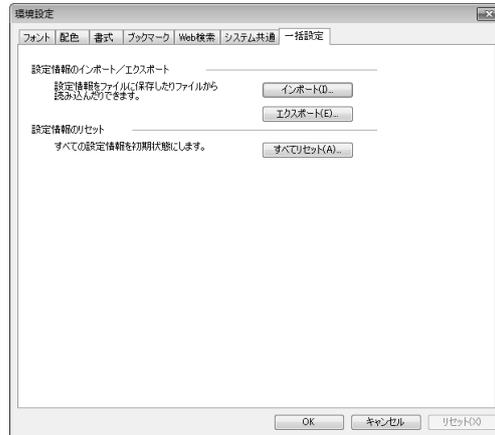
〈はい〉をクリックすると、チェックマークが入ります。〈OK〉をクリックしてダイアログを閉じて、翻訳ブレインを再起動すると、翻訳ブレイン画面が初期状態で表示されます。

- 新規ウィンドウの表示方法

翻訳ブレインの起動時、翻訳エディタに英→日翻訳を表示するか、または、日→英翻訳を表示するかを指定します。この設定は、次回の起動時から有効になります。

5.2.7 一括設定

設定ダイアログの設定内容をファイルに保存しておくことができます。
「一括設定」タブをクリックすると、次のダイアログが表示されます。



● 設定情報のインポート/エクスポート

・インポート

保存(エクスポート)した設定ファイルを読み込んで各タブの設定を行います。
〈インポート〉をクリックすると、設定情報のインポートダイアログが表示されるので、ファイルを指定します。

分野別に設定ファイルを作成し、翻訳前にファイルの内容を読み込むと、すべての設定ダイアログを開いて設定作業をする必要がなくなります。

・エクスポート

設定ダイアログにあるすべてのタブの設定値をファイルへ書き込みます。
〈エクスポート〉をクリックすると、設定情報のエクスポートダイアログが表示されるので、設定内容を保存するファイルを指定します。



設定内容の「インポート」を実行すると、設定ダイアログの〈キャンセル〉を実行しても設定内容は元に戻りません。

● 設定情報のリセット

〈すべてリセット〉をクリックすると、設定ダイアログにあるすべての設定を初期状態に戻します。

各タブをクリックしてリセットする手間を省くことができます。

5.3 ツールバーカスタマイズ

翻訳ブレインでは、ツールバーに表示するボタンの指定、ボタンの表示方法などを指定できます。[ツール]–[カスタマイズ]–[ツールバー]を選択すると、次のダイアログが表示されます。



- 「ツールバー」タブ

- ツールバー

「ツールバー」には、翻訳ブレインに組み込まれているツールバーの一覧が表示されます。チェックボックスがオンの場合、翻訳エディタに表示されます。

標準



翻訳



翻訳メモリ



ペインスイッチ



Web



〈リセット〉をクリックすると初期状態に戻ります。

- ツールヒントを表示

このチェックボックスがオンの場合、ツールバーのボタンへマウスポインタを置くとボタンと対応した機能の説明が表示されます。

- フラットボタン

このチェックボックスがオンの場合、ツールバーのボタン形状は表示されません。オフの場合、各ボタンの形状が表示されます。

- 大きいボタン

このチェックボックスがオンの場合、ツールバーのボタンのサイズが大きくなります。

- ツールバーの新規作成と削除

ユーザーが独自にツールバーを作成することができます。〈新規〉をクリックすると、次のダイアログが表示されます。

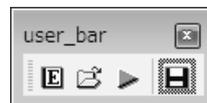


新規作成するツールバーの名称を入力して〈OK〉をクリックします。小さなツールバーが表示されます。



初期状態では、ボタンが何も登録されていません。

ボタンの追加は、翻訳エディタ上のツールボタンをドラッグ&ドロップする、または、ツールバーカスタマイズダイアログの「コマンド」タブに表示されているボタンをドラッグ&ドロップして行います。



「ツールバー」タブの「ツールバー」に、新規作成したツールバーが追加されます。



ユーザーが作成したツールバーを削除する場合は、該当するツールバーを選択して、〈削除〉をクリックしてください。翻訳ブレインに組み込まれているツールバーを削除することはできません。

● 「コマンド」タブ

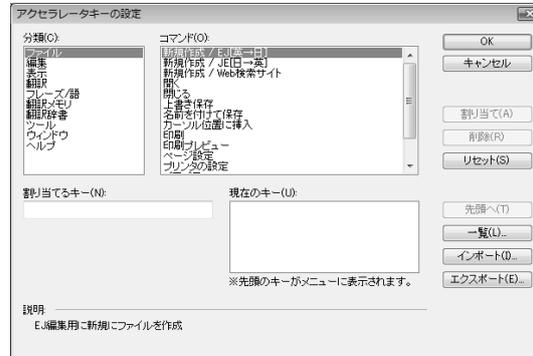


「コマンド」タブでは、ツールバーの各ボタンやメニューの追加、削除などを行います。「カテゴリ」で選択した項目に対応して「ボタン」に表示される項目が切り替わります。任意のボタンまたはメニューをドラッグ&ドロップすると新規にツールバーが作成されます。

5.4 アクセラレーターキー

翻訳ブレインでは、メニューにあるコマンドにショートカットキーを割り当てることができます。

[ツール] - [カスタマイズ] - [アクセラレーターキー] を選択すると、次のダイアログが表示されます。



● キーの割り当て

- 手順**
1. 「コマンド」からキーを割り当てるコマンドを選択します。「コマンド」に表示される項目は、「分類」で選択した項目に対応して切り替わります。
 2. 「割り当てるキー」にカーソルを移動して、ショートカットキーを入力します。ショートカットキーには、Ctrl+<キー>、または、Ctrl+Shift+<キー>を組み合わせることで指定できます。<キー>には、以下のものを指定できます。
 - 英数字
 - ファンクションキー
 - Delete (Del) 、 Back Space (BS) など一部のエディットキー
 3. <割り当て> をクリックすると、「現在のキー」に追加されます。手順1から3を繰り返すと、連続して複数のコマンドにアクセラレーターキーを割り当てることができます。複数のコマンドに同じキーを割り当てることはできません。
 4. <OK> をクリックすると、ダイアログが閉じてアクセラレーターキーが割り当てられます。

● 無効にする

割り当てたアクセラレーターキーを無効にするには、「現在のキー」にある任意の項目を選択して、<削除> をクリックしてください。

- キーの順番を変更する

1つのコマンドに複数のアクセラレーターキーを割り当てた場合、すべてのキーが有効ですが、「現在のキー」で先頭にあるキーが、メニューに表示されます。複数のキーを割り当てた場合は、メニューに表示するキーを選択して、〈先頭へ〉をクリックしてリストの先頭へ置いてください。

- キーの一覧表示とファイル保存

〈一覧〉をクリックすると、割り当てられているアクセラレーターキーを一覧表示できます。



〈テキスト出力〉をクリックすると、アクセラレーターキーの一覧のテキスト出力ダイアログが表示されるので、ファイルを指定してください。指定したファイルへアクセラレーターキーの一覧が保存されます。

- インポートとエクスポート

割り当てられているアクセラレーターキーの一覧を保存したり、保存されている一覧を読み込んだりできます。〈エクスポート〉をクリックすると、アクセラレーターキーファイルのエクスポートダイアログが表示されるので、キーの割り当てを保存するファイルを指定します。

〈インポート〉をクリックすると、アクセラレーターキーファイルのインポートダイアログが表示されるので、ファイルを指定します。

第 6 章 その他の機能

この章の内容

翻訳ブレインには、翻訳機能をサポートするいろいろな機能が組み込まれています。この章では、これらの便利な機能について説明します。

より快適な翻訳のために、ここに記載されている機能をぜひ活用してください。

6.1 キャプチャ翻訳

「キャプチャ翻訳」は、画像データに文字認識を実行し、抽出した文を翻訳する機能です。たとえばホームページでは、広告や宣伝文を画像データで配置することがあります。キャプチャ翻訳を使えばキーボードから入力する必要がなく、画像データを範囲指定するだけで文字認識して、翻訳を実行することができます。また、キャプチャ翻訳では、文字認識のみを実行することもできます。本ツールの設定については、『6.1.3 ツールの設定』を参照してください。

6.1.1 キャプチャ翻訳の実行

キャプチャ翻訳の手順は以下のとおりです。

- 手順**
1. 「スタート」ボタンをクリックし、[すべてのプログラム]—[翻訳プレイン3]—[キャプチャ翻訳]を選択します。
キャプチャ翻訳が起動します。
 2. 翻訳言語を選択します。「エンジン」の右端にある▼をクリックして表示される一覧から翻訳言語の組み合わせを選択します。
 3. ダイアログの〈キャプチャ翻訳〉をクリックします。
キャプチャ翻訳が開始され、マウスカーソルが「+」に変わります。
 4. マウスをドラッグすると矩形が表示されるので、翻訳する部分を囲みます。



キャプチャ翻訳が開始されます。
結果はキャプチャ翻訳ウィンドウに表示されます。



「画像」には、文字認識の対象となる画像が表示されます。
 「原文」には、文字認識の結果が表示されます。
 「訳文」には、「原文」に入力された文章の翻訳結果が表示されます。
 再度キャプチャ翻訳を実行する場合は、〈キャプチャ翻訳〉をクリックして、手順2のように、範囲を指定します。



【Internet Explorerの翻訳ツールバーから起動】

Internet Explorerの翻訳ツールバーの〈キャプチャ翻訳〉をクリックすると、キャプチャ翻訳が起動します。



【ホットキーで呼び出し】

キャプチャ翻訳は、ホットキーで呼び出すことができます。ホットキーの設定については、『6.1.3 ツールの設定』を参照してください。

● 中止

マウスカーソルが「+」に変わった後、キャプチャ翻訳を中止する場合は、Escキーを押します。

● 翻訳言語の指定

キャプチャ翻訳では、英日と日英翻訳を実行することができます。
 「エンジン」には、翻訳を実行する言語が表示されます。
 言語を変更する場合は、右端にある▼をクリックして表示される一覧から言語を指定します。

● 認識言語

英語または日本語を認識することができます。
 認識言語は、「エンジン」で指定した翻訳言語の原語で指定されます。
 「英語 - 日本語」の場合は英語、「日本語 - 英語」の場合は日本語の文字認識が行われます。

- **認識可能な文字**

文字認識は、白地に黒文字で、明朝またはゴシックフォントの場合に、比較的高い精度で認識することができます。以下のケースでは、正しく認識できないことがあります。

- 背景に模様、影、ノイズなどがある
- 文字と背景色が識別しにくい（たとえば、水色や黄色などの背景色に白い文字。黒の背景色に青い文字。）
- 認識対象の画像の文字サイズが200 x 200dpi以下である
- 斜体、筆文字、ポップ文字などデザインされたフォントである

- **文字認識のみ実行**

文字認識のみを実行する場合は、〈キャプチャのみ〉をクリックします。マウスカーソルが「+」に変わってから、文字認識を実行する範囲を指定します。文字認識が実行されて、結果がキャプチャ翻訳ウィンドウに表示されます。

- **再翻訳**

背景色と文字色のコントラストが不鮮明であったり、斜体、筆文字、ポップ文字のようにデザインされたフォントの場合、文字が正しく認識されないことがあります。このような場合は、「原文」ボックスの認識結果を修正してから〈翻訳のみ〉をクリックして、再翻訳を実行します。

6.1.2 キャプチャ翻訳の編集作業と表示機能

キャプチャ翻訳で行える編集作業と表示機能について説明します。

- **編集**

キャプチャ翻訳では、一般的なエディタと同じように、「原文」または「訳文」に表示されている文字列を選択して、編集メニューから[切り取り]、[コピー]などを行えます。

- **常に手前に表示**

表示メニューの[常に手前に表示]にチェックマークが付与されている場合、キャプチャ翻訳は、常に最前面に表示されます。このコマンドを選択することにチェックマークのオン/オフが切り替わります。

6.1.3 ツールの設定

ここでは、キャプチャ翻訳の環境設定を中心に以下のツールの設定について説明します。

- キャプチャ翻訳
- ワンポイント翻訳
- 辞書参照ツール

各ツールで[ツール]ー[オプション]を選択すると、オプション設定ダイアログが表示されます。



6.1.3.1 OCR設定 キャプチャ翻訳のみ

「OCR設定」タブでは、文字認識の対象である領域の文字の方向、認識する言語、認識結果の処理方法などについて設定します。

● 認識領域

認識対象とする文字の方向が横書きか縦書きか指定します。

● 改行

画像文書での改行に対し、認識結果に改行記号を追加するか、または自動的に判断するかを設定します。

● 領域精度

単語レベルの自動判定を利用

このチェックボックスがオンの場合、文字認識時、システムが保持している辞書を参照して文字の並び（スペルチェック）を解析し、誤認識を検出します。

認識率が低い文字を詳細処理

このチェックボックスがオンの場合、認識できない画像パターンに対して、いくつかのパターンと比較して認識結果を出力します。

ノイズを考慮して処理

原稿にノイズが多い場合に、このチェックボックスをオンにします。

イタリック体も認識

原稿にイタリック体が含まれている場合に、このチェックボックスをオンにします。

下線・取り消し線文字認識

原稿に下線・取り消し線文字が含まれている場合に、このチェックボックスをオンにします。

● 言語設定

文字認識エンジンの言語ごとの設定を行います。文字認識エンジンの言語は、「エンジン」に設定されている原語です。「エンジン」が「英語 - 日本語」の場合は「欧州語」、「日本語 - 英語」の場合は「日本語」を選択します。

半角全角変換

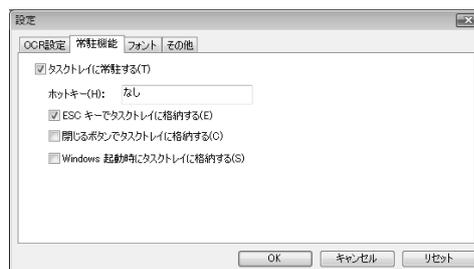
各文字について、全角で出力するか半角で出力するか指定します。

認識対象文字

認識を行う記号と文字を指定します。

6.1.3.2 常駐機能

「常駐機能」タブでは、タスクトレイに常駐させる設定を行えます。「常駐機能」タブをクリックすると次のダイアログが表示されます。



● タスクトレイに常駐する

タスクトレイを使うかを指定します。このチェックボックスがオンの場合、キャプチャ翻訳を最小化すると非表示になり、タスクトレイに格納されます。また、以下の設定を行うことができます。

ホットキー

タスクトレイにあるキャプチャ翻訳をキー操作で呼び出すためのホットキーを設定します。

ESCキーでタスクトレイに格納する

このチェックボックスがオンの場合、ESCキーを押すと、キャプチャ翻訳は最小化してタスクトレイに格納されます。

閉じるボタンでタスクトレイに格納する

このチェックボックスがオンの場合、キャプチャ翻訳の閉じるボタン（☒）をクリックすると、最小化してタスクトレイに格納されます。

Windows起動時にタスクトレイに格納する

このチェックボックスがオンの場合、Windows起動時にキャプチャ翻訳が起動します。

**【タスクトレイからの取り出し】**

タスクトレイに格納されている場合、タスクトレイアイコンをクリックすると、キャプチャ翻訳を表示することができます。

● **タスクトレイについて**

タスクトレイはタスクバーの右端に配置され、起動中のツールのアイコンを表示することができます。たとえば翻訳プレインでキャプチャ翻訳をタスクトレイに常駐させると、次のとおりに表示されます。



タスクバーの設定でアクティブでないインジケータを隠すと設定している場合、アイコンが隠れてしまい表示されないことがあります。このような場合は、タスクトレイ左端にある矢印 < をクリックすると隠れているアイコンが表示されます。

6.1.3.3 フォント

「フォント」タブでは、「原文」と「訳文」で使用するフォントを指定します。「フォント」タブをクリックすると次のダイアログが表示されます。



各言語の右端にある▼をクリックして表示される一覧からフォントを選択します。

6.1.3.4 その他

「その他」タブでは、キャプチャ翻訳ウィンドウの配置方法と翻訳を実行するタイミングを指定します。

「その他」タブをクリックすると次のダイアログが表示されます。

**画面端でウィンドウを吸い付かせる**

このチェックボックスがオンの場合、ウィンドウを移動すると画面からはみ出さず、画面の端に配置されます。

ホットキーが押されたらキャプチャ翻訳を実行する（キャプチャ翻訳の設定）

このチェックボックスがオンの場合、「常驻機能」タブで設定した「ホットキー」を押下するとキャプチャ翻訳を呼び出すことができます。

ホットキーが押されたらクリップボードのテキストを辞書引きする（辞書参照ツールの設定）

このチェックボックスがオンの場合、このチェックボックスがオンの場合、「常驻機能」タブで設定した「ホットキー」を押下すると、クリップボードに保存されているテキストを自動的に取得して辞書引きを行います。

ホットキーが押されたらクリップボード翻訳を実行する（ワンポイント翻訳の設定）

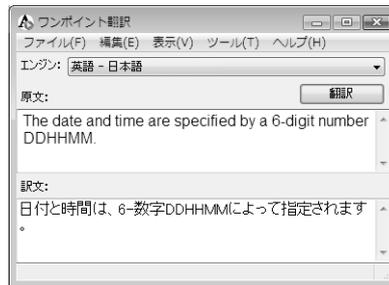
このチェックボックスがオンの場合、このチェックボックスがオンの場合、「常驻機能」タブで設定した「ホットキー」を押下すると、クリップボードに保存されているテキストを翻訳します。

6.2 ワンポイント翻訳

「ワンポイント翻訳」では、翻訳ブレインを起動していない状態でも、すばやく翻訳を実行できます。ここでは、ワンポイント翻訳の手順について説明します。本ツールの設定については、『6.1.3 ツールの設定』を参照してください。

手順

1. 「スタート」ボタンをクリックし、[すべてのプログラム]—[翻訳ブレイン3]—[ワンポイント翻訳]を選択をクリックします。
ワンポイント翻訳ウィンドウが表示されます。
2. 翻訳言語を選択します。「エンジン」の右端にある▼をクリックして表示される一覧から翻訳言語の組み合わせを選択します。
3. 「原文」に翻訳したい文を入力し〈翻訳〉をクリックします。
「訳文」に翻訳結果が表示されます。



ヒント

【Internet Explorerの翻訳ツールバーから起動】

Internet Explorerの翻訳ツールバーの〈ワンポイント翻訳〉をクリックすると、ワンポイント翻訳が起動します。



ヒント

【ホットキーで呼び出し】

ワンポイント翻訳は、ホットキーで呼び出すことができます。ホットキーの設定については、『6.1.3 ツールの設定』を参照してください。

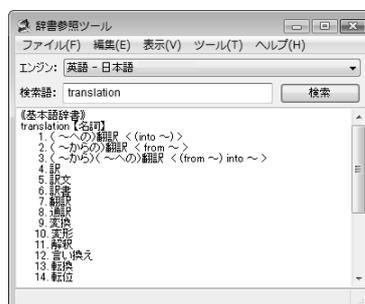
6.3 辞書参照ツール

辞書参照ツールは、翻訳で使用する辞書の参照を行うツールです。翻訳プレインを起動していない状態で、辞書参照ツールを使用することができます。

ここでは、辞書参照ツールの起動と終了、辞書引きの手順について説明します。本ツールの設定については、『6.1.3 ツールの設定』を参照してください。

辞書を参照する手順は、以下のとおりです。

- 手順**
1. 「スタート」ボタンをクリックし、[すべてのプログラム]—[翻訳プレイン3]—[辞書参照ツール]を選択します。
辞書参照ツールが起動します。
 2. 「エンジン」の辞書名一覧から、検索する辞書を選択します。
 3. 「検索語」に検索する語句を入力して、〈検索〉をクリックします。
検索結果が表示されます。



4. 辞書参照を終了するには、右上の閉じるボタン(☒)をクリックするか[ファイル]—[終了]を選択します。



ヒント

【Internet Explorerの翻訳ツールバーから起動】

Internet Explorerの翻訳ツールバーの〈辞書参照ツール〉をクリックすると、辞書参照ツールが起動します。



ヒント

【ホットキーで呼び出し】

辞書参照ツールは、ホットキーで呼び出すことができます。ホットキーの設定については、『6.1.3 ツールの設定』を参照してください。

● 参照する辞書

辞書参照ツールでは、[ツール]－[設定]－[辞書(英日)]または[辞書(日英)]で設定されている辞書から検索を行います。

参照する辞書を変更する場合は、まず、『4.5 ユーザー辞書の作成と選択』を参照して、使用する辞書を変更します。

次に、辞書参照ツールを再起動するか、または、辞書参照ツールでいったん別の辞書を選択してから、再度目的の辞書を選択して、検索を実行します。

6.4 訳振り

訳振りはカーソル位置の文の各語句に訳語ルビを表示する機能です。

単語や語句の意味を調べたり、文を斜め読みして大まかな内容を把握するのに便利です。

訳振りで使用するフォントについては、[ツール]－[環境設定]－[フォント]で設定します。詳しくは『5.2.1 フォント』を参照してください。

手順は以下のとおりです。

手順

1. 翻訳エディタで訳振りを実行する文にカーソルを置きます。

2. [翻訳]－[訳振り]を選択します。

アシストペインの「訳振り」タブにカーソル位置の文が表示され、各語句の上部には訳語が表示されます。

ここでは、定義語または設定している辞書に登録されている訳語の中で翻訳時に使用される訳語が表示されます。



ヒント

1文翻訳を実行したときに「訳振り」タブが表示されていると、1文翻訳に続いて訳振りが実行されます。

● 「訳振り」タブで実行する

「訳振り」タブの〈訳振り〉をクリックすると、カーソル位置の文を取り込んで訳振りを実行します。

6.5 逆翻訳

逆翻訳は翻訳結果文を逆方向に翻訳し、逆翻訳の結果をアシストペインの「逆翻訳」タブに表示します。

逆翻訳の結果が原文のニュアンスと異なる場合は、原文の言い回しや語句を変えて再翻訳することにより、翻訳結果が正しいかを確認することができます。英日翻訳では翻訳結果の和文を英文に、日英翻訳では翻訳結果の英文を和文に翻訳します。逆翻訳では、スタイルを設定することもできます。逆翻訳で使用するフォントについては、[ツール]—[環境設定]—[フォント]で設定します。詳しくは『5.2.1 フォント』を参照してください。手順は以下のとおりです。

手順

1. 翻訳エディタで逆翻訳を実行する文にカーソルを置きます。

逆翻訳は訳文のある文で実行することができます。

2. [翻訳]—[逆翻訳]を選択します。

アシストペインの「逆翻訳」タブにカーソル位置の訳文の逆翻訳結果が表示されます。



逆翻訳の結果は、翻訳設定ダイアログの「フォントと配色」タブで指定した色で表示されます。

翻訳エディタでカーソルを他の文番号に移動すると、逆翻訳結果は消去されます。



ヒント

1文翻訳を実行したときに「逆翻訳」タブが表示されていると、1文翻訳に続いて逆翻訳が実行されます。

● 「逆翻訳」タブで実行する

「逆翻訳」タブの〈逆翻訳〉をクリックすると、カーソル位置の訳文の逆翻訳を実行します。カーソル位置に訳文が無い場合、逆翻訳は実行されません。

● 逆翻訳のスタイル

「逆翻訳スタイル」には、逆翻訳で使用されるスタイル名が表示されます。「自動スタイル」チェックボックスがオンの場合、順方向の翻訳と同じスタイルが逆翻訳で使用されます。同じスタイル名が無い場合は、「スタイルなし」が設定されます。他のスタイルを指定する場合は、「逆翻訳スタイル」の▼をクリックすると表示される一覧から、スタイルを選択します。

6.6 Web検索

翻訳エディタではブラウザを起動していない状態でも、指定したキーワードを使ってWebサイトを検索し、検索結果を翻訳エディタで表示することができます。また、検索結果の文章を翻訳したり、辞書引きを行うこともできます。Web検索で使用する検索エンジン、ウィンドウの表示方法、入力履歴の保存などについては、[ツール]—[環境設定]—[Web検索]で設定します。詳しくは『5.2.5 Web検索』を参照してください。

6.6.1 検索エンジンの指定

Web検索を実行する前に、使用する検索エンジンを指定します。ツールバーの〈検索エンジン〉をクリックすると使用可能な検索エンジンが一覧表示されるので、使用する検索エンジンを選択します。検索エンジンの指定は、環境設定ダイアログでも行えます。環境設定ダイアログについては、『5.2.5 Web検索』を参照してください。

6.6.2 キーワードを指定してWeb検索を実行する

キーワードは翻訳エディタで選択した文字列またはキーワード入力ボックスに直接入力して指定します。

Web検索の手順は以下のとおりです。

手順

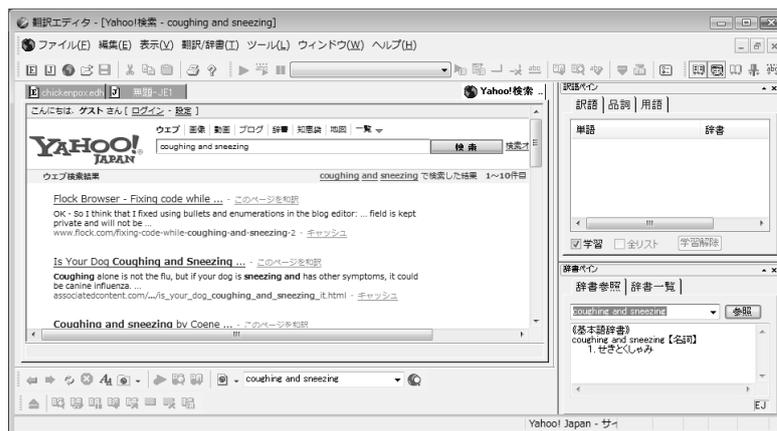
1. キーワードを指定します。キーワードの指定には以下の方法があります。

- 翻訳エディタで文字列を選択する
- キーワード入力ボックスに文字列を入力する

両方が指定された場合、翻訳エディタで選択した文字列がキーワードとなります。

2. [編集]—[Web検索]を選択するか、ツールバーの〈Web検索〉をクリックします。

検索結果が表示されます。



● Web検索ページの表示

Web検索結果では、前後のページに移動したり、フォントサイズを指定することができます。また、表示したページの履歴からページを移動することもできます。

● 履歴ページに移動する

アクセスしたページのタイトルを保存して、ツールバーの〈履歴リスト〉からページを表示することができます。

をクリックすると履歴が一覧表示されるので、表示するページを選択します。

● 前後のページに移動する

直前に表示したページを再度表示する場合は、ツールバーの〈前に戻る〉をクリックします。

「前に戻る」コマンドを実行する前に表示していたページを再度表示する場合は、ツールバーの〈次に進む〉をクリックします。

● ページの更新

Webページを最新の情報に更新する場合は、ツールバーの〈更新〉をクリックします。

● 中止

Web検索を中止する場合は、ツールバーの〈中止〉をクリックします。

● 文字サイズの指定

Web検索ページの文字サイズを変更する場合は、ツールバーの〈文字のサイズ〉をクリックし、プルダウンメニューからフォントのサイズを選択します。

6.6.3 Web検索の翻訳／辞書

Web検索ページでも、翻訳、辞書参照や辞書登録を実行することができます。

- 翻訳

Webツールバーの〈翻訳〉をクリックすると表示しているWebページを翻訳します。文章を選択している場合は、選択している部分のみ翻訳します。翻訳対象はテキストのみで、翻訳は翻訳エディタで実行されます。

- 辞書参照

辞書引きする語句を選択して、Webツールバーの〈辞書参照〉をクリックします。辞書ペインの「辞書参照」タブに辞書引きの結果が表示されます。

- 辞書登録

辞書登録する語句を選択して、Webツールバーの〈辞書登録〉をクリックします。辞書登録ダイアログが表示され、「見出し語」に選択した語句が代入されます。「訳語」や「品詞」を指定して辞書登録を行ってください。

6.6.4 Web検索ページを開く

URLを指定してWebページを開くことができます。

[ファイル]－[新規作成]－[Web検索サイト]を選択すると、環境設定ダイアログの「Web検索」タブの「サイト」で指定したURLを表示します。

また、URLを指定してページを開く場合は、[ファイル]－[URLを開く]を選択して、URLを開くダイアログのテキストボックスで、URLを指定することができます。

6.7 ブックマーク

翻訳ブレインでは、再校正、再確認、再翻訳などが必要な文に、ブックマーク（付箋）を設定することができます。ブックマークを設定した文をリスト化し、リスト項目のクリックで該当文へジャンプすることができます。

また、ブックマークに種類を設定し、種類ごとにブックマークを表示することができます。

ブックマークをつけた文を翻訳メモリに一括で登録することもできます。翻訳メモリの一括登録については、『3.4.5 対訳文の一括登録』を参照してください。

ここで付与したブックマークの情報は翻訳中の文書に保持されます。文書を新規作成した場合に参照する情報については、環境設定ダイアログで設定します。詳しくは『5.2.4 ブックマーク』を参照してください。

● ブックマークの追加と削除

ブックマークの追加と削除の方法を説明します。

ブックマークを追加する文にカーソルを置いて、[編集]－[ブックマーク]－[ブックマークをつける]を選択すると、属性エリアに■が付き、ブックマークが追加されます。

[編集]－[ブックマーク]－[ブックマークをはすす]を選択すると、属性エリアの■が消えてブックマークが外されます。

● ブックマークへ移動

ブックマークの付加されている文に次々と移動することができます。

カーソル位置から後方へ移動する場合は、[編集]－[ブックマーク]－[次のブックマークへ]を選択します。

前方へ移動する場合は、[編集]－[ブックマーク]－[前のブックマークへ]を選択します。

● ブックマークの種類を変更する

数種類のブックマークを設定し、ブックマークの名称と記号の色で分類することができます。初期状態では、8つのブックマークが設定されています。[編集]－[ブックマーク]－[分類]を選択すると設定されているブックマークが一覧表示されます。チェックマークが付いているブックマークが属性エリアに表示され、ブックマークをつけるコマンドを実行すると、この種類のブックマークが追加されます。

ブックマークの種類を変更する場合は、[編集]－[ブックマーク]－[分類]で表示される一覧から、設定するブックマークを選択し、チェックマークを付けます。

● ブックマーク種類の追加と編集

ブックマークは、32種類まで設定できます。

[編集]－[ブックマーク]－[分類の編集]を選択します。次のダイアログが表示されます。



ブックマークの種類を追加する場合は、〈追加〉をクリックして分類の追加ダイアログを表示します。すでに設定されているブックマークの種類を変更する場合は、一覧にあるブックマークを選択して〈変更〉をクリックするか、名称をダブルクリックして分類の変更ダイアログを表示します。

「名称」にブックマーク種類の名称を入力します。名称は、半角で128文字または全角で64文字までを指定します。

記号の色を変更する場合は、色の矩形をクリックして表示される色の設定ダイアログで変更します。色の設定ダイアログについては、『5.2.2 配色』を参照してください。

● ブックマークペインから実行する

ブックマークペインには、ブックマークが付与された文が一覧表示されます。ブックマークペインでも、指定したブックマークへ移動したり、ブックマークの種類を追加することができます。

ブックマークペインが表示されていない場合は、[表示]－[ブックマークペイン]を選択します。

• ブックマークの追加

ブックマークペインでは、ブックマークを追加する際、ブックマークの種類を指定したり、新規にブックマーク種類を設定することができます。

ブックマークペインの〈追加〉をクリックします。ブックマークを追加ダイアログが表示されます。



文番号

ブックマークを付与する文番号を指定します。ブックマークは、「先頭」と「末尾」で指定した連続する文に付与されます。

分類

ブックマークの種類を指定します。

すでに設定されているブックマーク種類を指定する場合は、「既存の項目」をオンにして、下部の▼をクリックして表示されるブックマーク種類の一覧から、変更するブックマークを選択します。

新しいブックマークの種類を追加する場合は、「分類」の「新規作成」をオンにして、「名称」に半角で128文字または全角で64文字まででブックマークの名称を指定します。記号の色を変更する場合は、色の矩形をクリックして表示される色の設定ダイアログで変更します。色の設定ダイアログについては、『5.2.2 配色』を参照してください。

• ブックマークの削除

ブックマークを削除する場合は、ブックマークペインで削除する文を選択して、〈削除〉をクリックします。

• ブックマークへ移動

ブックマークペインにある文をクリックすると対応する文番号に移動します。

• ブックマーク種類の編集

ブックマークペインで種類を編集するブックマークを選択して、☰をクリックします。分類の変更ダイアログが表示されるので、「名称」と「色」を指定します。

6.8 定義語

「定義語」は、翻訳している文書ごとに名詞に訳語と意味素性を登録する機能です。定義語は学習辞書やユーザー辞書の語句よりも優先して訳出されます。特定の文書において、製品名などの固有名詞の訳や用語の統一を行う場合に使用すると便利です。

[翻訳] - [定義語] を選択すると次のダイアログが表示されます。



- 定義語を使用するように設定する

定義語を使用する場合は、定義語ダイアログの「定義語を使用する」チェックボックスをオンにします。

- 単語の抽出

翻訳している文書から定義語を抽出することができます。

〈単語抽出〉をクリックすると翻訳している文書から定義語を抽出して、定義語ダイアログに代入します。抽出された定義語の訳や意味素性を変更する場合は、見出し語をダブルクリックするか見出し語を選択して〈変更〉をクリックします。定義語の変更ダイアログが表示され、選択した見出し語の情報が表示されるので各項目を変更します。

- 定義語の登録と更新

- 定義語の登録

登録できる定義語は256個です。

〈登録〉をクリックすると、次のダイアログが表示されます。



「見出し語」に名詞を、「訳語」に訳語を入力します。

英→日の場合、見出し語は半角で100文字まで、訳語は全角で50文字まで登録できます。

日→英の場合、見出し語50文字まで、訳語は半角で240文字まで登録できます。

「意味素性」では単語の意味合いを指定します。意味素性の指定によりその単語にかかる語句の訳し分けが行われます。意味素性の指定は必須ではありません。

〈登録〉をクリックすると、定義語リストに追加されます。

- 意味素性による訳し分け

意味素性により以下のように訳し分けされます。

たとえば、次の例文を翻訳します。

例文：There is Umi. 翻訳結果：ユミがある。

意味素性を指定して登録すると翻訳結果が以下のとおりになります。

見出し語：Umi

訳語：ユミ

意味素性：人間

翻訳結果：ユミがいる。

- **定義語の変更**

登録した定義語の訳語や意味素性を変更することができます。
定義語リストで変更する見出し語をダブルクリックするか見出し語を選択して〈変更〉をクリックします。定義語の変更ダイアログが表示され、選択した見出し語の情報が表示されるので各項目を変更します。

- **定義語の削除**

登録した定義語を削除することができます。
定義語リストで削除する見出し語を選択して、〈削除〉をクリックします。
削除することを確認するメッセージが表示されるので〈はい〉をクリックします。

- **定義語の検索**

翻訳している文書から定義語を検索することができます。
定義語リストで検索する見出し語を選択して、〈文書内を検索〉をクリックします。定義語が見つかると、反転表示されます。

● **定義語に一括で訳語をつける**

訳語読み込みファイルを作成して、定義語ダイアログにある見出し語に一括で訳語を付加することができます。

● **訳語読み込みファイルの形式**

訳語読み込みファイルは、「カンマ区切り」または「タブ区切り」のテキストファイルで作成します。

カンマ区切り

見出し語、訳語、意味素性をカンマで区切って並べます。

【記述例】

translation software, 翻訳ソフト, ソフト

タブ区切り

見出し語、訳語、意味素性をタブで区切って並べます。ここでは、タブを「→」で表します。

【記述例】

translation software→翻訳ソフト→ソフト

● **訳語読み込みファイルの作成**

訳語読み込みファイルは、エディタや表計算ソフトで作成することができます。定義語リストで語句をコピーして他のアプリケーションに貼り付けたり、他のアプリケーションにあるタブ区切りのデータを定義語リストに貼り付けたりすることができます。

たとえば、定義語リストでコピーする複数行を選択して〈コピー〉をクリックし、表計算ソフトに貼り付けるとセルごとに見出し語、訳語、意味素性が挿入されます。定義語リストで複数行を選択するには、選択する先頭行でクリックし、Shiftキーを押したまま最後の行をクリックします。または、選択する先頭行でクリックし、Ctrlキーを押したまま次々と行をクリックします。

定義語リストに語句を追加する場合は、タブ区切りのテキストをコピーして、定義語ダイアログで〈貼り付け〉をクリックします。

● **一括で訳語をつける**

〈訳語読み込み〉をクリックすると訳振りファイル選択ダイアログが表示されるので、ファイルを指定します。定義語リストの見出し語に訳が付加されます。

付録

付録1 Officeの起動時に「セキュリティの警告」

Microsoft Officeのアプリケーションで「セキュリティの警告」が表示される場合があります。Microsoft Officeでは、マクロウィルス対策のために、認証されたマクロでない場合に、この警告を表示するようになりました。この警告を表示させないために以下の手順を試してください。

Microsoft Officeのアプリケーションを起動後、「セキュリティの警告」が表示される場合、「この作成者のマクロを常に信頼する」をオンにし、「マクロを有効にする」をクリックすると、以後、「セキュリティの警告」は表示されません。

「この作成者のマクロを常に信頼する」をオンにできない場合は、以下の手順をお試しください。ここではWordで表示された場合について説明していますが、Excel、PowerPointの場合の操作も同じです。

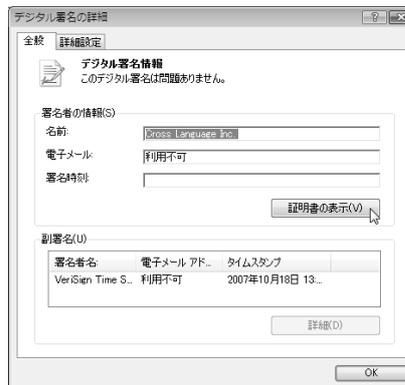
手順

1. 〈詳細〉をクリックします。



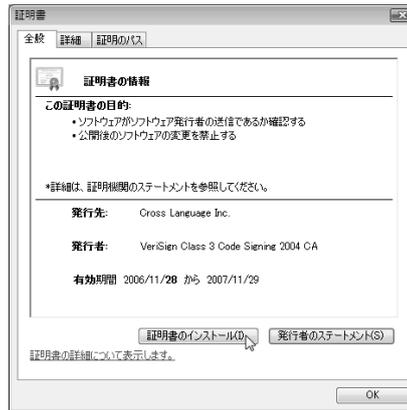
デジタル署名の詳細が表示されます。

2. 〈証明書の表示〉をクリックします。



証明書が表示されます。

3. 〈証明書のインストール〉をクリックします。

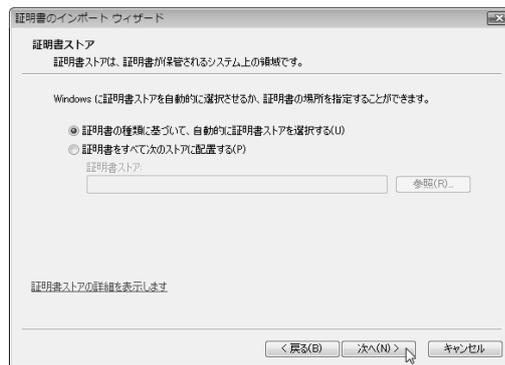


証明書のインポートウィザードが開始されます。

4. 〈次へ〉をクリックします。



5. 「証明書の種類に基づいて、自動的に証明書ストアを選択する」をオンにし、〈次へ〉をクリックします。



6. 〈完了〉をクリックします。



ルート証明書ストアが表示されます。

7. 正しくインストールされると次のダイアログが表示されます。〈OK〉をクリックします。



8. 証明書ダイアログとデジタル署名の詳細ダイアログを閉じてください。
最初のセキュリティの警告ダイアログを閉じて、Wordを終了してください。
9. Wordを再起動してください。
10. Word起動後、「セキュリティの警告」が表示されますが、「この発行者のマクロを常に信頼する」チェックボックスをオンにし、「マクロを有効にする」をクリックすると完了です。



次回起動から「セキュリティの警告」は表示されなくなります。



セキュリティレベルが「最高」と設定されている場合、翻訳ブレインが提供するマクロを使用することはできません。翻訳ブレインが提供するマクロを使用する場合は、セキュリティレベルを「高」以下に設定してください。

付録2 フォルダ構成とホームディレクトリ

翻訳ブレインでは、英→日、日→英で共通に使用するファイルは同じフォルダに保管します。また、1台のコンピュータを複数のユーザーが使用した場合、ユーザーごとに環境を設定できる構成になっています。

● フォルダ構成

初期状態で翻訳ブレインをインストールすると、次のファイルがフォルダが作成されます。

[Program Files]→[CrossLanguage]→[BrainV3]

その中に「common」、「bin」、「ej」、「je」、「learn」、「Roboword7」、「support」、「edit_je」の各フォルダが作成されます。

各フォルダには、以下のファイルが保存されます。

● 翻訳ブレインのインストールフォルダ

フォルダ	説明
bin	翻訳ブレインの実行ファイルなど翻訳ブレインのシステムファイルが保存されます。
common	英→日と日→英で共通に使用するファイルが保存されます。たとえば、翻訳メモリファイルが保存されています。
ej	英→日用翻訳エンジンや文法ルールが保存されます。
je	日→英用翻訳エンジンや文法ルール保存されます。
learn	練習用のテキストファイルが保存されます。同じファイルが、ホームディレクトリの下learnフォルダにも保存されます。
Roboword7	外部辞書に関するファイルが保存されます。
support	製品に関するサポート情報が保存されます。
edit_je	日英翻訳の精度を向上させるための「日英翻訳のコツ」が保存されています。

● [Program Files]→[Common Files]→[CrossLanguage]フォルダ

フォルダ	説明
Addins	一太郎アドイン、ATOKアドイン、Shurikenアドイン、Officeアドイン、IEアドインなどのアドイン機能がインストールされます。
App	辞書参照用ツールとPDFダイレクトファイル翻訳がインストールされます。
Lib	各種ライブラリがインストールされます。
Tools	アドイン設定ツールがインストールされます。

- ホームディレクトリ

翻訳ブレインでは、複数のユーザーが同じパーソナルコンピュータを使用した場合に、個人ごとの環境を構築できるように個人ごとの「ホームディレクトリ」が作成されます。ホームディレクトリの場所は、以下のとおりです。

Windows 7 : [ライブラリ]→[ドキュメント]→[CrossLanguage]→[Brain]

Vista : [ユーザー名]→[ドキュメント]→[CrossLanguage]→[Brain]

XP : [マイドキュメント]→[CrossLanguage]→[Brain]

ej, jeフォルダの中には、各ユーザーの学習辞書とスタイルが保管されます。また、ユーザー辞書を新規作成する場合、初期状態ではホームディレクトリの下にej, jeフォルダがファイルの作成場所になります。ホームディレクトリの下にlearnフォルダには、練習用のテキストファイルが保存されています。

- ホームディレクトリの確認

ホームディレクトリの場所は、[ヘルプ]ー[バージョン情報]を選択すると、表示されます。

付録3 翻訳ブレインが作成するファイル

翻訳ブレインは、翻訳情報を保持した「翻訳ファイル」を作成したり、翻訳結果をテキストファイルに保存することができます。また、訳語の学習、ユーザー辞書の構築などにおいて辞書ファイルを作成します。

翻訳作業において翻訳ブレインが作成するファイルは以下のとおりです。

付録3.1 英→日で作成するファイル

● ファイルの一覧

種類	ファイル名	説明
翻訳ファイル	***.edh	翻訳結果など、翻訳情報を保存
対訳ファイル	***_ej.txt	"--/"記号、原文、訳文の順で対訳をテキストファイルに保存する。
対訳ファイル (カンマ区切り)	***_ej.csv	"原文", "訳文", "記号" 改行の順番でカンマで区切られた対訳文をテキストファイルに保存する。
訳文ファイル	***_j.txt	訳文エリアの訳文のみをテキストファイルに保存する。
原文ファイル	***_e.txt	原文エリアの原文のみをテキストファイルに保存する。
HTMLファイル (訳文)	***_j.html	訳文エリアの訳文のみをHTML形式で保存する。
TMXファイル	***.tmx	翻訳メモリの国際標準フォーマットであるTMXファイル形式で保存する。
学習辞書	***.dir ***.key ***.ldc	優先される訳語。「ホームディレクトリ」の下のejフォルダの中に作成される。
ユーザー辞書	***.dir ***.key	登録した訳語
専門語辞書	***.udc	分野別に専門用語を収録した辞書
翻訳メモリ	***.ty2 ***.ty2.en.idx ***.ty2.ja.idx	対訳文を登録したデータベース。対訳文は、文型を含むこともできる。
頻度リスト ファイル	***_freq.txt	原文に多く含まれる語句のリストファイル
未知語リスト ファイル	***.opt	原文に含まれる未知語のリストファイル

● ファイルを翻訳する

たとえばtestというテキストファイルを開いて翻訳し保存すると、test.edhファイルが作成されます。test.edhファイルを翻訳ブレインで開くと、翻訳作業を再度実行できます。

● 学習辞書を参照する

翻訳作業中に[翻訳]－[翻訳設定]－[辞書]にある「学習辞書を使用する」チェックボックスをオンにすると、学習辞書が作成されます。
初期状態で学習辞書は、ホームディレクトリの下のejフォルダにある「学習.dir」、「学習.key」、「学習.ldc」の3つのファイルから構成されています。



これら3つのファイルのうち、1つでも欠けると学習辞書の参照ができなくなります。これらのファイルはまとめて管理し、削除しないでください。

学習辞書を作り直す場合は、3つのファイルを削除して英→日を再起動します。新たに学習辞書が作成されます。
または、[翻訳]－[翻訳設定]－[辞書]の「学習辞書の場所」で新規作成／変更を行います。

● ユーザー辞書を作成する

英→日では、独自にユーザー辞書を作成し、翻訳に使用することができます。ユーザー辞書は[翻訳]－[翻訳設定]－[辞書]で新規作成できます。詳細は、『4.5 ユーザー辞書の作成と選択』を参照してください。1つのユーザー辞書は、ここで指定したファイル名に".dir"、".key"、".udc"を付加した3つのファイルで構成されます。



これら3つのファイルのうち、1つでも欠けるとユーザー辞書の参照ができなくなります。これらのファイルはまとめて管理し、削除しないでください。

ユーザー辞書を削除する場合は、3つのファイルを削除します。



ヒント 基本語辞書、専門語辞書も翻訳の参照用として使用するファイルですが、追加・更新はできません。

付録3.2 日→英が作成するファイル

● ファイルの一覧

種類	ファイル名	説明
翻訳ファイル	***.jdh	翻訳結果など、翻訳情報を保存
対訳ファイル	***_je.txt	"-/"記号、原文、訳文の順で対訳をテキストファイルに保存する。
対訳ファイル (カンマ区切り)	***_je.csv	"原文", "訳文", "記号" 改行の順番でカンマで区切られた対訳文をテキストファイルに保存する。
訳文ファイル	***_e.txt	訳文エリアの訳文のみをテキストファイルに保存する。
HTMLファイル (訳文)	***_e.html	訳文エリアの訳文のみをHTML形式で保存する。
TMXファイル	***.tmx	翻訳メモリの国際標準フォーマットであるTMXファイル形式で保存する。
原文ファイル	***_j.txt	原文エリアの原文のみをテキストファイルに保存する。
学習辞書	***.jld	優先される訳語。「ホームディレクトリ」の下のjeフォルダの中に作成される。
ユーザー辞書	***.idx ***.jdc	登録した訳語
専門語辞書	***.idp ***.idx ***.jdc	分野別に専門用語を収録した辞書
翻訳メモリ	***.ty2 ***.ty2.en.idx ***.ty2.ja.idx	対訳文を登録したデータベース。対訳文は、文型を含むこともできる。
頻度リスト ファイル	***_freq.txt	原文に多く含まれる語句のリストファイル
未知語リスト ファイル	***.dic	原文に含まれる未知語のリストファイル

● ファイルを翻訳する

たとえば「テスト」というテキストファイルを開いて翻訳し保存すると、「テスト.jdh」ファイルが作成されます。「テスト.jdh」ファイルを翻訳ブレインで開くと、翻訳作業を再度実行できます。

● 学習辞書を参照する

翻訳作業中に[翻訳]－[翻訳設定]－[辞書]で「学習辞書を使用する」チェックボックスをオンにすると、学習辞書が作成されます。

学習辞書は、ホームディレクトリのjeフォルダにある「学習.jld」というファイルです。学習辞書を作り直す場合は、学習辞書を削除して日→英を再起動します。新たに学習辞書が作成されます。

または、[翻訳]－[翻訳設定]－[辞書]の「学習辞書の場所」で新規作成／変更を行います。

● ユーザー辞書を作成する

日→英では、独自にユーザー辞書を作成し、翻訳に使用することができます。ユーザー辞書は[翻訳]－[翻訳設定]－[辞書]で新規作成できます。詳細は、『4.5 ユーザ辞書の作成と選択』を参照してください。1つのユーザー辞書は、ここで指定したファイル名に".idx"、".jdc"を付加した2つのファイルで構成されます。



これら2つのファイルのうち、どちらかでも欠けるとユーザー辞書の参照ができなくなります。これらのファイルはまとめて管理し、削除しないでください。

ユーザー辞書を削除する場合は、2つのファイルを削除します。



基本語辞書、専門語辞書も翻訳の参照用として使用するファイルですが、追加・更新はできません。

付録4 エラーメッセージ

ここでは、翻訳プレインが表示するエラーメッセージについて列挙します。

エラーメッセージ	意味
翻訳情報が一致しません。再翻訳をしてください。	原文か訳文の一部を直接編集すると整合性がなくなり訳語の対応や訳語変更ができないことがあります。
ロックされています。	文番号にロックがかかっている状態で再翻訳できません。ロックを解除すると再翻訳ができます。
対応する単語がありません。	to不定詞のto、「て、に、を、は」などの助詞には、対応する単語がないことがあり、この場合訳語変更ができません。
この単語の品詞変更はできません。	品詞によって変更がきかないものがあります。
この単語の訳語変更はできません。	単語によって訳語変更ができないものがあります。
HTMLタグフレーズは解除するとタグ情報が無くなります。解除しますか？	HTMLファイルを翻訳中、タグ部分にフレーズ指定を行うと元のファイル形式が崩れることがあります。
このHTMLタグフレーズの種別は変更できません。	HTMLファイル内のタグ部分はフレーズ指定されていますが、この種別を変更することはできません。
翻訳サーバーが使用中です。終了できません。	ファイルの翻訳中に別のファイルの翻訳を行おうとしている可能性があります。同時に2つのファイルを翻訳することはできません。
1文の文字数が翻訳制限値(1024バイト)を超えています。	1文が1024バイト以上の文は、適切な場所で文を分割して再翻訳してください。
IDS 41090	翻訳時に設定時間をオーバーしました。
TIME_OUT_ERROR	一定の翻訳時間をオーバーしました、設定を変更することができます。
活用型の推定ができませんでした。	辞書登録する場合は、見出し語には原形を入力してください(例) 走っている→走る

エラーメッセージ	意味
翻訳エンジンが起動できません。	何らかのトラブルによりアプリケーションの起動に失敗しています。OSの再起動と翻訳プレインの再起動をお試しください。
内部的なエラーが起きました。(エンジンのプログラムIDの取得に失敗) ユーザサポートまでご連絡ください。	本書巻末に記載されているユーザサポートご連絡ください。
翻訳エンジンの起動に失敗しました。	何らかのトラブルによりアプリケーションの起動に失敗しています。OSの再起動と翻訳プレインの再起動をお試しください。
翻訳エンジンモジュールが見つかりません。	何らかのトラブルによりアプリケーションの起動に失敗しています。OSの再起動と翻訳プレインの再起動をお試しください。
書込み辞書として使うにはツールメニューの辞書変換で旧辞書変換を実行する必要があります。	V3.5以前のユーザー辞書は設定できません。
構文解析に失敗しました[1]	複雑な文や長文の解析に失敗することがあります、文を短く分割して再翻訳してください。
構文解析に失敗しました[2]	複雑な文や長文の解析に失敗することがあります、文を短く分割して再翻訳してください。
構文解析に失敗しました[3]	翻訳に時間がかかりすぎてスキップしました。文を短く分割して再翻訳してください。
辞書が壊れています	ユーザー辞書が壊れている可能性があります。
翻訳実行中のウィンドウが終了するか中止するまで現在のウィンドウで翻訳することはできません	2つの翻訳エディタで翻訳中に別のエディタをアクティブにするとこのメッセージが表示されます。

付録5 インストール時のエラーについて

弊社製品のインストール時にエラーが発生した場合の対処法について、下記、弊社ホームページに情報が掲載されています。

<http://www.crosslanguage.co.jp/support/etc/install.html>

必要に応じて、参照してください。

索引

A	
ATOK入力中の翻訳.....	89
ATOK連携翻訳.....	44
C	
CSV形式.....	149
Ctrl+End.....	49
Ctrl+Home.....	49
E	
Excelの翻訳.....	102
Excelを利用したユーザー辞書の作成...	198
H	
HTMLファイル.....	270, 272
M	
Microsoft Officeアドイン翻訳.....	100
Microsoft Officeの起動と翻訳.....	100
N	
NOTの訳.....	219
ntm形式ファイル.....	157
O	
OCR設定.....	245
Officeのセキュリティの警告.....	264
Outlook Expressアドイン翻訳.....	105
P	
PDFダイレクトファイル翻訳.....	107
制限事項.....	110
設定.....	108
無効.....	109
有効.....	109
PowerPointの翻訳.....	103
S	
Shurikenで受信したメールの翻訳.....	43, 90
T	
Tabキー.....	49
TMX形式ファイル.....	150, 158
TMXファイル.....	270, 272
TMXファイルのインポート.....	155
Translation Manager/2.....	150
TSV形式.....	149
W	
Web検索.....	231, 253
ウィンドウ.....	232
翻訳/辞書.....	233
履歴.....	232
Windowsメールアドイン翻訳.....	105
Wordの翻訳.....	101
あ	
アイコン.....	15
アクセラレーターキー.....	239
インポート.....	240
エクスポート.....	240
キーの一覧表示.....	240
キーの割り当て.....	239
キーの順番を変更する.....	240

ファイル保存.....	240
無効にする.....	239
アドイン	
無効.....	84, 99
有効.....	84, 99
アドイン設定.....	100
アドイン翻訳	
ATOK.....	89
Excel.....	102
Microsoft Office.....	100
PowerPoint.....	103
Shuriken.....	90
Word.....	101
メール翻訳.....	105
一太郎.....	86
アプリケーションの終了.....	26
アンインストール.....	19

い

一太郎	
ステップ翻訳.....	87
段落単位の翻訳.....	87
文書の翻訳.....	42, 86
翻訳ブレインを起動して翻訳.....	88
一太郎用のアドイン翻訳	
無効.....	41
有効.....	41
一文翻訳.....	54, 60
一括設定.....	235
一括登録.....	191
一括登録でエラーがあった場合.....	195
一括フレーズ指定.....	75
一括翻訳.....	61
一致率.....	144
色の設定ダイアログ.....	228
印刷.....	33
インストール	

専門語辞書.....	11
翻訳ブレイン.....	6
インストール時のエラー.....	276
インポート.....	148, 235
TMXファイルのインポート.....	155
手順.....	153
対訳ファイルの作り方.....	150
翻訳メモリのマージ.....	156
インポートできるファイルの種類.....	148

う

ウィンドウメニュー.....	56
受け身.....	82
受身にする.....	218

え

英→日が作成するファイル.....	270
英⇄日変換.....	204
英文チェック.....	221
英文字.....	216
エクスポート.....	158, 235
手順.....	159
エクスポートできるファイルの種類.....	158
エディタの書式.....	229
エラー.....	276
エラー情報ファイル.....	208
エラーメッセージ.....	274

お

大きいボタン.....	237
大文字を小文字にして訳す.....	212
同じ未知語は検索しない.....	169
オフィスの起動と翻訳.....	100
オプション翻訳.....	79, 81, 214, 221

か

カーソル位置以降を翻訳.....	61
------------------	----

カーソルの移動.....	49
改行.....	245
外部辞書.....	167
書込み用ユーザー辞書.....	174
書込み用ユーザー翻訳メモリ.....	130
学習解除.....	65, 68
学習機能.....	65
学習辞書.....	270, 272
学習辞書の新規作成.....	178
学習辞書の場所.....	178
学習辞書を使用する.....	32, 178
学習辞書を使わない.....	66
学習辞書を読み込み専用で使用する.....	66
学習する／しない.....	178
カジュアル.....	222
箇条書き翻訳.....	80
カスタマイズ.....	236, 239
数の訳.....	220
カタカナの訳	
長音.....	216
連結文字.....	216
片側改行挿入.....	152
画面配置情報のリセット.....	234
カレント文の選択.....	114
簡易登録.....	187
環境の設定.....	209
冠詞の訳指定.....	215
冠詞推定.....	220
完全一致文検索.....	113
カンマ区切り.....	190, 191, 262
カンマ区切りファイル.....	159
き	
キーボード.....	52
キーボードから入力して翻訳.....	53
キーワード検索.....	113, 123
機械翻訳.....	117, 147
記号.....	217
機能の実行.....	50
基本語辞書の語数.....	162
逆翻訳.....	252
キャプチャ翻訳.....	93, 242
中止.....	243
認識可能な文字.....	244
認識言語.....	243
編集.....	244
翻訳言語の指定.....	243
強制的に機械翻訳を実行.....	117
<	
句読点.....	216
クリック.....	48
け	
罫線を表示する.....	229
言語設定.....	246
検索エンジン.....	231
削除.....	232
追加.....	232
変更.....	232
検索オプション.....	142
検索結果の表示順位.....	145
作成者.....	145
登録日時.....	145
文書名.....	145
検索結果表示.....	145
登録情報.....	145
訳文.....	145
検索モード.....	142
限定詞.....	67
原文エリア.....	28
原文ファイル.....	270, 272

合成語を分割して訳す	213
コマンドタブ	238
コメント	146
固有名詞を英語のまま表示する	213

さ

再翻訳	60, 77, 78
作成者	145, 146
作成するファイル	270

し

辞書	
優先順位	174
辞書参照	104, 163
辞書参照ツール	90, 94, 250
参照する辞書	251
辞書設定ダイアログから指定する	179
辞書ソース出力	197
辞書ソースをユーザー辞書に追加登録	191
辞書ソースをユーザー辞書へ一括登録	191
辞書登録	32
辞書の一覧	166
辞書の構成	162
辞書の表示色	176
辞書のプロパティを表示する	177, 190
辞書の見かた	165
辞書引き	104
辞書変換	204
辞書変換でエラーがあった場合	205
辞書変換の制限	206
システム共通	233
シソーラス	69
「～している」の訳	219
自動登録	147
自動バックアップ	233
自動判別	74, 147

280

ジャストシステム製品アドイン翻訳	84
主語がないとき	218
主語を補う	81, 218
主語を省略する	82, 219
詳細登録	187
常駐機能	246
ショートカットメニュー	51
書式	229
助動詞の訳指定	215
助動詞の訳	216
新規ウィンドウの表示方法	234
新規作成	237

す

数字	216
数字と日付を自動的に置きかえる	143
スタートメニュー	26
スタイルの構成	210
スタイルの選択	210
スペースや句点などの違いを無視する	143
すべて翻訳	61
すべてリセット	235
スペルチェック	221
スライド翻訳	100

せ

制限	
英⇄日辞書変換	206
翻訳メモリのタグ	139
生成情報	137
セキュリティの警告	264
接続詞の訳指定	215
設定情報	235
設定情報のリセット	235
設定ダイアログ	
Web検索	231
システム共通	233

- フォント226
 ブックマーク.....230
 一括設定235
 英文チェック.....221
 書式229
 配色227
 全角143, 216
 全角カタカナ.....53
 選択状態50
 選択範囲を翻訳した場合のレイアウト..93
 前置詞の訳指定.....215
 専門語辞書162, 270, 272
 専門語辞書自動選択.....180
 専門語辞書のインストール.....11
 専門語辞書の語数.....15
 専門語辞書の設定.....179
 専門語辞書のファイル名.....15
 専門語辞書の優先順位.....182
 全リスト64
- そ**
- 挿入位置49
 属性エリアを表示する.....229
 その他248
 その他の色228
 その他の訳指定.....215
- た**
- 大、小文字を区別しない.....143
 タイトル翻訳.....79
 代名詞の訳指定.....215
 対訳ファイル.....270, 272
 カンマ区切り.....270, 272
 タグ37, 136
 タグ解除139
 タグの指定139
 タグの対応138
- タグ名136
 タブ区切り.....190, 191, 262
 タブ区切りファイル.....159
 ダブルクリック.....48
 単語の対応.....30
 単語の登録.....32
- つ**
- 通常翻訳80, 82
 ツールの設定.....245
 ツールバー.....51
 ツールバーカスタマイズ.....236
 ツールバータブ.....236
 ツールバーの削除.....237
 ツールバーの新規作成.....237
 ツールヒントを表示.....237
 常に所有格と訳す214
- て**
- である調で訳す.....213
 定義語259
 テキストファイルの翻訳.....28
 デスクトップのショートカット24
 ですます調で訳す213
- と**
- 同義語69
 動作環境4
 登録確認画面を表示しない.....147
 登録情報145, 146
 登録日時145, 146
 閉じる26
 ドラッグ49
 トリプルクリック.....48
- な**
- 長い文章を節・区ごとに区切って訳す 213

名前を付けて保存 34

に

日→英が作成するファイル 272

入力 53

人間翻訳 147

認識領域 245

は

バージョン情報 269

配色 227

反意語 69

ひ

表示件数 144

表示メニュー 56

開く 28

品詞変更 66

頻度リストファイル 270, 272

ふ

ファイル

開く 28

保存 34

翻訳 28

ファイル翻訳 70

フォーマル 222

フォルダ構成 268

フォント 226, 247

複数の翻訳メモリをひとつにまとめる 156

ブックマーク 186, 230, 256

追加 257

分類 256

ブックマークエリアを表示する 229

フラットボタン 237

フレーズ解除 75

フレーズ指定 73, 77, 78
282

フレーズ指定のルール 73

フレーズ種別 74

フレーズ種別の確認 74

フレーズの色 227

フレーズ変更 74

フレーズ翻訳 73

付録 263

文型一致文検索 113, 123, 142

文型とタグ 135

文型を登録した場合の登録文 138

文書翻訳 61

文書名 145, 146

文の結合 55

文の入力 53

文の分割 55

文番号エリアを表示する 229

文番号をゼロ語で表示する 229

文法チェックのレベル 222

へ

別解釈 83

翻訳ロック 83

ヘルプ 26, 100

ほ

ポイント 48

ホームディレクトリ 268

ホームページの翻訳 91

ホームページの翻訳検索 94

ホームページ翻訳

制限事項 98

選択した文章の翻訳 93

翻訳ツールバー 91

ホームページ翻訳の設定 97

保存 34

翻訳 60

翻訳エディタ 25

翻訳結果が正しくない場合.....	93	タグの対応.....	138
翻訳結果の保存.....	34	タグを外す.....	122
翻訳言語の切り替え.....	100	タグ解除.....	139
翻訳言語リストの取得.....	91	タグ指定.....	139
翻訳検索.....	94	タグ名.....	136
翻訳検索の設定.....	96	ユーザー翻訳メモリの作成.....	127, 129
翻訳辞書の参照.....	163	ユーザー翻訳メモリの選択.....	127
翻訳しない.....	74	リストからはずす.....	129
翻訳設定.....	211	一括登録.....	140
翻訳設定ダイアログ.....	211	一致率.....	144
英日翻訳.....	212	完全一致文の登録.....	135
英日用訳の指定.....	215	環境設定.....	142
日英翻訳.....	218	基本操作.....	114
翻訳ツールバーの表示.....	91	強制的に機械翻訳を実行.....	117
翻訳できないケース.....	61	検索オプション.....	142
翻訳に関する設定.....	210	検索モード.....	142
翻訳ファイル.....	34, 270, 272	検索結果エリアから貼り付け.....	126
翻訳ファイルの保存.....	34	検索結果の貼り付け.....	125
翻訳フラグ.....	134, 147	検索結果の表示.....	125
機械翻訳.....	147	検索結果の表示順位.....	145
自動判別.....	147	検索結果表示.....	145
人間翻訳.....	147	作成者.....	146
翻訳ブレイク画面の表示.....	56	使用する翻訳メモリを選択する.....	128
翻訳ブレイクのインストール.....	6	書き込み用ユーザー翻訳メモリ.....	130
翻訳ブレイクの起動.....	24	数字と日付を自動的に置きかえる.....	143
翻訳ブレイクの機能.....	2	制限.....	125
翻訳ブレイクの終了.....	26	生成情報.....	137
翻訳メモリ		対訳文の検索.....	123
インポート.....	148	対訳文の削除.....	134
インポートできるファイルの種類.....	148	対訳文の登録.....	37, 117, 133
エクスポート.....	158	大、小文字を区別しない.....	143
エクスポートできるファイルの種類.....	158	登録.....	132
キーワード検索.....	123	登録している対訳文を一覧表示.....	126
コメント.....	146	登録確定画面を表示しない.....	147
スペースや句点などの違いを無視する.....	143	登録情報.....	146
タグ.....	136	登録日時.....	146
タグの制限.....	139	表示件数.....	144
		文型とタグ.....	135

文型を登録した場合の登録文	138
文型一致文検索	123, 142
文書名	146
保存場所	127
翻訳エディタとの連携	114
翻訳エディタへ反映	126
翻訳フラグ	125, 147
翻訳メモリとは	112
翻訳メモリの名前を変更する	131
訳文を確定するとき自動登録	147
訳文生成方法	214, 220
訳文入力エリアから貼り付け	126
類似文検索	124
例文	136
翻訳メモリのマージ	156
翻訳メモリの優先順位	130
翻訳メモリペイン	
表示	114
名称	114
翻訳メモリを使った翻訳	35

ま

マウス	
クリック	48
ダブルクリック	48
ドラッグ	49
トリプルクリック	48
ポイント	48
操作	48
マウスカーソル位置の訳語対応強調 ...	229

み

未知語	220
未知語検索	168
未知語リスト出力	169
未知語リストファイル	270, 272
未知語をローマ字にする	220

め

命令文を平叙文として訳す	213
メール翻訳	105
設定	106
メニュー	50

も

目的語がないとき	219
目的語を補う	219
文字列の選択	49

や

訳語対応	30, 62, 229
訳語の学習	31, 32
訳語ペインの操作	64
訳語ペインの「品詞」タブの操作	68
訳語変更	30, 63
訳語を学習しない品詞	65, 66
訳の指定方法	215
訳振り	251
訳文	145
訳文エリア	29
訳文生成方法（優先順）	214, 220
訳文の色	227
訳文の保存	35
訳文ファイル	35, 270, 272

ゆ

ユーザー辞書	270, 272
Excelを利用したユーザー辞書の作成	198
テキストファイルに変換	197
一括登録	190
簡易登録	187
語数	162
作成	171

辞書ソースから一括登録.....	191		
辞書ソースから追加登録.....	191		
辞書のプロパティを表示する....	177, 190		
辞書の表示色.....	176		
辞書の名前を変更する.....	175		
書き込み可能なユーザー辞書.....	174		
詳細登録	187		
新規に作成する.....	173		
選択	171		
単語を登録する.....	32, 187		
登録用ユーザー辞書.....	174		
変換	190		
翻訳で使用しないように設定する....	173		
用語の表示	183		
ユーザー辞書ブラウザ.....	188		
ユーザー定義.....	217		
ユーザー翻訳メモリ.....	127		
新規に作成する.....	129		
登録用ユーザー翻訳メモリ.....	130		
翻訳メモリの名前を変更する.....	131		
優先順位	174		
			よ
		用語集	183
		用語の抽出.....	185
		読込専用学習辞書.....	178
			り
		リセット	211, 225
		略語	217
		領域精度	245
			る
		類似文検索.....	113, 124
			れ
		例文	136
		連語の扱い.....	169
		連続する文章の翻訳.....	61
			わ
		ワークシート翻訳.....	100
		ワンポイント翻訳.....	94, 249

翻訳ブレイン3

ユーザーズ・ガイド

〈ユーザーサポート〉

株式会社クロスランゲージ ユーザーサポート

E-mail : support@crosslanguage.co.jp

サポートページ <http://www.crosslanguage.co.jp/support/>

発行日	2011年 1月 (初版)
編集/発行	株式会社クロスランゲージ 〒102-0072 東京都千代田区飯田橋2-4-5 共立ビル8階
ホームページ	http://www.crosslanguage.co.jp/